印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001000 宗教学（地域共創・人間健康）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書と新約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることにより、人間の真のニーズ、今後の学びを深める根本的な問題意識を持つ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。
4. 基礎的な教養を身につけるとともに、学び方そのものを学ぶ機会の一つとする。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。

本講義では、まずは聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、大変深い人間理解と人間社会に対する鋭いまなざしを持っている。問題意識の宝庫といえよう。
さらに、旧約聖書が持つ問題意識に対する回答として新約聖書を読み進める。新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫ることによって、新約聖書とキリスト教は果たして本当は何を言っているのか、どのような体験をさせてくれるのか。そこにある「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。

真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックすることがある。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	建学の精神について(理事長講話)	創立者ヨゼフ中村由太郎について、自分なりに調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	文化の中のキリスト教:キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	聖書の周辺世界:地理と歴史と文学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	旧約聖書の世界観と人間観:天地創造、エデンの園	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	旧約聖書の人間論:ノアの方舟とバベルの塔	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
6	召命:アブラハムへの「呼びかけ」	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	ヤコブが旅に出る理由	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	王国時代のイスラエル:王と預言者	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	イエス・キリストの生涯	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	参考文献の関連個所を読む
10	イエスと出会った奇跡:いやしの奇跡の意味	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	「神の国」のたとえ話に見る福音と人間	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	山上の説教に見るイエスの価値観	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	受難と復活:希望は終わらない	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
14	パウロの思想:「キリスト教」を作った人	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
15	ローマ教皇と現代:教会は現代なにを語っているか。	前回の配布資料とノートを読み直す	課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001001 宗教学（看護学科1年生）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

授業最終日に試験を実施する。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	物語としての「出エジプト」:　解放か救済か「イスラエル民族」III	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	荒れ野の40年と律法授与:イスラエル誕生の史実と真実	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	イスラエル統一王国:権力の現実と理想の平和	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分裂王国時代:預言者の社会批判と、「あるべき社会」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	詩編から考える、「人間とは何か」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	闘う知恵文学:ヨブとコヘレトが見出したもの	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	聖書が示す、人間の希望とは:新約聖書が与える「回答」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001002 宗教学（看護学科2年生）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験期間中に試験を実施する。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	物語としての「出エジプト」：　解放か救済か「イスラエル民族」III	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	荒れ野の40年と律法授与：イスラエル誕生の史実と真実	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	イスラエル統一王国：権力の現実と理想の平和	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分裂王国時代：預言者の社会批判と、「あるべき社会」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	詩編から考える、「人間とは何か」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	闘う知恵文学：ヨブとコヘレトが見出したもの	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	聖書が示す、人間の希望とは：新約聖書が与える「回答」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000001004 宗教学（再履修）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

学期末に短いレポートを課す。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章）	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	物語としての「出エジプト」:　解放か救済か「イスラエル民族」III	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	荒れ野の40年と律法授与:イスラエル誕生の史実と真実	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	イスラエル統一王国:権力の現実と理想の平和	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分裂王国時代:預言者の社会批判と、「あるべき社会」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	詩編から考える、「人間とは何か」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	闘う知恵文学:ヨブとコヘレトが見出したもの	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	聖書が示す、人間の希望とは:新約聖書が与える「回答」	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000002001 キリスト教概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1.「神を敬し、人を愛する」という学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神の理解をさらに深め、実践する人となる。
2. 新約聖書への理解を通して、どのような社会になっても必要となる価値観を修得する。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

新約聖書は、旧約聖書が深く認識した人間存在の有り様に対する回答の書であり、それだけを読んでいてもあまり面白くはない。また、人間についての問題意識のないまま読み進めることによる弊害は計り知れない。本授業では、旧約聖書の知識も補いつつ、新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。まずは知識は必要なので、新約聖書の背景となる歴史や地理、旧約聖書について知り、またイエスの言行録ともいえる福音書の概説を行う。さらに、様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫っていく。新約聖書とキリスト教は果たして本当はどのようなことを主張しようとしているのか、また、それらが語る「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。
新約聖書やキリスト教が指し示す人間のあり方について考えることを通して、今後の学びの基礎となる根本的な問題意識を養う場としたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

シルヴァノ・ファウスティ『思い起こし、物語れ:マルコ福音書のメッセージ』(上下巻)佐久間勤訳、女子パウロ会、2000-01年。
大貫隆『イエスと経験』岩波書店、2003年。
上村静『宗教の倒錯』岩波書店、2008年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	新約聖書の周辺世界:地理と歴史	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	前提としての旧約聖書	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	福音書通説(映像作品で見るイエス・キリスト)①	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	福音書通説(映像作品で見るイエス・キリスト)②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	イエス・キリストの生涯とその意味:当時の社会から見る「いやしの奇跡」とは	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	山上の説教:主の祈りとイエスの価値観	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	イエスが語ったたとえ話に見る「神の国」:失われた羊など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	イエスの受難と復活	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	ヨハネ福音書の語るイエス・キリスト	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
11	パウロの生涯	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	パウロ神学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	新約聖書の女性たち	イエスの母マリア、マグダラのマリアなどについてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	ローマ教皇が語る世界と、世界が必要とするもの	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
15	外部講師特別講義:キリスト教的な生き方を聞く	授業内容についてインターネットで調べる	外部講師の話を自分なりにじっくり考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000002002 キリスト教概論（看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1.「神を敬し、人を愛する」という学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神の理解をさらに深め、実践する人となる。
2. 新約聖書への理解を通して、どのような社会になっても必要となる価値観を修得する。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

授業概要(教育目的)

新約聖書は、旧約聖書が深く認識した人間存在の有り様に対する回答の書であり、それだけを読んでいてもあまり面白くはない。また、人間についての問題意識のないまま読み進めることによる弊害は計り知れない。本授業では、旧約聖書の知識も補いつつ、新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。まずは知識は必要なので、新約聖書の背景となる歴史や地理、旧約聖書について知り、またイエスの言行録ともいえる福音書の概説を行う。さらに、様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫っていく。新約聖書とキリスト教は果たして本当はどのようなことを主張しようとしているのか、また、それらが語る「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

シルヴァノ・ファウスティ『思い起こし、物語れ：マルコ福音書のメッセージ』(上下巻)佐久間勤訳、女子パウロ会、2000-01年。
大貫隆『イエスと経験』岩波書店、2003年。
上村静『宗教の倒錯』岩波書店、2008年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	キリスト教を概観する	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	新約聖書の周辺世界：地理と歴史	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	福音書通説（映像作品で見るイエス・キリスト）①	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	福音書通説（映像作品で見るイエス・キリスト）②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	イエスの生涯とその意味：当時の社会と癒しの奇跡、愛の実践	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	イエスの山上の説教	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	イエスが教えた主の祈りとイエスの価値観	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	イエスが語ったたとえ話に見る「神の国」：失われた羊など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	イエスの受難と復活	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	ヨハネ福音書の語るイエス・キリスト	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
11	パウロの生涯と信仰義認の神学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	新約聖書の女性たち：第一の証言者として	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	旧約聖書と新約聖書：愛をはばむものは何なのか	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	ローマ教皇が語る世界と、世界が必要とするもの	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
15	外部講師特別講義：キリスト教的な生き方を聞く	授業内容についてインターネットで調べる	外部講師の話を自分なりにじっくり考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000003000 地域文化論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	柾谷　伸夫		

学習目標(到達目標)

1. 八戸を中心とする南部地域の歴史と特性を説明できる。
2. 八戸を中心とする南部地域の文化と特性を説明できる。
3. 八戸を中心とする南部地域の地域発展に貢献した先人の業績を説明できる。
4. 八戸の政治・経済界を牽引しているゲストの講義を聞き、地域活性化の現状と課題の解決策を説明できる。

授業概要(教育目的)

わが国では、人口減少克服・地方創生という構造的な課題に取り組むため、平成26年末までに「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、人口減少の克服に向け国と地方が総力を挙げて取り組むうえでの指針となる「長期ビジョン」および「総合戦略」を毎年度閣議決定している。
特に人口減少と地域経済縮小の克服については、基本的視点の一つに「地域の特性に即して地域課題を解決する」が挙げられており、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるように取り組むことが求められている。
本講義では、「地域文化の歴史と特性」「地域発展に貢献した先人の事例」「地域活性化の現状と課題の解決策」について学び、地域・文化の特性を理解し、地域社会発展のための手立てを探る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

課題提出、授業アンケート等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

この講義を通して、大学のある八戸を中心とする南部地域の魅力に気づき、八戸が大好きになって欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	八戸の歴史～中世	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	八戸の歴史～中世から戦国時代	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	八戸の歴史～九戸の乱から八戸藩誕生	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	八戸の歴史～江戸中期から幕末	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	八戸の歴史～幕末から明治期 八戸藩の文化と特性	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	八戸の文化の特性①	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	八戸の文化の特性②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	安藤昌益 美濃屋乙因	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
9	櫛引弓人 前原寅吉	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	神田重雄 長谷川藤次郎 浦山太吉 橋本八右衛門	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
11	地域活性化の現状と課題の解決策①	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
12	地域活性化の現状と課題の解決策②	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	地域活性化の現状と課題の解決策③	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	地域活性化の現状と課題の解決策④	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
15	地域活性化の現状と課題の解決策⑤	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004216 基礎演習　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000004222 基礎演習　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りである。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられる。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴がある。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出してもらう。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践してもらう。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
14	14. レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む

講義名	1000004230 基礎演習　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対して随時、評価、講評を伝える。

参考文献

授業の中で、随時指示します。

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004234 基礎演習　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004235 基礎演習　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004237 基礎演習　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

講義名	1000004238 基礎演習　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004239 基礎演習　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

講義名	1000004240 基礎演習　種市ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

講義名	1000004241 基礎演習　木村ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004242 基礎演習　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
6	6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
7	7. 資料(文献)の収集と利用②	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
8	8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
9	9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
10	10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
11	11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
12	12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
13	13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
14	14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。
15	15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004305 基礎演習　井元ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004310 基礎演習　浜中ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	浜中　のり子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004315 基礎演習　渡邉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	渡邉　陵由		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004319 基礎演習　工藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	工藤　祐太郎		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004320 基礎演習　宮澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	宮澤　君子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000004327 基礎演習　佐藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	佐藤　千恵子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出とともに毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

提出した文章およびレポート等については添削後返却します。
またゼミ内での発表の機会を設け、意見交換をします。、

参考文献

その都度、必要に応じて紹介します。

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. オリエンテーション ・基礎演習・プレゼンテーションの進め方について説明する	・シラバスを読む	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む
2	2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①) ・新聞の社説等を読み、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
3	3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②) ・前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
4	4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③) ・VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
5	5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④) ・前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む	・文章をまとめる
6	6. 資料(文献)の収集と利用① ・新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	・資料の収集をする	・資料を整理する
7	7. 資料(文献)の収集と利用② ・新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	・資料の収集をする	・資料を整理する
8	8. レポートの書き方① ・レポートの構成について学ぶ	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
9	9. レポートの書き方② ・レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
10	10. レポートの書き方③ ・図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
11	11. レポートの書き方④ ・文献情報の整理の仕方について学ぶ	・資料を整理し、作成の準備をする	・資料を整理する
12	12. レポートの書き方⑤ ・資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	・資料を整理し、作成の準備をする	・レポートの内容を整理する
13	13. レポートの書き方⑥ ・前回に引き続き、レポートを作成する。	・レポートをまとめ、整理する	・レポートの内容を整理する
14	14. レポートの書き方⑦ ・必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する	・レポートをまとめ、整理する	・レポートの内容を整理する
15	15. レポートの提出・発表 ・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	・発表するための準備をする	・提出するために内容を見直し整理する

講義名	1000004329 基礎演習　千葉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	千葉　啓子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたといえます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづくレポートの構成(見出しと概要)を記述した報告書により評価する。提出物だけでなく、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題をより深く追求するためのアドバイスを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用する。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践する。
ゼミには毎回出席することが基本となる。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	履修科目の説明 自己紹介	テキストに目を通す	授業内容を整理する
2	履修科目の確認 必要に応じて面談	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
3	レポートテーマ選定の説明	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
4	図書館利用① DVD視聴による図書館機能の説明と施設案内	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
5	図書館利用② 前回説明を受けた図書館機能を実際に利用し、書籍等の貸借や文献検索方法を理解する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
6	レポートテーマを探す① 図書館の新聞社説を中心に関心・興味のある文章を探し、数点候補に挙げる	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
7	レポートテーマを探す② 前回に引き続き、図書館で関心・興味のある文章を探し、数点候補に挙げる	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
8	レポートテーマを探す③ 探した数点から最も関心・興味のあるものを1点選び、コピーを取る	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
9	レポートテーマを選ぶ 各自、選んだテーマをゼミで報告し、他の人の報告について意見や質問をしあう。	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
10	レポート作成の準備① レポートの構成や書き方について理解する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
11	レポート作成の準備② 各自、レポートの構成を考える	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
12	レポート作成の準備③ レポートの構成をゼミ担に報告し、アドバイスを受ける	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
13	レポート作成の準備④ 前回のアドバイスを踏まえてレポートの構成を再検討する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
14	レポート作成の準備⑤ レポート作成に必要となる文献資料の入手について考える レポートの構成が決定したら見出しと概要を記述して提出する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する
15	春期履修状況の確認 必要に応じて面談する	前回の授業内容を確認する	授業内容を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004330 基礎演習　大木ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	大木　えりか		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004331 基礎演習　有光ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	有光　琢磨		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004332 基礎演習　泉水ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	泉水　朝宏		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004334 基礎演習　金地ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	金地　美知彦		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004336 基礎演習　遠藤光男ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	遠藤　光男		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004337 基礎演習　石原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000004338 基礎演習　立石ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	立石　真司		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004339 基礎演習　吉田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004340 基礎演習　平塚ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004341 基礎演習　阿部ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	阿部　俊彦		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004342 基礎演習　今川ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	今川　ゆき		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004343 基礎演習（再履修）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004428 基礎演習　溝江ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004433 基礎演習　堺ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	堺　香奈子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004452 基礎演習　日當ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	日當　ひとみ		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004453 基礎演習　小出ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小出　るみ子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004462 基礎演習　足澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	足澤　ちか子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	基礎演習・プレゼンテーションの進め方	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	資料(文献)の収集と利用②	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。	テキストの該当箇所を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004464 基礎演習　三浦ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につける
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につける
3. レポートの作成方法を身につける

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

講義名	1000004465 基礎演習　佐々木ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004466 基礎演習　野崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	野崎　悦子		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004467 基礎演習　山崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	山崎　千鶴		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000004468 基礎演習　工藤（瑞）ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　瑞穂		

学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方	ゼミ生・担当教員を確認する。	「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。
2	入学前課題の意見交換(グループワーク)	手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	図書館利用に関する講義	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。	OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。
4	文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
5	文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ	映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。	要約等を見直す。
6	資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ	手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。	新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。
7	レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ	レポートのテーマを考案する。	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。
8	レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ	レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。
9	レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する	テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。	「文献カード」を作成する。
10	レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「文献カード」「情報カード」を作成する。	「情報カード」を作成する。
11	レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う	「情報カード」を作成する。	「情報カード」を整理する。
12	レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する	「情報カード」及びレポートを作成する。	「情報カード」を整理する。
13	レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
14	レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる	「情報カード」の見直し、レポートを作成する。	レポート作成を進める。
15	レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する	レポートを見直す。	ゼミごとにレポートを提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005216 プレゼンテーション　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005222 プレゼンテーション　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005230 プレゼンテーション　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションは、非常に大切なスキルです。pptの作成に偏ることなく何をどの様に効率的に伝えるか身につけてください。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005234 プレゼンテーション　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005235 プレゼンテーション　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005237 プレゼンテーション　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005238 プレゼンテーション　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005239 プレゼンテーション　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005240 プレゼンテーション　種市ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005241 プレゼンテーション　木村ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005242 プレゼンテーション　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
2	2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
3	3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
4	4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
5	5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
6	6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
7	7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
8	8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
9	9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
10	10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
11	11. プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
12	12. プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
13	13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
14	14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む
15	15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	テキストの概要箇所を読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005305 プレゼンテーション　井元ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005310 プレゼンテーション　浜中ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	浜中　のり子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005315 プレゼンテーション　渡邉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	渡邉　陵由		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005319 プレゼンテーション　工藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	工藤　祐太郎		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005320 プレゼンテーション　宮澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	宮澤　君子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

講義名	1000005327 プレゼンテーション　佐藤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	佐藤　千恵子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

提出した文章やレポートおよびスライドについては適宜アドバイスをし、必要に応じて添削後返却します。
また、ゼミ内での発表の機会を設け、意見交換をします。

参考文献

その都度必要に応じて指示します。

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 基礎演習で作成したレポートの修正および加筆をする	・シラバスを読む	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む
2	レポートの修正および加筆	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レポートをまとめる
3	レポートの完成およびゼミ内での発表 聴いている学生はアドバイスをする	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レポートをまとめる
4	レポートの修正版を各自提出	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レポートをまとめる
5	レジュメの作成方法 レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レジュメを整理する
6	発表スライドの作成① レジュメを基に発表スライドを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・レジュメを整理する
7	発表スライドの作成② 引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・スライドを整理する
8	発表スライドの作成③ 引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・スライドを整理する
9	ゼミ内でのプレゼンテーション① 発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う	・発表の準備をする	・スライドを整理する
10	ゼミでのプレゼンテーション② 引き続き、プレゼンテーションを行う	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
11	プレゼンテーション発表会の準備① 各自、発表の準備をする	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
12	プレゼンテーション発表の準備② プレゼン評価シートへの記入	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
13	プレゼンテーション発表会	・発表の準備をする	・レジュメとスライドの整理
14	討論について学ぶ① 討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・資料の整理
15	討論について学ぶ② １年間を振り返って、学生同士で討論をする。	・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む	・資料の整理

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005329 プレゼンテーション　千葉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	千葉　啓子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成の準備段階として、「多くの文章を読み、調べ、自らテーマを決めて、レポートの構成を考える」基礎的スキルを身につける授業を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につける目的で授業を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等、積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出状況、毎回の取組状況についても評価の対象とする。

課題に対するフィードバック

完成したレポートの内容をプレゼンテーションで充分発表できるよう、サポートする。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーションの手引き」を参考とする。

資格との関連

学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表しあう。そのため、全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春期の基礎演習振り返り 秋期履修予定の報告	1年生の基礎演習内容を確認する	授業内容を整理する
2	レポート作成に必要な資料(文献)の収集状況確認	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
3	資料(文献)補充① 図書館・PC・スマホを利用した資料(文献)のコピー、他学図書館へのコピー依頼	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
4	資料(文献)補充② 引き続き、資料(文献)収集を行い、内容読解・整理する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
5	レポート執筆① レポート本文の構成確認、執筆開始	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
6	レポート執筆② 引き続き、レポートを執筆	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
7	レポート執筆③ 文字数、ポイント他、執筆要領に準じたレポートになっているか確認しながら完成に向けて作業する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
8	発表会向け準備① パワーポイント作成要領およびレジュメ作成の説明	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
9	発表会向け準備② 要領に従い、パワーポイントを作成	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
10	発表会向け準備③ パワーポイントの作成を継続する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
11	ゼミ内プレゼンテーション発表会 発表会進行のための司会、タイムキーパーなどの役割分担を行い、全員で発表し合う。 自分以外の発表について質問や意見を述べ合う	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
12	プレゼンテーション発表会 学年全体の発表会に参加する	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
13	プレゼンテーションレポートの最終修正 最終的な加筆修正を行い、全体の体裁を整える	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
14	プレゼンテーションレポートの提出	前回の内容を確認する	授業内容を整理する
15	秋期履修状況の確認 必要に応じて面談を行う	前回の内容を確認する	授業内容を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005330 プレゼンテーション　大木ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	大木　えりか		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005331 プレゼンテーション　有光ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	有光　琢磨		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005332 プレゼンテーション　泉水ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	泉水　朝宏		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005334 プレゼンテーション　金地ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	金地　美知彦		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005336 プレゼンテーション　遠藤光男ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	遠藤　光男		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005337 プレゼンテーション　石原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005338 プレゼンテーション　立石ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	立石　真司		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005339 プレゼンテーション　吉田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	吉田　守実		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いますが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートをパワーポイントなどを使って、ゼミ内で発表します。本演習を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるために、その前段として、様々なルートで情報収集を行い、読み手(聞き手)にとってわかりやすい文章にまとめ、分かりやすく説明する必要があります。
報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005340 プレゼンテーション　平塚ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005341 プレゼンテーション　阿部ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	阿部　俊彦		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005342 プレゼンテーション　今川ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	今川　ゆき		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005343 プレゼンテーション（再履修）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	井元　紀子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005428 プレゼンテーション　溝江ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	溝江　弓恵		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きをテキストとして使用します。プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005433 プレゼンテーション　堺ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	堺　香奈子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005452 プレゼンテーション　日當ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	日當　ひとみ		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005453 プレゼンテーション　小出ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	小出　るみ子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005462 プレゼンテーション　足澤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	足澤　ちか子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005464 プレゼンテーション　三浦ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	三浦　広美		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005465 プレゼンテーション　佐々木ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	佐々木　真湖		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005466 プレゼンテーション　野崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	野崎　悦子		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005467 プレゼンテーション　山崎ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	山崎　千鶴		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000005468 プレゼンテーション　工藤（瑞）ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	工藤　瑞穂		

学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
2	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
3	レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
4	レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
5	レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
6	発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
7	発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
8	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
9	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
10	ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
11	プレゼンテーション発表会の準備	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
12	プレゼンテーション発表会	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
13	討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
14	討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。
15	討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。	テキストの概要箇所を読む	演習の内容を整理し、論点を再確認する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006001 情報処理基礎　地域共創Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.表計算でのデータを理解し適切に扱える。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

課題の提出出席状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
2	2.学術活動のためのインターネット利用	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
3	3.情報セキュリティとネチケット	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
4	4.文書処理①(Wordの基本操作)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
5	5.文書処理②(書式の設定)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
6	6.文書処理③(表作成、図の挿入)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
7	7.文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
8	8.表計算データ処理①(数式、関数の利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
9	9.表計算データ処理②(ヒストグラムの作成)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
10	10.表計算データ処理③(様々なグラフ利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
11	11.表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
12	12.表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
13	13.表計算統計分析②(散布図と相関)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
14	14.表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
15	15.実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006002 情報処理基礎　地域共創B・人間健康再履修						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.表計算でのデータを理解し適切に扱える。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

課題の提出出席状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
2	2.学術活動のためのインターネット利用	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
3	3.情報セキュリティとネチケット	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
4	4.文書処理①(Wordの基本操作)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
5	5.文書処理②(書式の設定)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
6	6.文書処理③(表作成、図の挿入)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
7	7.文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
8	8.表計算データ処理①(数式、関数の利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
9	9.表計算データ処理②(ヒストグラムの作成)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
10	10.表計算データ処理③(様々なグラフ利用)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
11	11.表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
12	12.表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。	実践した内容を再度実施する。
13	13.表計算統計分析②(散布図と相関)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
14	14.表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。
15	15.実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討)	テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。	実践した内容を再度実施する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006003 情報処理基礎　人間健康Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 基本的な統計分析ができる。
3. グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
2	学術活動のためのインターネット利用	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
3	情報セキュリティと情報倫理	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
4	文書処理①(Wordの基本操作)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
5	文書処理②(書式の設定)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
6	文書処理③(表作成、図の挿入)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
7	文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
8	表計算①(数式、関数の利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
9	表計算②(ヒストグラム作成)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
10	表計算③(様々なグラフ利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
11	表計算④(データ抽出、クロス集計)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
12	表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
13	表計算統計分析②(散布図と相関)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
14	表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
15	実データ(学術データ等含む)課題演習	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006004 情報処理基礎　人間健康Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。

本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	情報セキュリティと情報倫理 生成AI活用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	文書処理①（Wordの基本操作）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
5	文書処理②（書式の設定）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
6	文書処理③（表作成、図の挿入）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	表計算①（数式、関数の利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
9	表計算②（ヒストグラム作成）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
10	表計算③（様々なグラフ利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	表計算④（データ抽出、クロス集計）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	表計算統計分析①（基本的な統計関数：代表値）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
13	表計算統計分析②（散布図と相関）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	実践した内容を再度実施する。
14	表計算統計分析③（回帰曲線と予測）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
15	実データ（学術データ等含む）課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006005 情報処理基礎　看護Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.基礎的な統計分析ができる。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

・実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
・ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
2	学術活動のためのインターネット利用	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
3	情報セキュリティとネチケット	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
4	文書処理①(Wordの基本操作)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
5	文書処理②(書式の設定)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
6	文書処理③(表作成、図の挿入)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
7	文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
8	表計算データ処理①(数式、関数の利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
9	表計算データ処理②(ヒストグラムの作成)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
10	表計算データ処理③(様々なグラフ利用)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
11	表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
12	表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
13	表計算統計分析②(散布図と相関)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
14	表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。
15	実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006006 情報処理基礎　看護Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
　本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	学術活動のためのインターネット利用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	情報セキュリティと情報倫理 生成AI活用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	文書処理①(Wordの基本操作)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
5	文書処理②(書式の設定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
6	文書処理③(表作成、図の挿入)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
7	文書処理④(長文レポート編集と文書校閲)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
8	表計算①(数式、関数の利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
9	表計算②(ヒストグラム作成)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
10	表計算③(様々なグラフ利用)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
11	表計算④(データ抽出、クロス集計)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
12	表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
13	表計算統計分析②(散布図と相関)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
14	表計算統計分析③(回帰曲線と予測)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する
15	実データ(学術データ等含む)課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する 演習課題を作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000006007 情報処理基礎　人間健康Cクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。

本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

資格との関連

学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータとネットワークの基礎知識	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	キャンパスグループウェアの利用方法	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	情報セキュリティと情報倫理 生成AI活用	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	文書処理①（Wordの基本操作）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
5	文書処理②（書式の設定）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
6	文書処理③（表作成、図の挿入）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	文書処理④（長文レポート編集と文書校閲）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	表計算①（数式、関数の利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
9	表計算②（ヒストグラム作成）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
10	表計算③（様々なグラフ利用）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	表計算④（データ抽出、クロス集計）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	表計算統計分析①（基本的な統計関数：代表値）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
13	表計算統計分析②（散布図と相関）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	実践した内容を再度実施する。
14	表計算統計分析③（回帰曲線と予測）	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
15	実データ（学術データ等含む）課題演習	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007012 日本語リテラシー　地域共創　種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: 　スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: 　わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 　信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 　円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 　定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 　自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: 　あらまし読みのやり方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 　接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 　記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 　論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 　正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007013 日本語リテラシー　地域共創　嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	嶋　雅樹		

学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 漢字検定3級の 問題演習と解説(1)	これまでの 漢字学習への 取り組み 状況を振り返る。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
2	漢字の 部首と部首名、筆順について ・漢字の 主な 部首、筆順についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(1)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
3	熟語の 構成について ・熟語の 構成についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
4	対義語と類義語について ・対義語と類義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
5	同訓・同音異義語について ・同訓・同音異義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(4)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
6	前時までの復習と小テスト(1)	前回までの 配布資料を 読み 直し、理解不足の 漢字・熟語、用法などに 習熟する。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
7	四字熟語の 解説と演習(1) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
8	四字熟語の 解説と演習(2) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
9	四字熟語の 解説と演習(3) ・四字熟語についての 演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
10	前時までの復習と小テスト(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
11	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(1) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
12	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(2) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
13	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(3) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 ・好きな故事成語・ことわざ、慣用句について	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
14	前時までの復習と小テスト(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
15	漢字検定3級問題演習と解説(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007014 日本語リテラシー　人間健康　種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007015 日本語リテラシー　人間健康　嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	嶋　雅樹		

学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 漢字検定3級の 問題演習と解説(1)	これまでの 漢字学習への 取り組み 状況を振り返る。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
2	漢字の 部首と部首名、筆順について ・漢字の 主な 部首、筆順についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(1)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
3	熟語の 構成について ・熟語の 構成についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
4	対義語と類義語について ・対義語と類義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
5	同訓・同音異義語について ・同訓・同音異義語についての 確認と演習 ・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(4)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
6	前時までの復習と小テスト(1)	前回までの 配布資料を 読み 直し、理解不足の 漢字・熟語、用法などに 習熟する。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
7	四字熟語の 解説と演習(1) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
8	四字熟語の 解説と演習(2) ・主な四字熟語の 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
9	四字熟語の 解説と演習(3) ・四字熟語についての 演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
10	前時までの復習と小テスト(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
11	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(1) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
12	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(2) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
13	故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(3) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 ・好きな故事成語・ことわざ、慣用句について	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
14	前時までの復習と小テスト(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
15	漢字検定3級問題演習と解説(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000007016 日本語リテラシー　看護　種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 漢字検定3級の問題演習と解説(1)	これまでの漢字学習への取り組み状況を振り返る。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
2	漢字の読み・書きについて ・漢字の部首と部首名について ・漢字・熟語の読み方と書き取り(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
3	熟語の構成について ・漢字・熟語の読み方と書き取(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
4	対義語と類義語について ・対義語と類義語についての確認と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
5	四字熟語・ことわざ成句について 四字熟語・ことわざ成句の確認と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
6	前時までの復習と小テスト(1)	前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語、用法などに習熟する。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
7	表記・文法・敬語についての解説と演習(1)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
8	表記・文法・敬語についての解説と演習(2)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
9	表記・文法・敬語についての解説と演習(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
10	前時までの復習と小テスト(2)	前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
11	短文読解の解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
12	長文読解の解説と演習(2) ・故事成語・ことわざ、慣用句についての解説と演習	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
13	図表読解の解説と演習(3)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
14	前時までの復習と小テスト(3)	前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する	授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。
15	漢字検定3級問題演習と解説(2)	これまでの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。	授業内容を整理して、授業の成果を確認する。

講義名	1000008011 日本語表現リテラシー地域共創 種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

講義名	1000008012 日本語表現リテラシー地域共創 嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市 朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000008013 日本語表現リテラシー人間健康 三上クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	三上 幾子		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験および提出課題、確認テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わってきたことから、その知見を活かして、読解力、思考力、表現力を養成し、的確で論理的な文章能力を身につけることができるよう講義を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業内容を 整理して、学習内容をまとめる。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	〃日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	〃日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	〃教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	〃教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	〃教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	〃教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	〃教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	〃教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	〃教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	〃教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと 漢字」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	〃教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	〃教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)〃	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000008014 日本語表現リテラシー人間健康 嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: 　スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: 　わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 　信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 　円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 　定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 　自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: 　あらまし 読みのやり 方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 　接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 　記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 　論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 　正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

講義名	1000008015 日本語表現リテラシー看護 嶋クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	種市 朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし読みのやり方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000008016 日本語表現リテラシー看護 種市クラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市 朋哉		

学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

資格との関連

学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、オリエンテーション プレイスメントテスト、解答 日本語力養成(1) ・漢字の 部首と部首名について ・漢字の 読みと書き	日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。	授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。
2	日本語力養成(2) ・熟語の 構成について ・漢字の 読みと書き ・語義の 理解	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
3	日本語力養成(3) ・対義語と類義語 ・四字熟語の 読みと意味 新聞コラム 要約(1)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
4	日本語力養成(4) ・故事成語、ことわざ、成句 ・慣用 表現の 適切な 使用 新聞コラム 要約(2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
5	日本語力養成(5) ・文法「送り仮名のつけ 方」 ・敬語、授受表現 新聞コラム 要約(3)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
6	教科書 第2章(p8～) 「メール の 書き 方: スマートに 依頼する」 確認テスト(1/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
7	教科書 第4章(p17～) 「説明の 仕方: わかりやすく説明するコツ」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
8	教科書 第5章(p22～) 「新聞の 読み 方: 信頼できる情報源」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
9	教科書 第6章(p28～) 「敬語の 使い 方: 円滑な 人間関係を 築くために」 第7章(p32～) 「手紙の 書き 方: 定型と 気持ち」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
10	教科書 第9章(p45～) 「問いの 立て 方: 自分の 興味関心に 向き合う方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
11	教科書 第10章(p50～) 「情報読書の 仕方: あらまし読みのやり方」 ※ゲストティーチャー 招聘予定	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
12	教科書 第12章(p61～) 「構成の 仕方: 接続語を 活かす 方法」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
13	教科書 第14章(p71～) 「論文・レポートの 表現: 記号とかなと漢字」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
14	教科書 第15章(p77～) 「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉: 論文特有の 言葉」	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。
15	教科書 第16章(p82～) 「文の 乱れへの 対応: 正解を 知って 正しく書く」 確認テスト(2/2)	前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。	授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000009001 英語Ⅰ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかたも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が必要。

(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を講義毎回持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Entertainment ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Entertainment ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Entertainment ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Sports ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Sports ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Sports ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Technology and Science ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Technology and Science ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Technology and Science ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Technology and Science ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Travel and Culture ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Travel and Culture ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Travel and Culture ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Travel and Culture ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000009002 英語Ⅰ　Aクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法(グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など)自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります:

- 観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
- 比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
- 個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
- 構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

成績詳細:
①授業の課題　＝　50%
②宿題(English Central) ＝50%

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスできる。提示する課題を返し

参考文献

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

授業中にはインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。
英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Class Explanation & Communication Activity	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Japan, Tokyo Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Portugal, Lisbon Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Jordan Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	USA, Yellowstone National Park Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	France, Paris Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Review and Follow-up	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	United Kingdom, London Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Italy, Rome Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Australia, Sydney Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Mexico, Cancun Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Thailand, Bangkok Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Canada, Vancouver Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000009003 英語Ⅰ　Bクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかども必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が必要。

(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。

実務との関連

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Entertainment ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Entertainment ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Entertainment ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Sports ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Sports ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Sports ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Technology and Science ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Technology and Science ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Technology and Science ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Technology and Science ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Travel and Culture ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Travel and Culture ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listen and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Travel and Culture ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Travel and Culture ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Discuss and Review D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000009004 英語Ⅰ　Cクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	三浦　文恵		

学習目標(到達目標)

日常生活で頻出する言葉やフレーズを学び、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着を図る。

1. ネイティブスピーカーがナチュラルスピードで話す英語を理解できる。
2. ネイティブスピーカーが日常生活で使う身近な英語表現を使える。
3. ネイティブスピーカーの発想に基づいた表現ができる。

授業概要(教育目的)

主に、基礎文法、リスニング、ライティングの演習を行う。また授業では、会話や話す演習を行い、声を出す事を目的に活きた英語を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

課題に対するフィードバック

試験や課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

必要に応じて授業で紹介する。

講義時使用テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

資格との関連

各種英語検定試験受検の希望者には役立つ内容である。

学生へのメッセージ

日頃から英語を聞き、耳を慣らしておくとよい。暮らしの中における英語表記に興味をもち、注意して見るようにしましょう。

実務との関連

留学・通訳・翻訳の実務経験を活かし話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. Self Introduction (Presentation)	自分のことを英語でクラスに紹介できるよう、これまで 学んだ 単語やフレーズを確認しておく。	自分の紹介を思い通りにできたかを振り返り、うまくできなかった部分の単語やフレーズを確認しておく。
2	2. Warm-up Unit Welcome to English Class! (Presentation)	これまで学んだ英単語やフレーズを確認しておく。クラスでの 自分のニックネームを考えておく。	これまで学んだ英単語やフレーズでうまくできなかった部分を確認しておく。
3	3. Unit 1 Speaking About Yourself ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
4	4. Unit 1 Speaking About Yourself ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
5	5. Unit 2 What Do You Do? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
6	6. Unit 2 What Do You Do? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
7	7. Unit 3 What Does He Look Like? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
8	8. Unit 3 What Does He Look Like? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
9	9. Review Units 1-3	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
10	10. Unit 4 Where Are You From? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
11	11. Unit 4 Where Are You From? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
12	12. Unit 5 Likes and Dislikes ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
13	13. Unit 5 Likes and Dislikes ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
14	14. Unit 6 What's She Like? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
15	15. アメリカと日本の生活・風習・文化の違いについて(ゲストティーチャー)	インターネットや文献で、アメリカ人の生活や文化について調べておく。疑問に思う事を質問として用意する。	内容をまとめ、疑問点に対する答えを含めレポートに書く。

講義名	1000010001 英語Ⅱ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標（到達目標）

学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

授業概要（教育目的）

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります：
・観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
・比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
・個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
・構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、提出期限の厳守、タスクを総合的に評価する。
＊再試験は実施しない。

詳細：
①クラス中の課題 = 50%
②宿題（English Central）= 50%

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスできる。提示する課題を返し

参考文献

講義時使用テキスト

「English Central」オンライン教材（6ヶ月間；英語Ⅰを受けなかった場合）
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。
英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。

資格との関連

学生へのメッセージ

[履修上の注意]
覚えておかなければならないのは、講義中は、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。
タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価する。

AIの倫理的な利用は、一定の条件のもとで認められています。このため、全ての学生はAI利用許可申請書を手出しなければなりません。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity: introductions	Warm-up	Closing
2	Japan, Tokyo Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
3	Portugal, Lisbon Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
4	Jordan Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
5	USA, Yellowstone National Park Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
6	France, Paris Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
7	Review and Follow-up	Warm-up	Closing
8	United Kingdom, London Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
9	taly, Rome Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
10	Australia, Sydney Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
11	Mexico, Cancun Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
12	Thailand, Bangkok Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
13	Canada, Vancouver Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing
14	United Arab Emirates, Dubai Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	Warm-up	Closing

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000010002 英語Ⅱ　Aクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかども必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が
必要。
(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1
年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)
「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。
参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極
性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を講義毎回持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Health and Food ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Health and Food ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Health and Food ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Health and Food ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Environment and Nature ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Environment and Nature ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Environment and Nature ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Environment and Nature ④ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Politics and Crime ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Politics and Crime ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Politics and Crime ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Social Sciences ① A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Social Sciences ② A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Social Sciences ③ A: Brainstorming Vocabulary Warm-up B: Watch and Learn C: Listening and Discuss D: Writing	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000010003 英語Ⅱ　Bクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標（到達目標）

期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

授業概要（教育目的）

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります：
・観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
・比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
・個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
・構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

成績詳細：
①授業の課題　＝　50%
②宿題（English Central）＝50%

課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」（予約購読サービスのオンラインアクセスカード）
＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

参考文献

春学期の英語Ⅰと秋学期の英語Ⅱには「English Central」オンライン教材（予約購読サービス）が必要。

（6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Ⅰと秋学期の英語Ⅱ両方登録学生は1年間の予約購読になる）
（英語Ⅰ受けなかった場合、英語Ⅱのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる）

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
AIの倫理的な利用は、一定の条件のもとで認められています。このため、全ての学生はAI利用許可申請書を手出しなければなりません。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class and Online Systems Explanation B: Communication Activity: introductions	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	apan, Tokyo Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Portugal, Lisbon Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Jordan Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	USA, Yellowstone National Park Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	France, Paris Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Review and Follow-up	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	United Kingdom, London Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Italy, Rome Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Australia, Sydney Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Mexico, Cancun Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Thailand, Bangkok Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Canada, Vancouver Warm-up & vocabulary First viewing Second viewing Speaking and writing follow-up Pair practice : Speaking	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000010004 英語Ⅱ　Cクラス（人間健康・看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科/看護学科			担当教員	三浦　文恵		

学習目標(到達目標)

日常生活で頻出する言葉やフレーズを学び、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着を図る。

1. ネイティブスピーカーがナチュラルスピードで話す英語を理解できる。
2. ネイティブスピーカーが日常生活で使う身近な英語表現を使える。
3. ネイティブスピーカーの発想に基づいた表現ができる。

授業概要(教育目的)

主に、基礎文法、リスニング、ライティングの演習を行う。また授業では、会話や話す演習を行い、声を出す事を目的に活きた英語を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

課題に対するフィードバック

試験や課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

必要に応じて授業で紹介する。

講義時使用テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

資格との関連

各種英語検定試験受検希望者には役立つ内容である。

学生へのメッセージ

日頃から英語を聞き、耳を慣らしておくとよい。暮らしの中における英語表記に興味をもち、注意して見るようにしましょう。

実務との関連

留学・通訳・翻訳の実務経験を活かし話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. Unit 6 What's She Like? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認する。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
2	2. Review Units 4-6	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
3	3. Unit 7 Tell Me About Your Family ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
4	4. Unit 7 Tell Me About Your Family ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
5	5. Unit 8 Communication ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
6	6. Unit 8 Communication ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
7	7. Unit 9 How Are You Feeling? ①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
8	8. Unit 9 How Are You Feeling? ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
9	9. Review Units 7-9	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
10	10. Unit 10 Memories①(Presentation)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
11	11. Unit 10 Memories②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
12	12. Unit 11 Talking About Health ①(Discussion)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
13	13. Unit 11 Talking About Health ②(Group Work)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
14	14. Unit 12 Mindset (Discussion)	シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。	付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。
15	15. アメリカ人と日本人の価値観・考え方の違いについて(ゲストティーチャー)	インターネットや文献で、アメリカ人の価値観や考え方について調べておく。疑問に思う事を質問として用意する。	内容をまとめ、疑問点に対する答えを含めレポートに書く。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000011000 英語コミュニケーション						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

This class will focus on effective English communication skills, especially listening and speaking. It will prepare you for various language situations that might occur either in Japan or overseas. Effective communication begins with communicative intent, so this class will also help you "find your English voice" and overcome fear and anxiety when communicating in a foreign language.

授業概要(教育目的)

This class will focus on improving all of the English language skills necessary for communcation. Listening, speaking, reading, and writing will all be practiced for the purpose of effective communication.

卒業認定・学位授与の方針との関連

講義中と宿題は積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。成績は第1日目から評価する。

評価方法

講義内での積極的な参加(アクティブラーニング法)、宿題、クラスクイズを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。

成績詳細:
①宿題 (「English Central」オンライン教材)(50%)
②スピーキングテスト (50%)

課題に対するフィードバック

毎回の授業の初めに学生の前で宿題をチェックする;スピーキングテストの点数はテスト日の次の週に報告

参考文献

講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 6カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

資格との関連

学生へのメッセージ

上達するためのモチベーションを持って授業に臨むことが肝要です。積極的に参加することが語学上達の鍵であり、このクラスにもその考え方が反映されています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class Introduction B: Self-Introduction Task	Class Introduction	Self-Introduction Task
2	Travel: Discussing favorite travel destinations, memorable trips, or dream vacations.	Warm-up & Review	Wrap-up
3	Hobbies: Talking about hobbies and interests such as reading, sports, painting, or playing a musical instrument.	Warm-up & Review	Wrap-up
4	Food and Cuisine: Exploring different types of cuisine, favorite dishes, or traditional foods from different countries.	Warm-up & Review	Wrap-up
5	Technology: Discussing the impact of technology on daily life, favorite gadgets, or social media platforms.	Warm-up & Review	Wrap-up
6	Environment: Talking about environmental issues, recycling, conservation, or sustainable practices.	Warm-up & Review	Wrap-up
7	Mid-Term Conversation Evaluations	Warm-up & Review	Wrap-up
8	Education: Discussing favorite subjects, school experiences, or educational goals.	Warm-up & Review	Wrap-up
9	Culture and Traditions: Exploring cultural celebrations, customs, or traditions from various countries.	Warm-up & Review	Wrap-up
10	Health and Fitness: Talking about exercise routines, healthy eating habits, or ways to maintain a healthy lifestyle.	Warm-up & Review	Wrap-up
11	Music and Entertainment: Discussing favorite music genres, concerts, movies, or TV shows.	Warm-up & Review	Wrap-up
12	Relationships: Talking about friendships, family dynamics, or romantic relationships.	Warm-up & Review	Wrap-up
13	Current Events: Discussing recent news topics, social issues, or global events.	Warm-up & Review	Wrap-up
14	Sports: Discussing favorite sports, sports events, or personal experiences with sports activities.	Warm-up & Review	Wrap-up
15	Future Plans: Talking about career aspirations, dreams, or goals for the future.	Warm-up & Review	Wrap-up

講義名	1000012000 英語（TOEIC） I						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

TOEICスコアを伸ばすためには、一般の英語能力をあげなければならない。グループ活動も加えて、読解・聴解・TOEIC専用語彙能力を広げ、過去の問題試験もおこないながら、試験の取り組み方学習し、自分次第スコアを伸ばすことができる。

授業概要(教育目的)

TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場においての日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEIC IIのレベルと同じである。TOEIC Ⅰの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広める。

TOEIC Ⅱでは、TOEIC Ⅰで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEIC Ⅰ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。

2016年以降のTOEIC試験問題形式の変更部分も講義中に指導する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業活動参加、課題、クイズに基づいて総合的に評価する。
＊学期後半でおこなう学内 TOEIC ip 試験の受験。
＊授業内での活動の積極的な参加を重点においている。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
試験(小テスト)は採点の上返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

Tactics for the TOEIC Test Listening and Reading Test Introductory Course: Student Book
Grant Trew, OXFORD UNIVERSITY PRESS
ISBN: 9780194529761

資格との関連

学生へのメッセージ

第1日目に現在のTOEICレベルも確認する。成績も第1日目から評価する。
学期後半で授業時間外におこなう学内TOEIC ip 試験を必ず受験すること。教科書は毎回必ず持参すること。

実務との関連

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	TOEIC Level Check	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Part 1 Photographs ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Part 1 Photographs ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Part 2 Question-Response ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Part 2 Question-Response ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Part 3 Conversations ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Part 3 Conversations ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Part 4 Talks ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Part 4 Talks ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Part 5 Incomplete Sentences ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Part 5 Incomplete Sentences ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Part 6 Text Completion ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Part 6 Text Completion ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Part 7 Reading Comprehension ① (strategies)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Part 7 Reading Comprehension ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000013000 英語（TOEIC）Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

TOEICスコアを伸ばすためには、一般の英語能力をあげなければならない。グループ活動も加えて、読解・聴解・TOEIC専用語彙能力を広げ、過去の問題試験もおこないながら、試験の取り組み方学習し、自分次第スコアを伸ばすことができる。

授業概要(教育目的)

TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場においての日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEIC Ⅱのレベルと同じである。TOEIC Ⅰの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広める。

TOEIC Ⅱでは、TOEIC Ⅰで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEIC Ⅰ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。

2016年以降のTOEIC試験問題形式の変更部分も講義中に指導する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業活動参加、課題、クイズに基づいて総合的に評価する。
＊学期後半でおこなう学内 TOEIC ip 試験の受験。
＊授業内での活動の積極的な参加を重点においている。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
試験(小テスト)は採点の上返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

Tactics for the TOEIC Test Listening and Reading Test Introductory Course: Student Book
Grant Trew, OXFORD UNIVERSITY PRESS
ISBN: 9780194529761

資格との関連

学生へのメッセージ

成績も第1日目から評価する。
学期後半で授業時間外におこなう学内TOEIC ip 試験を必ず受験すること。教科書は毎回必ず持参すること。

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	TOEIC Test Prep Schedule and Strategies	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	Part 1 Photographs ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Part 1 Photographs ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Part 2 Question-Response ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Part 2 Question-Response ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	Part 3 Conversations ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Part 3 Conversations ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Part 4 Talks ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Part 4 Talks ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Part 5 Incomplete Sentences ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Part 5 Incomplete Sentences ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Part 6 Text Completion ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Part 6 Text Completion ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Part 7 Reading Comprehension ① (tactics)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Part 7 Reading Comprehension ② (practice)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	1000014001 ドイツ語（地域共創）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社
副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000014002 ドイツ語（人間健康）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化ができる。
3 冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。
この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。
ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。
これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。
ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 人称代名詞の3格と4格 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000014003 ドイツ語（看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化ができる。
3　冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。
この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。
ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。
これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。
ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga 「～するのが好きです」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 3格目的語と4格目的語の語順 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞(句)	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000015001	ドイツ語コミュニケーション（地域共創）					
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000015002 ドイツ語コミュニケーション（人間健康）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000015003 ドイツ語コミュニケーション（看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～が欲しいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000016000 哲学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1.哲学的な文献に触れ、読解する訓練を積む。
2.様々な思想や考え方があることを知り、それぞれを自分の言葉で説明できるようになる。
3.抽象的かつ観念的な内容について記述することができるようになる。

授業概要(教育目的)

哲学とは、理性のみを方法論として真理を探究する学問である。人間は文明の発祥の時代から自らの頭脳を駆使して、世界や人間についての真理を探求してきたのである。本講義では、様々な文献資料、特に『新カトリック大事典』を頼りに、哲学の通史と様々な諸テーマに迫ることとしたい。幾人かの哲学者についても紹介することとなるが、人名や歴史を覚える必要はない。古来どのようなことが論じられ、それに従えば世界はどのように見えるのか、受講生の世界を広げ、問題意識を深め、また思考の基礎を養う場としたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業参加、受講態度、質疑応答、学期末の筆記試験によって総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業内における質疑応答を歓迎する。
課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫、1987年。
K.リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社、2000年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。
小須田健『30分でわかる哲学＆思想』日本文芸社　2010年。

講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

受講生には、漫然とではなく、分からないところはまず何が分からないのかはっきりさせるような「攻める読書」を求めたい。配布資料のすべてを理解する必要は必ずしもないが、全体として、様々な思想それぞれの特徴や個性に触れて、面白みを感じてほしい。授業を通して「ともに考える」姿勢を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	哲学入門：過ぎ去らない確かなこと、本質とは	「哲学」について、インターネットや図書で調べる。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	ソクラテス以前の哲学者と自然「科学者」	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	ソフィストとソクラテスの哲学的態度	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	プラトンのイデア論	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	アリストテレスの形而上学	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	古代末期の哲学潮流：ストア派	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	中世哲学と大学の使命	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	普遍論争	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	中性から近代へ：ルネサンスと人文主義	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	大陸合理論の哲学者たち	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	イギリス経験論と政治思想	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	社会契約説からカントまで	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	仏教哲学にみる認識論・唯識思想	前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	現代の哲学者たちは世界をどう見ているのか：マルクス・ガブリエルが見る日本と世界	前回の配布資料とノートを読み直す	可能なら、授業内で視聴した動画コンテンツを再視聴する。
15	論文執筆と詭弁を批判するための論理学	関連する動画コンテンツを見てみる	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000017000 芸術論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	高橋　史朗		

学習目標(到達目標)

この授業では、以下の2点を到達目標とする。
1.芸術を批評する際に必要な理論及び芸術思潮の流れについて概括的な知識を獲得すること。
2.その知識を芸術作品の価値判断に活かせること。

授業概要(教育目的)

芸術はそれ自体で完結するものではなく、作品を取り巻く様々な要素によって意味づけられ、その価値が判断される。また、歴史的に評価が繰り返され、芸術史が形成されることになる。この授業では、第一に芸術作品を鑑賞する(見る・読む・聞く)ことの方法、意義、その目的など批評活動の概念を紹介する。そのうえで、プラトン、アリストテレスにはじまる西洋美学を概観するとともに、芸術思潮および批評理論の基本を講義する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

15回の講義終了後に実施するアセスメントに基づいて評価する。
欠席は1／3まで、6回目欠席の時点で試験の受験資格を失う。

課題に対するフィードバック

試験の模範解答を示す。

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(作品写真・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

情報量の多い授業となるので、ノートテイキングを効率的に行うことを期待する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス(授業内容、計画、成績評価、学習方法など)、批評とは何か	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	作品と周辺:芸術の種類、作品とテクストの差異、芸術思潮や批評理論の役割	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
3	プラトンの芸術批判1	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
4	プラトンの芸術批判2	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
5	アリストテレスと悲劇の形相	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
6	アリストテレスの芸術観1	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
7	アリストテレスの芸術観2	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
8	プロティノスの作品観	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
9	美の円環構造	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
10	ルネサンスとユマニスム	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
11	ルネサンス芸術	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
12	カントの技術論	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
13	カントにおける美1	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
14	カントにおける美2	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。
15	まとめと演習	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。

講義名	1000018000 デザイン論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	高橋　史朗		

学習目標(到達目標)

この授業では、デザインという極めて広範な活動について知識を得るとともに、デザイン的な思考方法の基盤を作ることを目指す。この授業の受講者の学習到達目標は以下のとおりである。
1.デザインの定義について把握すること。
2.デザインとその周辺領域との相違及び相互関係につて理解すること。
3.デザイン的な思考方法の基礎を身につけること。
4.思考方法をベースとした提案を実践できること。

授業概要(教育目的)

デザインはときに美しい製品やビジュアルを作るものと考えられがちだが、ドアの鍵や事務用品のような実用品、スポーツの大会や誕生会のようなイベント、公園や街路もデザインされている。本講義ではまず、このようなデザインの広がりを前提として、デザイン活動の本質と優れたデザインの有する特徴を提示する。次いで、生産・改善といったデザインに近似する領域とデザインの相違点を把握した上で、デザイン的な思考とはどのようなものかディスカッションを進める。さらに、その思考法を活用してデザイン的な提案を実践することを目指す。受講生は調査活動とグループワークを実践して、デザイン思考に基づくプレゼンテーションを行うこととなる。そのつもりで受講に臨んでもらいたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

知識を確認するアセスメント35%、グループワークでの相互評価15%、プレゼンテーション40%の割合で評価する。なお、不合格者にはアセスメントの再試験とレポートを課す。

課題に対するフィードバック

アセスメントは授業時に解答解説を行う。プレゼンテーションはその場で評価を行い、必要な場合改善を指示したうえで提出を求める。

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(Webサイト、作品・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

授業ではPPTを使用する機会が多く、そのファイルは適宜共有するが、授業時にある程度メモをとらず画面を眺めるだけでは、アセスメントもプレゼンも十分な成果を得られないので注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス(授業内容、計画、成績評価、学習方法など)、デザインの諸相	デザインに関心を持ち、周囲のデザイン例を収集してみる。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	広義のデザインと狭義のデザイン	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	デザインと競争の原理	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	デザインと改良	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	デザインと価値:新しい経験と対価	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	デザインと価値:価値の創造・増大・転換	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	ターゲティングとターゲットインサイト	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	観察と視点	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	デザイン思考	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	観察と視点	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	ナレッジアセスメント グループワーク1:情報収集とターゲティング	授業内容についてインターネットなどで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する。 課題のレポートを作成する
12	グループワーク2:ターゲティングとインサイト	授業内容についてインターネットなどで調べる	課題のレポートを作成する
13	グループワーク3:アイディエーション	授業内容についてインターネットなどで調べる	課題のレポートを作成する
14	グループワーク4:プレゼンファイル作成	授業内容についてインターネットなどで調べる	課題のレポートを作成する
15	プレゼンバトルと相互評価	授業内容についてインターネットで調べる	課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000019000 心の科学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	金地　美知彦		

学習目標(到達目標)

心理学の基礎となる概念、理論、アプローチを理解し、それらが人間の行動と心理プロセスをどのように説明するかを理解する。

授業概要(教育目的)

本講義では、心理学の観点から「心」の基本的なメカニズムについて考えていきたい。心理学の研究によって、「心」の意外な働きが分かってきた。本講義では、知覚、記憶などの認知的な側面から心理学の基礎について概説する。また、人格、知能、発達などから、その人特有の個性を形作る「心」の働きについても学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験の成績を中心に、講義中の小レポートも加味し、総合的に評価する。なお、定期試験は、テキスト、ノートなど一切の資料を持ち込み不可で行う。

課題に対するフィードバック

全体の成績評価および定期試験の成績(得点)については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

参考文献

角山剛・小西啓史・三星宗雄・渡辺浪二(編著)『基礎からの心理学』おうふう

講義時使用テキスト

特に指定しない

資格との関連

認定心理士資格申請に必要な科目の一つである。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
秋学期集中講義で開講される『行動の科学』では、主に集団としての人間の問題、心の病などについて概説する予定である。本科目と『行動の科学』を併せて履修することで、心理学の知識を幅広く習得されることを希望する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	【ガイダンス & 心理学とは】 ①授業の進め方 ②心理学とは ③心理学の歴史	心理学の研究対象について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
2	【知覚】 ①知覚とは ②視覚の世界 ③その他の知覚世界	物を知覚するしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
3	【記憶】 ①記憶とは ②短期記憶と長期記憶 ③勉強に役立つ記憶法	記憶のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
4	【思考】 ①問題解決 ②推理 ③確率判断 ④意思決定	問題解決、推理、確率判断、意志決定のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
5	【行動学習(レスポンデント条件付け)】 ①無条件反射 ②条件反射とレスポンデント条件付け ③さまざまな条件反射	レスポンデント条件付けのしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
6	【行動学習(オペラント条件付け)】 ①生得的行動と獲得的行動 ②スキナーの実験とオペラント条件付け ③ギャンブルに依存する心理 ④学習性無力感	オペラント条件付けのしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
7	【対人関係】 ①他者を知る仕組み ②自分を知ってもらうには ③友情& 恋愛	他者認知、自己呈示、印象形成のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
8	【感情・動機づけ】 ①感情とは ②フラストレーションとストレス ③動機づけ	感情が生起するしくみ、フラストレーションの解消法について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
9	【性格】 ①性格とは ②性格のとらえ方 ③性格を決める要因	性格の捉え方(類型論と特性論)について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
10	【性格テスト(心理検査)】 ①性格テスト(心理検査)とは ②性格テスト(心理検査)の実施	性格(心理状態)の3つの測定方法について図書館やネットを用いて調べる。	性格テスト(心理検査)の結果を振り返ってみる。
11	【心の発達】 ①乳児期・幼児期 ②認知の発達 ③言語能力の発達	乳児期や幼児期、児童期の心の発達について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
12	【心の発達】 ①社会性の発達 ②自己の発達 ③成人期・老年期	青年期から老年期の心の発達について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
13	【心のダメージ】 ①心の葛藤 ②ストレス ③心の病気	ストレスによって引き起こされる心や身体の病気について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
14	【心の治療】 ①心理療法とは ②心理療法の様々な技法 ③日常生活でのメンタルケア	心理療法の様々な技法について図書館やネットを用いて調べる。	配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。
15	【まとめ】 これまでの授業を一通り振り返り、ポイントを押さえる。	配布プリントがすべて手元にあるかどうか確認し整理しておく。	ポイントを重点的に学習し、試験に備える。

講義名	1000020000 行動の科学						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	石岡　れい子		

学習目標(到達目標)

行動の科学的接近の成果にもとづいて、心理学の各領域のテーマについて基本的な事柄を理解し、説明できる。

授業概要(教育目的)

この授業では、行動の科学的な理解を通して、社会、他者、集団、環境における人間の行動や心の働きについて概説する。また、心の病やそれに対する治療、援助について学び、臨床的・応用的な見地からも「心」の働きについて考えていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

毎回の小テスト、課題((レポート)提出、演習への参加態度、授業中の発言等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

レポート、感想文は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

認知症サポーター養成講座標準教材「認知症を学び、地域で支えよう」全国キャラバンメイト連絡協議会

資格との関連

社会福祉士、教員、看護師の資格取得のための選択科目である。人間の行動を科学的に観察、分析するために、まずは実際に自分で各種の検査を行い、自身の性格や行動について客観的に分析することから始めていく。

学生へのメッセージ

受講者は、意志・好奇心を持って参加されたい。また、学んだ知識を生かせるように実際の事例にあてはめながら理解してもらいたい。重要なことは、学んだことをただ授業の中だけで終わらせないことである。そうでなければ、内容を理解したとは言えない。理解習得し、ものごとを学習前と違った視点から見られるようになって欲しい。

実務との関連

小学校教員、特別支援学校教員を経て、教育大学の大学院で臨床心理学を学んだ。特に応用行動分析学の研究室で、人間の行動、行動変容、環境との相互作用、コンサルテーションについて学んだ。現在は、障害児施設の心理指導員、小学校・中学校・高校のスクールカウンセラーなどをしており、その知見と実務経験をもとに話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	心理学とはなにか	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
2	環境の認知	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
3	行動の変容 自身のコーピング尺度を分析し行動パターンについて感想文を提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
4	記憶	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
5	感情と動機づけ	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
6	性格と知能 自身のエゴグラムの結果を分析し説明したうえで、今後の自身のあり方をレポートにまとめ提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
7	発達	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
8	対人認知と対人魅力、態度と態度変化 対人認知と対人魅力、態度と態度変化 Leeの愛情尺度の結果を自己分析し、レポートを提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
9	自己と他者 自己と他者 ハイダーのバランス理論について学び日常の行動と結び付けて具体例を挙げて、レポートにまとめ提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
10	集団の心理	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
11	リーダーシップ 自身のLPC尺度の結果を分析し効果的なリーダーシップのあり方について考え、レポートを提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
12	適応と不適応 STAI1とSTAI2を分析し、レポートを提出する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
13	主な精神障害の概要 SDS(うつ尺度)を実施し、うつの症状を知る。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
14	精神障害への介入技法 高齢者の心理や特徴を学び、認知症の理解と支援について知る 認知症サポーター養成講座　八戸市介護予防センター(ゲストティーチャー)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	ゲストティーチャーによる寸劇などを見て、グループディスカッションをして発表する。 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
15	障害の心理(発達障害児者の理解と支援につい) 視角や聴覚、味覚、触覚などの感覚過敏、変化への不適応、こだわりなどについて具体的に話し、 対応を考える。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	ゲストティーチャーによる寸劇などを見て、グループディスカッションをして発表する。 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000021000 歴史学 ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1、歴史的なものの見方の意義が理解できる。
2、古代ギリシアから現代に至るまでの法思想の概要について理解できる。
3、それぞれの思想家が思索した時代背景を理解できる。

授業概要(教育目的)

現代世界は「グローバリゼーション」の掛け声のもとに、大きな変動を迎えている。そうした中で、従来の国家・社会の構造は変容し、人々の信念にも変容がみられると同時に、そうした変化に対する反発も生じている。
こうした流動的な状況においては、人類の歴史を振り返り、過去の変動の時代に人々が何を考え、どのように行動し、結果として何がもたらされたかを学ぶ歴史学の視点は大変重要に思われる。
この授業では、国家と社会を形作るいわば骨格である「法」についての捉え方の歴史、すなわち「法思想」の歴史を西洋という文脈に限って、古代ギリシアから現代に至るまでたどってみたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末の定期試験によって評価する。出席が3分の2を超えていることは単位取得の前提条件である。穴埋め個所は試験範囲になるので、授業中はこまめな穴埋めをすること。なお遅刻は3回で欠席1回相当とみなす。

課題に対するフィードバック

授業中には適宜討論の時間を設けたい。電子メールで質問には随時答える。講義中の質問は大歓迎である。

参考文献

三島淑臣『法思想史〔新版〕』青林書院、1993年。それ以外は授業時に紹介する。

講義時使用テキスト

テキストは特に指定せずに、スライド資料などを配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

高校時代に世界史を履修していない人は、何か世界史に関する入門書を授業受講以前に1冊読んでおいてください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「歴史」のとらえ方 歴史学の歴史	高校の世界史の教科書や資料集をもう一度取り出して、自分の関心のある所を見直すなどしてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
2	法思想史の意義について プラトンの哲人王政　魂の政治	高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
3	アリストテレスの正義論　正義の三分説	高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
4	ヘレニズム時代の法思想　ストア派とエピクロス派	高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
5	キリスト教の登場　旧約の法から新約の法へ	高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
6	教父アウグスティヌスの法思想　永遠法について	高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
7	スコラ学者トマス・アクィナスの法思想　自然法について	高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
8	末期スコラ学とグロティウス　国際法の萌芽	高校の世界史教科書でよいので世界史の大航海時代前後に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
9	ルネサンスから「宗教改革」へ　マキアヴェリの君主論について～ホッブズの社会契約論	高校の世界史の教科書でよいのでルネサンス前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
10	近代市民社会の成立　ジョン・ロックの所有権論	高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
11	近代市民社会の深化　カントの普遍主義的法理論とJ.S.ミルの自由論	高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
12	近代市民社会への批判　ルソーの一般意思論とヘーゲルの人倫論	高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
13	実証主義の時代　ハンス・ケルゼンの法実証主義とラートブルフの価値相対主義	高校の世界史の教科書でよいので19世紀の記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
14	自然法論の「復権」　ヨハネス・メスナーの自然法倫理学	高校の世界史の教科書でよいので第二次世界大戦前後のヨーロッパに関する記述(特にファシズムについて)を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。
15	現代世界の法思想　「ハーバード白熱教室」が問いかけるもの	高校の世界史の教科書でよいので現代に関する記述を読み直しておいてください。	授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000022000 日本国憲法						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

① 日本国憲法の理念・構造を説明できる。
② 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験および小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『憲法概観(再訂補訂版)』(司法協会)

資格との関連

公務員(教職も含む)試験　行政書士試験

学生へのメッセージ

① 公務員試験における試験科目ですので、公務員希望者は必ず受講することを勧めます。
② テキストは必ず持ってくること。
③ 新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。女性天皇制・天皇の国事行為・天変地異と危機管理・日本を取り巻く国際社会の変化など、憲法改正論が巷を騒がせている。他方で国民の人権はどうなるのか是非関心を持ってニュースに接してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	憲法の位置付け:憲法の最高法規性	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	憲法の基本原理：国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	憲法の歴史:近代憲法から現代憲法へ	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	基本的人権の性質	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	基本的人権の体系	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	法の下の平等	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	自由権(1)：精神的自由(信教の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	自由権(2)：精神的自由(表現の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	自由権(3)：人身の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	自由権(4)：経済的自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	社会権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	統治機構(1)：三権分立制の意義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	統治機構(2)：三権分立制の関係	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	地方自治	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

講義名	1000022001 日本国憲法（看護学科）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

① 日本国憲法の理念・構造を説明できる。
② 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験および小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『憲法概観(再訂補訂版)』(司法協会)

資格との関連

公務員試験 行政書士試験

学生へのメッセージ

テキストは必ず持ってくること。
新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。女性天皇制・天皇の国事行為・天変地異と危機管理・日本を取り巻く国際社会の変化など、憲法改正論が巷を騒がせている。他方で国民の人権はどうなるのか是非関心を持ってニュースに接してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	憲法の位置付け:憲法の最高法規性	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	憲法の基本原理:国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	憲法の歴史:近代憲法から現代憲法へ	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	基本的人権の性質	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	基本的人権の体系	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	法の下の平等	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	自由権(1):精神的自由(信教の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	自由権(2):精神的自由(表現の自由)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	自由権(3):人身の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	自由権(4):経済的自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	社会権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	統治機構(1):三権分立制の意義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	統治機構(2):三権分立制の関係	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	地方自治	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000023000 政治学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①政治学で用いられる基本的な概念について説明できるようになる。
②政治学の考え方を活用して、実際の政治現象を読み解くことができるようになる。
③物事を客観的・理性的に判断したうえで、自らのもつ政治的権利を行使できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、政治が決めたルールなどに従って生活していると同時に、主権者であり、政治の行方を決める存在でもある。そのため、実際の政治現象を正確に理解したうえで、行動することが求められる。本講義では、この点を踏まえ、現実社会における複雑な政治現象を理解し、さまざまな政治的課題への解答を見つけ出すために必要な政治学の諸概念や分析手法を身につけていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

日頃から政治に興味・関心をもって新聞やニュースに触れるとともに、政治の当事者としての意識をもちながら生活してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	政治と政治学	政治とは何かについて考えておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	国家と主権	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	政治権力	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	政治制度	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	政治体制とイデオロギー	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	政治思想	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	民主主義①(民主主義の歴史的展開)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	民主主義②(民主主義を支える諸概念)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	政党と政党システム	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	選挙	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	諸外国の政治①(イギリス)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	諸外国の政治②(アメリカ)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	日本の政治①(日本政治史)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	日本の政治②(現代日本政治の特徴と課題)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	政治学の役割	政治的課題の解決に向けて自ら何ができるのかについて考えておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000024000 社会学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①現代社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②個人と社会の関係性や生活(生き方)の多様性について理解し、さまざまな生き方を選択したり、受け容れたりできるようになる。
③社会の抱える諸問題とその背景を理解し、問題の解決策を考えることができる。

授業概要(教育目的)

社会学は、私たちが生活する社会の仕組みやそこで起こる現象の説明を試みる学問分野であり、非常に幅広い研究対象をもつ。この講義では、社会のさまざまな側面を取り上げ、それを客観的に理解・説明するために必要な能力を身につけ、実社会で直面する多種多様な課題に自ら対応できるようになることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

講義時使用テキスト

奥村隆編『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房、2018年。

資格との関連

学生へのメッセージ

社会学は、私たちの暮らしに関わるさまざまな面を分析する学問である。そのため、普段の生活のなかでも、さまざまな事象に興味・関心をもつよう心掛けてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	社会学の意義	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	社会学の射程	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	自己と他者	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	家族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	ジェンダー	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	労働	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	格差・不平等	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	病気・障害	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	外国人・民族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	宗教	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	環境と開発	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	逸脱と社会規範	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	権力と国家	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	マスメディア	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	社会学がもつチカラ	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000024001 社会学（臨時開講）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①現代社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②個人と社会の関係性や生活(生き方)の多様性について理解し、さまざまな生き方を選択したり、受け容れたりできるようになる。
③社会の抱える諸問題とその背景を理解し、問題の解決策を考えることができる。

授業概要(教育目的)

社会学は、私たちが生活する社会の仕組みやそこで起こる現象の説明を試みる学問分野であり、非常に幅広い研究対象をもつ。この講義では、社会のさまざまな側面を取り上げ、それを客観的に理解・説明するために必要な能力を身につけ、実社会で直面する多種多様な課題に自ら対応できるようになることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

講義時使用テキスト

奥村隆編『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房、2018年。

資格との関連

学生へのメッセージ

社会学は、私たちの暮らしに関わるさまざまな面を分析する学問である。そのため、普段の生活のなかでも、さまざまな事象に興味・関心をもつよう心掛けてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	社会学の意義	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	社会学の射程	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	自己と他者	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	家族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	ジェンダー	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	労働	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	格差・不平等	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	病気・障害	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	外国人・民族	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	宗教	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	環境と開発	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	逸脱と社会規範	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	権力と国家	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	マスメディア	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	社会学がもつチカラ	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000025000 国際関係論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①国際社会の特徴と歴史を踏まえ、現在の国際関係や世界情勢を説明できるようになる。
②国際関係や国際政治の説明に必要な理論を活用できるようになる。
③国際社会から受けるさまざまな影響に対して正しく対応できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、国際関係から大きな影響を受けている。グローバル化が進んだ現代、地域社会で活躍するためには、国際関係を客観的に理解し、論理的に説明する力が求められる。この授業では、国際関係の特徴・歴史・理論・課題を学び、世界情勢を読み解く力を習得したうえで、持続可能な開発目標(SDGs)に代表されるさまざまな地球的課題への解答を自ら見つけ出せるようになることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直(編)『国際関係論(第4版)』弘文堂、2025年。

資格との関連

学生へのメッセージ

国際関係論は政治学の一分野であることから、事前に政治学の履修を勧める。また、日頃から国際情勢に関心をもち、新聞の国際面に目をとおしたり、世界の出来事を伝えるニュース番組を見たりすることが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	国際関係を学ぶ理由	世界情勢にの興味・関心をもっておくこと。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	国際社会の特徴	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	20世紀の国際関係	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	21世紀の国際関係	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	現代のグローバル化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	グローバル化の光と影	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	地域化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	北東アジアの今	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	現代の安全保障	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	南北問題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	地球環境問題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	非国家アクター	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	国際関係の理論①(リベラリズム、リアリズム、ネオリアリズム)	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	国際関係の理論②(ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズム)	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	世界の平和と安定に向けて	世界を平和にする方法を考えておくこと。	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	1000026000 海外事情						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

「海外事情」は国際理解教育の観点から、外国に一定期間滞在して、人的交流と語学研修等を通して、具体的かつ実践的な海外各国の異文化の事情等を学ぶことを目的とする。異文化や異国でのビジネス等に触れることにより、広い視野と積極性に基づく国際理解を身につけ説明できる。

授業概要(教育目的)

①＜タイ＞タイ国チェンマイ市の歴史や専物館、病院、福祉施設などの見学を通して、異文化を理解し、国際感覚を培うことを目的として実施する。
②＜EF＞学校法人光星学院が協定を結んでいるEF(イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社)が提供する世界各地への語学留学プログラムに参加する。
＊注意事項
上記①～②の研修に参加する予定の学生は、あらかじめ「海外事情」を履修登録すること。また、研修参加後に「海外事情」と「英語コミュニケーション」の単位認定を希望する学生は、教務学生課において修了証等の写しとともに、「単位認定願」を必ず提出すること。なお、参加費は実費で、費用に含まれるのは次の通りである。
1)交通費(国内の移動費。航空運賃)と海外旅行傷害保険料
2)英語研修費と諸活動費の一部及び宿泊費(ホテル費用)
3)その他費用(現地移動費等)

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

海外事情に関する事前講義、現地における各種研修、帰国後に行う事後講義・レポート提出・プレゼンテーション等により、教員が必要に応じて受講や発表を決定しその内容で評価する。
＜「EF(英語圏)」での英語研修については、「英語コミュニケーション」を参照。＞

課題に対するフィードバック

事前研修プログラム最中にプログラム担当者が口頭でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

後日指定する。
団体行動を基本としたスケジュールを組んでいるので、その自覚と意欲ある者の履修を求める。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	海外研修事前指導(1) 研修の目的	シラバスの内容を確認する。	研修内容を整理する。
2	海外研修事前指導(2) 研修地の事情、歴史、文化	研修地についてメディアで調べる。	研修内容を整理する。
3	海外研修事前指導(3) 研修スケジュールの計画	研修地についてメディアで調べる。	研修内容を整理する。
4	海外研修実施中 語学研修(1)	研修スケジュールを確認する。	研修内容を整理する。
5	海外研修実施中 語学研修(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
6	海外研修実施中 歴史・文化(1)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
7	海外研修実施中 歴史・文化(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
8	海外研修実施中 歴史・文化(3)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
9	海外研修実施中 ビジネス(1)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
10	海外研修実施中 ビジネス(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
11	海外研修実施中 観光・食(1)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
12	海外研修実施中 観光・食(2)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
13	海外研修実施中 観光・食(3)	前回の研修内容を再確認する。	研修内容を整理する。
14	海外研修事後指導(1) 海外研修の振り返り	海外研修中の学習内容を整理する。	研修内容を整理する。
15	海外研修事後指導(2) レポートの作成	海外研修中の学習内容を整理する。	研修内容を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000026001 海外事情（韓国文化） ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

本講義の学習目標は、韓国語および韓国文化について基礎的な知識を習得し、韓国文化への理解を深めることをである。具体的には、毎回韓国語の学習を通じ、ハングル文字や発音を身につける。さらには、簡単な文法を覚え、日常生活に必要な表現について学習し、授業の最後には初級レベルに達することを目標とする。そして、韓国文化について地理、衣・食・住文化、歴史、芸能などのように幅広く学習し、隣国である韓国文化への理解を深めることを目標とする。

授業概要(教育目的)

授業は大きく2つに分けて進める。一つは、韓国語の学習である。ハングルが創造された歴史を踏まえ、ハングルの基本的な文字構成や発音について身につける。文字を単に覚えるのみではなく、基礎的に読める、書ける、聞ける、言えるようになっていただくよう、随時テストを行いながら授業を進める。二つは、韓国文化の学習である。文化の基本的な定義から始め、韓国の地理的特徴や歴史、社会的情勢などできる限り幅広く紹介する。すなわち、韓国文化について一面ではなく、多面的に観察することにより文化への理解を深める。さらには、韓国文化への理解を始め、異文化を理解するための土台を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

本講義の評価は、課題(レポート)2回と定期試験1回により評価する。レポート1回につき15点で合計30点、定期試験を70点にして、総100点で評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 李昌圭著『日常会話から文法まで学べる はじめての韓国語』ナツメ社

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

韓国語能力試験(TOPIK)の資格を受験する基礎になる。

学生へのメッセージ

本講義は、韓国語および韓国文化について理解を深めたい人を対象としている。また、授業での内容を十分理解した上で、両国の交流増進のために積極的に活動してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. ハングルについて 2. 文化について(文化とは何か？)	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
2	1. ハングルの創造の歴史 2. 韓国の地理(位置、領土、気候、山河などの自然環境など)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
3	1. ハングルの子音について 2. 韓国の「食」文化(キムチ、サムギョプサルなど)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
4	1. ハングルの母音について 2. 韓国の「衣」文化(韓服(チマチョゴリ)など)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
5	1. 基本的な文字の構成①(パッチム無し) 2. 韓国の「住」文化(昔の住宅と現在の住宅)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
6	1. 基本的な文字の構成②(パッチム有り) 2. 韓国の歴史(原始時代から現代まで)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
7	1. ハングルの発音法①(パッチム無し) 2. 韓国の民俗芸能と通過儀礼(陶磁器(世界遺産、国宝)、生活規範としての儒教)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
8	1. ハングルの発音法②(パッチム有り) 2. 韓国の伝統舞踊と仮面劇(「판소리」と「탈춤」)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
9	1. ハングルを書いてみよう①(パッチム無し) 2. 韓国の音楽(「트로트」と「K-POP」)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
10	1. ハングルを書いてみよう②(パッチム有り) 2. 韓国のドラマと映画	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
11	1. ハングルの読み・聞き練習①(パッチム無し) 2. 韓国の若手文化	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
12	1. ハングルの読み・聞き練習②(パッチム無し) 2. 日本との交流について①(朝鮮通信使について)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
13	1. 基本的な会話表現①(あいさつ、自己紹介) 2. 日本との交流について②(近代から現代まで)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
14	1. 基本的な会話表現②(家族の紹介) 2. 日本との交流について③(地域ごとの交流について)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる
15	1. 基本的な会話表現③(食事する時) 2. 在日韓国人・朝鮮人について	授業内容についてインターネットで前回の配布資料とノートを読み直す 調べる	配布資料とノートを読み直す 授業内容についてインターネットで調べる

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000026002 海外事情（中国文化）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

①中国の文化、習慣など、広範な内容を通して、中国に対する理解を深める。
②中国文化と日本文化の違いなどを、ディスカッションやワークショップを通じて表現する力を養う。

授業概要(教育目的)

日本は中国と一衣帯水の国であり、両国の交流は古代より頻繁に行われている。近年、日本を訪れる中国人観光客や、日本の教育機関で学ぶ留学生は増加する一方である。国際化社会の中では、いかに相手の国の文化、そして習慣を理解しながら、円滑にコミュニケーションを取れるのかが重要視されている。本講義は中国の大学生とオンライン交流を交えつつ、中国の文化について様々な視点から学び、思考を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業態度、発表やレポートを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表やレポートなどの取組みに対してアドバイスを行う。

参考文献

授業時に指示する。

講義時使用テキスト

教科書は基本的に使用しない。パワーポイント、視覚教材などを使用する。必要に応じてプリントを配布。

資格との関連

学生へのメッセージ

中国に興味をお待ちの方大歓迎。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 中国の 概況① 地理、気候、民族、文化の 背景を 知る 2. ゲームを 通じて 中国語を 学ぼう	中国についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
2	1. 中国の 概況② 中国の 都市を 知る 2. グループワーク	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
3	1. 中国の 社会・人文科学① 政治、経済を 知る 2. グループワーク	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
4	1. 中国の 社会・人文科学② 中国の 教育システムを 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
5	1. 中国人の 生活① 中国の 年中行事と 生活習慣を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
6	1. 中国人の 生活② 中国人の 食文化を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べ、準備する	授業の内容とポイントを整理する
7	中国人の 生活③ 1. 中国の 服飾文化を 知る 2. 漢服体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
8	1. 中国の 科学技術 中国の 四大発明を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
9	1. 中国の 社会システム 中国医学、健康法を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
10	1. 中国の 伝統・芸能① 中国の 伝統スポーツを 知る 2. 中国の 伝統スポーツを 体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
11	中国の 伝統・芸能② 1. 中国の 茶文化を 知る 2. 茶芸を 体験	授業内容についてインターネットで 調べ、準備する	授業の内容とポイントを整理する
12	1. 中国人の 対人関係を 知る 2. グループワークまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
13	映画からみる現代中国	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する
14	1. SNSなどから見る中国の 流行りの 文化 2. グループワーク	授業内容についてインターネットで 調べ、準備する	授業の内容とポイントを整理する
15	1. 中国文化と 日本文化の 相違点 2. ゲームまたは 文化体験	授業内容についてインターネットで 調べる	授業の内容とポイントを整理する

講義名	1000026003 海外事情（タイ文化）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①タイの社会や文化について理解を深め、説明できるようになる。
②日本はタイからどのように見られているのかについて知り、自らの暮らす社会を客観的に把握できる能力を獲得する。
③国際社会で求められるコミュニケーション・スキルとコモンセンスを身につける。

授業概要(教育目的)

タイは、日本人が観光やビジネスで最も頻繁に行き来する国の1つである。近年は、日本に訪れるタイ人の数も急激に増えつつある。しかしながら、日本では、タイに誤ったイメージを抱く人々がいまだに多くいる。一方のタイにおいては、アニメをはじめとする日本のポップカルチャーが広く浸透し、日本に興味・関心を抱く人々が数多く存在するが、実際の日本社会を正確に把握・理解している者はまだ少ない。この授業では、これらの点を踏まえて、ワークショップなども行いつつ、日本とタイの相互理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

授業中に実施する課題等を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし

資格との関連

学生へのメッセージ

例年2月もしくは3月に実施している本学の「海外研修(タイ・チェンマイ)」への参加や将来的なタイへの(短期)留学を考えている者の履修を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	タイを学ぶ意義	タイについて興味や関心をもつ	授業の内容と論点を整理する
2	タイのイメージの整理	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
3	タイの人々の特徴	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
4	タイの大学と学生生活	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
5	タイの王室とその役割	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
6	タイの歴史	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
7	タイと仏教	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
8	タイ経済と日本	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
9	タイ政治の特徴と課題	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
10	タイの地方自治	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
11	OTOP(One Tambon One Product)	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
12	タイにおけるマイノリティー(少数民族、LGBTQ等)	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
13	タイと周辺国との関係	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
14	料理から見るタイの多様性	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する
15	タイから得られる日本へのインプリケーション	授業内容について本やインターネットで調べる	授業の内容と論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000027000 自然科学概論（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	村本　論		

学習目標(到達目標)

物理学・化学・生物学の基礎を理解し、物理学・化学・生物学の統合された自然科学で生物を説明できる。

授業概要(教育目的)

生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれをとりまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。
生命現象を理解するために、これらの自然科学(生物学、化学、物理学)の基礎を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義において随時紹介する。

講義時使用テキスト

高等学校「生物　BIOLOGY」第一学習社

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	自然科学概論とは	自然界の成り立ちとこれを支配する法則を調べる。	人類の直面する諸問題の論点を整理する。
2	生物の基本概念と基本構造	生命体の基本的属性を調べる。	生物の多様性と生命の斉一性を理解する。
3	生物の増殖	生物の増殖について調べる。	生物としての増殖には無性生殖と有性生殖があることを理解する。
4	生命と水	生命活動に重要な水の性質を調べる。	生命現象を水との関わりで理解する。
5	タンパク質	タンパク質の構造と機能について調べる。	タンパク質を機能から整理する。
6	糖質	生命活動のエネルギー源としての糖質について調べる。	糖質のエネルギー代謝を理解する。
7	脂質	水に溶けない脂質の役割を調べる。	エネルギー源、生体膜成分等の脂質の役割を整理する。
8	核酸と遺伝子	核酸の構造と機能を調べる。	遺伝子の本体としての核酸の構造を理解する。
9	細胞	生命活動の最小単位としての細胞について調べる。	細胞の構造と機能を理解する。
10	遺伝子DNA	遺伝子の本体のDNAの構造と遺伝情報の関係を調べる。	DNAの二重らせん構造と遺伝情報について理解する。
11	遺伝情報の発現	遺伝情報はタンパク質となり機能する。その仕組みを調べる。	遺伝情報の発現の仕組みを理解する。
12	遺伝情報の翻訳	遺伝情報をタンパク質に翻訳する仕組みを調べる。	遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。
13	生物学的存在としての人間①	人間は周囲の環境と影響し合って生きている。その仕組みを調べる。	人間の生命活動を整理する。
14	生物学的存在としての人間②	60兆個の細胞からなる人間の生体内の恒常性を調べる。	動的平衡で生体内の恒常性を保つ仕組みを理解する。
15	生命誕生	生命誕生について調べる。	受精から生命誕生までの仕組みを整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000027001 自然科学概論（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	村本　論		

学習目標(到達目標)

物理学・化学・生物学の基礎を理解し、物理学・化学・生物学の統合された自然科学で生物を説明できる。

授業概要(教育目的)

生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれをとりまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。
生命現象を理解するために、これらの自然科学(生物学、化学、物理学)の基礎を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義において随時紹介する。

講義時使用テキスト

高等学校「生物　BIOLOGY」第一学習社

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	自然科学概論とは	自然界の成り立ちとこれを支配する法則を調べる。	人類の直面する諸問題の論点を整理する。
2	生物の基本概念と基本構造	生命体の基本的属性を調べる。	生物の多様性と生命の斉一性を理解する。
3	生物の増殖	生物の増殖について調べる。	生物としての増殖には無性生殖と有性生殖があることを理解する。
4	生命と水	生命活動に重要な水の性質を調べる。	生命現象を水との関わりで理解する。
5	タンパク質	タンパク質の構造と機能について調べる。	タンパク質を機能から整理する。
6	糖質	生命活動のエネルギー源としての糖質について調べる。	糖質のエネルギー代謝を理解する。
7	脂質	水に溶けない脂質の役割を調べる。	エネルギー源、生体膜成分等の脂質の役割を整理する。
8	核酸と遺伝子	核酸の構造と機能を調べる。	遺伝子の本体としての核酸の構造を理解する。
9	細胞	生命活動の最小単位としての細胞について調べる。	細胞の構造と機能を理解する。
10	遺伝子DNA	遺伝子の本体のDNAの構造と遺伝情報の関係を調べる。	DNAの二重らせん構造と遺伝情報について理解する。
11	遺伝情報の発現	遺伝情報はタンパク質となり機能する。その仕組みを調べる。	遺伝情報の発現の仕組みを理解する。
12	遺伝情報の翻訳	遺伝情報をタンパク質に翻訳する仕組みを調べる。	遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。
13	生物学的存在としての人間①	人間は周囲の環境と影響し合って生きている。その仕組みを調べる。	人間の生命活動を整理する。
14	生物学的存在としての人間②	60兆個の細胞からなる人間の生体内の恒常性を調べる。	動的平衡で生体内の恒常性を保つ仕組みを理解する。
15	生命誕生	生命誕生について調べる。	受精から生命誕生までの仕組みを整理する。

講義名	1000028000 数学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

以下の項目を到達目標とする。
授業で扱った内容について説明できる。
卒業論文や卒業研究など分析を行う際に、授業で扱った内容を応用できる。

授業概要(教育目的)

この授業では、大学の一般教養課程としての基礎的な内容について講義を行う。授業の内容としては、いわゆる「線形代数学」と「解析学」に分類される内容を中心に講じる。とくに、各学部、各学科ともに2年次以降に開講されている「統計学」あるいは「統計的分析」に用いられている公式やそれを導くための根底にある数学的基礎を扱う。
さらには高校までの数学とは異なり、問題を解くのではなく、与えられた条件に対してそれを一般的に成立することを示す内容となる。つまり問題を「解く」のではなく「考える」授業である。本授業の最終的な内容としては、学習目標(到達目標)に記載したとおりであるが、より具体的には以下の通りである。
① 大学での一般教養程度の数学の内容を理解する(例えば、代数と解析の違いを理解できる)。
② 線形代数で扱った内容をデータ分析などに活用できる。
③ 解析で扱った内容について、統計的公式などを導く際に活用できる。
これらを、本講義の最終的な到達地点とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

定期試験(100%)によって評価する。

課題に対するフィードバック

質問などがあれば、個別に対応する。

参考文献

必要に応じて適宜指示するが、授業内容の参考になるものとして以下を上げる。
矢崎成俊 『大学数学の教則』, ちくま学芸文庫.
松阪和夫 『線型代数入門』, 岩波書店.
原岡喜重 『はじめての解析学』, 講談社ブルーバックス.

講義時使用テキスト

使用しない.
講義資料を配布し、それに基づき行う。

資格との関連

特定の資格には結びつかないものの、各種試験などの計算問題(例えば公務員試験の経済学、数的処理など)をはじめ、各種検定(数学検定、統計学検定)などを計算が求められる受験科目の基礎を提供する。

実務との関連

学生へのメッセージ

大学での数学は、その考え方(論理性)が重要になる。中学校や高校までの数学と異なり、計算し、その解(答え)を求めることが必ずしも重要なのではないことを初めに理解しておくこと(高校までの数学の計算問題よりも証明問題に力点を置いた授業の内容と進め方とイメージすればよいだろう)。
数学に限らずどの科目にも言える事であるが、遅刻等をせずに講義に臨むこと。
予習、復習とくに復習は欠かさず行うこと。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	この授業の全体のアウトライン。 行列の基本(行と列、対角成分、正方行列)	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 この授業専用のノートとファイルを用意する。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
2	行列の演算(四則演算)	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
3	逆行列・単位行列 ケリー・ハミルトンの公式	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
4	行列と行列式の違い 行列式の演算(2行2列)	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
5	行列式の演算(3行3列) サラスの方法 余因子展開	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
6	行列を用いた連立方程式の解法 クラーメルの公式	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
7	行列の固有値と写像	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
8	解析の基本事項 関数の連続と無限、平均変化率、極限	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
9	微分可能性と$\varepsilon-\delta$法 導関数と微分係数	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
10	指数関数や対数関数の微分 高次関数の微分 三角関数の微分	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
11	2変数の以上の微分(偏微分) 最適化	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
12	積分の基本事項 原始積分と区間積分	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
13	重積分と線積分	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
14	微分方程式の基礎事項	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。
15	授業内容の他分野との関わり 数学と情報理論 数学と統計学	事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。	授業の内容についてのノートなどを整理する。 練習問題に取り組む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000029000 スポーツの科学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	泉水　朝宏		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 現代社会におけるスポーツの意義を説明することができる。
2. 自分自身の健康を保つためのスポーツトレーニングを実践することができる。
3. スポーツパフォーマンスを決定する原理原則を説明することができる。

授業概要(教育目的)

現代社会においてスポーツの持つ役割はますます重要なものとなっている。スポーツの本質を理解することは、スポーツの専門家を目指す場合だけではなく、健全な市民として身に付けるべき教養として不可欠なものであり、それは自然科学、人文科学、社会科学をはじめとする諸学問の力を借りる必要がある。本講義では、自らの心身を健康に保つため、そして生涯にわたりスポーツに親しむために必要となるスポーツの科学的知識を理解することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

講義への参加態度(発問への答えなど)、課題、小テストの成績から総合的に評価する。
オムニバス科目であるためそれぞれの教員の評価の総計をもって評価する。
また、原則として再試験・追試験は行わない。

課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

参考文献

・深代千之監修「スポーツを科学しよう!：トレーニング・競技から用具まで」(PHP研究所)
・鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター編；西薗秀嗣著者代表「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 ：トレーニング科学の活用テクニック」(大修館書店)
・宮西智久編；岡田英孝，藤井範久著「スポーツバイオメカニクス」(化学同人)
・日本トレーニング指導者協会「トレーニング指導者テキスト」(大修館書店)

資格との関連

本科目は「教育職員免許法施行規則66条の6」に定められた科目の1つであり、中学校、高等学校に限らず教員免許を取得する学生は必ず履修し、修得すること。

学生へのメッセージ

講義会場を変更する場合があるので、掲示に注意すること。
講義科目であるが、実技を行う場合があるので掲示に注意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 体力とは何か	・参考文献の関連個所を読む。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
2	2. 体力の測定①(握力・上体起こし・長座体前屈)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
3	3. 体力の測定②(反復横跳び・立ち幅跳び)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
4	4. 体力の測定③(50m走・ハンドボール投げ)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
5	5. 体力の測定④(20mシャトルラン)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
6	6. 体力評価の方法	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
7	7. スポーツと科学の関わり	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
8	8. 体力を高める方法	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
9	9. トレーニングへの体力測定の活用	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
10	10. トレーニングの構成の実際	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
11	11. 生涯スポーツと体力トレーニング	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
12	12. 運動生理学の基礎①運動と呼吸循環器系・エネルギー代謝	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
13	13. 運動生理学の基礎②運動と骨格系・神経系・内分泌系	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
14	14. スポーツのバイオメカニクス①(スポーツ力学)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。
15	15. スポーツのバイオメカニクス②(動作の観察)	・参考文献の関連個所を読む。 ・前回の講義内容を整理する。	・授業の内容を整理しノートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030001 データサイエンス入門　地域共創Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030002 データサイエンス入門　地域共創Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030003 データサイエンス入門　人間健康Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030004 データサイエンス入門　人間健康Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030005 データサイエンス入門　看護Aクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030006 データサイエンス入門　看護Bクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000030007 データサイエンス入門　人間健康Cクラス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

必要に応じて適宜指示する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現)とデータの種類	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データリテラシー③　データのバラつき	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データリテラシー④　相関と回帰の違い	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	データリテラシー⑤　データ間での因果関係	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う)	WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。	授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

講義名	1000031000 言語学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

Welcome to the fascinating world of language! This course will explore how languages work, from the sounds we make to the complex meanings in social situations . We'll crack the code of human communication and discover the science of language.

授業概要(教育目的)

Course Objectives:

* Understand the basic building blocks of language: sounds, words, sentences, and meaning.
* Explore different subfields of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, semantics, and pragmatics.
* Analyze language patterns and see how meaning is created.
* Appreciate the diversity of languages around the world.
* Develop critical thinking and problem-solving skills through language analysis.

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている」(地域経営学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている」(人間健康学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している」(看護学科)。

評価方法

An average of each of the following will determine your class grade:

1.Homework
2.Class Assignments
3.Short Tests

課題に対するフィードバック

Feedback is provided throughout the course in various ways: one-on-one discussions, classwork and homework results feedback, and short test results feedback.

参考文献

講義時使用テキスト

* None: Readings and online resources will be shared throughout the course.

資格との関連

学生へのメッセージ

This class will be conducted entirely in English.

In order for classes to proceed smoothly, you are expected to read the class materials before each related class.

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	What is Language? #1 * Defining Language: What makes human language unique? * Universals of Language: Features shared by most languages.	Introductions	Next week Preview
2	What is Language? #2 * Defining Language: What makes human language unique? * Universals of Language: Features shared by most languages.	Warm-up Activity	Closing Activity
3	Sounds & Systems #1 (Phonetics & Phonology) * Unveiling the Sounds of Speech: How we produce and hear sounds. * Organizing Sounds: How sounds combine to form words in a language.	Previous Week Review	Closing Activity
4	Sounds & Systems #2 (Phonetics & Phonology) * Unveiling the Sounds of Speech: How we produce and hear sounds. * Organizing Sounds: How sounds combine to form words in a language.	Previous Week Review	Closing Activity
5	Word Parts & Building #1 (Morphology) * Morphemes: The building blocks of words. * Word Formation: How prefixes, suffixes, and roots create new words.	Previous Week Review	Closing Activity
6	Word Parts & Building #2 (Morphology) * Morphemes: The building blocks of words. * Word Formation: How prefixes, suffixes, and roots create new words.	Previous Week Review	Closing Activity
7	Sentence Structure #1 (Syntax) * Putting Words Together: How sentences are formed and understood. * Parts of Speech: Knowing nouns, verbs, adjectives, and more.	Previous Week Review	Closing Activity
8	Sentence Structure #2 (Syntax) * Putting Words Together: How sentences are formed and understood. * Parts of Speech: Knowing nouns, verbs, adjectives, and more.	Previous Week Review	Closing Activity
9	Meaning Making #1 (Semantics) * Words & Meanings: Exploring different types of meaning. * Ambiguity & Context: How words change meaning depending on situations.	Previous Week Review	Closing Activity
10	Meaning Making #1 (Semantics) * Words & Meanings: Exploring different types of meaning. * Ambiguity & Context: How words change meaning depending on situations.	Previous Week Review	Closing Activity
11	Beyond Words #! (Pragmatics) * Communication & Context: Understanding the speaker, listener, and situation. * Implicature & Presupposition: What's meant but not said.	Previous Week Review	Closing Activity
12	Beyond Words #2 (Pragmatics) * Communication & Context: Understanding the speaker, listener, and situation. * Implicature & Presupposition: What's meant but not said.	Previous Week Review	Closing Activity
13	Language Around the World #1 * Language Families & Diversity: Exploring the connections between languages. * How Languages Change Over Time: The evolution of languages through history.	Previous Week Review	Closing Activity
14	Language Around the World #2 * Language Families & Diversity: Exploring the connections between languages. * How Languages Change Over Time: The evolution of languages through history.	Previous Week Review	Closing Activity
15	Language & Society *Language & Culture: How language shapes our worldview. * Language & Identity: Exploring dialects and social variations in language.	Previous Week Review	Closing Activity

講義名	1000032000 ドイツ語Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

講義時使用テキスト

資格との関連

実務との関連

授業概要(教育目的)

課題に対するフィードバック

参考文献

学生へのメッセージ

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000032001 ドイツ語Ⅰ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社
副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000032002 ドイツ語Ⅰ（人間健康）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化ができる。
3　冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。

この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。

ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。

これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。

ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 人称代名詞の3格と4格 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000032003 ドイツ語Ⅰ（看護）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化ができる。
3 冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田 健監修『ニューエクスプレス・スペシャル ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

資格との関連

学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。

この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。

ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。

これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。

ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	世界の言語とドイツ語 アルファベート つづりと発音 あいさつ 曜日、月	世界地図または地球儀を見る	授業の内容を整理する 発音練習をする
2	人称代名詞と動詞の現在人称変化 最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have) 語順 ja(英:yes)とnein(英:no)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する 発音練習をする
3	さまざまな疑問詞 自己紹介	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	名詞の性、冠詞 定冠詞と名詞の格変化 不定冠詞と名詞の格変化 格の用法	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	職業名・専攻名のいろいろ 趣味はManga 「～するのが好きです」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	不規則動詞の現在人称変化 命令形	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	人称代名詞の格変化 3格目的語と4格目的語の語順 「～しよう」 フランクフルト中央駅で	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	名詞の複数形 定冠詞類 不定冠詞類 否定冠詞kein	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	身につけるもの、家族 買い物 「～はいくらですか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	前置詞の格支配 従属の接続詞と副文 非人称のes	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	時刻の言い方 チューリヒの町で 「～はどこにありますか」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	話法の助動詞 分離動詞	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	映画を見に行きたい 「～したい」	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	形容詞の格変化 zu不定詞(句)	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	「どんな種類の？」「どのような？」 わたしのねがい	テキストの該当箇所を読む 練習問題を解く	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000033000 ドイツ語Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

講義名	1000033001 ドイツ語Ⅱ（地域共創）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3 日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000033002 ドイツ語Ⅱ（人間健康）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	人間健康科学科			担当教員	石原　良明		

学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～がほしいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000033003 ドイツ語Ⅱ（看護）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	看護学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3 日常生活で多用される基本表現を使える。

授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	春学期「ドイツ語」の要点整理	春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す	授業の内容を整理する
2	動詞の3基本形 現在完了 お名前は？	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
3	昨日・今日・明日 休暇旅行 「何をしたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
4	過去 再帰動詞と再帰代名詞 オクトーバーフェスト	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
5	こんにちは オペラ鑑賞 「どこにいたの？」	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
6	形容詞・副詞の比較 関係代名詞 レストランにて	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
7	受動形 反対語のいろいろ ホテルに宿泊	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
8	接続法 「～が欲しいのですが」 誕生パーティー	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
9	いくらですか？ マンガ文化	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
10	ハンザ都市リューベック 環境首都フライブルク	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
11	結婚式の写真 外国人労働者	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
12	ポツダム広場へ 食習慣	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
13	どこへ行くの？ ノイシュヴァンシュタイン城	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
14	路上にて アウシュヴィッツ	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む
15	道案内 ビールの話	テキストの該当箇所を読む 発音練習をする	授業の内容を整理する ドイツ語例文を繰り返し読む

講義名	1000034000 韓国語						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	金　善旭		

学習目標(到達目標)

本講義の学習目標は、韓国語の基本的な文字(ハングル)の構成や基礎的な文法、そして日常生活で使われる様々な表現などについて学習することで、受講生の韓国語能力を向上させることを目標とする。そのために、まずは、音素文字であるハングルの母音・子音を正確に読み書きできることを学習目標とする。次に、基礎語彙を身につけ、簡単な文章についても読み書きできることを学習目標とする。さらには、簡単なあいさつ表現および日常生活に使われる表現などについて学習し、受講生の韓国語能力の向上に努める。

授業概要(教育目的)

本講義では、基礎的な韓国語の文字・文法・表現などについて説明し、受講生の理解を深めるために、実際の発音練習および書く練習を積極的に行う。まず、内容について易しく説明し、その後、実際に書きながら、発音の練習をする。受講生の人数によっては、グループを作成し、その中でお互い話し合う時間も作りたいと考えている。外国語の学習においては、とにかく目と耳がなれることが大事であるため、なるべく発音する時間と聞く時間を確保しながら講義を進めていきたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

評価方法

本講義の評価は、授業毎のワークシートと定期試験により評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

『世宗学院 韓国語入門』世宗学院財団
https://nuri.iksi.or.kr/front/cms/contents/layout2/learningsejong/detail.do

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

韓国語能力試験(TOPIK)や「ハングル」能力検定試験の資格を受験する基礎になる。

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	韓国語とハングルについて 理解すること。	参考文献の関連個所を読む	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
2	基本母音を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
3	平音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
4	激音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
5	硬音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
6	二重母音1を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
7	二重母音2を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
8	パッチム1を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
9	パッチム2を 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
10	二重パッチムを 理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
11	連音を理解して使用する。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
12	簡単なあいさつと自己紹介の 表現することができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
13	数字と時刻の 読み 方と年月日・曜日などを表すことができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
14	教室でよく使う多様な表現を 理解して 使用することができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する
15	韓国語の様々な挨拶表現を 状況ごとに 理解して 使うことができる。	参考文献の 関連個所を 読む 前回の 配布資料とノートを 読み 直す	参考文献の 関連個所を 読む 授業の内容を整理し、論点を 整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000035000 中国語						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

ゲームやロールプレイを通して、中国語の母音、子音、声調などの発音をマスターすることができる。また、中国語の基本構文などの学習を通して、名前や出身、所属、家族などについて紹介することができ、簡単な挨拶や日常会話を理解し、応用できるようになる。

授業概要(教育目的)

この授業は、発音や自己紹介、お誘い、レストランでの注文、買い物などの簡単な日常会話を習得することを目的としている。授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく身につけるため、ゲームやロールプレイを活用して楽しく練習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

成績評価は、授業中の学習状況、小テスト、期末レポートにより行います。

課題に対するフィードバック

その都度フィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

ライト版　中国語でコミュニケーション(沈国威・氷野善寛・小嶋美由紀・海暁芳・紅粉芳惠・阿部慎太郎 共著／朝日出版社／￥2,805／ISBN=978-4-255-45355-2)

資格との関連

中国語検定準4級

学生へのメッセージ

積極的な態度で授業に参加してください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	中国語の発音：子音、母音、声調について	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
2	自己紹介①ー名前、出身（人称代名詞、名前の聞き方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
3	自己紹介①ー名前、出身(“是”構文の使い方)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
4	自己紹介②ー所属、専攻(「動詞述語文」の使い方、指示代名詞)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
5	自己紹介②ー所属、専攻(場所代名詞、疑問詞疑問文、連体修飾語を作る“的”)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
6	自己紹介③ー家族について(所在を表す“在”、所有と存在を表す“有”の使い方)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
7	自己紹介③ー家族について(方位詞の使い方、名詞述語文、文末助詞“了”の使い方)	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
8	お誘い①（前置詞“在”、連動文の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
9	お誘い②（反復疑問文）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
10	お誘い③（年月日、曜日、時刻の言い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
11	レストラン①（選択疑問文）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
12	レストラン②（“想”と“要”の使い方、省略疑問文、数量詞の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
13	買い物①（形容詞述語文、比較文の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
14	買い物②（助動詞“能”と“可以”の使い方）	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。
15	まとめ	シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。	学習した内容に基づき、復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000036000 人間関係論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	今川　ゆき		

学習目標(到達目標)

次の2点を到達目標とする。
1. 人間関係やコミュニケーションに関する心や行動の仕組みを知り，説明できる。
2. 円滑なコミュニケーションスキルを身につけ，日常場面でも活用できるようになる。

授業概要(教育目的)

学校や家庭，仕事など私たちの生活において人間関係が影響する場面は多い。現代社会ではSNS等のコミュニケーションツールの発達により，多様なコミュニケーションが可能になった一方で，良好な人間関係を構築することに課題を抱える人も少なくない。本授業では，心理学的な視点から基本的なコミュニケーションに関わる理論と，日常場面でも活用できるコミュニケーションスキルを学び，より良い人間関係のあり方を考えていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

成績は，期末考査の点数を重視し，毎授業後のコメントシートの提出・内容，授業中の参加態度などからも総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

コメントシートへの返答は，次の授業で代表的なものをいくつか取りあげる。
期末試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

必要時，適宜講義内で提示する。

講義時使用テキスト

テキストは使用せず，資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業内でQRコードを読み取ってもらい，ワークに取り組んでもらう場合があります。
QRコードが読み取れるスマートフォンやタブレット端末等を持参してください。

実務との関連

心理職(公認心理師・臨床心理士)として行政の精神科デイケアに勤務。精神医療・保健福祉での実務経験をもとに，生活の場で活用できる人間関係についての知識やコミュニケーションスキルについて話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	人間関係とは	シラバスを確認する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
2	人間関係のはじまり(アタッチメント理論)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
3	人間関係のきっかけとなる要因(対人認知・対人魅力・ステレオタイプ)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
4	人間関係の発展と自己理解(対人関係・自己認知)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
5	人間関係の維持(社会的交換理論・対人葛藤)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
6	人間関係の変化(認知的不協和・バランス理論)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
7	集団の中の人間関係(同調・社会的手抜きと促進・リーダーシップ)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
8	コミュニケーションの基礎知識	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
9	聴くスキル:傾聴	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
10	伝えるスキル:アサーション	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
11	捉えるスキル:リフレーミング	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
12	人間関係を維持するスキル①:アンガーマネジメント	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
13	人間関係を維持するスキル②:セルフ・ケア	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
14	ソーシャルスキル・トレーニング	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。
15	コミュニケーション上の諸問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。	配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。

講義名	1000037000 スポーツ実技Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科	担当教員					

学習目標(到達目標)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

講義時使用テキスト

資格との関連

実務との関連

授業概要(教育目的)

課題に対するフィードバック

参考文献

学生へのメッセージ

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000037001 スポーツ実技Ⅰ（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	実技	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	有光　琢磨		

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000037002 スポーツ実技Ⅰ（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000038000 スポーツ実技Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

■ 各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■ 仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■ 生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

授業概要(教育目的)

■ スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■ スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

課題に対するフィードバック

テスト

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス	テスト	テスト

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000038001 スポーツ実技Ⅱ（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	実技	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	渡邉　陵由		

学習目標(到達目標)

■　各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■　仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■　生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

授業概要(教育目的)

■　スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■　スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

課題に対するフィードバック

テスト

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス	テスト	テスト

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000038002 スポーツ実技Ⅱ（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

■ 各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■ 仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■ 生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

授業概要(教育目的)

■ スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■ スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

課題に対するフィードバック

テスト

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス	テスト	テスト

講義名	1000039000 防災と危機管理						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

自然災害について基礎的知識を身につけることで、自らの防災力向上につなげるとともに、周囲の安全確認や事前対策ができるようになる。

授業概要(教育目的)

近年多発している自然災害や今後起こり得る自然災害から、人々の生命や財産を守るためには、防災に関する知識を身につけ、共有していく必要がある。本講義では、自然災害の発生のメカニズム、被害想定、災害情報の入手方法、自治体や地域における対策について理解する。そして安心安全なまちづくりに向けて、防災意識を高めるだけでなく、自助・共助・協働による活動を推進できるよう、授業中では学生同士による積極的な意見交換を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている」(地域経営学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている」(人間健康学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している」(看護学科)。

評価方法

①筆記試験60%:学期末の定期試験期間に実施(持ち込み不可)
②リアクションペーパー40%:毎回配布し授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーについては、次回の授業でポイントを復習する
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

2024年度版『防災士教本』認定特定非営利活動法人日本防災士機構

講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

資格との関連

「防災士」の資格取得に役立つ講義となっている。なお、防災士取得を目指す場合は、別途申込と受講料が必要となる。詳細は講義中に説明する。

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	防災を学ぶ意義 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
2	災害発生のしくみ(地震・津波・気象災害など) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
3	近年の主な自然災害(ゲストティーチャー) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
4	被害想定・ハザードマップ ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
5	災害関連情報と予報・警報 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
6	行政の災害対策と危機管理 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
7	復旧・復興と被災者支援 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
8	災害医療とこころのケア ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
9	企業・団体の事業継続 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
10	災害への備え ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
11	自主防災活動と地区防災計画 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
12	地域防災と多様性への配慮 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
13	災害ボランティア活動 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
14	安心安全なまちづくり・レジリエンス ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
15	防災士について ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000040000 日本語Ⅰ（楊クラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

N4レベル以上であること

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	新しい一歩①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	新しい一歩②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	楽しいショッピング①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	楽しいショッピング②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	私の目標①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	私の目標②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	住んでいる町で①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	住んでいる町で②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	大変な1日①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	大変な1日②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	旅行に行こう①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	旅行に行こう②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	西川さんの家へ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	西川さんの家へ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	復習	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

講義名	1000041000 日本語Ⅱ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

N4レベル以上であること

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ありがとう①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	ありあとう②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	アルバイト先で①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	アルバイト先で②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	旅行に行って①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	旅行に行って②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	地域社会の中で①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	地域社会の中で②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	私の健康法①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	私の健康法②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	親の気持ち・子の気持ち①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	親の気持ち・子の気持ち②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	イベント・行事①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	イベント・行事②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	復習	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000042000 日本語Ⅲ（楊クラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりにより成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は、日本語Ⅰ・Ⅱに引き続き、学習者をコミュニケーション主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

N3レベル相当の学生であること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	新たな出会い①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
2	新たな出会い②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
3	新たな出会い③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
4	楽しい食事・上手な買い物①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
5	楽しい食事・上手な買い物②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
6	楽しい食事・上手な買い物③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
7	時間を生かす①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	時間を生かす②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	時間を生かす③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	地域を知って生活する①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	地域を知って生活する②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	地域を知って生活する③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	緊急事態①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	緊急事態②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	緊急事態③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000043000 日本語Ⅳ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は日本語Ⅰ・Ⅱに引き続き、学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを同時に受講すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地図を広げる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
2	地図を広げる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
3	地図を広げる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
4	世代を超えた交流①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
5	世代を超えた交流②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
6	世代を超えた交流③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
7	気持ちを伝える①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	気持ちを伝える②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	気持ちを伝える③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	言葉を楽しむ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	言葉を楽しむ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	言葉を楽しむ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	日本を旅する①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	日本を旅する②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	日本を旅する③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000044000 日本語Ⅴ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

社会生活の様々な場面で日本人と上手にコミュニケーションできるように「相手との良好な関係を確立・維持しながら、自分の意図や考え方をきちんと伝えることができる能力」を身に付ける。「許可を求める」「依頼する」「謝罪する」「誘う」「申し出をする」「助言する」「不満を伝える」「ほめる」の8つの場面を通して、状況にそった適切なことばの使い方を効率的・体系的に学ぶことができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを受講したうえ、日本語Ⅴと日本語Ⅵを同時に受講すること。または、N3レベル以上の学生であること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ライフスタイル①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
2	ライフスタイル②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
3	ライフスタイル③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
4	心と体の健康①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
5	心と体の健康②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
6	心と体の健康③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
7	トレンドに乗ってつながる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	トレンドに乗ってつながる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	トレンドに乗ってつながる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	カルチャーショック①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	カルチャーショック②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	カルチャーショック③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	情報社会に生きる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	情報社会に生きる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	情報社会に生きる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000045000 日本語VI						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

授業概要(教育目的)

グローバル化が進むなか、留学生の約半数以上が卒業後、日本での就職を希望している。本講義はビジネス日本語能力の知識だけでなく、日本のビジネスマナー、仕事の進め方、情報セキュリティなどの法的ルール取り入れながら授業をすすめていく。日本の会社文化への理解を深めることで、職場と取引先の人とのコミュニケーション能力や、ビジネス場面における日本語の実践的な運用能力の育成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

『できる日本語　中級』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

講義時使用テキスト

『できる日本語　中級』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

資格との関連

学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを受講したうえ、日本語Ⅴと日本語Ⅵを同時に受講すること。N3レベル相当の学生であること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	学校生活①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	学校生活②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	学校生活③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	働くということ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	働くということ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	働くということ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	地球に生きる①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	地球に生きる②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	地球に生きる③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	科学の力①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	科学の力②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	科学の力③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	豊かさと幸せ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	豊かさと幸せ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	豊かさと幸せ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000046000 日本文化Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

各種資料を通して、日本の文化、習慣などについて考え、母国の生活・文化と比較して日本文化を理解する。また、日本文化と母国文化の違いなどを、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて表現する力を養う。

授業概要(教育目的)

本講義は日本の文化について様々な視点から学び、思考を深める。本講義は「受信型」の学習にとどまらず、自ら思考・判断・表現する「発信型」の学習を重視する。読み取った内容を理解し、自分の見解をディスカッションなどの形を通して、アウトプットできるようになることが目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

国際交流、地域活動やフィールドワーク等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

1.『知っていますか　日本のこと-学ぼう　話そう　日本事情』
2.『日本語で文化体験』
3.「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	プロローグ	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	日本人の一生	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	日本人の食生活	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	日本人の衣生活	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	日本人の住生活	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	日本の教育制度	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	社会的習慣・社会的情勢①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
8	社会的習慣・社会的情勢②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本の年中行事	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本の伝統文化①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
11	日本の伝統文化②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
12	日本社会のトレンド	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
13	現代日本の若者文化	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
14	日本語に関するトピック①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
15	日本語に関するトピック②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000047000 日本文化Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

各種資料を通して、日本の文化、習慣などについて考え、母国の生活・文化と比較して日本文化を理解する。また、日本文化と母国文化の違いなどを、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて表現する力を養う。

授業概要(教育目的)

本講義は日本の文化について様々な視点から学び、思考を深める。本講義は「受信型」の学習にとどまらず、自ら思考・判断・表現する「発信型」の学習を重視する。本講義では、日本文化Ⅰに引き続き、読み取った内容を理解し、自分の見解をディスカッションなどの形を通して、アウトプットできるようになることが目的である。さらに、学習者の地域への愛着を育むため、青森県の伝統文化についても学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

1. 留学生のための日本事情入門
2.「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	日本社会と日本人の変化	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	季節と対策から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	スポーツから見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	マンガ・アニメ等から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	広告から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	災害から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	儀式から見える日本	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	日本のマナー・習慣・ルール①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本のマナー・習慣・ルール②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本のマナー・習慣・ルール③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	グループ発表	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	地域の文化・産業を学ぶ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	地域の文化・産業を学ぶ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	地域の文化・産業を学ぶ③	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	グループ発表	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000048000 日本社会Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

読み物を通して社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につける。

授業概要(教育目的)

本の地理、人口、政治、教育、スポーツなどをやさしい日本語を使用して説明し、これらを留学生の母国事情と比較しながら日本社会を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

国際交流、地域活動やフィールドワーク等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	日本の地理①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	日本の地理②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	日本の人口①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	日本の人口②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	日本の政治①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	日本の政治②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	日本の教育①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本の教育②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本のスポーツ①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	日本のスポーツ②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	日本のテクノロジー①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	日本のテクノロジー②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	日本人と自然①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	日本人と自然②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

印刷日：2026年10月05日

講義名	1000049000 日本社会Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科/看護学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

読み物を通して社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につける。

授業概要(教育目的)

日本の宗教、科学技術、環境対策、産業構造などをやさしい日本語を使用して説明し、これらを留学生の母国事情と比較しながら日本社会を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
2	日本人と宗教①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
3	日本人と宗教②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
4	日本の科学技術①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
5	日本の科学技術②	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
6	日本の環境対策①	予習が必要な場合は事前に指示する。	毎回の授業で学んだ内容を復習してください。
7	日本の環境対策②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
8	日本の産業構造①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
9	日本の産業構造②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
10	日本に滞在する外国人①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
11	日本に滞在する外国人②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
12	外国人ポイント制度	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
13	都市の暮らし・地方の暮らし①	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
14	都市の暮らし・地方の暮らし②	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。
15	多文化共生社会	予習が必要な場合は事前に指示する。	授業で学んだ内容を復習してください。

講義名	2020001000 キャリアデザインⅠ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

1. 大学4年間における自己の学びの意義について説明できる。
2. キャリアデザインの概要を説明できる。
3. 大学生活を通して身に付けるべき諸能力について説明できる。
4. 仲間を作るとともに、仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。

授業概要(教育目的)

大学生活に適応し、意欲をもって学生生活を送ることができるように授業を通して支援する。また、社会的・職業的に自立したシチズンシップを持った社会人へとそのキャリアを発達させることができるように支援する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

振り返りシート、感想文、まとめキャリアシート、授業中の発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

コメントシート(振り返りシート)は、次の授業で代表的なものをフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

・この時間を利用して、社会を知り自分を知って、将来を展望し、未来を開いて行ってほしい。
・全部で8回の内容である。毎週開講する科目ではないので、日程を確認し、忘れずに出席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 概論(1) ・キャリアデザインで何を学ぶのか ・どのような力を身に付けるのか (コメントシート使用)	大学生のキャリアデザインについて、あらかじめインターネット等を用いて調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
2	概論(2) キャリアデザインと現在・過去・未来 ・大学進学の理由 ・今のあなたの役割 ・あなたのこれまでの歩み ・大学生活の目標 (コメントシート使用)	学生生活を展望し、授業内容の各項目について、予め考えてまとめておく。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
3	概論(3) キャリアプランについて考える ・あなたのキャリアのイメージは ・キャリアパスとキャリアプランの立て方 ・内的キャリアと外的キャリアの理解 (コメントシート使用)	大学生活での目標を立てるべく、これまでの自身の歴史を振り返り、将来を展望してまとめておく。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
4	学科の学びとキャリアデザイン(1) 地域経営学科、人間健康学科それぞれの学びとキャリア ・各学科で何を学ぶのか (コメントシート使用)	各学科で何を学べるのか、あらかじめ調べてまとめておく。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
5	概論(4) 人生100年時代に向かって君たちはどう生きるか ・モチベーションと行動の観点から考える (コメントシート使用)	社会の動向(過去・現在・未来)について調べ、そのような社会との関係性の中で生きていく自分について、予め考えをまとめておく。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
6	概論(5) キャンパスライフから始めよう ・充実した学生生活を送っていくために ・今を見つめ直す ・目的や目標を立て、DO目標を使いこなす ・勇気を持って行動し、チャレンジする (コメントシート使用)	目分の生き方と時間の使い方について、予め考えてまとめておく。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
7	働くこととキャリアデザイン(1) ブラックバイトとキャリア ・労働法の観点から自分を守る ・働くことと暮らしについて考える (コメントシート使用)	バイトと労働法について、あらかじめインターンネットで調べておく。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べたり、教員に質問をしたりする。
8	ゲストティーチャー講義 自己を振り返る ・まとめキャリアシートへの書き込みを通して振り返る ・WebClassへの保存	あらかじめ春学期の自分を振り返り、まとめておく。	まとめキャリアシートの内容を踏まえて、将来のキャリアを展望する。

講義名	2020002000 キャリアデザインⅡ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

1. 大学4年間における自己の学びの意義について説明できる。
2. キャリアデザインの概要を説明できる。
3. 大学生活を通して身に付けるべき諸能力について説明できる。
4. 仲間を作るとともに、仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。

授業概要(教育目的)

大学生活に適応し、意欲をもって学生生活を送ることができるように授業を通して支援する。また、社会的・職業的に自立したシチズンシップを持った社会人へとそのキャリアを発達させることができるように支援する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

振り返りシート、感想文、キャリアシート、授業中の発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題の提出状況等については、希望があれば個別に提示する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

・この時間を利用して、社会を知り自分を知って、将来を展望し、未来を開いて行ってほしい。
・全部で8回の内容である。毎週開講する科目ではないので、日程を確認し忘れずに出席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 自己・他者への気づきと対人関係(1) 「自分を知る意味を考える」 「自分の長所や短所に気づく」 ・長所に目を向け、自己肯定感を高める ・短所克服に向けて、何ができるか考える (コメントシート使用)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
2	自己・他者への気づきと対人関係(2) 「自分の考え方の特徴を知る」 ・考えや感情がネガティブになりすぎることによる悪影響を知る ・出来事に対する自分の捉え方の癖を知る ・出来事に対する自分の捉え方を修正する方法を考える (コメントシート使用)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
3	自己・他者への気づきと対人関係(3) 「怒りの気持ちを冷静に伝える」ことと「上手な頼み方と断り方」 ・イライラしたときでも適切な行動が取れ、適切な伝え方ができる方法を考える。 ・アサーティブな頼み方と断り方について考える。 (コメントシート使用)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
4	自己・他者への気づきと対人関係(4) 「上手に聴こう」 ・人の話に注意深く耳を傾ける大切さに気づく ・ロールプレイを通して「正しい聴き方のポイント」を練習する (コメントシート使用)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
5	働くこととキャリアデザイン(1) 「何のために働くのか」 ・職業に対する価値観を考える ・職業に対する価値観の多様性に気づく (コメントシート使用)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
6	内定者報告会(1) 「よりよい学生生活を送るために」 ・就職活動と学生生活について考える ・将来のキャリアについて考える。 (コメントシート使用)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	報告内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
7	学科の学びとキャリアデザイン ・研究演習の説明を通して、キャリア形成について考える ・将来のキャリアについて考える (コメントシート使用)	研究演習のことについて、予め、学習の手引きやはちギャンwebなどで調べておく。	授業内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
8	自己を振り返る ・まとめキャリアシートへの書き込みを通して振り返る ・webクラスへの保存	あらかじめ秋学期の自分を振り返り、まとめておく。	まとめキャリアシートの内容を踏まえて、将来のキャリアを展望する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020003000 キャリアデザインⅢ（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
3. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
4. 仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。
5. コミュニケーションの基礎・基本を説明することができる。

授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

振り返りシート、キャリアシート、授業中のグループワークなどにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

キャリアデザインを考えることは、就職活動のみならず、人生を考える上でも大変意義のあることである。学生諸君には、意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	2年生から考えるキャリアデザイン	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
2	コミュニケーション・プレゼンテーション養成講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
3	タイムマネジメント養成講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
4	インターンシップ講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
5	働くとは何かを考える講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
6	「はたらく」ことを考える講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
7	質問力UPワーク講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
8	女性のキャリアについて考える	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020004000 キャリアデザインⅣ（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
3. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
4. 仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。

授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

振り返りシート、キャリアシート、授業中のグループワークなどにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

キャリアデザインを考えることは、就職活動のみならず、人生を考える上でも大変意義のあることである。学生諸君には、意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	インターンシップ報告会 （夏休み 期間にインターンシップに参加した3年生からの 発表）	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
2	マッチプラス（適職診断）受験会	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
3	強み・経験の 言語化支援講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
4	公務員講座／体育会系講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
5	教職員講話 （民間企業での勤務経験がある本学教職員によるキャリア 講話）	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
6	卒業生講話 （本学卒業生からキャリアについて 講話）	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
7	内定者報告会 （内定を 受けた4年生から発表）	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。
8	就活スタートアップ 講座	自分自身のこれまでの 生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。	学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020005000 キャリアデザインⅤ（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
3. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
4. 仲間内社会から外の世界に出て、インターンシップなどの経験を積むべく行動することができる。
5. コミュニケーションの基礎・基本を説明することができる。

授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら啓発的な体験活動を経験することによって将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深めることによって、大学から職業への移行を円滑に行えるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

振り返りシート、感想文、キャリアシート、授業中の発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

キャリアデザインについて学ぶことは、社会の中の一員として、これからの長い人生行路を歩んでいく上で、大変意義のあることである。学生諸君には意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 将来のキャリアをイメージする(1) 「超高齢化社会とキャリアデザインについて 考える」 ・自分のキャリアをどう設計するか 考える (コメントシート使用)	授業内容について、あらかじめ インターネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
2	将来のキャリアをイメージする(2) 「女性とキャリアについて 考える」 ・男子学生と 共に 役割の 観点から 考える ・男女参画社会とライフワークの 観点から考える (コメントシート使用)	授業内容について、あらかじめ インターネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
3	コミュニケーションとキャリアデザイン(4) ・演習を 行うことによって、コミュニケーションへの 理解を 深める ・社会性と 自分について 考える (コメントシート記入)	授業内容について、インター ネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
4	コミュニケーションとキャリアデザイン(5) ・演習を 行うことによって、コミュニケーションへの 理解を 深める ・社会性と 自分について 考える (コメントシート記入)	授業内容について、あらかじめ インターネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
5	選択・決定と将来のキャリアについて(1) 「職業適性検査と将来のキャリアについて 考える」 (コメントシート使用)	授業内容について、あらかじめ インターネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
6	選択・決定と将来のキャリアについて(2) 就活と将来のキャリアについて 考える 「企業研究と公務員対策」 (コメントシート使用)	授業内容について、あらかじめ インターネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
7	選択・決定と将来のキャリアについて(3) 「SPI(言語・非言語)」 (コメントシート使用)	授業内容について、あらかじめ インターネットなどで 調べる。	授業内容をまとめ、論点を 整理する。
8	春学期の 振り返り 「まとめキャリアシート」 「SPI(自己分析)」	あらかじめ 春学期の 自分を 振り返り、まとめておく。	まとめキャリアシートの 内容を 踏まえて、将来のキャリアを 展望する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020006000 キャリアデザインVI（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
3. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
4. 仲間内社会から外の世界へ出て、社会体験や職業体験活動を積むべく行動することができる。

授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら啓発的な体験活動を経験することによって将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深めることによって、大学から職業への移行を円滑に行えるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

振り返りシート、感想文、キャリアシート、授業中の発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

なし。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

キャリアデザインについて学ぶことは、社会の中の一員として、これからの長い人生航路を歩んでいく上で、大変意義のあることである。学生諸君には意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 選択・決定と将来のキャリアについて(4) 「最新の就職環境と就職準備について」 (コメントシート使用)	授業内容について、新聞やインターネットなどで関連する論点を把握しておくこと。	授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
2	選択・決定と将来のキャリアについて(5) 「自己分析を通してキャリア選択について考える」 (コメントシート使用)	授業内容について、新聞やインターネットなどで関連する論点を把握しておくこと。	授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
3	選択・決定と将来のキャリアについて(6) 「履歴書・エントリーシートの書き方について」 (コメントシート使用)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
4	選択・決定と将来のキャリアについて(7) 「面接についての理解を図る」 ・面接のマナー ・模擬面接など (コメントシート使用)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
5	将来のキャリアをイメージする(3) 「働き方改革について考える」 ・青森県の場合 ・女性とキャリア(青森なでしこの方からのお話) (コメントシート使用)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
6	選択・決定と将来のキャリアについて(8) 「ビジネスマナーについて考える」 ・面接の際のマナー ・社会人としてのマナー (コメントシート使用)	授業内容について、インターネットなどで調べておく。	授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
7	内定者報告会(3) 就職活動とキャリアについて考える ・内定者報告会 (選択・決定のために) (コメントシート使用)	就職状況などについて、新聞やインターネットなどで関連する論点を把握しておくこと。	報告の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。
8	秋学期の振り返り ・まとめキャリアシートへの書き込みを通して振り返る ・webクラス入力 ・就職活動について(キャリア支援課)	あらかじめ秋学期の自分を振り返り、まとめておく。	まとめキャリアシートの内容を踏まえて、将来のキャリアを展望する。

講義名	2020007000 キャリアデザインⅦ ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 自立して生きていくうえで必要な社会的能力の概要について説明できる。
2. 良好な人間関係を築くために必要なスキル・能力について説明できる。
3. 自己理解、他者理解、関係づくりに関するポイントを説明できる。
4. 将来のワーク・ライフキャリアについて、その概略を説明することができる。

授業概要(教育目的)

・社会人(教員や会社員・公務員等)として自立して生きていく上で、「選択・決定」して大学から社会へと移行した後に、円滑に職場に「適応」して成長していくことができるよう、その基盤となるスキルや考え方を学ぶとともに、自らの在り方・生き方、働き方などを考え、将来のワーク・ライフキャリアを展望する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

課題や感想文、授業中の発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題や感想文の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

本講座は、教員を目指す皆さんや一般企業・公務員等を目指す皆さんを対象として開講します。
本講座では、「適応・成長」の観点から、社会人として、自立して働いていくうえで必要なスキルや考え方などについて学ぶとともに、自身の在り方・生き方、働き方などについて考えていきます。
本講座が生涯学習としての、また社会人としての学びのきっかけとなれば幸いです。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・本講座の目的・意義について ・「基礎的・汎用的能力」と社会性に関するスキルについて理解する。 ・生涯学習の観点から、社会人に求められているスキルについて考える	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
2	挨拶の大切さや印象のよい挨拶について考える ・挨拶の意義、習得、関係性構築などについて理解する ・適切な挨拶について、ロールプレイを通して考える	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
3	金銭管理について考える。 ・クレジットカードの利用のポイントについて学ぶ ・適切なクレジットカードの利用について、事例に基づいて考える ・リボルビング払いのシュミレーションを行い、その概要を把握する	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
4	④自己理解(長所・短所)について考える ・エゴグラムの実施して、自分への気づきを深める ・自分の長所・短所を考え、グループで話し合う ・自分の短所を克服する方法を話し合い、今後の目標と立てる	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
5	教師としての他者理解について考える ・他者理解の大切さについて ・児童・生徒理解と保護者との連携について (振り返りシート)	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
6	社会人としてのコミュニケーション(気持ちの伝え方)について考える ・怒りを感じる場面での自分の感情や行動について考える ・イライラしたときでも落ち着いて行動できるようにするポイントを学ぶ ・自分の気持ちや思いを伝えるための「I(私)メッセージ」を学び、練習する	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
7	社会人としてのコミュニケーション(上手な頼み方と断り方)について考える ・上手な頼み方と断り方のポイントを学ぶ ・様々な場面での頼み方・断り方を練習する ・ロールプレイを行い、適切な頼み方・断り方を身につける	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
8	社会人としてのコミュニケーション(仕事で使う電話)について考える ・電話をする際のポイントを学ぶ ・職場等での電話の受け方・かけ方の流れを学ぶ ・電話の受け方・掛け方を身につける	授業内容についてインターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。

講義名	2020008000 キャリアデザインⅧ ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 自立して生きていくうえで必要な社会的能力の概要について説明できる。
2. 良好な人間関係を築くために必要なスキル・能力について説明できる。
3. 自己理解、他者理解、関係づくりに関するポイントを説明できる。
4. 将来のワーク・ライフキャリアについて、その概略を説明することができる。

授業概要(教育目的)

・社会人(教員や会社員・公務員等)として自立して生きていく上で、「選択・決定」して大学から社会へと移行した後に、円滑に職場に「適応」して成長していくことができるよう、その基盤となるスキルや考え方を学ぶとともに、自らの在り方・生き方、働き方などを考え、将来のワーク・ライフキャリアを展望する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

課題や感想文、授業中の発言などにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題や感想文の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

本講座は、教員を目指す皆さんや一般企業・公務員等を目指す皆さんを対象として開講します。
本講座では、「適応・成長」の観点から、社会人として、自立して働いていくうえで必要なスキルや考え方などについて学ぶとともに、自身の在り方・生き方、働き方などについて考えていきます。
本講座が生涯学習としての、また社会人としての学びのきっかけとなれば幸いです。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション 社会人としての対人関係(関係維持・「意見を述べる」)について考える ・ブレーンストーミングのポイントを学ぶ ・ブレーンストーミングのポイントを使って話し合いを行う ・ブレーンストーミングの振り返り、意見交換を行う	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
2	社会人としての対人関係(問題解決・「トラブルの解決」)について考える ・トラブルの場面での自分の行動を振り返る ・トラブル解決のポイントを理解する。 ・トラブルの解決のポイントを使った解決方法を練習する	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
3	社会人としての対人関係(説明・「上手に伝える」)について考える ・分かりやすい伝え方について ・モデリングと伝え方のポイントについて、 ・伝え方のポイントを使った伝え方の練習	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
4	ストレス対処(ストレスと上手く付き合う)について考える ・ストレスを感じる場面についての振り返りについて ・善玉ストレッサーと悪玉ストレッサーについて ・ストレス対処方への気づき ・ストレス対処法の効果について	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
5	ストレス対処(心の危機に対応する)について考える ・心の危機のサインを知る ・心の危機に陥った場合の対応の仕方について学ぶ ・地域の援助機関を知る	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
6	心身の健康(健康な生活を送るために)について考える ・生活習慣病と予防について学ぶ ・健康に関わる行動について考える ・自身の生活を見直し、今後の改善点を決めて、日常の生活目標を立てる	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
7	職業観・勤労観(なんのために働くのか)について考える ・職業に対する価値観について ・職業観・勤労観に関するグループでの話し合い ・ロールモデルの記事を読み、自分の価値観を再検討する	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
8	ボランティア(ちょっとした声掛け)について考える ・街中や交通機関の中などでの援助ポイントについて ・適切な声掛けの方法について ・ロールプレイを通して、適切な声掛けの方法について理解を図る	授業内容について、インターネットなどで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。

講義名	2020022203 研究演習Ⅰ　バリーゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

This seminar class aims to allow students opportunities for intercultural understanding and engagement, environmental critical thinking as well as English language improvement. Study, projects and fieldwork based on Cultural and Environmental Issues will help students achieve these goals. This class also supports the students' English language and communication skills through individual and group coursework projects. Through these methods, students should gain skills to function in an international and/or English-speaking environment.

授業概要(教育目的)

This class aims to allow students the opportunity for efficient English improvement through the four skills of language learning related to inter-cultural insights as well as the current environmental crisis. This will improve both speed and efficiency in learning while supporting a healthy future for the society at large. This class will also support the students' language skills and help motivate them by offering a lasting record of their efforts in the community long after they have graduated. Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic skills necessary to function in an English-speaking environment.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年間を通じて、ゼミ活動での発揮度や協力度、英語での進歩や動力；個人のディスカッション容、英語でのプレゼンテーションを発表するなどにより総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックは、1対1のディスカッション、クラスワークや宿題の結果のフィードバック、小テストの結果のフィードバックなど、コースを通してさまざまな方法で行われる。

参考文献

講義時使用テキスト

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

実務との関連

学生へのメッセージ

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class Explanation	Class Explanation	Introductions Task
2	No Poverty 1	Opening Journaling	Closing Journaling
3	No Poverty 2	Opening Journaling	Closing Journaling
4	No Poverty 3	Opening Journaling	Closing Journaling
5	Zero Hunger 1	Opening Journaling	Closing Journaling
6	Zero Hunger 2	Opening Journaling	Closing Journaling
7	Zero Hunger 3	Opening Journaling	Closing Journaling
8	Good Health and Well-being 1	Opening Journaling	Closing Journaling
9	Good Health and Well-being 2	Opening Journaling	Closing Journaling
10	Good Health and Well-being 3	Opening Journaling	Closing Journaling
11	Quality Education 1	Opening Journaling	Closing Journaling
12	Quality Education 2	Opening Journaling	Closing Journaling
13	Quality Education 3	Opening Journaling	Closing Journaling
14	Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling
15	Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022206 研究演習Ⅰ　田中ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

2023年度の本演習は、複式簿記の理論的に研究しつつ、日商3級レベルの処理を習得することを目的とする。テキストを熟読し、理解し、さらに自らの言葉で、的確に問題の要請する解答を書くことのできる能力を必要とする。そのことは同時に、「社会人基礎力」を養成することにもつながっていく。

本演習に参加するゼミナリステンは、それぞれの段階の「試験合格」という目標を持った学修を進めていく。さらに、財務諸表を作成する力、読み込む力も身につけることが可能となる。これは、自らの「就職力」を高めていくことにつながっていくと確信する。

将来職業イメージとしては、職業会計人(税理士、国税専門官など)や一般企業の財務・経理担当者、営業職、自治体の財政課職員などである。

授業概要(教育目的)

【年次計画】

＜2年次＞第一に、日本商工会議所簿記検定3級に合格することを目標として、要点の説明を行い、練習問題に取り組む。答え合わせも含めた解説を行い、合格の実力を養成する。第二に、3級に合格した後は2級に挑戦する実力を身に付ける努力をする。

＜3年次＞引き続き資格取得を目標として、理論的関心及び簿記論挑戦の基礎学力を養う。そのため日商2級に合格する実力を養う。平行して、就職活動準備及び実践に取り組む。

＜4年次＞税理士試験(簿記論)受験の基礎学力習得ため、引き続き日商2級合格を目指す。就職活動も引き続き行う。さらに、卒業論文に取り組み、完成させ、発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

全ての年次において、出席し、まじめに練習問題に取り組むこと、積極的に発表することが評価の基本である。

課題に対するフィードバック

練習問題逐行ごとに解答を行う。

参考文献

講義時使用テキスト

TAC税理士講座編『みんなが欲しかった税理士簿記論の教科書&問題集　損益会計編　【2026年版】』TAC出版

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】

自ら決めた目標に挑戦し、それをやり遂げていく実力を身につけるため、堪えざる努力をして欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1回　簿記の手順/簿記の基礎	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
2	第2回　商品売買	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
3	第3回　現金/預金(当座預金等)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
4	第4回　小口現金/手形と電子記録債権(債務)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
5	第5回　貸付金・借入金・手形貸付金・手形借入金	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
6	第6回　その他の債権債務	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
7	第7回　その他の費用	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
8	第8回　貸倒れと貸倒引当金	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
9	第9回　有形固定資産と減価償却	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
10	第10回　法人税等と消費税	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
11	第11回　費用収益の前払い・前受けと未収・未払い	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
12	第12回　帳簿への記入/試算表	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
13	第13回　伝票と仕訳日計表、証憑	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
14	第14回　精算表と財務諸表1	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
15	第15回　精算表と財務諸表2	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。

講義名	2020022209 研究演習Ⅰ　村本ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

デジタルコンテンツに関する実践的な知識を修得し、ビジネスへの活用ができる。

授業概要(教育目的)

近年、クラウドコンピューティングにより、自前で情報システムを整備することなくシステム開発、コンテンツ配信ができるようになった。また、オープンデータを活用し、様々なデータを可視化して地域分析を行うことも可能となった。これらの仕組みをビジネスに有効活用しようとする取り組みも増えている。

本ゼミでは、デジタルコンテンツの作成・編集技術やそれらを配信する仕組みについて調査・研究し、地域での活用を目的としたシステム開発やデジタルコンテンツの制作を行いながら、実践的な知識の習得とビジネスへのIT活用能力を培う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

・レポート作成、プレゼンテーション、資格試験への取り組みを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

WebClassにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。WebClassに授業資料を掲載する。

資格との関連

学生へのメッセージ

・ゼミではノートPC(Windows,Macどちらでも可)を使用するので各自準備すること。
・情報処理技術者試験（2年生でITパスポート、3年生で基本情報技術者）合格を目標として勉強すること。
・情報領域の科目を履修すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究演習で 使うソフトウェア等の 利用説明	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
2	ハードウェア実習①(グループワーク:PCの 分解)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
3	ハードウェア実習②(PC構成部品)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
4	ハードウェア実習③(グループワーク:PC組み 立て)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
5	プレゼンテーション:PC構成図作成・発表	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
6	ソフトウェア実習①(グループワーク:OSインストール)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
7	ソフトウェア実習②(グループワーク:周辺装置の 環境設定)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
8	ネットワーク実習①(グループワーク:クライアントPCネットワーク設定)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
9	ネットワーク実習②(グループワーク:サーバPCの ネットワーク設定)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
10	ネットワーク実習③(グループワーク:キャンパスLANの 調査)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
11	プレゼンテーション:キャンパスのPC利用環境	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
12	動画作成実習①(企画・撮影)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
13	動画作成実習②(素材取り込み)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
14	動画作成実習③(ビデオ 編集・出力)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
15	プレゼンテーション(ビデオ 制作作品発表)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。

講義名	2020022212 研究演習Ⅰ　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

2年次「研究演習」(春学期)の到達目標は、以下の6点である。
①基本的なマクロ経済指標(GDP及び消費者物価指数)の意味、考え方、見方を身につける。
②地域社会、我が国、世界の現状を、過去から現在にかけての動きも踏まえ、その概要をおおよそ理解する。
③私たちが住む地域で、我が国全体で、あるいは世界中で問題になっていることがらの中から、各自が興味をもつ問題(テーマ)を見つける。(問題(テーマ)を見つける際、多少なりとも、2年後に取り組む卒業論文を念頭におく。)
④各自が見つけた問題(選んだテーマ)につき、1年次のゼミ(「基礎演習」及び「プレゼンテーション」)で学んだ情報検索方法をもとに、掘り下げ、調べる。
⑤調べた内容を、1年次のゼミ(「基礎演習」及び「プレゼンテーション」)で学んだ数々の方法(レポート作成方法、レジュメ作成方法)をもとに、レジュメにまとめる。
⑥まとめた内容を、1年次のゼミ(「基礎演習」及び「プレゼンテーション」)で学んだ方法(プレゼンの方法)をもとに発表していただき、皆で討論(意見交換)する。

授業概要(教育目的)

経済の動きを理解し、テーマを見つけ、調べる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レジュメの作成、発表、その他の課題等々、ふだんのゼミにおける取組状況を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミの中での各自の発表に対し、また、発表する際に、各自が作成し、使用したレジュメに対し、ゼミの中で、随時、講評し、アドバイスを贈る。

参考文献

ゼミの中で随時、紹介する。

講義時使用テキスト

以下の2点を、章ごとに作成、配布し、教材として用いる。
①担当教員作成のテキスト(「研究演習」要綱)
②上記①に付随する統計資料(「研究演習」要綱別表・別図)
上記2点については、USBで配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

奈良ゼミでは、データを分析、レジュメの作成等を円滑に行うため、ゼミにノートパソコンを持参し、利用していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「研究演習」の進め方。	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	私たちが住む地域、我が国及び世界経済が抱える問題(その概要)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	私たちが住む地域、我が国及び世界経済が抱える問題(その概要)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	GDPと消費者物価指数(その考え方と見方)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	GDPと消費者物価指数(その考え方と見方)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	発表と意見交換(討論)に向けて(「テーマの概要」の作成方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	我が国の経済の歩みと現状(地域及び世界との関わりの中で)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	我が国の経済の歩みと現状(地域及び世界との関わりの中で)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	発表と意見交換(討論)に向けて(レジュメの作成方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	各自テーマ確定、「テーマの概要」の作成・入力。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	情報検索と整理・集約方法。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	収集した資料の整理・集約及び発表用レジュメの作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	収集した資料の整理・集約及び発表用レジュメの作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	収集した資料の整理・集約及び発表用レジュメの作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	各自自由テーマで発表及び意見交換。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・発表に対し、ゼミで得たアドバイスを振り返る。

講義名	2020022213 研究演習Ⅰ　坂本ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

ICT活用方法について理解し、「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できる。
ICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用ができる。

授業概要(教育目的)

コンピュータは「電子計算機」と呼ばれていたように、計算の道具として開発されましたが、今では、表現やコミュニケーションの道具として、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるようになりました。さらにインターネットの普及拡大に伴い、情報通信技術(Information Communication Technology:ICT)の活用は、クラウドコンピューティングやユビキタスネットワークを中心とする新たな時代になっています。
社会人となる学生にとっては、ICT活用方法について理解し、基礎的能力を身につけておく必要があります。どんな仕事にも難題があるように、近年の社会では「問題解決能力」が求められ、ICTの利活用についても「作る技術」よりも、「使う技術」が求められるようになって来ています。「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できることが重要な力だと思います。それには、情報や情報技術の知識だけでなく、課題を見つけ出し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら、答えに近づいていく、という力が必要です。
本ゼミでは、社会人として身につけるべきICTの知識やICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用方法を中心に考察します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題への取り組み態度・達成度を総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

講義時使用テキスト

使用テキストなし。

資格との関連

「ITパスポート」

学生へのメッセージ

インターネット利用可能なノートパソコンを利用しますので準備してください。
社会のあらゆる分野に興味を持つことと、自身が設定したテーマについては情報の収集、整理、分析等に積極的に取り組む姿勢が必要です。
情報通信技術(ICT)を理解し、活用できる基礎的能力を身につけ、未来をともに切り開いていきましょう。
無断欠席不可。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	電子メールの確認と準備	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	電子メールの基本ルールとマナー	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	電子メールをグループで使う	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	電子メールでファイルを使う	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	インターネットの情報検索	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	公開情報・データ検索と活用	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	グループウェア活用	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ビジネスメール①(to:1対1)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	ビジネスメール②(cc:1対n)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	ビジネスメール③(Bcc:1対n)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	情報管理の基礎(1次情報と2次情報)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	情報表現(文章表現)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	語彙を増やす	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	慣用句・ことわざ	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	文章を書く	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022216 研究演習Ⅰ　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

・会計学に関する研究を通じて、社会人に必要な情報の収集方法、資料の作成方法およびプレゼンテーション能力を習得する。
・簿記に関して正確かつ迅速な会計処理ができるよう、日商簿記検定試験2級程度の知識を習得する。

授業概要(教育目的)

会計とは、個別経済主体(会社など)における金銭およびその他の財産の変動に係る結果を記録・測定し、それらを利害関係者(株主や債権者など)に報告することである。また、会計は、財産の管理、受託責任の明確化、有用な会計情報の提供などの重要な役割を果たしている。
そこで本演習では、こうした会計(財務会計)の理論的側面(基本的から応用的まで)、ならびに計算的側面の知識を習得することを目的としている。また、会計学の基本書をもとに基礎理論を学ぶとともに、簿記に代表される計算技術の能力向上を図る。また、レジュメの作成・報告を通してプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を身に付ける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミへの貢献度、課題の提出状況、発表内容などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3 Ver.15.0』TAC出版
TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版
TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.10.0』TAC出版

講義時使用テキスト

適宜、指示する。

資格との関連

日商簿記検定試験3級
日商簿記検定試験2級

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
・本演習は、出席が大前提であり、無断欠席・遅刻は厳禁である。
・検定試験の取得に真剣に取り組むことのできる学生、ならびに会計学を学ぶ意欲の高い学生を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	取引と勘定	参考文献に目を通す。	参考文献の関連箇所を読む。
2	仕訳と転記①(仕訳帳)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
3	仕訳と転記②(総勘定元帳)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
4	試算表①(役割と種類)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
5	試算表②(検証とその限界)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
6	決算手続①(損益勘定への振替)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
7	決算手続②(帳簿の締め切り)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
8	決算手続③(繰越試算表の作成)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
9	決算手続④(損益計算書と貸借対照表の作成)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
10	決算手続⑤(精算表の作成)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
11	現金・預金	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
12	商品売買①(分記法と三分法)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
13	商品売買②(商品有高帳)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
14	手形	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
15	有価証券・固定資産	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022218 研究演習Ⅰ　髙須ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

① 憲法という法を通して、社会生活のルールの意義を説明することができる。
② 基本的人権の各制度を説明することができる。
③ 統治機構の各制度を説明することができる。

授業概要(教育目的)

本研究演習は、基本書、判例などを読み解くことで、具体的事件を解決するための妥当な結論がどのように導き出されているかを理解することによって、法的思考を養成する。そして、最終的には資格試験、公務員試験などの法的問題にも対応できる能力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験、小テストなどを総合して評価する。

課題に対するフィードバック

小テスト等は採点のうえ返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

無し

資格との関連

公務員、行政書士等の基礎的知識

学生へのメッセージ

原則として、必ず出席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	憲法と立憲主義	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
2	国民主権の原理	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
3	平和主義の原理	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
4	基本的人権の原理	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
5	基本的人権の限界	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
6	包括的基本権と法の下の平等	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
7	精神的自由権(1):内心の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
8	精神的自由権(2):表現の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
9	経済的自由権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
10	人身の自由	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
11	国務請求権と参政権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
12	社会権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
13	国会	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
14	内閣	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
15	裁判所	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022222 研究演習Ⅰ　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

農業・食料問題を中心に農業分野の理解度を高め、日本農業の問題・課題に対し考える力を身に付ける。

授業概要(教育目的)

今日の食料、価格・所得、構造、農協、都市と農村の問題について分析し、考察するために、まずは農業とは何か、農業・食料問題とは何かについて概観し、戦後の農業問題、次いで農業・食料問題を歴史的に追及する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題・レジュメの作成内容、授業中の発言等、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜、プリント等の資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1、農業とは何か	シラバスを確認する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	2、畑作農業と水田農業	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	3、農業と環境	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	4、資本主義の農業問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	5、農民問題と農業政策の登場	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	6、第2次世界大戦後	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	7、戦前期の農業問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	8、戦後改革期の農業問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	9、経済復興期の農業政策	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	10、第1次高度経済成長と基本法農政	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	11、第2次高度経済成長と総合農政	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	12、高度経済成長がもたらしたもの	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	13、低成長への移行	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	14、低成長期の地域農政	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	15、日米貿易摩擦の時代	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	2020022232 研究演習Ⅰ　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

主として青森県内におけるフィールドワークを通して、県内各地域を理解する。
フィールドワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーション能力を習得する。
卒業論文作成のために研究テーマの探索・決定する。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、論文等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点やコメントした上で返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

机上の学問だけではなく、地域全体を学びのフィールドとすることが大切だと考えています。講義時間以外で学外でのフィールドワークを行うこともあります。社会に出てから体験することは非常に難しく、学生だからこそ体験できる貴重な学びの機会です。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	フィールドワークについて	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
2	フィルードワーク先の 地域研究【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	フィールドワーク先の 地域研究【階上町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	フィールドワーク先の 地域研究【東京】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	フィールドワーク先の 地域研究【希望地】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	農作業の形式化、マニュアル化①基礎理解	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	農作業の形式化、マニュアル化②企画	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	農作業の形式化・マニュアル化③記録	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	農作業の形式化・マニュアル化④撮影	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	農作業の形式化・マニュアル化⑤編集	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	農作業の形式化・マニュアル化⑥まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	農作業の形式化・マニュアル化⑦報告	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	地域経営課題の掘り起こしについて	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	地域経営課題解決のための方策検討について	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	フィールドワークの総まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022234 研究演習Ⅰ　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①21世紀の国際社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②地球的諸問題およびその構造的要因について理解し、説明できるようになる。
③必要なコミュニケーション・スキルを身につけ、国際社会で活躍できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、世界のさまざまな出来事から影響を受けるだけではなく、地球的諸問題の解決に貢献することも可能である。国際社会の課題に取り組んでいくためには、それに関する基本的な知識が不可欠となる。本演習では、この点を踏まえ、ワークショップやディスカッションをとおして、私たちが生きる時代の国際関係の特徴に関する知識を修得していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表やレポートの内容、ワークショップでの取り組みなどを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

グループワークや発表に対してコメントするとともに、学生自身で地球的諸問題の解決策を考えていくために必要なヒントを与える。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミナール(研究演習)は、大学生活のなかで最も重要な活動の1つであり、学生を主体として進めていく。そのため、積極的な参加と自主的に研究を進めていくことが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	アイス・ブレーキングとアジェンダの共有	関心のある地球的諸問題について確認しておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	スマートフォンから21世紀の世界の特徴を学ぶ①	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
3	スマートフォンから21世紀の世界の特徴を学ぶ②	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
4	スマートフォンから21世紀の世界の特徴を学ぶ③	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
5	スマートフォンから21世紀の世界の特徴を学ぶ④	これまで実施したワークショップから得られた知識や経験を整理しておく。	これまでのワークショップを通して理解した諸課題の解決策を考える。
6	パーム油をとおして21世紀の世界的課題を考える①	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
7	パーム油をとおして21世紀の世界的課題を考える②	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
8	パーム油をとおして21世紀の世界的課題を考える③	これまでに実施したワークショップから得られた知識や経験を整理しておく。	これまでのワークショップを通して理解した諸課題の解決策を考える。
9	途上国の発展を阻む構造的要因を理解する①	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
10	途上国の発展を阻む構造的要因を理解する②	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
11	途上国の発展を阻む構造的要因を理解する③	ワークショップに向けて準備する。	授業の内容を踏まえ、課題を整理する。
12	途上国の発展を阻む構造的要因を理解する④	これまでに実施したワークショップから得られた知識や経験を整理しておく。	これまでのワークショップを通して理解した諸課題の解決策を考える。
13	豊かさと開発について考える①	これまでに実施したワークショップから得られた知識や経験を整理しておく。	ディスカッションの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
14	豊かさと開発について考える②	これまでに実施したワークショップから得られた知識や経験を整理しておく。	ディスカッションの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
15	豊かさと開発について考える③	これまでに実施したワークショップから得られた知識や経験を整理しておく。	ディスカッションの内容を振り返り、地球的諸課題の解決に向けて自らに何ができるのか考えておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022235 研究演習Ⅰ　アンソニーゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

The objective of this research seminar is to improve students' practical English skills, develop learner autonomy, and provide a deeper understanding of foreign cultures, while considering Japan's position through a global perspective in order to prepare and empower students for their lives in a rapidly globalizing Japan.

授業概要(教育目的)

As contending with the English language online, in technology, and with international media can be some of the most immediate and relevant challenges for many Japanese adults, this research seminar aims to employ various technologies and online resources as tools to improve students' English ability, develop learner autonomy, and foster greater international awareness. This seminar requires students to join both an intensive English language study program as well as participate in the Aomori Global Academy in order to enhance communication ability and "glocalization" knowhow. Additionally, this seminar will examine the Sustainable Development Goals (SDG's) as established by the United Nations as well as considering Japan's and other nations' responsibilities and efforts towards realizing these goals. Even without future goals of studying or working overseas, this seminar's approach will enable students to become more capable and confident global citizens within Japan.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域の産業構造や地場産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年次計画通り、ゼミ活動の積極的な参加・テスト・宿題・タスク等の実施、英語でのやり取に懸命に取り組むこと。

ゼミ時間中・課題。宿題などでは、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価する。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
English Centralオンライン教材で各自の評価・工程等は確認できます。

参考文献

講義時使用テキスト

①「Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる:英語でSDGs実践入門)」NAN'UN-DO (ISBN: 9784523179313)

②「English Central」オンライン教材(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)＊春学期の「研究演習Ⅰ」と秋学期の「研究演習Ⅱ」両方登録学生は1年間の予約購読になる。

＊アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

①英語検定試験TOEIC(年2回受験)
②CNE1・CLASSMATE英語学習コースの参加・修了書(オンラインもしくは海外)(2年次)
③Aomori Global Academyの参加・修了書(3年次)

学生へのメッセージ

このゼミは基本英語で行う。ゼミの活動・内容・情報共有等の理解・動力するのはゼミ学生一人一人の必要条件。ゼミ学生も基本英語でのコミュニケーションが必要条件。

〈2年次〉〈3年次〉〈4年次〉
①メディアを通じて英語学習・異文化理解(ゼミ活動・プロジェクト等)
②英語検定試験(学内TOEIC等)を年2回受ける
③2年次の間、4週間以上フィリピンのCNE1学校・CLASSMATE等の集中英語学習コースを受講・完了
④3年次の間、青森県の「Aomori Global Academy」を受講・完了(年内週末x3回)
⑤4年次の間、英語で研究発表(プレゼンテーション)を実施

実務との関連

日本でのグローバル向け職業、日本で外国人の対応・英語に関わる職業(日本でのグローバル向け・日本で外国人の対応・英語力(英語検定試験資格も含む))。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Planning with Online Technologies and Systems Explanation A: Conversation Activity B: Discussion C: Write Journal	シラバスを読むこと	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	CALL - Computer Assisted Language Learning ① A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	SDGs - Global Perspectives ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	SDGs - Global Perspectives ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Current News and Media ① A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	CALL - Computer Assisted Language Learning ② A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	SDGs - Climate Change ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	SDGs - Climate Change ② A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Current News and Media ② A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	CALL - Computer Assisted Language Learning ③ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	SDGs - Water ① A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	SDGs - Water ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Current News and Media ③ A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	CALL - Computer Assisted Language Learning ④ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Content Assessment and Planning A: Conversation Activity B: Discussion C: Feedback	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022237 研究演習Ⅰ　木村浩哉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

八戸圏域におけるスポーツの活性化について課題を総合的に認識し、解決に向けた分析、解決能力を身につける.

授業概要(教育目的)

将来地域スポーツの牽引車になるために、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から、基礎的な能力や社会性を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

八戸市スポーツ推進計画(平成31年3月、八戸市

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	八戸市内体育施設見学 ＹＳアリーナ、スポーツ研修センター	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	種差海岸(芝生、葦毛崎)散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	人見絹枝選手(我が国女性初の五輪メダリストの墓見学	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	八戸市内体育施設、種差海岸、人見絹枝選手の墓についてスポーツリソースとして価値について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	蕪島散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	蕪島についてのレポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	種差海岸とスポーツとの関連についてレポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	種差海岸とスポーツとの関連について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	種差海岸(芝生地)スタンプラリー作戦、スタンプカード作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	種差海岸(釜の口)散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	階上岳散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	種差海岸(釜の口)、階上岳とスポーツの関連について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	種差海岸(釜の口)の観光客接遇練習	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者対応	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者対応 についての発表1	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020022238 研究演習Ⅰ　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022239 研究演習Ⅰ　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

①自文化と他文化の文化的規範の相違を認識し、その背景を考えることによって、異なる文化を持つ人々を尊重しつつ、自文化の価値を評価し、伝える基礎的な力を育成する。
②多文化共生社会において様々な文化的背景を持つ人々と協働できる能力と意識を養う。

授業概要(教育目的)

多文化共生社会を目指す日本にとって、在留外国人との「異文化の壁」、「言葉の壁」を超えることが大きな課題となる。異文化間の誤解や、偏見などによって生じるトラブルを減らすため、異文化への理解を深め、多角的な視点で事象を捉える必要がある。本演習はケーススタディやディスカッションなどを通して、異文化コミュニケーションの諸問題と解決策を能動的に考える力の向上につながる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(石井敏・久米昭元・長谷川典子・石黒武人)(有斐閣選書)

資格との関連

学生へのメッセージ

①国際理解や異文化に興味・関心がある。
②学習に積極的な態度を持っている。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	自己とアイデンティティ①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	自己とアイデンティティ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	映画に見る異文化コミュニケーション① ((学生がワンシーンを用意し、発表する))	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	異文化コミュニケーションの障壁①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	異文化コミュニケーションの障壁②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	映画に見る異文化コミュニケーション② (学生がワンシーンを用意し、発表する)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	文化について①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	文化について②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	深層文化の探求①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	深層文化の探求②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	身近な多文化環境の探求(フィールドワーク)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	身近な多文化環境について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	言語コミュニケーション①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	言語コミュニケーション②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022240 研究演習Ⅰ　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

①情報化社会を生き抜く上で必要な法的素養を身につける
②商取引を行う際の法律関係を身につけることによって地域社会とその経済活動を理解する。

授業概要(教育目的)

現在は、インターネットといった情報技術が私たちの生活に必要不可欠な存在となっています。しかし、これらの技術は私たちの生活の中で重要な機能を果たしているのにも関わらず、今なお多くの法律上の課題が残されているのが現状です。研究演習では、このような情報化社会に潜む法的な問題を洗い出し、それらに対してどのように対処していくべきかを検討します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・自己紹介	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	インターネット検索 意見交換
2	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
3	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
4	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
5	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
6	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
7	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
8	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
9	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
10	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
11	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
12	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
13	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
14	情報関連法規の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
15	判例の読み方	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022241 研究演習Ⅰ　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

①情報化社会を生き抜く上で必要な法的素養を身につける
②商取引を行う際の法律関係を身につけることによって地域社会とその経済活動を理解する。

授業概要(教育目的)

現在は、インターネットといった情報技術が私たちの生活に必要不可欠な存在となっています。しかし、これらの技術は私たちの生活の中で重要な機能を果たしているのにも関わらず、今なお多くの法律上の課題が残されているのが現状です。研究演習では、このような情報化社会に潜む法的な問題を洗い出し、それらに対してどのように対処していくべきかを検討します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・自己紹介	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	インターネット検索 意見交換
2	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
3	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
4	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
5	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
6	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
7	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
8	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
9	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
10	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
11	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
12	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
13	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
14	情報関連法規の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
15	判例の読み方	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020022242 研究演習Ⅰ　種市ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

①情報化社会を生き抜く上で必要な法的素養を身につける
②商取引を行う際の法律関係を身につけることによって地域社会とその経済活動を理解する。

授業概要(教育目的)

現在は、インターネットといった情報技術が私たちの生活に必要不可欠な存在となっています。しかし、これらの技術は私たちの生活の中で重要な機能を果たしているのにも関わらず、今なお多くの法律上の課題が残されているのが現状です。研究演習では、このような情報化社会に潜む法的な問題を洗い出し、それらに対してどのように対処していくべきかを検討します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・自己紹介	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	インターネット検索 意見交換
2	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
3	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
4	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
5	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
6	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
7	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
8	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
9	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
10	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
11	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
12	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
13	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
14	情報関連法規の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
15	判例の読み方	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換

講義名	2020023203 研究演習Ⅱ　バリーゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

This seminar class aims to allow students opportunities for intercultural understanding and engagement, environmental critical thinking as well as English language improvement. Study, projects and fieldwork based on Cultural and Environmental Issues will help students achieve these goals. This class also supports the students' English language and communication skills through individual and group coursework projects. Through these methods, students should gain skills to function in an international and/or English-speaking environment.

授業概要(教育目的)

This class aims to allow students the opportunity for efficient English improvement through the four skills of language learning related to inter-cultural insights as well as the current environmental crisis. This will improve both speed and efficiency in learning while supporting a healthy future for the society at large. This class will also support the students' language skills and help motivate them by offering a lasting record of their efforts in the community long after they have graduated. Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic skills necessary to function in an English-speaking environment.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年間を通じて、ゼミ活動での発揮度や協力度、英語での進歩や動力；個人のディスカッション容、英語でのプレゼンテーションを発表するなどにより総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックは、1対1のディスカッション、クラスワークや宿題の結果のフィードバック、小テストの結果のフィードバックなど、コースを通してさまざまな方法で行われる。

参考文献

講義時使用テキスト

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

学生へのメッセージ

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Affordable and Clean Energy	Class Explanation	Introductions Task
2	Affordable and Clean Energy	Opening Journaling	Closing Journaling
3	Decent Work and Economic Growth	Opening Journaling	Closing Journaling
4	Decent Work and Economic Growth	Opening Journaling	Closing Journaling
5	Industry, Innovation, and Infrastructure	Opening Journaling	Closing Journaling
6	Industry, Innovation, and Infrastructure	Opening Journaling	Closing Journaling
7	Reduced Inequalities	Opening Journaling	Closing Journaling
8	Reduced Inequalities	Opening Journaling	Closing Journaling
9	Sustainable Cities and Communities	Opening Journaling	Closing Journaling
10	Sustainable Cities and Communities	Opening Journaling	Closing Journaling
11	Responsible Consumption and Production	Opening Journaling	Closing Journaling
12	Responsible Consumption and Production	Opening Journaling	Closing Journaling
13	Climate Action	Opening Journaling	Closing Journaling
14	Oral Presentation Preparation	Opening Journaling	Closing Journaling
15	Oral Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023206 研究演習Ⅱ　田中ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

2022年度の本演習は、複式簿記の理論的研究を深めつつ、難度が高いといわれる「税理士受験」に向けての準備を行うことを目的とする。テキスト(あるいは参考書)を熟読し、理解し、さらに自らの言葉で、的確に問題の要請する解答を書くことのできる能力を必要とする。そのことは同時に、「社会人基礎力」を養成することにもつながっていく。

本演習に参加するゼミナリステンは、それぞれの段階の「試験合格」という目標を持った学修を進めていく。さらに、財務諸表を作成する力、読み込む力も身につけることが可能となる。これは、自らの「就職力」を高めていくことにつながっていくと確信する。

本演習は主に、経営コース所属の学生を対象とする。将来職業イメージとしては、職業会計人(税理士、国税専門官など)や一般企業の財務・経理担当者、営業職、自治体の財政課職員などである。

授業概要(教育目的)

【年次計画】

＜2年次＞第一に、日本商工会議所簿記検定3級に合格することを目標として、要点の説明を行い、練習問題に取り組む。答え合わせも含めた解説を行い、合格の実力を養成する。第二に、3級に合格した後は2級に挑戦する実力を身に付ける努力をする。

＜3年次＞引き続き資格取得を目標として、理論的関心及び簿記論挑戦の基礎学力を養う。そのため日商2級に合格する実力を養う。平行して、就職活動準備及び実践に取り組む。

＜4年次＞税理士試験(簿記論)受験の基礎学力習得ため、引き続き日商2級合格を目指す。就職活動も引き続き行う。さらに、卒業論文に取り組み、完成させ、発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

全ての年次において、出席し、まじめに練習問題に取り組むこと、積極的に発表することが評価の基本である。

課題に対するフィードバック

練習問題を行うごとに解答する。

参考文献

講義時使用テキスト

滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記3級　2025年版』TAC出版

資格との関連

日商簿記3級

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】

自ら決めた目標に挑戦し、それをやり遂げていく実力を身につけるため、堪えざる努力をして欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1回　練習問題1	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
2	第2回　練習問題2	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
3	第3回　練習問題3	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
4	第4回　練習問題4	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
5	第5回　練習問題5	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
6	第6回　練習問題6	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
7	第7回　練習問題7	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
8	第8回　練習問題8	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
9	第9回　練習問題9	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
10	第10回　練習問題10	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
11	第11回　練習問題11	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
12	第12回　練習問題12	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
13	第13回　練習問題13	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
14	第14回　練習問題14	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
15	第15回　練習問題15	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023209 研究演習Ⅱ　村本ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

デジタルコンテンツに関する実践的な知識を修得し、ビジネスへの活用ができる。

授業概要(教育目的)

近年、クラウドコンピューティングにより、自前で情報システムを整備することなくシステム開発、コンテンツ配信ができるようになった。また、オープンデータを活用し、様々なデータを可視化して地域分析を行うことも可能となった。これらの仕組みをビジネスに有効活用しようとする取り組みも増えている。

本ゼミでは、デジタルコンテンツの作成・編集技術やそれらを配信する仕組みについて調査・研究し、地域での活用を目的としたシステム開発やデジタルコンテンツの制作を行いながら、実践的な知識の習得とビジネスへのIT活用能力を培う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

活動調査に関するレポート作成・プレゼンテーション、資格試験への取り組みを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

WebClassにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。WebClassに授業資料を掲載する。

資格との関連

学生へのメッセージ

・ゼミではノートPC(Windows,Macどちらでも可)を使用するので各自準備すること。
・情報処理技術者試験(2年生でITパスポート、3年生で基本情報技術者)合格を目標として勉強すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究演習用グループウェアの活用説明	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
2	Pythonの基本①(実行環境の構築)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
3	プログラミング入門①(整数を使った計算)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
4	プログラミング入門②(変数の使い方)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
5	プログラミング入門③(文字列)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
6	プログラミング入門④(演算子)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
7	制御構文①(if文)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
8	制御構文②(for文/while文)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
9	関数(関数の書き方)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
10	データ構造①(リスト)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
11	データ構造②(タプル)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
12	データ構造③(辞書)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
13	クラス①(クラスの基本)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
14	クラス②(クラス変数とインスタンス変数)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。
15	標準ライブラリ(モジュールの利用)	・WebClassにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された場合は、期限までに提出すること。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023212 研究演習Ⅱ　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

2年次「研究演習」(秋学期)の到達目標は、以下の5点である。
⑦データ分析の基本を、各自パソコンを使用しつつ実践し、理解していただく。あつかう内容は、1変数データの分析方法(Excelを用いたデータの集約方法、グラフの作成方法、平均、分散の求め方等)、2変数データの分析方法(Excelを用いたクロス集計表の作成等)である。
⑧基本的なマクロ経済指標(GDP及び消費者物価指数)以外のマクロ経済データ(完全失業率等労働市場に関する指標,日経平均株価等)の、過去から現在にかけての推移を把握し、分析し、考察する。また、インターネットを利用し、マクロ経済データを入手する方法についても学んでいただく。
⑨上記⑧に関連し、各自任意のマクロ経済データを(インターネット等を通じて)入手し、グラフ等にまとめ、考察し、ゼミで発表していただく。
⑩ミクロ経済データ(株価、財務指標等、個々の企業の経営に関連する指標)を把握し、分析し、考察する。また、インターネットを利用し、ミクロ経済データを入手する方法についても学んでいただく。
⑪上記⑩に関連し、各自任意の企業に関するミクロデータを(インターネット等を通じて)入手し、経営の状態を比較することが可能な表等にまとめ、ゼミで発表していただく。

授業概要(教育目的)

経済データの見方、基本的な分析方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レジュメの作成、発表、その他の課題等々、ふだんのゼミにおける取組状況を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミの中での各自の発表に対し、また、発表する際に、各自が作成し、使用したレジュメに対し、ゼミの中で、随時、講評し、アドバイスを贈る。

参考文献

ゼミの中で随時、紹介する。

講義時使用テキスト

以下の2点を、章ごとに作成、配布し、教材として用いる。
①担当教員作成のテキスト(「研究演習」要綱)
②上記①に付随する統計資料(「研究演習」要綱別表・別図)
上記2点については、USBで配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

奈良ゼミでは、データを分析、レジュメの作成等を円滑に行うため、ゼミにノートパソコンを持参し、利用していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	秋学期2年次ゼミ(「研究演習Ⅱ」)の進め方。	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	データ分析の基本(1変数データ及び2変数データの分析方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	データ分析の基本(1変数データ及び2変数データの分析方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	データ分析の基本(1変数データ及び2変数データの分析方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	データ分析の基本(1変数データ及び2変数データの分析方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	データ分析の基本(1変数データ及び2変数データの分析方法)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	マクロ経済データ(労働に関するデータ)の考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	マクロ経済データ(労働に関するデータ)の考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	マクロ経済データ(ストックに関するデータ)の考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	マクロ経済データ(ストックに関するデータ)の考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	マクロ経済データ(その他)の考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	マクロ経済データの考察(各自発表)。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	株価指標に関わるミクロ経済データの考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	株価指標に関わるミクロ経済データの考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	株価指標に関わるミクロ経済データの考察(各自発表)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・発表に備え、レジュメを確認する。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・発表に対し、ゼミで得たアドバイスを振り返る。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023213 研究演習Ⅱ　坂本ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

ICT活用方法について理解し、「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できる。
ICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用ができる。

授業概要(教育目的)

コンピュータは「電子計算機」と呼ばれていたように、計算の道具として開発されましたが、今では、表現やコミュニケーションの道具として、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるようになりました。さらにインターネットの普及拡大に伴い、情報通信技術(Information Communication Technology:ICT)の活用は、クラウドコンピューティングやユビキタスネットワークを中心とする新たな時代になっています。
社会人となる学生にとっては、ICT活用方法について理解し、基礎的能力を身につけておく必要があります。どんな仕事にも難題があるように、近年の社会では「問題解決能力」が求められ、ICTの利活用についても「作る技術」よりも、「使う技術」が求められるようになって来ています。「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できることが重要な力だと思います。それには、情報や情報技術の知識だけでなく、課題を見つけ出し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら、答えに近づいていく、という力が必要です。
本ゼミでは、社会人として身につけるべきICTの知識やICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用方法を中心に考察します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題への取り組み態度・達成度を総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

講義時使用テキスト

使用テキストなし。

資格との関連

「ITパスポート」

学生へのメッセージ

インターネット利用可能なノートパソコンを利用しますので準備してください。
社会のあらゆる分野に興味を持つことと、自身が設定したテーマについては情報の収集、整理、分析等に積極的に取り組む姿勢が必要です。
情報通信技術(ICT)を理解し、活用できる基礎的能力を身につけ、未来をともに切り開いていきましょう。
無断欠席不可。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	色彩・図解表現	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	色とは	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	色と錯覚	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	色の心理的効果	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	文章と色彩	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	図解とグラフ	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	表	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	図解	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	グラフ	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	仮説と検証	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	現状分析	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	分析目的	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	要素の洗い出し	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	要素の関係	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	原因分析	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023216 研究演習Ⅱ　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

・会計学に関する研究を通じて、社会人に必要な情報の収集方法、資料の作成方法およびプレゼンテーション能力を習得する。
・簿記に関して正確かつ迅速な会計処理ができるよう、日商簿記検定試験2級程度の知識を習得する。

授業概要(教育目的)

会計とは、個別経済主体(会社など)における金銭およびその他の財産の変動に係る結果を記録・測定し、それらを利害関係者(株主や債権者など)に報告することである。また、会計は、財産の管理、受託責任の明確化、有用な会計情報の提供などの重要な役割を果たしている。
そこで本演習では、こうした会計(財務会計)の理論的側面(基本的から応用的まで)、ならびに計算的側面の知識を習得することを目的としている。また、会計学の基本書をもとに基礎理論を学ぶとともに、簿記に代表される計算技術の能力向上を図る。また、レジュメの作成・報告を通してプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を身に付ける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミへの貢献度、課題の提出状況、発表内容などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3 Ver.15.0』TAC出版
TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級商業簿記 Ver.17.0』TAC出版
TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.10.0』TAC出版

講義時使用テキスト

資格との関連

日商簿記検定試験3級
日商簿記検定試験2級

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
・本演習は、出席が大前提であり、無断欠席・遅刻は厳禁である。
・検定試験の取得に真剣に取り組むことのできる学生、ならびに会計学を学ぶ意欲の高い学生を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	その他の債権・債務の記帳	参考文献に目を通す。	参考文献の関連箇所を読む。
2	その他の取引	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
3	問題演習	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
4	決算手続①(売上原価の計算)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
5	決算手続②(貸倒引当金の設定)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
6	決算手続③(固定資産と減価償却)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
7	決算手続④(費用・収益の繰延べ)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
8	決算整理⑤(費用・収益の見越し)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
9	決算整理⑥(その他の事項)	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
10	試算表	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
11	精算表	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
12	帳簿の締め切り	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
13	損益計算書と貸借対照表の作成	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
14	伝票	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。
15	問題演習	前回の授業の内容、論点を整理する。	参考文献の関連箇所を読む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023218 研究演習Ⅱ　髙須ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

① 民法総則の各制度を説明することができる。
② 物権法の各制度を説明することができる。

授業概要(教育目的)

本研究演習は、基本書、判例などを読み解くことで、具体的事件を解決するための妥当な結論がどのように導き出されているかを理解することで、法的思考を養成する。そして、最終的には資格試験、公務員試験などの法的問題にも対応できる能力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験、小テストなどを総合して評価する。

課題に対するフィードバック

小テスト等は採点のうえ返却する。

参考文献

授業中に、適宜、参考文献を指示する。

講義時使用テキスト

無し。授業中に資料を渡します。

資格との関連

ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引主任者、行政書士等の基礎的知識

学生へのメッセージ

原則として、必ず出席する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	民法を学ぶにあたって	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
2	自然人の権利能力と意思能力	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
3	自然人の行為能力:相手方の保護	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
4	法律行為・意思表示が不完全な場合(心裡留保・通謀虚偽表示)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
5	意思表示が不完全な場合(錯誤・詐欺・強迫) 無効・取消しの効果	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
6	代理制度(代理の意義・表見代理と無権代理)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
7	時効制度(取得時効)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
8	時効制度(消滅時効)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
9	物権と債権、物権的請求権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
10	物権変動と不動産の公示方法(登記制度)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
11	不動産の物権変動と対抗要件	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
12	動産の物権変動と即時取得	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
13	物権の種類(用益物権)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
14	物権の種類(担保物件):抵当権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
15	物権の種類(担保物件):質権その他	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023222 研究演習Ⅱ　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

農業・食料問題を中心に農業分野の理解度を高め、日本農業の問題・課題に対し考える力を身に付ける。

授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰを踏まえ、今日の食料、価格・所得、構造、農協、都市と農村の問題について分析し、考察する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題・レジュメの作成内容、授業中の発言等、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜、プリント等の資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1、グローバル化と農業・食料問題	シラバスを確認する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	2、農業基本法から新基本法	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	3、世界と日本の食糧問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	4、フードシステムとアグリビジネス	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	5、農産物価格の理論と政策	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	6、食管制度	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	7、日本の農家	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	8、農地流動化と集落営農	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	9、農業生産法人と企業の農業進出	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	10、協同組合とは何か	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	11、日本の農協の特徴	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	12、農協の組織と事業	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	13、高度成長と都市農業問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	14、グローバル化と中山間地域問題	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	15、都市・農村関係について	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023232 研究演習Ⅱ　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

フィールドワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーション能力の習得。
研究報告。ゼミ論文の作成。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、論文等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点、コメントの上返却します。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	フィールドワークについて	シラバスを確認する	配付資料を読み直す
2	昨年度のフィールドワークのふりかえり①【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	昨年度のフィールドワークのふりかえり②【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	労働力補完システム構築のための基礎調査①【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	労働力補完システム構築のための基礎調査②【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	労働力補完システム構築のための基礎調査③【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	労働力補完システム構築のための基礎調査④【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	農作業の形式化、マニュアル化①企画	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	農作業の形式化、マニュアル化②記録	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	農作業の形式化・マニュアル化③撮影	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	農作業の形式化・マニュアル化④編集・まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	農作業の形式化・マニュアル化⑤報告	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	地域経営課題の掘り起こしについて	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	地域経営課題解決のための方策検討について	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	フィールドワークの総まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023234 研究演習Ⅱ　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①地球的諸問題の現状、要因、ならびに解決に求められる取り組みについて理解し、説明できるようになる。
②地球的諸問題に解決に向けた取り組みが抱える問題点を理解し、その解決策を考えられるようになる。
③論理的思考力を身につけ、社会のさまざまな課題の解決に向けた取り組みに参画できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、世界のさまざまな出来事から影響を受けるだけではなく、地球的諸問題の解決に貢献することも可能である。国際社会の課題の解決に向けて取り組んでいくためには、これまでに行われてきた国際協力の展開や特徴、問題点について理解しておくことが求められる。本研究演習では、この点を踏まえ「持続可能な開発目標」(SDGs)を題材として、地球的諸問題の解決に向けた国際社会の動きを正確に理解するために必要な知識と視座を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表や報告の内容、ワークショップおよびディスカッションでの発言などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表の際にコメントするとともに、レポートに対してフィードバックを行う。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミナール(研究演習)は、大学生活のなかで最も重要な活動の1つであり、学生を主体として進めていく。そのため、積極的な参加と自主的に研究を進めていくことが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	SDGsの意義	SDGsについて調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	SDGsの17のゴールと169のターゲット①	SDGsについて調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	SDGsの17のゴールと169のターゲット②	SDGsについて調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	SDGsが登場したコンテクスト	国連ミレニアム開発目標(MDGs)について調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	SDGsの達成状況	各国のSDGsの達成状況を調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	SDGsの抱える課題①	SDGsに対する疑問を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	SDGsの抱える課題②	ディスカッションに向けた準備をしておく。	ディスカッションの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
8	ひとり歩きしはじめたSDGs	企業等が行っているSDGs関連の取り組みについて調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	Sustainable Developmentの真意①	「われら共通の未来」を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	Sustainable Developmentの真意②	ディスカッションに向けた準備をしておく。	ディスカッションの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
11	Development: 開発と発展①	"Development"という言葉の語源を調べておく。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	Development: 開発と発展②	ディスカッションに向けた準備をしておく。	ディスカッションの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
13	地球的諸問題の解決に向けて①	ワークショップに向けた準備をしておく。	ワークショップの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
14	地球的諸問題の解決に向けて②	ディスカッションに向けた準備をしておく。	ディスカッションの内容を振り返り、自らの考えを整理しておく。
15	地球的諸問題の解決に向けて③	ディスカッションに向けた準備をしておく。	自らの考える解決策についてレポートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023235 研究演習Ⅱ　アンソニーゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

The objective of this research seminar is to improve students' practical English skills, develop learner autonomy, and provide a deeper understanding of foreign cultures, while considering Japan's position through a global perspective in order to prepare and empower students for their lives in a rapidly globalizing Japan.

授業概要(教育目的)

As contending with the English language online, in technology, and with international media can be some of the most immediate and relevant challenges for many Japanese adults, this research seminar aims to employ various technologies and online resources as tools to improve students' English ability, develop learner autonomy, and foster greater international awareness. This seminar requires students to join both an intensive English language study program as well as participate in the Aomori Global Academy in order to enhance communication ability and "glocalization" knowhow. Additionally, this seminar will examine the Sustainable Development Goals (SDG's) as established by the United Nations as well as considering Japan's and other nations' responsibilities and efforts towards realizing these goals. Even without future goals of studying or working overseas, this seminar's approach will enable students to become more capable and confident global citizens within Japan.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域の産業構造や地場産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年次計画通り、ゼミ活動の積極的な参加・テスト・宿題・タスク等の実施、英語でのやり取に懸命に取り組むこと。

ゼミ時間中・課題。宿題などでは、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価する。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
English Centralオンライン教材で各自の評価・工程等は確認できます。

参考文献

講義時使用テキスト

①「Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる:英語でSDGs実践入門)」NAN'UN-DO (ISBN: 9784523179313)

②「English Central」オンライン教材(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)＊春学期の「研究演習Ⅰ」と秋学期の「研究演習Ⅱ」両方登録学生は1年間の予約購読になる。

＊アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

①英語検定試験TOEIC(年2回受験)
②CNE1・CLASSMATE英語学習コースの参加・修了書(オンラインもしくは海外)(2年次)
③Aomori Global Academyの参加・修了書(3年次)

学生へのメッセージ

このゼミは基本英語で行う。ゼミの活動・内容・情報共有等の理解・動力するのはゼミ学生一人一人の必要条件。ゼミ学生も基本英語でのコミュニケーションが必要条件。

〈2年次〉〈3年次〉〈4年次〉
①メディアを通じて英語学習・異文化理解(ゼミ活動・プロジェクト等)
②英語検定試験(学内TOEIC等)を年2回受ける
③2年次の間、4週間以上フィリピンのCNE1学校・CLASSMATE等の集中英語学習コースを受講・完了
④3年次の間、青森県の「Aomori Global Academy」を受講・完了(年内週末x3回)
⑤4年次の間、英語で研究発表(プレゼンテーション)を実施

実務との関連

日本でのグローバル向け職業、日本で外国人の対応・英語に関わる職業
(日本でのグローバル向け・日本で外国人の対応・英語力(英語検定試験資格も含む))。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Planning with Online Technologies and Systems Explanation A: Conversation Activity B: Discussion C: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	CALL - Computer Assisted Language Learning ① A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	SDGs - Clean Energy ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	SDGs - Clean Energy ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Current News and Media ① A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	CALL - Computer Assisted Language Learning ② A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	SDGs - Poverty ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	SDGs - Poverty ② A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Current News and Media ② A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	CALL - Computer Assisted Language Learning ③ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	SDGs - Hunger ① A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	SDGs - Hunger ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Current News and Media ③ A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	CALL - Computer Assisted Language Learning ④ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Content Assessment and Planning A: Conversation Activity B: Discussion C: Feedback	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	2020023237 研究演習Ⅱ　木村浩哉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

八戸圏域におけるスポーツの活性化について課題を総合的に認識し、解決に向けた分析、解決能力を身につける.

授業概要(教育目的)

将来地域スポーツの牽引車になるために、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から、基礎的な能力や社会性を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

八戸市スポーツ推進計画(平成31年3月、八戸市

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者サポートについての整理、分析	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策1	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策2	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	八戸市のスケートの歴史	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	YSアリーナの活用の実際 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	YSアリーナの活用2 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	YSアリーナの活用3 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	YSアリーナの活用4 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	YSアリーナの活用5 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用についてのレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	YSアリーナの活用6 アフタースケートから中心街の活性化を考える。レポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	YSアリーナの活用7 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	YSアリーナの活用8 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	YSアリーナと中心街の活性化1 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	YSアリーナと中心街の活性化2 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	地域スポーツとしてのスケートの価値 八戸圏域におけるスポーツ文化としてのスケートの意義についてレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023238 研究演習Ⅱ　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020023239 研究演習Ⅱ　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

①自文化と他文化の文化的規範の相違を認識し、その背景を考えることによって、異なる文化を持つ人々を尊重しつつ、自文化の価値を評価し、伝える基礎的な力を育成する。
②多文化共生社会において様々な文化的背景を持つ人々と協働できる能力と意識を養う。

授業概要(教育目的)

多文化共生社会を目指す日本にとって、在留外国人との「異文化の壁」、「言葉の壁」を超えることが大きな課題となる。異文化間の誤解や、偏見などによって生じるトラブルを減らすため、異文化への理解を深め、多角的な視点で事象を捉える必要がある。本演習はディスカッション、フィールドワークなどを通して、異文化コミュニケーションの諸問題と解決策を能動的に考える力の向上につながる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(石井敏・久米昭元・長谷川典子・石黒武人)(有斐閣選書)

資格との関連

学生へのメッセージ

①国際理解や異文化に興味・関心がある。
②学習に積極的な態度を持っている。
③異文化交流活動に積極的に参加する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・学生カードの記入 ・自己紹介	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	非言語コミュニケーション①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	非言語コミュニケーション②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	異文化コミュニケーションまたは異文化交流に関するフィールドワーク	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	カルチャーショックと適応のプロセス①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	カルチャーショックと適応のプロセス②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	対人コミュニケーション①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	対人コミュニケーション②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	異文化コミュニケーションの教育・訓練①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	異文化コミュニケーションの教育・訓練②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	異文化コミュニケーションまたは異文化交流に関するフィールドワーク	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	異文化コミュニケーションの研究①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	異文化コミュニケーションの研究②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	異文化コミュニケーションケーススタディ	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	まとめ	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023240 研究演習Ⅱ　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

①情報化社会を生き抜く上で必要な法的素養を身につける
②商取引を行う際の法律関係を身につけることによって地域社会とその経済活動を理解する。

授業概要(教育目的)

現在は、インターネットといった情報技術が私たちの生活に必要不可欠な存在となっています。しかし、これらの技術は私たちの生活の中で重要な機能を果たしているのにも関わらず、今なお多くの法律上の課題が残されているのが現状です。研究演習では、このような情報化社会に潜む法的な問題を洗い出し、それらに対してどのように対処していくべきかを検討します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・自己紹介	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	インターネット検索 意見交換
2	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
3	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
4	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
5	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
6	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
7	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
8	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
9	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
10	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
11	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
12	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
13	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
14	情報関連法規の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
15	判例の読み方	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023241 研究演習Ⅱ　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

①情報化社会を生き抜く上で必要な法的素養を身につける
②商取引を行う際の法律関係を身につけることによって地域社会とその経済活動を理解する。

授業概要(教育目的)

現在は、インターネットといった情報技術が私たちの生活に必要不可欠な存在となっています。しかし、これらの技術は私たちの生活の中で重要な機能を果たしているのにも関わらず、今なお多くの法律上の課題が残されているのが現状です。研究演習では、このような情報化社会に潜む法的な問題を洗い出し、それらに対してどのように対処していくべきかを検討します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・自己紹介	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	インターネット検索 意見交換
2	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
3	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
4	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
5	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
6	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
7	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
8	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
9	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
10	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
11	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
12	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
13	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
14	情報関連法規の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
15	判例の読み方	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020023242 研究演習Ⅱ　種市ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

①情報化社会を生き抜く上で必要な法的素養を身につける
②商取引を行う際の法律関係を身につけることによって地域社会とその経済活動を理解する。

授業概要(教育目的)

現在は、インターネットといった情報技術が私たちの生活に必要不可欠な存在となっています。しかし、これらの技術は私たちの生活の中で重要な機能を果たしているのにも関わらず、今なお多くの法律上の課題が残されているのが現状です。研究演習では、このような情報化社会に潜む法的な問題を洗い出し、それらに対してどのように対処していくべきかを検討します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習態度や発表、レポートの内容等を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション ・研究演習の進め方 ・自己紹介	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	インターネット検索 意見交換
2	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
3	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
4	民法の基礎(総則)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
5	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
6	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
7	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
8	民法の基礎(債権)	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
9	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
10	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
11	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
12	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
13	会社法の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
14	情報関連法規の基礎	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換
15	判例の読み方	各自で指示された文献や資料を読んでおく。 発表の準備を心がける。	参考資料を読む 意見交換

講義名	2020024203 研究演習Ⅲ　バリーゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

This seminar class aims to allow students opportunities for intercultural understanding and engagement as well as English language improvement. Study, projects and fieldwork based on Global Issues and SDGs will help students achieve these goals. This class also supports the students' English language and communication skills, allowing individual and group coursework projects. Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic and intercultural communicative skills to function in an international and/or English-speaking environment.

授業概要(教育目的)

This class aims to allow students the opportunity for efficient English improvement through the four skills of language learning related to the SDGs. . This will improve both speed and efficiency in learning while supporting a healthy future for the society at large. This class will also support the students' language skills and help motivate them by offering a lasting record of their efforts in the community long after they have graduated. Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic skills necessary to function in an English-speaking environment.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年間を通じて、ゼミ活動での発揮度や協力度、英語での進歩や動力；個人のディスカッション容、英語でのプレゼンテーションを発表するなどにより総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックは、1対1のディスカッション、クラスワークや宿題の結果のフィードバック、小テストの結果のフィードバックなど、コースを通してさまざまな方法で行われる。

参考文献

講義時使用テキスト

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Class Explanation & Introductions Task	Class Explanation & Introductions Task	Class Explanation & Introductions Task
2	Topic: Good Health and Well-being ① A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
3	Topic: Good Health and Well-being ② A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
4	Topic: Good Health and Well-being ③ A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
5	Quality Education① A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
6	Quality Education② A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
7	Quality Education③ A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
8	Gender Equality① A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
9	Gender Equality② A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
10	Gender Equality③ A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
11	Clean Water and Sanitation① A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
12	Clean Water and Sanitation② A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
13	Clean Water and Sanitation③ A. Read, Listen & Watch B. Comprehension Activities C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
14	Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling
15	Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024206 研究演習Ⅲ　田中ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

2023年度の本演習は、複式簿記の理論的に研究しつつ、日商3級レベルの処理を習得することを目的とする。テキストを熟読し、理解し、さらに自らの言葉で、的確に問題の要請する解答を書くことのできる能力を必要とする。そのことは同時に、「社会人基礎力」を養成することにもつながっていく。

本演習に参加するゼミナリステンは、それぞれの段階の「試験合格」という目標を持った学修を進めていく。さらに、財務諸表を作成する力、読み込む力も身につけることが可能となる。これは、自らの「就職力」を高めていくことにつながっていくと確信する。

将来職業イメージとしては、職業会計人(税理士、国税専門官など)や一般企業の財務・経理担当者、営業職、自治体の財政課職員などである。

授業概要(教育目的)

【年次計画】

＜2年次＞第一に、日本商工会議所簿記検定3級に合格することを目標として、要点の説明を行い、練習問題に取り組む。答え合わせも含めた解説を行い、合格の実力を養成する。第二に、3級に合格した後は2級に挑戦する実力を身に付ける努力をする。

＜3年次＞引き続き資格取得を目標として、理論的関心及び簿記論挑戦の基礎学力を養う。そのため日商2級に合格する実力を養う。平行して、就職活動準備及び実践に取り組む。

＜4年次＞税理士試験(簿記論)受験の基礎学力習得ため、引き続き日商2級合格を目指す。就職活動も引き続き行う。さらに、卒業論文に取り組み、完成させ、発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

全ての年次において、出席し、まじめに練習問題に取り組むこと、積極的に発表することが評価の基本である。

課題に対するフィードバック

練習問題終了ごとに解答する。

参考文献

講義時使用テキスト

滝澤ななみ『スッキリわかる日商簿記2級　商業簿記　【2025年版】』TAC出版

資格との関連

日商簿記2級、税理士試験(簿記論)

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】

自ら決めた目標に挑戦し、それをやり遂げていく実力を身につけるため、堪えざる努力をして欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1回　株式の発行、剰余金の配当と処分	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
2	第2回　合併と無形固定資産/法人税等と消費税	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
3	第3回　商品売買等	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
4	第4回　電子記録債権(債務)、その他の債権譲渡	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
5	第5回　銀行勘定調整表	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
6	第6回　固定資産	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
7	第7回　リース取引/研究開発費とソフトウェア	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
8	第8回　有価証券	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
9	第9回　引当金/外貨換算会計	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
10	第10回　税効果会計/収益認識基準	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
11	第11回　精算表と財務諸表/帳簿の締切	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
12	第12回　本支店会計	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
13	第13回　連結会計1	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
14	第14回　連結会計2	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。
15	第15回　製造業会計	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行うこと。

講義名	2020024209 研究演習Ⅲ　村本ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

地理情報情報システムに関する実践的な知識を修得し、ビジネスに活用することができる。

授業概要(教育目的)

従来インターネットを利用したコンテンツ配信を実現するためには、高速大容量な回線・高性能なサーバ機器を必要としてきたが、近年、クラウドコンピューティングにより、自前で情報システムを整備することなくシステム構築ができるようになりつつある。また、動画共有サイト等を利用して個人が簡単に情報配信することも可能となり、この仕組みをビジネスに有効活用しようとする取り組みも増えている。
本ゼミでは、デジタルコンテンツの編集技術やそれらを配信する仕組みについて調査・研究し、大学内や地域での活用を目的としたデジタルコンテンツ管理システムの構築・運用を行いながら、実践的な知識の習得とビジネスへのIT活用能力を培う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実習に関するレポート作成・プレゼンテーション、資格試験への取り組みを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。はちがくキャンパスWebに授業資料を掲載する。

資格との関連

学生へのメッセージ

ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格を目標とすること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究演習用アプリの活用説明	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
2	GISの基礎①(GISとは何か、資料購読)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
3	GISの基礎②(グループワーク:GISの 利用分野を 調べる)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
4	GISの基礎③(グループワーク:GISで 利用する地図について 調べる)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
5	GISの基礎③(グループワーク:GISによる地域分析の 事例を 調べる)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
6	GISの基礎④(プレゼンテーション:これまで 調べた内容をまとめる)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
7	GIS実習①(QGISのインストール、例題に 必要な地図のダウンロード)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
8	GIS実習②(QGISの 基本的な使い方1)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
9	GIS実習③(QGISの 基本的な使い方2)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
10	GISを 活用した 地域分析①(グループワーク:企画)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
11	GISを 活用した 地域分析②(グループワーク:データ収集)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
12	GISを 活用した 地域分析③(グループワーク:レイヤ作成)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
13	GISを 活用した 地域分析④(グループワーク:分析1)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
14	GISを 活用した 地域分析⑤(グループワーク:分析2)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
15	GISを 活用した 地域分析⑥(成果発表)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して 確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024212 研究演習Ⅲ　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

3年次「研究演習」(春学期)の到達目標は、以下の4点である。
①ミクロ経済データ(財務指標等、個別の企業の経営に関する指標)を把握し、分析し、考察する。インターネットを利用しての(個別の企業に関する)ミクロデータの入手方法についても学んでいただく。
②上記①に関連し、各自任意の個別の企業に関するミクロデータを(インターネット等を通じて)入手し、経営の状態を比較することが可能な表、及びレジュメにまとめ、考察し、ゼミで発表していただく。
③来年度に卒業論文を作成することを念頭におきつつ、(日本及び世界で問題となっている事柄について)各自問題意識と興味を絞り込み、自由にテーマを選択する。
④2年次春学期と同様の方法と要領で、また、これまで培った知識と手法を反映させつつ、各自のテーマでレジュメを作成し、発表していただき、皆で討論する。

授業概要(教育目的)

経済学的ものの見方、考え方を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レジュメの作成、発表、その他の課題等々、ふだんのゼミにおける取組状況を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミの中での各自の発表に対し、また、発表する際に、各自が作成し、使用したレジュメに対し、ゼミの中で、随時、講評し、アドバイスを贈る。

参考文献

ゼミの中で随時、紹介する。

講義時使用テキスト

以下の2点を、章ごとに作成、配布し、教材として用いる。
①担当教員作成のテキスト(「研究演習」要綱)
②上記①に付随する統計資料(「研究演習」要綱別表・別図)
上記2点については、USBで配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

奈良ゼミでは、データを分析、レジュメの作成等を円滑に行うため、ゼミにノートパソコンを持参し、利用していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	3年次「研究演習」の進め方	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	財務指標、企業経営に関わるミクロデータの考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	財務指標、企業経営に関わるミクロデータの考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	財務指標、企業経営に関わるミクロデータの考察。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	財務指標、企業経営に関わるミクロデータの考察(レジュメ作成)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	財務指標、企業経営に関わるミクロデータの考察(各自発表)。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	自由テーマでの発表に向けての説明と「テーマ概要」の作成方法の説明。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	「テーマ概要」の作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	「テーマ概要」の発表。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	図書館を利用しての資料収集。	・図書館での作業に備え、各自資料収集の目的と対象を絞り込む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	収集した資料の整理・集約及び発表用レジュメの作成方法の説明。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	収集した資料の整理・集約及び発表用レジュメの作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	発表用レジュメの作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	発表用レジュメの作成。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	各自自由テーマで発表及び意見交換。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024213 研究演習Ⅲ　坂本ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

ICT活用方法について理解し、「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できる。
ICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用ができる。

授業概要(教育目的)

コンピュータは「電子計算機」と呼ばれていたように、計算の道具として開発されましたが、今では、表現やコミュニケーションの道具として、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるようになりました。さらにインターネットの普及拡大に伴い、情報通信技術(Information Communication Technology:ICT)の活用は、クラウドコンピューティングやユビキタスネットワークを中心とする新たな時代になっています。
社会人となる学生にとっては、ICT活用方法について理解し、基礎的能力を身につけておく必要があります。どんな仕事にも難題があるように、近年の社会では「問題解決能力」が求められ、ICTの利活用についても「作る技術」よりも、「使う技術」が求められるようになって来ています。「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できることが重要な力だと思います。それには、情報や情報技術の知識だけでなく、課題を見つけ出し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら、答えに近づいていく、という力が必要です。
本ゼミでは、社会人として身につけるべきICTの知識やICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用方法を中心に考察します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

●課題への取り組み態度・達成度を総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

講義時使用テキスト

適時、配布・紹介する。

資格との関連

ITパスポート試験

学生へのメッセージ

●学内外からインターネット利用可能なノートパソコン利用しますので準備してください。
●社会のあらゆる分野に興味を持つことと、自身が設定したテーマについては情報の収集、整理、分析等に積極的に取り組む姿勢が必要です。
●情報通信技術(ICT)を理解し、活用できる基礎的能力を身につけ、未来をともに切り開いていきましょう。
●無断欠席不可。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データ分析の必要性	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	データの種類と尺度	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	代表値(平均と中央値)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	関数によるデータ集計手法	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	ピボットテーブルによるデータ集計手法	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	度数分布表とヒストグラム	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	累積相対度数とパレート分析	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	分散と標準偏差	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	基準値と偏差値	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	正規分布とシグマの法則	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	散布図と相関	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	回帰分析	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	重回帰分析	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	推測統計	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	点推定と区間推定	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024216 研究演習Ⅲ　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

・会計学に関する研究を通じて、社会人に必要な情報の収集方法、資料の作成方法およびプレゼンテーション能力を習得する。
・簿記に関して正確かつ迅速な会計処理ができるよう、日商簿記検定試験2級程度の知識を習得する。

授業概要(教育目的)

2年次に引き続き、会計理論の知識(専門的、応用的)習得および計算能力向上に加え、自己の研究(卒業論文)に向け、研究課程の中で興味や関心のあるテーマについて検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミへの貢献度、課題の提出状況、発表内容などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

上野清貴『財務会計の基礎(第5版)』中央経済社
新井清光・川村義則『新版 現代会計学(第3版)』中央経済社

講義時使用テキスト

桜井久勝『財務会計講義(第26版)』 中央経済社

資格との関連

日商簿記検定試験2級、3級

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
・本演習は、出席が大前提であり、無断欠席・遅刻は厳禁である。
・検定試験の取得に真剣に取り組むことのできる学生、ならびに会計学を学ぶ意欲の高い学生を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	財務会計の機能と制度①(会計の意義と領域)	テキストに目を通す。	テキストの関連箇所を読む。
2	財務会計の機能と制度②(財務会計の機能)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
3	財務会計の機能と制度③(企業会計の法規制:制度会計)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
4	財務会計の機能と制度④(企業会計の法規制:金融商品取引法)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題レポートを作成する。
5	利益計算の仕組み①(企業活動と財務諸表)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
6	利益計算の仕組み②(複式簿記の構造)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
7	利益計算の仕組み③(利益計算と財務諸表:財産法と損益法)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
8	利益計算の仕組み④(利益計算と財務諸表:貸借対照表と損益計算書の関係)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題レポートを作成する。
9	会計理論と会計基準①(会計基準の必要性)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
10	会計理論と会計基準②(会計基準の設定と問題点)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
11	会計理論と会計基準③(帰納的アプローチ)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題レポートを作成する。
12	会計理論と会計基準④(演繹的アプローチ)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題レポートを作成する。
13	会計理論と会計基準⑥(企業会計原則の一般原則)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
14	会計理論と会計基準⑥(会計情報の質的特質:意思決定有用性)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
15	会計理論と会計基準⑦(会計情報の質的特質:有用性の構成要素)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題レポートを作成する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024218 研究演習Ⅲ　髙須ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

① 債権法の各制度を説明することができる。

授業概要(教育目的)

本演習は、基本書、判例などを読み解くことで、具体的事件を解決するための妥当な結論がどのように導き出されているかを理解することで、法的思考を養成する。そして、最終的には資格試験、公務員試験などの法的問題にも対応できる能力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストなどを総合して評価する。

課題に対するフィードバック

小テストは採点のうえ返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

無し。授業中に資料を渡します。

資格との関連

ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引主任者、行政書士等の基礎的知識

学生へのメッセージ

必ず出席することが基本となる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	債権の目的・債務不履行	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
2	責任財産の保全	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
3	多数当事者の債権・債務	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
4	債権譲渡・債権の消滅	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
5	契約総論	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
6	権利移転型契約	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
7	賃貸借契約	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
8	役務提供型契約	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
9	事務管理	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
10	不法行為	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
11	夫婦	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
12	親子・親権	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
13	相続人・相続の効力	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
14	相続の承認・放棄・	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
15	遺言・遺留分	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024222 研究演習Ⅲ　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

①資料収集を行い、さまざまな意見から自らの意見をまとめることができる。
②他者の意見を受け入れ、それに対し、自らの意見を発言することができる。
③農山村(地域)の活性化の必要性について、自身の考えを述べることができる。

授業概要(教育目的)

この講義では世界の共通課題として取り上げられる都市と農山村(地域)との人口問題が、なぜ生じるのかを解説するとともに、都市の過剰人口の問題、農山村の過疎問題によって何が起こっているのかを各ゼミ生が調べ、なぜ農山村(地域)を活性化させなければならないかについて議論する。また、そこで求められる視点や論点は何かについても合わせて議論を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題・レジュメの作成内容、授業中の発言等、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜、プリント等の資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 人口と経済学	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	2. 戦後日本の人口問題	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
3	3. 地域活性化の取り組み	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
4	4. 事例にみる地域活性化の取り組み	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
5	5. 増田レポートに見る人口減による地域の課題	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
6	6. 地域活性化に関する議論①(コミュニティに関する視点)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
7	7. 地域活性化に関する議論②(田園回帰の視点)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
8	8. 地域活性化に関する議論③(経済的な視点)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
9	9. 地域活性化に関する議論④(地域活性化の論理)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
10	10. 地域活性化に関する議論⑤(里山資本主義の論点)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
11	11. 青森県における地域の現状と課題に関する議論①(産業の推移)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
12	12. 青森県における地域の現状と課題に関する議論②(津軽地域の産業の特徴)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
13	13. 青森県における地域の現状と課題に関する議論③(下北地域の産業の特徴)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
14	14. 青森県における地域の現状と課題に関する議論④(三八地域の産業の特徴)	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
15	15. 地域活性化に求められる視点や論点	前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024230 研究演習Ⅲ　堤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・学習目標(到達目標) ・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究テーマの選定①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	研究テーマの選定②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	研究テーマの選定③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	研究テーマの選定④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	研究テーマの問題点抽出①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	研究テーマの問題点抽出②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	文献検索方法の確認	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	文献収集①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
9	文献収集②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
10	文献収集③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
11	文献収集④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
12	文献収集⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
13	収集した文献の整理①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
14	収集した文献の整理②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
15	収集した文献の整理③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

講義名	2020024231 研究演習Ⅲ　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

主として青森県内におけるフィールドワークを通して、県内各地域を理解する。
フィールドワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーション能力を習得する。
卒業論文作成のために研究テーマの探索・決定する。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、論文等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点やコメントした上で返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

机上の学問だけではなく、地域全体を学びのフィールドとすることが大切だと考えています。講義時間以外で学外でのフィールドワークを行うこともあります。社会に出てから体験することは非常に難しく、学生だからこそ体験できる貴重な学びの機会です。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	フィールドワークについて	シラバスを確認する	配付資料を読み直す
2	フィルードワーク先の 地域研究【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	フィールドワーク先の 地域研究【階上町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	フィールドワーク先の 地域研究【東京】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	フィールドワーク先の 地域研究【希望地】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	農作業の形式化、マニュアル化①基礎理解	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	農作業の形式化、マニュアル化②企画	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	農作業の形式化・マニュアル化③記録	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	農作業の形式化・マニュアル化④撮影	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	農作業の形式化・マニュアル化⑤編集	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	農作業の形式化・マニュアル化⑥まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	農作業の形式化・マニュアル化⑦報告	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	地域経営課題の掘り起こしについて	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	地域経営課題解決のための方策検討について	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	フィールドワークの総まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

講義名	2020024232 研究演習Ⅲ　井上ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

特定の地域を選び、その地域が活性化するための事業計画や企画開発を構築し実施することで、実社会の現場でも役に立つ企画提案力やコミュニケーション能力を身につける。

授業概要(教育目的)

関係各所との調整を行い、フィールドワークやアンケート調査によって情報を収集し、分析結果をもとに企画を構築。それを関係者へ提案し実施、振り返りを行い、最終成果を発表する。事業や企画を検討する際にはマーケティングやマネジメント知識を活用し、提案や発表する際には広報戦略や持続可能性を考える。また、活動を通して地域でのキャリアについても検討していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点やコメントした上で返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

机上の学問だけではなく、地域全体を学びのフィールドとすることが大切だと考えている。講義時間以外で学外でのフィールドワークを行うこともある。社会に出てから体験することは非常に難しく、学生だからこそ体験できる貴重な学びの機会である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	自分自身について振り返り、整理しておく	配付資料を読み直す
2	取り扱う研究テーマに関する事前講義	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	フィールドワークに関する事前講義	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	フィールドワーク先の地域研究	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	フィールドワーク①現地見学	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	①の振り返り(課題と仮説)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	フィールドワーク②企画に向けた資料収集	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	②の振り返り(企画提案作成)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	フィールドワーク③企画提案発表	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	③の振り返り	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	地域経営課題の掘り起こしについて	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	地域経営課題解決のための方策検討について(グループワーク)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	地域経営課題解決に向けた企画作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	フィールドワーク④企画提案発表2回目	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	フィールドワークの振り返りと後期活動計画作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024233 研究演習Ⅲ　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①国際関係・国際政治に関する主要な理論について理解し、説明できるようになる。
②国際関係理論を参照しながら、現実の世界情勢を読み解けるようになる。
③論理的思考力を身につけ、地球的諸問題の解決策を提案できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、世界のさまざまな出来事から影響を受けるだけではなく、地球的諸問題の解決に貢献することも可能である。国際社会の課題に取り組んでいくためには、国際関係についての諸理論を理解し、活用できるようになることが求められる。本演習では、この点を踏まえ、国際関係論の代表的な著作を学び、主要な国際関係理論を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表や報告の内容、ディスカッションでの発言などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表の際にコメントするとともに、レポートに対してフィードバックを行う。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミナール(研究演習)は、大学生活のなかで最も重要な活動の1つであり、学生を主体として進めていく。そのため、積極的な参加と自主的に研究を進めていくことが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	理論と現実	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	国際関係理論の展開	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	リベラリズム①	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	リベラリズム②	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	リアリズム①	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	リアリズム②	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	ネオリアリズム①	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	ネオリアリズム②	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	ネオリベラリズム①	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	ネオリベラリズム②	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	コンストラクティヴィズム①	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	コンストラクティヴィズム②	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	新しい国際関係理論①	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	新しい国際関係理論②	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	国際関係理論との向き合い方	参考文献の関連個所を読む。	授業の内容を整理し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024234 研究演習Ⅲ　アンソニーゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

The objective of this research seminar is to improve students' practical English skills, develop learner autonomy, and provide a deeper understanding of foreign cultures, while considering Japan's position through a global perspective in order to prepare and empower students for their lives in a rapidly globalizing Japan.

授業概要(教育目的)

As contending with the English language online, in technology, and with international media can be some of the most immediate and relevant challenges for many Japanese adults, this research seminar aims to employ various technologies and online resources as tools to improve students' English ability, develop learner autonomy, and foster greater international awareness. This seminar requires students to join both an intensive English language study program as well as participate in the Aomori Global Academy in order to enhance communication ability and "glocalization" knowhow. Additionally, this seminar will examine the Sustainable Development Goals (SDG's) as established by the United Nations as well as considering Japan's and other nations' responsibilities and efforts towards realizing these goals. Even without future goals of studying or working overseas, this seminar's approach will enable students to become more capable and confident global citizens within Japan.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域の産業構造や地場産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年次計画通り、ゼミ活動の積極的な参加・テスト・宿題・タスク等の実施、英語でのやり取に懸命に取り組むこと。

ゼミ時間中・課題。宿題などでは、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価する。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
English Centralオンライン教材で各自の評価・工程等は確認できます。

参考文献

講義時使用テキスト

①「Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる:英語でSDGs実践入門)」NAN'UN-DO (ISBN: 9784523179313)

②「English Central」オンライン教材(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)＊春学期の「研究演習Ⅰ」と秋学期の「研究演習Ⅱ」両方登録学生は1年間の予約購読になる。

＊アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

①英語検定試験TOEIC(年2回受験)
②CNE1・CLASSMATE英語学習コースの参加・修了書(オンラインもしくは海外)(2年次)
③Aomori Global Academyの参加・修了書(3年次)

学生へのメッセージ

このゼミは基本英語で行う。ゼミの活動・内容・情報共有等の理解・動力するのはゼミ学生一人一人の必要条件。ゼミ学生も基本英語でのコミュニケーションが必要条件。

〈2年次〉〈3年次〉〈4年次〉
①メディアを通じて英語学習・異文化理解(ゼミ活動・プロジェクト等)
②英語検定試験(学内TOEIC等)を年2回受ける
③2年次の間、4週間以上フィリピンのCNE1学校・CLASSMATE等の集中英語学習コースを受講・完了
④3年次の間、青森県の「Aomori Global Academy」を受講・完了(年内週末x3回)
⑤4年次の間、英語で研究発表(プレゼンテーション)を実施

実務との関連

日本でのグローバル向け職業、日本で外国人の対応・英語に関わる職業
(日本でのグローバル向け・日本で外国人の対応・英語力(英語検定試験資格も含む))。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Planning with Online Technologies and Systems Explanation A: Conversation Activity B: Discussion C: Write Journal	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	CALL - Computer Assisted Language Learning ① A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	SDGs - Children ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	SDGs - Children ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Current News and Media ① A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	CALL - Computer Assisted Language Learning ② A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	SDGs - Gender ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	SDGs - Gender ② A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Current News and Media ② A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	CALL - Computer Assisted Language Learning ③ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	SDGs - Refugees ① A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	SDGs - Refugees ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Current News and Media ③ A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	CALL - Computer Assisted Language Learning ④ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Content Assessment and Planning A: Conversation Activity B: Discussion C: Feedback	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	2020024236 研究演習Ⅲ　木村浩哉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

八戸圏域におけるスポーツの活性化について課題を総合的に認識し、解決に向けた分析、解決能力と発表する力を身につける.

授業概要(教育目的)

将来地域スポーツの牽引車になるために、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から、基礎的・応用的な能力と社会性を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

八戸市スポーツ推進計画(平成31年3月、八戸市

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者サポートについての整理、分析	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策1	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策2	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	八戸市のスケートの歴史	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	YSアリーナの活用の実際 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	YSアリーナの活用2 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	YSアリーナの活用3 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	YSアリーナの活用4 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	YSアリーナの活用5 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用についてのレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	YSアリーナの活用6 アフタースケートから中心街の活性化を考える。レポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	YSアリーナの活用7 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	YSアリーナの活用8 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	YSアリーナと中心街の活性化1 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	YSアリーナと中心街の活性化2 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	地域スポーツとしてのスケートの価値 八戸圏域におけるスポーツ文化としてのスケートの意義についてレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024237 研究演習Ⅲ　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントレプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024238 研究演習Ⅲ　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020024239 研究演習Ⅲ　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020024240 研究演習Ⅲ　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020025203 研究演習Ⅳ　バリーゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

This seminar class aims to allow students opportunities for intercultural understanding and engagement as well as English language improvement. Study, projects and fieldwork based on Global Issues and SDGs will help students achieve these goals. This class also supports the students' English language and communication skills, allowing individual and group coursework projects. Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic and intercultural communicative skills to function in an international and/or English-speaking environment.

授業概要(教育目的)

This class aims to allow students the opportunity for efficient English improvement by way of the four language learning skills related to the SDGs . This will improve both speed and efficiency in learning. This class will also support the students' language skills and help motivate them by offering a lasting record of their efforts in the community long after they have graduated. Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic skills necessary to function in an English-speaking environment.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年間を通じて、ゼミ活動での発揮度や協力度、英語での進歩や動力；個人のディスカッション容、英語でのプレゼンテーションを発表するなどにより総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックは、1対1のディスカッション、クラスワークや宿題の結果のフィードバック、小テストの結果のフィードバックなど、コースを通してさまざまな方法で行われる。

参考文献

講義時使用テキスト

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Affordable and Clean Energy 1 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Class Explanation & Introductions Task	Class Explanation & Introductions Task
2	Affordable and Clean Energy 2 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
3	Affordable and Clean Energy 3 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
4	Decent Work and Economic Growth 1 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
5	Decent Work and Economic Growth 2 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
6	Decent Work and Economic Growth 3 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
7	Industry, Innovation, and Infrastructure 1 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
8	Industry, Innovation, and Infrastructure 2 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
9	Industry, Innovation, and Infrastructure 3 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
10	Reduced Inequalities 1 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
11	Reduced Inequalities 2 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
12	Reduced Inequalities 3 A. Read, Listen and Watch B. Comprehension C. Discussion	Opening Journaling	Closing Journaling
13	Presentation Topic Brainstorming and Preparation	Opening Journaling	Closing Journaling
14	Presentation Topic Preparation & Practice	Opening Journaling	Closing Journaling
15	Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025206 研究演習Ⅳ　田中ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

2023年度の本演習は、複式簿記の理論的に研究しつつ、日商3級レベルの処理を習得することを目的とする。テキストを熟読し、理解し、さらに自らの言葉で、的確に問題の要請する解答を書くことのできる能力を必要とする。そのことは同時に、「社会人基礎力」を養成することにもつながっていく。

本演習に参加するゼミナリステンは、それぞれの段階の「試験合格」という目標を持った学修を進めていく。さらに、財務諸表を作成する力、読み込む力も身につけることが可能となる。これは、自らの「就職力」を高めていくことにつながっていくと確信する。

将来職業イメージとしては、職業会計人(税理士、国税専門官など)や一般企業の財務・経理担当者、営業職、自治体の財政課職員などである。

授業概要(教育目的)

【年次計画】

＜2年次＞第一に、日本商工会議所簿記検定3級に合格することを目標として、要点の説明を行い、練習問題に取り組む。答え合わせも含めた解説を行い、合格の実力を養成する。第二に、3級に合格した後は2級に挑戦する実力を身に付ける努力をする。

＜3年次＞引き続き資格取得を目標として、理論的関心及び簿記論挑戦の基礎学力を養う。そのため日商2級に合格する実力を養う。平行して、就職活動準備及び実践に取り組む。

＜4年次＞税理士試験(簿記論)受験の基礎学力習得ため、引き続き日商2級合格を目指す。就職活動も引き続き行う。さらに、卒業論文に取り組み、完成させ、発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

全ての年次において、出席し、まじめに練習問題に取り組むこと、積極的に発表することが評価の基本である。

課題に対するフィードバック

練習問題逐行ごとに解答する。

参考文献

講義時使用テキスト

『スッキリわかる日商簿記2級　工業簿記　2025年版』TAC出版

資格との関連

日商簿記2級

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】

自ら決めた目標に挑戦し、それをやり遂げていく実力を身につけるため、堪えざる努力をして欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1回　工業簿記の基礎	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
2	第2回　材料費	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
3	第3回　労務費	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
4	第4回　経費	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
5	第5回　個別原価計算	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
6	第6回　部門別個別原価計算	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
7	第7回　総合原価計算①	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
8	第8回　総合原価計算②	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
9	第9回　総合原価計算③	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
10	第10回　工業簿記における財務諸表	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
11	第11回　本社工場会計	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
12	第12回　標準原価計算①	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
13	第13回　標準原価計算②	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
14	第14回　直接原価計算①	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
15	第15回　直接原価計算②	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。

講義名	2020025209 研究演習Ⅳ　村本ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

・地理情報システムに関する実践的な知識を修得し、ビジネスに活用することができる。
・データ可視化のためのWebページを作成することができる。

授業概要(教育目的)

従来インターネットを利用したコンテンツ配信を実現するためには、高速大容量な回線・高性能なサーバ機器を必要としてきたが、近年、クラウドコンピューティングにより、自前で情報システムを整備することなくシステム構築ができるようになりつつある。また、動画共有サイト等を利用して個人が簡単に情報配信することも可能となり、この仕組みをビジネスに有効活用しようとする取り組みも増えている。
本ゼミでは、デジタルコンテンツの編集技術やそれらを配信する仕組みについて調査・研究し、大学内や地域での活用を目的としたデジタルコンテンツ管理システムの構築・運用を行いながら、実践的な知識の習得とビジネスへのIT活用能力を培う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

活動調査に関するレポート作成・プレゼンテーション、資格試験への取り組みを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。はちがくキャンパスWebに授業資料を掲載する。

資格との関連

学生へのメッセージ

ITパスポート試験、基本情報技術者試験合格を目標とすること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究演習用グループウェアの活用説明	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
2	オープンデータの利活用①(グループワーク：概要)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
3	オープンデータの利活用②(グループワーク：公開状況の調査)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
4	統計GISによる地域分析①(グループワーク：地域分析事例調査)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
5	統計GISによる地域分析②(GISの 基本操作)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
6	統計GISによる地域分析③(レイヤの 作成)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
7	統計GISによる地域分析④(属性・空間検索)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
8	統計GISによる地域分析⑤(レポート作成)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
9	プレゼンテーション(地域分析発表)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
10	JavaScriptによるデータ可視化①(JavaScriptの 基本1)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
11	JavaScriptによるデータ可視化②(JavaScriptの 基本2)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
12	JavaScriptによるデータ可視化③(グループワーク：企画)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
13	JavaScriptによるデータ可視化④(グループワーク：ページデザイン)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
14	JavaScriptによるデータ可視化⑤(プログラム記述)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。
15	プレゼンテーション(オープンデータの 活用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド・参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 ・レポート課題が提示された 場合は、期限までに提出すること。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025212 研究演習Ⅳ　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

3年次「研究演習」(秋学期)の到達目標は、以下の3点である。
⑤財政に関する各種指標の意味、考え方、また、それらの指標を収録した統計資料の見方、仕組みを学んでいただくとともに、とりわけ私たちが生まれ育ったふるさとの財政の状況を理解していただく。
⑥経済学に関わる様々な問題をカバーする書籍、雑誌記事、論文等を題材とし、輪読する方法の基礎を学んでいただく。
⑦卒業論文計画書の作成方法を学んでいただく。

授業概要(教育目的)

経済学的ものの見方、考え方を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レジュメの作成、発表、その他の課題等々、ふだんのゼミにおける取組状況を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミの中での各自の発表に対し、また、発表する際に、各自が作成し、使用したレジュメに対し、ゼミの中で、随時、講評し、アドバイスを贈る。

参考文献

ゼミの中で随時、紹介する。

講義時使用テキスト

以下の2点を、章ごとに作成、配布し、教材として用いる。
①担当教員作成のテキスト(「研究演習」要綱)
②上記①に付随する統計資料(「研究演習」要綱別表・別図)
上記2点については、USBで配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

奈良ゼミでは、データを分析、レジュメの作成等を円滑に行うため、ゼミにノートパソコンを持参し、利用していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	秋学期3年次ゼミ(「研究演習Ⅳ」)の進め方。	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	財政に関する各種指標の考察と統計資料の見方(各自発表)。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	経済学に関わる文献を輪読する方法(基礎編)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	経済学に関わる文献を輪読する方法(基礎編:レジュメ作成)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	経済学に関わる文献を輪読する方法(基礎編:レジュメ作成)。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	経済学に関わる文献を輪読する方法(基礎編:各自発表)。	・発表に備え、レジュメを見直す。 ・発表の際、強調して説明するポイントを確認する。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	対外取引関連の統計。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	対外取引関連の統計。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	「卒業論文計画書」の作成方法。	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025213 研究演習Ⅳ　坂本ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

ICT活用方法について理解し、「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できる。
ICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用ができる。

授業概要(教育目的)

コンピュータは「電子計算機」と呼ばれていたように、計算の道具として開発されましたが、今では、表現やコミュニケーションの道具として、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるようになりました。さらにインターネットの普及拡大に伴い、情報通信技術(Information Communication Technology:ICT)の活用は、クラウドコンピューティングやユビキタスネットワークを中心とする新たな時代になっています。
社会人となる学生にとっては、ICT活用方法について理解し、基礎的能力を身につけておく必要があります。どんな仕事にも難題があるように、近年の社会では「問題解決能力」が求められ、ICTの利活用についても「作る技術」よりも、「使う技術」が求められるようになって来ています。「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できることが重要な力だと思います。それには、情報や情報技術の知識だけでなく、課題を見つけ出し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら、答えに近づいていく、という力が必要です。
本ゼミでは、社会人として身につけるべきICTの知識やICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用方法を中心に考察します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

●課題への取り組み態度・達成度を総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

講義時使用テキスト

適時、配布・説明。

資格との関連

学生へのメッセージ

●学内外からインターネット利用可能なノートパソコン利用しますので準備してください。
●社会のあらゆる分野に興味を持つことと、自身が設定したテーマについては情報の収集、整理、分析等に積極的に取り組む姿勢が必要です。
●情報通信技術(ICT)を理解し、活用できる基礎的能力を身につけ、未来をともに切り開いていきましょう。
●無断欠席不可。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データ分析の必要性(演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
2	データの種類と尺度(演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
3	代表値(平均と中央値)(演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
4	関数によるデータ集計手法 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
5	ピボットテーブルによるデータ集計手法 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
6	度数分布表とヒストグラム(演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
7	累積相対度数とパレート分析(演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
8	分散と標準偏差 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
9	基準値と偏差値 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
10	正規分布とシグマの法則(演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
11	散布図と相関 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
12	回帰分析 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
13	重回帰分析 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
14	推測統計 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する
15	点推定と区間推定 (演習)	授業内容について演習の準備を行う	演習課題を作成する

講義名	2020025216 研究演習Ⅳ　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

・会計学に関する研究を通じて、社会人に必要な情報の収集方法、資料の作成方法およびプレゼンテーション能力を習得する。
・簿記に関して正確かつ迅速な会計処理ができるよう、日商簿記検定試験2級程度の知識を習得する。

授業概要(教育目的)

2年次に引き続き、会計理論の知識(専門的、応用的)習得および計算能力向上に加え、自己の研究(卒業論文)に向け、研究課程の中で興味や関心のあるテーマについて検討を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミへの貢献度、課題の提出状況、発表内容などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

上野清貴『財務会計の基礎(第5版)』中央経済社
新井清光・川村義則『新版 現代会計学(第3版)』中央経済社

講義時使用テキスト

桜井久勝『財務会計講義(第26版)』中央経済社

資格との関連

日商簿記検定試験2級、3級

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
・本演習は、出席が大前提であり、無断欠席・遅刻は厳禁である。
・検定試験の取得に真剣に取り組むことのできる学生、ならびに会計学を学ぶ意欲の高い学生を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	現金主義会計と発生主義会計①(収益・費用の認識と測定)	テキストに目を通す。	テキストの関連箇所を読む。
2	現金主義会計と発生主義会計②(現金主義会計)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
3	現金主義会計と発生主義会計③(発生主義会計:発生原則)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
4	現金主義会計と発生主義会計④(発生主義会計:実現原則)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
5	資産評価の基準①(諸基準)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
6	資産評価の基準②(取得原価)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
7	資産評価の基準③(割引現在価値)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
8	財務諸表の体系	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
9	損益計算書①(表示原則)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
10	損益計算書②(包括利益の測定と表示)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
11	貸借対照表①(諸概念)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
12	貸借対照表②(純資産の構成)	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
13	貸借対照表③(払込資本)	前回の授業の内容、論点を整理する。	テキストの関連箇所を読む。
14	株主資本等変動計算書	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。
15	キャッシュ・フロー計算書	前回の授業の内容、論点を整理する。	課題のレポートを作成する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025218 研究演習Ⅳ　髙須ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

現代社会における紛争解決の最終的手段である司法の在り方とそこで用いられている法的思考の道具立てを理解することを目的とする。

授業概要(教育目的)

本研究演習Ⅳは、行政法を中心に、基本書、判例などを読み解くことで、行政法上の具体的事件を解決するための妥当な結論がどのように導き出されているかを理解することで、法的思考を涵養する。そして、最終的には資格試験、公務員試験などの法的問題にも対応できる能力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験・小テストなどを総合して評価する。

課題に対するフィードバック

小テストを採点のうえ返却する。

参考文献

授業中、適宜、参考文献を指示する。

講義時使用テキスト

特になし。授業中に資料を渡します。

資格との関連

公務員試験、行政書士等の基礎的知識

学生へのメッセージ

必ず出席することが基本となる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	行政法の基本構造	テテキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
2	行政法の基本原理と行政上の法律関係	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
3	行政組織法	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
4	行政作用法(1)行政行為の意義と効力	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
5	行政作用法(2)行政行為の種類と、瑕疵論、取消と撤回	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
6	行政作用法(3)行政裁量、行政立法	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
7	行政作用法(4)行政契約、行政指導	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
8	行政手続と行政法上の強制	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
9	行政救済法の仕組みと国家賠償(1)	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
10	国家賠償(2)と損失補償	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
11	行政事件訴訟法(1)概観と取消訴訟	テテキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
12	行政事件訴訟法(2)取消訴訟の審理、判決、執行停止	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
13	行政事件訴訟法(3)その他の訴訟	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
14	行政不服申立て	テテキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。
15	地方自治	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、論点をレポートにまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025222 研究演習Ⅳ　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

①社会調査とは何かを理解し、調査を実施できる能力を身につける。

授業概要(教育目的)

研究演習Ⅲを踏まえ、具体的に地域の課題を見出すために社会調査の手法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題・レジュメの作成内容、授業中の発言等、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜、プリント等の資料を配布する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 社会調査とは	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	2. 社会調査の事前準備	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	3. 社会調査の設計・企画	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	4. 社会調査の基本ルール	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	5. 調査票の作成	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	6. サンプリングの原理	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	7. サンプリングの種類と方法	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	8. 調査票調査のプロセスとデータ化作業	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	9. 調査結果の基礎的な分析	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	10. 質的調査の方法	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	11. 質的調査の実践	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	12. 社会調査の企画・設計の作成(資料収集、目的の設定)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	13. 社会調査の企画・設計の作成(調査票の作成)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	14. 社会調査の企画・設計の作成(発表)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	15. 社会調査の企画・設計の作成(修正・再構成)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025230 研究演習Ⅳ　堤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・学生が研究を行うために必要な情報を適切な方法で検索できる。
・学生が研究を行うために得た情報を適切な方法で整理できる。
・学生が研究計画を立てることができる。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

課題に対するフィードバック

課題(レポート)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	収集した文献の整理①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	収集した文献の整理②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	収集した文献の整理③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	収集した文献の整理④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	収集した文献の整理⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	収集した文献の整理⑥	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	入手した文献の内容紹介①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	入手した文献の内容紹介②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
9	入手した文献の内容紹介③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
10	入手した文献の内容紹介④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
11	入手した文献の内容紹介⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
12	研究計画書作成①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
13	研究計画書作成②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
14	研究計画書作成③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
15	研究計画書作成④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

講義名	2020025231 研究演習Ⅳ　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

フィールドワーク、ディスカッションおよびプレゼンテーション能力の習得。
研究報告。ゼミ論文の作成。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、論文等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点、コメントの上返却します。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	フィールドワークについて	シラバスを確認する	配付資料を読み直す
2	昨年度のフィルードワークのふりかえり①【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	昨年度のフィルードワークのふりかえり②【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	労働力補完システム構築のための基礎調査①【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	労働力補完システム構築のための基礎調査②【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	労働力補完システム構築のための基礎調査③【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	労働力補完システム構築のための基礎調査④【三戸町】	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	農作業の形式化、マニュアル化①企画	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	農作業の形式化、マニュアル化②記録	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	農作業の形式化・マニュアル化③撮影	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	農作業の形式化・マニュアル化④編集・まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	農作業の形式化・マニュアル化⑤報告	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	地域経営課題の掘り起こしについて	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	地域経営課題解決のための方策検討について	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	フィールドワークの総まとめ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025232 研究演習Ⅳ　井上ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

特定の地域を選び、その地域が活性化するための事業計画や企画開発を構築し実施することで、実社会の現場でも役に立つ企画提案力やコミュニケーション能力を身につける。

授業概要(教育目的)

関係各所との調整を行い、フィールドワークやアンケート調査によって情報を収集し、分析結果をもとに企画を構築。それを関係者へ提案し実施、振り返りを行い、最終成果を発表する。事業や企画を検討する際にはマーケティングやマネジメント知識を活用し、提案や発表する際には広報戦略や持続可能性を考える。また、活動を通して地域でのキャリアについても検討していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点やコメントした上で返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

机上の学問だけではなく、地域全体を学びのフィールドとすることが大切だと考えている。講義時間以外で学外でのフィールドワークを行うこともある。社会に出てから体験することは非常に難しく、学生だからこそ体験できる貴重な学びの機会である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	事業計画内容の確認とスケジュール調整	自分自身について振り返り、整理しておく	配付資料を読み直す
2	フィールドワーク①事業実施準備	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	フィールドワーク②事業実施	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	フィールドワーク③事業実施(調査)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	振り返り(効果検証)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	事業計画の見直し	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	フィールドワーク④事業実施準備2回目	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	フィールドワーク⑥事業実施2回目	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	フィールドワーク⑧事業実施(調査)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	振り返り(効果検証2回目)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	事業報告書作成に向けた討論(グループワーク)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	事業報告書作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	事業報告書に基づく成果発表資料作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	成果発表会	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	発表会振り返り	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025233 研究演習Ⅳ　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①国際社会に関する研究課題を自ら設定できるようになる。
②先行研究を検討し、その意義を把握したうえで、問題点を指摘できるようになる。
③研究目的に沿った分析手法を選択し、仮説を立てることができるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、世界のさまざまな出来事から影響を受けるだけではなく、地球的諸問題の解決に貢献することも可能である。国際社会の課題に取り組んでいくためには、その現状と背景・要因を自ら読み解くことが求められる。本演習では、この点を踏まえ、履修者が各自選択した事例を題材として、地球的諸問題の因果関係を把握するために必要な能力を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表や報告の内容、ディスカッションでの発言などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表の際にコメントするとともに、レポートに対してフィードバックを行う。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミナール(研究演習)は、大学生活のなかで最も重要な活動の1つであり、学生を主体として進めていく。そのため、積極的な参加と自主的に研究を進めていくことが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	学術論文の書き方①	配布資料を読んでおく。	授業内容を整理しておく。
2	学術論文の書き方②	配布資料を読んでおく。	授業内容を整理しておく。
3	研究対象の選定①	卒業研究で扱うテーマとその選定理由を説明できるようにしておく。	アドバイスを踏まえ、テーマを再検討する。
4	研究対象の選定②	卒業研究で扱うテーマとその選定理由を説明できるようにしておく。	アドバイスを踏まえ、テーマを再検討する。
5	先行研究の調査①	インターネット上のデータベース等を用いて、テーマに関連する文献を検索しておく。	文献を入手し、精読する。
6	先行研究の調査②	インターネット上のデータベース等を用いて、テーマに関連する文献を検索しておく。	文献を入手し、精読する。
7	先行研究の検証①	先行研究の内容をノート等に整理し、説明できるようにしておく。	先行研究の課題を指摘できるようにしておく。
8	先行研究の検証②	先行研究の内容をノート等に整理し、説明できるようにしておく。	先行研究の課題を指摘できるようにしておく。
9	先行研究の検証③	先行研究の内容をノート等に整理し、説明できるようにしておく。	先行研究の課題を指摘できるようにしておく。
10	研究手法の選定①	国際関係理論についての理解を深めておく。	アドバイスを踏まえて、卒業研究にてどの理論を用いるか考える。
11	研究手法の選定②	国際関係理論についての理解を深めておく。	アドバイスを踏まえて、卒業研究にてどの理論を用いるか考える。
12	研究手法の選定③	国際関係理論についての理解を深めておく。	アドバイスを踏まえて、卒業研究にてどの理論を用いるか考える。
13	仮説の設定①	卒業研究にて何をどう明らかにするのか説明できるようにしておく。	アドバイスを踏まえて、仮説を修正する。
14	仮説の設定②	卒業研究にて何をどう明らかにするのか説明できるようにしておく。	アドバイスを踏まえて、仮説を修正する。
15	仮説の設定③	卒業研究にて何をどう明らかにするのか説明できるようにしておく。	アドバイスを踏まえて、仮説を修正する。

講義名	2020025234 研究演習Ⅳ　アンソニーゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

The objective of this research seminar is to improve students' practical English skills, develop learner autonomy, and provide a deeper understanding of foreign cultures, while considering Japan's position through a global perspective in order to prepare and empower students for their lives in a rapidly globalizing Japan.

授業概要(教育目的)

As contending with the English language online, in technology, and with international media can be some of the most immediate and relevant challenges for many Japanese adults, this research seminar aims to employ various technologies and online resources as tools to improve students' English ability, develop learner autonomy, and foster greater international awareness. This seminar requires students to join both an intensive English language study program as well as participate in the Aomori Global Academy in order to enhance communication ability and "glocalization" knowhow. Additionally, this seminar will examine the Sustainable Development Goals (SDG's) as established by the United Nations as well as considering Japan's and other nations' responsibilities and efforts towards realizing these goals. Even without future goals of studying or working overseas, this seminar's approach will enable students to become more capable and confident global citizens within Japan.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域の産業構造や地場産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年次計画通り、ゼミ活動の積極的な参加・テスト・宿題・タスク等の実施、英語でのやり取に懸命に取り組むこと。

ゼミ時間中・課題。宿題などでは、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価する。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
English Centralオンライン教材で各自の評価・工程等は確認できます。

参考文献

講義時使用テキスト

①「Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる：英語でSDGs実践入門)」NAN'UN-DO (ISBN: 9784523179313)

②「English Central」オンライン教材(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)＊春学期の「研究演習Ⅰ」と秋学期の「研究演習Ⅱ」両方登録学生は1年間の予約購読になる。

＊アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

①英語検定試験TOEIC(年2回受験)
②CNE1・CLASSMATE英語学習コースの参加・修了書(オンラインもしくは海外)(2年次)
③Aomori Global Academyの参加・修了書(3年次)

学生へのメッセージ

このゼミは基本英語で行う。ゼミの活動・内容・情報共有等の理解・動力するのはゼミ学生一人一人の必要条件。ゼミ学生も基本英語でのコミュニケーションが必要条件。

〈2年次〉〈3年次〉〈4年次〉
①メディアを通じて英語学習・異文化理解(ゼミ活動・プロジェクト等)
②英語検定試験(学内TOEIC等)を年2回受ける
③2年次の間、4週間以上フィリピンのCNE1学校・CLASSMATE等の集中英語学習コースを受講・完了
④3年次の間、青森県の「Aomori Global Academy」を受講・完了(年内週末x3回)
⑤4年次の間、英語で研究発表(プレゼンテーション)を実施

実務との関連

日本でのグローバル向け職業、日本で外国人の対応・英語に関わる職業
(日本でのグローバル向け・日本で外国人の対応・英語力(英語検定試験資格も含む))。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Planning with Online Technologies and Systems Explanation A: Conversation Activity B: Discussion C: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	CALL - Computer Assisted Language Learning ① A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	SDGs - Insects ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	SDGs - Insects ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Current News and Media ① A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	CALL - Computer Assisted Language Learning ② A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	SDGs - Vegetarianism ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	SDGs - Vegetarianism ② A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Current News and Media ② A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	CALL - Computer Assisted Language Learning ③ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	SDGs - Plastic Waste ① A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	SDGs - Plastic Waste ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Current News and Media ③ A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	CALL - Computer Assisted Language Learning ④ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Content Assessment and Planning A: Conversation Activity B: Discussion C: Feedback	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	2020025236 研究演習Ⅳ　木村浩哉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

八戸圏域におけるスポーツの活性化について課題を総合的に認識し、解決に向けた分析、解決能力を身につける.

授業概要(教育目的)

将来地域スポーツの牽引車になるために、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から、基礎的な能力や社会性を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

八戸市スポーツ推進計画(平成31年3月、八戸市

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦し試みようとする積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者サポートについての整理、分析	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策1	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策2	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	八戸市のスケートの歴史	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	YSアリーナの活用の実際 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	YSアリーナの活用2 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	YSアリーナの活用3 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	YSアリーナの活用4 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	YSアリーナの活用5 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用についてのレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	YSアリーナの活用6 アフタースケートから中心街の活性化を考える。レポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	YSアリーナの活用7 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	YSアリーナの活用8 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	YSアリーナと中心街の活性化1 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	YSアリーナと中心街の活性化2 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	地域スポーツとしてのスケートの価値 八戸圏域におけるスポーツ文化としてのスケートの意義についてレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025237 研究演習Ⅳ　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020025238 研究演習Ⅳ　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025239 研究演習Ⅳ　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020025240 研究演習Ⅳ　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026203 研究演習Ⅴ　バリーゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

Students will study and practice in order to have a working knowledge of English. Working knowledge includes both oral and written communication. Practice and improvement in both will be expected. Additionally, classwork, fieldwork, and homework related to the 'Smile Cambodia' project is expected. This may include planning, creation, and implementation of donation collections as well as communication with persons or organizations involved with Cambodia.

授業概要(教育目的)

This class aims to allow students the opportunity for efficient English improvement by way of an online English learning system. This will improve both speed and efficiency in learning. This class will also support the students' language skills and help motivate them by offering a lasting record of their efforts in the community long after they have graduated (via the smartphone application). Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic skills necessary to function in an English-speaking environment.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年間を通じて、ゼミ活動での発揮度や協力度、英語での進歩や動力；個人のディスカッション容、英語でのプレゼンテーションを発表するなどにより総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックは、1対1のディスカッション、クラスワークや宿題の結果のフィードバック、小テストの結果のフィードバックなど、コースを通してさまざまな方法で行われる。

参考文献

講義時使用テキスト

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

学生へのメッセージ

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Class Explanation & Introductions Task	Class Explanation & Introductions Task	Class Explanation & Introductions Task
2	The Power of Technology	Opening Journaling	Closing Journaling
3	Super Mom	Opening Journaling	Closing Journaling
4	Personal Notes Go High-Tech	Opening Journaling	Closing Journaling
5	The 80's: The Decade that Made Us	Opening Journaling	Closing Journaling
6	I'm Trending	Opening Journaling	Closing Journaling
7	Change Everything with the iPhone 6s	Opening Journaling	Closing Journaling
8	Listen to the Water	Opening Journaling	Closing Journaling
9	An Ancient Forest Comes Alive	Opening Journaling	Closing Journaling
10	The Ocean Speaks	Opening Journaling	Closing Journaling
11	Forests Are Our Future	Opening Journaling	Closing Journaling
12	Save Our World	Opening Journaling	Closing Journaling
13	From Trash to Trendy	Opening Journaling	Closing Journaling
14	Presentations (half class)	Opening Journaling	Closing Journaling
15	Presentations (half class)	Opening Journaling	Closing Journaling

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026206 研究演習Ⅴ　田中ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

2023年度の本演習は、複式簿記の理論的に研究しつつ、日商3級レベルの処理を習得することを目的とする。テキストを熟読し、理解し、さらに自らの言葉で、的確に問題の要請する解答を書くことのできる能力を必要とする。そのことは同時に、「社会人基礎力」を養成することにもつながっていく。

本演習に参加するゼミナリステンは、それぞれの段階の「試験合格」という目標を持った学修を進めていく。さらに、財務諸表を作成する力、読み込む力も身につけることが可能となる。これは、自らの「就職力」を高めていくことにつながっていくと確信する。

将来職業イメージとしては、職業会計人(税理士、国税専門官など)や一般企業の財務・経理担当者、営業職、自治体の財政課職員などである。

授業概要(教育目的)

【年次計画】

＜2年次＞第一に、日本商工会議所簿記検定3級に合格することを目標として、要点の説明を行い、練習問題に取り組む。答え合わせも含めた解説を行い、合格の実力を養成する。第二に、3級に合格した後は2級に挑戦する実力を身に付ける努力をする。

＜3年次＞引き続き資格取得を目標として、理論的関心及び簿記論挑戦の基礎学力を養う。そのため日商2級に合格する実力を養う。平行して、就職活動準備及び実践に取り組む。

＜4年次＞税理士試験(簿記論)受験の基礎学力習得ため、引き続き日商2級合格を目指す。就職活動も引き続き行う。さらに、卒業論文に取り組み、完成させ、発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

全ての年次において、出席し、まじめに練習問題に取り組むこと、積極的に発表することが評価の基本である。

課題に対するフィードバック

練習問題逐行ごとに解答する。

参考文献

講義時使用テキスト

配布資料により講義展開する。

資格との関連

日商簿記2級、税理士試験簿記論

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】

自ら決めた目標に挑戦し、それをやり遂げていく実力を身につけるため、堪えざる努力をして欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	2級検定試験練習問題1	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
2	2級検定試験練習問題2	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
3	2級検定試験練習問題3	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
4	2級検定試験練習問題4	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
5	2級検定試験練習問題5	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
6	2級検定試験練習問題6	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
7	2級検定試験練習問題7	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
8	2級検定試験練習問題8	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
9	2級検定試験練習問題9	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
10	2級検定試験練習問題10	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
11	2級検定試験練習問題11	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
12	2級検定試験練習問題12	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
13	2級検定試験練習問題13	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
14	2級検定試験練習問題14	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
15	2級検定試験練習問題15	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。

講義名	2020026209 研究演習Ⅴ　村本ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

卒業研究を通じて、ITを活用した問題解決を提案することができる。

授業概要(教育目的)

従来インターネットを利用したコンテンツ配信を実現するためには、高速大容量な回線・高性能なサーバ機器を必要としてきたが、近年、クラウドコンピューティングにより、自前で情報システムを整備することなくシステム構築ができるようになりつつある。また、動画共有サイト等を利用して個人が簡単に情報配信することも可能となり、この仕組みをビジネスに有効活用しようとする取り組みも増えている。

本ゼミでは、デジタルコンテンツの編集技術やそれらを配信する仕組みについて調査・研究し、大学内や地域での活用を目的としたデジタルコンテンツ管理システムの構築・運用を行いながら、実践的な知識の習得とビジネスへのIT活用能力を培う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

卒業制作、卒業論文への取り組みを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。はちがくキャンパスWebに授業資料を掲載する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	グループウェアの利用	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
2	卒業研究テーマの 説明	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
3	卒業研究①（研究テーマの決定）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
4	卒業研究②（研究目的）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
5	卒業研究③（研究方法）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
6	卒業研究④（研究計画の 作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
7	プレゼンテーション（中間発表会）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
8	卒業研究⑤（研究方法等の 見直し）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
9	卒業研究⑥（先行事例の 調査指導）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
10	卒業研究⑦（先行事例の 調査1）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
11	卒業研究⑧（先行事例の 調査2）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
12	卒業研究⑨（先行事例の 調査3）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。・授業でレポート課題が提出された 場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
13	卒業研究⑩（先行事例の 調査4）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
14	プレゼンテーション（中間発表会）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
15	研究計画等の 見直し	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026212 研究演習Ⅴ　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

4年次「研究演習」の到達目標は、以下の2点である。
①これまで2年間のゼミ活動を通じ、培った問題意識に立脚し、各自、選択したテーマについて、卒業論文を作成し、発表し、大学における学習の集大成としていただく。
②卒論発表時のみならず、平素のゼミにおいても、2年次及び3年次以上に、質疑、討論に、積極的に参加していただき、「議論する力」を大いに高めていただく。

授業概要(教育目的)

最終学年を迎えた4年次「研究演習」(奈良ゼミ)の目的は、卒業論文を作成することにより、2年次及び3年次に培った、「調べる力」と「議論する力」、つまり、経済学に関わる様々な問題を調べ、考察し、分析し、まとめ、討論する方法をさらに高め、様々な局面で、それらを応用する力を身に着けることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レジュメの作成、発表、その他の課題等々、平素のゼミにおける取組状況を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミの中での各自の発表に対し、また、発表する際に、各自が作成し、使用したレジュメに対し、ゼミの中で、随時、講評し、アドバイスを贈る。

参考文献

講義時使用テキスト

以下の2点を、教材として用いる。
①担当教員作成のテキスト(「研究演習」要綱)、
②その他、インターネットを通じ入手する資料。

資格との関連

学生へのメッセージ

奈良ゼミでは、データを分析、レジュメの作成等を円滑に行うため、ゼミにノートパソコンを持参し、利用していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	4年次「研究演習」の進め方。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料を読み直す。
2	「卒業論文計画」の発表。	各自作成した「卒論計画」を確認する等、発表の準備をする。	発表時のアドバイスを踏まえ、「卒論計画」を見直す。
3	「卒業論文計画」の修正 & 卒業論文作成のための資料探し。	スケジュールを確認するとともに、前回のゼミで「卒業論文計画」を発表した際に、アドバイスを受けた事項を振り返り、「卒業論文計画」修正の方針を固め、卒論作成のための資料探しの方向性を探る。	ゼミで配布された資料を読み直すとともにゼミで得たアドバイスを振り返る。
4	卒業論文作成のための資料探し & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認するとともに、前回のゼミにおいて卒論作成のために入手した資料を見直し、新たな資料探しの方向性を探る。	ゼミで配布された資料を読み直すとともにゼミで得たアドバイスを振り返る。
5	文献の輪読(応用編)レジュメ作成方法の説明。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料を読み直す。
6	文献の輪読(応用編)レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
7	文献の輪読(応用編)レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
8	文献の輪読(応用編)レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
9	文献の輪読(応用編)レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
10	文献の輪読(応用編)に関わる発表。	各自作成したレジュメを確認する等、発表の準備をする。	発表時のアドバイスを踏まえ、レジュメを見直す。
11	卒業論文中間発表レジュメ作成方法の説明。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料を読み直す。
12	卒論作成に関わる中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
13	卒論作成に関わる中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
14	卒論作成に関わる中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。
15	卒論作成に関わる中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	各自作成途上のレジュメを読み直す。

講義名	2020026213 研究演習Ⅴ　坂本ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

ICT活用方法について理解し、「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できる。
ICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用ができる。

授業概要(教育目的)

コンピュータは「電子計算機」と呼ばれていたように、計算の道具として開発されましたが、今では、表現やコミュニケーションの道具として、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるようになりました。さらにインターネットの普及拡大に伴い、情報通信技術(Information Communication Technology:ICT)の活用は、クラウドコンピューティングやユビキタスネットワークを中心とする新たな時代になっています。
社会人となる学生にとっては、ICT活用方法について理解し、基礎的能力を身につけておく必要があります。どんな仕事にも難題があるように、近年の社会では「問題解決能力」が求められ、ICTの利活用についても「作る技術」よりも、「使う技術」が求められるようになって来ています。「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できることが重要な力だと思います。それには、情報や情報技術の知識だけでなく、課題を見つけ出し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら、答えに近づいていく、という力が必要です。
本ゼミでは、社会人として身につけるべきICTの知識やICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用方法を中心に考察します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

●課題への取り組み態度・達成度を総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

講義時使用テキスト

適時、配布・説明。

資格との関連

ITパスポート試験

学生へのメッセージ

●学内外からインターネット利用可能なノートパソコン利用しますので準備してください。
●社会のあらゆる分野に興味を持つことと、自身が設定したテーマについては情報の収集、整理、分析等に積極的に取り組む姿勢が必要です。
●情報通信技術(ICT)を理解し、活用できる基礎的能力を身につけ、未来をともに切り開いていきましょう。
●無断欠席不可。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究テーマ検討①	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
2	研究テーマ検討②	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
3	研究テーマ決定	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
4	調査研究①	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
5	調査研究②	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
6	調査研究③	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
7	調査研究④	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
8	調査研究⑤	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
9	調査研究⑥	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
10	調査研究中間報告①	ここまでの調査研究結果をまとめる	不足している情報等について情報収集する
11	調査研究⑦	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
12	調査研究⑧	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
13	調査研究⑨	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
14	調査研究⑩	図書館やWEBサイトから関連情報を検索する	情報収集した情報を絞り込む
15	調査研究中間報告②	ここまでの調査研究結果をまとめる	不足している情報等について情報収集する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026216 研究演習Ⅴ　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

・会計学に関する研究を通じて、社会人に必要な情報の収集方法、資料の作成方法およびプレゼンテーション能力を習得する。
・簿記に関して正確かつ迅速な会計処理ができるよう、日商簿記検定試験2級程度の知識を習得する。

授業概要(教育目的)

自己の研究(研究課程の中で興味や関心のあるテーマ)について、作成・発表を行いながら卒業論文を完成させる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミへの貢献度、課題の提出状況、発表内容などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

適宜、指示する。

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
・本演習は、出席が大前提であり、無断欠席・遅刻は厳禁である。
・検定試験の取得に真剣に取り組むことのできる学生、ならびに会計学を学ぶ意欲の高い学生を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	卒業論文について(テーマ設定・書き方)	卒業論文について調べる。	授業の内容、論点を整理する。
2	先行研究の方法(CiNiiの利用)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
3	先行研究の方法(図書館の利用)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
4	研究テーマの検討・報告①(第1組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
5	研究テーマの検討・報告①(第2組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
6	研究テーマの検討・報告②(第1組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
7	研究テーマの検討・報告②(第2組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
8	研究テーマの検討・報告③(第1組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
9	研究テーマの検討・報告③(第2組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
10	プレゼンテーション資料の作成方法①(パワーポイント)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
11	プレゼンテーション資料の作成方法②(レジュメ)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
12	卒業論文の進捗状況報告①(第1組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
13	卒業論文の進捗状況報告①(第2組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
14	卒業論文の進捗状況報告②(第1組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。
15	卒業論文の進捗状況報告②(第2組)	前回の授業の内容、論点を整理する。	授業の内容、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026218 研究演習Ⅴ　髙須ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

①自分が選んだ社会テーマの意義について説明することができる。
②自分が選んだ社会的テーマの論文構成について説明することができる。

授業概要(教育目的)

本演習は、自分が選んだ社会的テーマについて、資料(基本書、判例など)を読み解くことで、当該テーマの意義、その論理構成を他者に報告することによってコミュニケーション能力を高めるとともに、法的問題にも対応できる能力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表内容・レジュメなどを総合して評価する。

課題に対するフィードバック

課題(発表等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

授業中、適宜、参考文献を指示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

必ず出席することが基本となる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	卒論テーマの選定(1):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
2	卒論テーマの選定(2):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
3	卒論テーマの選定(3):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
4	卒論テーマの選定(4):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
5	卒論テーマの資料の発表(1):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
6	卒論テーマの資料の発表(2):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
7	卒論テーマの資料の発表(3):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
8	卒論テーマの資料の発表(4):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
9	卒論の論文構成の発表(1):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
10	卒論の論文構成の発表(2):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
11	卒論の論文構成の発表(3):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
12	卒論の論文構成の発表(4):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
13	卒論の論文構成の発表(5):発表者A	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
14	卒論の論文構成の発表(6):発表者B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。
15	卒論の論文構成の発表(7):発表者A・B	資料・インターネット等で発表内容を調べる	発表内容とそれに関連する質疑応答を踏まえて、論点を整理する。

講義名	2020026222 研究演習Ⅴ　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

①卒業論文の執筆について学び、卒業論文を完成させる能力を身につける。

授業概要(教育目的)

研究演習Ⅲ、Ⅳを踏まえ、自ら社会的な課題を抽出および設定を行い、卒業論文の構成を考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

課題・レジュメの作成内容、授業中の発言等、総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

【【学習上の留意点】
卒業論文の作成は自主性が求められる。計画に基づき、行動しなければ論文を完成させることは難しい。就職活動等で多忙になる4年次生は、徹底したスケジュール管理が求められるとともに、時間を有効的に活用することが望まれる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 論文とは	授業内容についてインターネットで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
2	2. 卒業論文の課題設定	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
3	3. 卒業論文作成に向けた計画の作成	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
4	4. 卒業論文の目的、計画の報告(Aチーム1)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
5	5. 卒業論文の目的、計画の報告(Bチーム1	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
6	6. 卒業論文の目的、計画の報告(Cチーム1)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
7	7. 卒業論文の仮テーマの決定	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
8	8. 卒業論文の進捗報告(Aチーム1)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
9	9. 卒業論文の進捗報告(Bチーム1)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
10	10. 卒業論文の進捗報告(Cチーム1)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
11	11. 卒業論文の進捗報告(Aチーム2)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
12	12. 卒業論文の進捗報告(Bチーム2)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
13	13. 卒業論文の進捗報告(Cチーム2)	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
14	14. 社会調査を行う諸注意	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。
15	15. 卒業論文の中間報告	前回の授業内容を整理し、論点を整理する。	授業内容を整理し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026229 研究演習Ⅴ　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①仮説の検証に求められる事例を適切に選択できるようになる。
②仮説の検証に必要な情報を得るための文献調査やフィールドワークを各自で行えるようになる。
③仮説の検証をとおして、地球的諸問題の因果関係を自ら読み解くことができるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、世界のさまざまな出来事から影響を受けるだけではなく、地球的諸問題の解決に貢献することも可能である。国際社会に存在する課題に取り組んでいくためには、その因果関係を自ら読み解くことが不可欠である。本演習では、この点を踏まえ、履修者が各自立てた仮説を立証するために求められる適切な事例の選定手法およびその検証に係る文献の批判的検討やフィールドワークに係る能力を身につけていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表や報告の内容、ディスカッションでの発言などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表やディスカッションの際にコメントするとともに、レポートおよび論文の草稿に対してフィードバックを行う。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミナール(研究演習)は、大学生活のなかで最も重要な活動の1つであり、学生を主体として進めていく。そのため、積極的な参加と自主的に研究を進めていくことが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	事例の決定①	設定した仮説の検証に用いる国際関係上の現象を選択する。	アドバイスを踏まえて、扱う事例を再検討する。
2	事例の決定②	設定した仮説の検証に用いる国際関係上の現象を選択する。	アドバイスを踏まえて、扱う事例を再検討する。
3	卒業論文のアウトラインの検討①	卒業論文の目次を作成する。	アドバイスを踏まえて、目次を修正する。
4	卒業論文のアウトラインの検討②	卒業論文の目次を作成する。	アドバイスを踏まえて、目次を修正する。
5	卒業論文のアウトラインの検討③	卒業論文の目次を作成する。	アドバイスを踏まえて、目次を修正する。
6	事例の検証①	各自設定した事例に関する文献調査やフィールドワークを行い、その成果をまとめる。	アドバイスを踏まえ、今後必要な調査内容を整理する。
7	事例の検証②	各自設定した事例に関する文献調査やフィールドワークを行い、その成果をまとめる。	アドバイスを踏まえ、今後必要な調査内容を整理する。
8	事例の検証③	各自設定した事例に関する文献調査やフィールドワークを行い、その成果をまとめる。	アドバイスを踏まえ、今後必要な調査内容を整理する。
9	事例の検証④	各自設定した事例に関する文献調査やフィールドワークを行い、その成果をまとめる。	アドバイスを踏まえ、今後必要な調査内容を整理する。
10	事例の検証⑤	各自設定した事例に関する文献調査やフィールドワークを行い、その成果をまとめる。	アドバイスを踏まえ、今後必要な調査内容を整理する。
11	仮説の検証①	事例検証結果を用いて、仮説が立証されるか検討する。	議論の内容を踏まえ、自らの仮説の妥当性について検討する。
12	仮説の検証②	事例検証結果を用いて、仮説が立証されるか検討する。	議論の内容を踏まえ、自らの仮説の妥当性について検討する。
13	仮説の検証③	事例検証結果を用いて、仮説が立証されるか検討する。	議論の内容を踏まえ、自らの仮説の妥当性について検討する。
14	結論の導出①	仮説の検証から得られた諸点を整理する。	アドバイスを踏まえ、結論を修正する。
15	結論の導出②	仮説の検証から得られた諸点を整理する。	アドバイスを踏まえ、結論を修正する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026230 研究演習Ⅴ　堤ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・学習目標(到達目標) ・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究テーマの選定①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	研究テーマの選定②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	研究テーマの選定③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	研究テーマの選定④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	研究テーマの問題点抽出①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	研究テーマの問題点抽出②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	文献検索方法の確認	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	文献収集①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
9	文献収集②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
10	文献収集③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
11	文献収集④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
12	文献収集⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
13	収集した文献の整理①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
14	収集した文献の整理②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
15	収集した文献の整理③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026231 研究演習Ⅴ　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

・学習目標(到達目標) ・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究テーマの選定①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	研究テーマの選定②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	研究テーマの選定③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	研究テーマの選定④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	研究テーマの問題点抽出①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	研究テーマの問題点抽出②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	文献検索方法の確認	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	文献収集①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
9	文献収集②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
10	文献収集③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
11	文献収集④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
12	文献収集⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
13	収集した文献の整理①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
14	収集した文献の整理②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
15	収集した文献の整理③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026232 研究演習Ⅴ　井上ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

特定の地域を選び、その地域が活性化するための事業計画や企画開発を構築し実施することで、実社会の現場でも役に立つ企画提案力やコミュニケーション能力を身につける。

授業概要(教育目的)

関係各所との調整を行い、フィールドワークやアンケート調査によって情報を収集し、分析結果をもとに企画を構築。それを関係者へ提案し実施、振り返りを行い、最終成果を発表する。事業や企画を検討する際にはマーケティングやマネジメント知識を活用し、提案や発表する際には広報戦略や持続可能性を考える。また、活動を通して地域でのキャリアについても検討していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点やコメントした上で返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

机上の学問だけではなく、地域全体を学びのフィールドとすることが大切だと考えている。講義時間以外で学外でのフィールドワークを行うこともある。社会に出てから体験することは非常に難しく、学生だからこそ体験できる貴重な学びの機会である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	事業計画内容の確認とスケジュール調整	自分自身について振り返り、整理しておく	配付資料を読み直す
2	フィールドワーク①事業実施準備	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	フィールドワーク②事業実施	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	フィールドワーク③事業実施(調査)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	振り返り(効果検証)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	事業計画の見直し	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	フィールドワーク④事業実施準備2回目	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	フィールドワーク⑥事業実施2回目	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	フィールドワーク⑧事業実施(調査)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	振り返り(効果検証2回目)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	事業報告書作成に向けた討論(グループワーク)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	事業報告書作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	事業報告書に基づく成果発表資料作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	成果発表会	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	発表会振り返り	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026234 研究演習Ⅴ　木村浩哉ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

八戸圏域におけるスポーツの活性化について課題を総合的に認識し、解決に向けた分析、解決能力を身につけ、活用できる。

授業概要(教育目的)

将来地域スポーツの牽引車になるために、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から、基礎的な能力や広い社会性を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

八戸市スポーツ推進計画(平成31年3月、八戸市

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	八戸市内体育施設見学 ＹＳアリーナ、スポーツ研修センター	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	種差海岸(芝生、葦毛崎)散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	人見絹枝選手(我が国女性初の五輪メダリストの墓見学	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	八戸市内体育施設、種差海岸、人見絹枝選手の墓についてスポーツリソースとして価値について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	蕪島散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	蕪島についてのレポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	種差海岸とスポーツとの関連についてレポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	種差海岸とスポーツとの関連について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	種差海岸(芝生地)スタンプラリー作戦、スタンプカード作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	種差海岸(釜の口)散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	階上岳散策	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	種差海岸(釜の口)、階上岳とスポーツの関連について発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	種差海岸(釜の口)の観光客接遇練習	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者対応	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者対応 についての発表1	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026235 研究演習Ⅴ　アンソニーゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

The objective of this research seminar is to improve students' practical English skills, develop learner autonomy, and provide a deeper understanding of foreign cultures, while considering Japan's position through a global perspective in order to prepare and empower students for their lives in a rapidly globalizing Japan.

授業概要(教育目的)

As contending with the English language online, in technology, and with international media can be some of the most immediate and relevant challenges for many Japanese adults, this research seminar aims to employ various technologies and online resources as tools to improve students' English ability, develop learner autonomy, and foster greater international awareness. This seminar requires students to join both an intensive English language study program as well as participate in the Aomori Global Academy in order to enhance communication ability and "glocalization" knowhow. Additionally, this seminar will examine the Sustainable Development Goals (SDG's) as established by the United Nations as well as considering Japan's and other nations' responsibilities and efforts towards realizing these goals. Even without future goals of studying or working overseas, this seminar's approach will enable students to become more capable and confident global citizens within Japan.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域の産業構造や地場産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年次計画通り、ゼミ活動の積極的な参加・テスト・宿題・タスク等の実施、英語でのやり取に懸命に取り組むこと。

ゼミ時間中・課題。宿題などでは、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価する。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
English Centralオンライン教材で各自の評価・工程等は確認できます。

参考文献

講義時使用テキスト

①「Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる:英語でSDGs実践入門)」NAN'UN-DO (ISBN: 9784523179313)

②「English Central」オンライン教材(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)＊春学期の「研究演習Ⅰ」と秋学期の「研究演習Ⅱ」両方登録学生は1年間の予約購読になる。

＊アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

①英語検定試験TOEIC(年2回受験)
②CNE1・CLASSMATE英語学習コースの参加・修了書(オンラインもしくは海外)(2年次)
③Aomori Global Academyの参加・修了書(3年次)

学生へのメッセージ

このゼミは基本英語で行う。ゼミの活動・内容・情報共有等の理解・動力するのはゼミ学生一人一人の必要条件。ゼミ学生も基本英語でのコミュニケーションが必要条件。

〈2年次〉〈3年次〉〈4年次〉
①メディアを通じて英語学習・異文化理解(ゼミ活動・プロジェクト等)
②英語検定試験(学内TOEIC等)を年2回受ける
③2年次の間、4週間以上フィリピンのCNE1学校・CLASSMATE等の集中英語学習コースを受講・完了
④3年次の間、青森県の「Aomori Global Academy」を受講・完了(年内週末x3回)
⑤4年次の間、英語で研究発表(プレゼンテーション)を実施

実務との関連

日本でのグローバル向け職業、日本で外国人の対応・英語に関わる職業
(日本でのグローバル向け・日本で外国人の対応・英語力(英語検定試験資格も含む))。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Planning with Online Technologies and Systems Explanation A: Conversation Activity B: Discussion C: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	CALL - Computer Assisted Language Learning ① A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	SDGs - Shopping ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	SDGs - Shopping ② A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Current News and Media ① A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	CALL - Computer Assisted Language Learning ② A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	SDGs - Partnerships ① A: Conversation Activity B: Read and Review C: Listen and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	SDGs - Partnerships ② A: Conversation Activity B: Listen and Review C: Read and Discuss D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Current News and Media ② A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	CALL - Computer Assisted Language Learning ③ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Research Project Preparation ① A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Research Project Preparation ② A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Current News and Media ③ A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	CALL - Computer Assisted Language Learning ④ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Content Assessment and Planning A: Conversation Activity B: Discussion C: Feedback	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026236 研究演習Ⅴ　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026237 研究演習Ⅴ　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020026238 研究演習Ⅴ　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020026239 研究演習Ⅴ　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	アントレプレナーシップの定義（ガイダンス、基礎理解） アントレプレナーシップにおける自己理解(Who am I？) 自己分析：自分に向き合い、自分のリソースに気づく 目標設定：確実に行動につながる目標設定(SMART)、具体化スキルの取得(PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	起業家のケーススタディ： リサーチ①　(情報集め、分析、PC作業)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	起業家のケーススタディ： リサーチ①の発表 自己理解のまとめ：　自分「らしさ」を言語化し、アクションプランを考える。	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	起業プロセス/アントレプレナーシップとは?	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	身近のアントレプレナーシップ　ケース・スタディー(事例研究)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	フィールドワーク①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	起業家のケーススタディ：リサーチ②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	デザイン思考①	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	デザイン思考②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	ソーシャル　アントプレナーシップ 課題解決に向けての企画	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	フィールドワーク②	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	課題解決に向けての企画(助成金)	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	レポート作成	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	発表、フィードバック、企画の見直し	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027203 研究演習Ⅵ　バリーゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	バリー・H・グロスマン		

学習目標(到達目標)

Students will study and practice in order to have a working knowledge of English. Working knowledge includes both oral and written communication. Practice and improvement in both will be expected. Additionally, classwork, fieldwork, and homework related to the 'Smile Cambodia' project is expected. This may include planning, creation, and implementation of donation collections as well as communication with persons or organizations involved with Cambodia.

授業概要(教育目的)

This class aims to allow students the opportunity for efficient English improvement by way of an online English learning system. This will improve both speed and efficiency in learning. This class will also support the students' language skills and help motivate them by offering a lasting record of their efforts in the community long after they have graduated (via the smartphone application). Through these methods, students will gain an awareness of the overall linguistic skills necessary to function in an English-speaking environment.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年間を通じて、ゼミ活動での発揮度や協力度、英語での進歩や動力；個人のディスカッション容、英語でのプレゼンテーションを発表するなどにより総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

フィードバックは、1対1のディスカッション、クラスワークや宿題の結果のフィードバック、小テストの結果のフィードバックなど、コースを通してさまざまな方法で行われる。

参考文献

講義時使用テキスト

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

学生へのメッセージ

ゼミでの授業、活動、宿題、個人研究は全て英語のみですから英語を上達したい学生が申し込んで下さい。積極的に自らの考え方、研究、発表などが自分で伝わりたい気持ちや勇気が大切です。授業以外は倍以上の宿題がありますから、時間をかけたい学生は英語力には恩恵となります。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	A: Class Explanation B: Finding Lost Worlds	Class Explanation & Introductions Task	Class Explanation & Introductions Task
2	Are you a Good Liar?	Opening Journaling	Closing Journaling
3	Santa's Magical Sleigh	Opening Journaling	Closing Journaling
4	Science is for Girls, too	Opening Journaling	Closing Journaling
5	Date your Hypothesis, Never Marry it	Opening Journaling	Closing Journaling
6	Why do we Laugh?	Opening Journaling	Closing Journaling
7	The iPhone 6 Health App	Opening Journaling	Closing Journaling
8	Cat Videos Keep the Doctor Away	Opening Journaling	Closing Journaling
9	Lose Weight with Small Plates	Opening Journaling	Closing Journaling
10	Clenching Fists Boosts Memory	Opening Journaling	Closing Journaling
11	Never Too Young for Science	Opening Journaling	Closing Journaling
12	The Distracted Mind	Opening Journaling	Closing Journaling
13	From Trash to Trendy	Opening Journaling	Closing Journaling
14	And They Finally Meet	Opening Journaling	Closing Journaling
15	Presentations	Opening Journaling	Closing Journaling

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027206 研究演習Ⅵ　田中ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

2023年度の本演習は、複式簿記の理論的に研究しつつ、日商3級レベルの処理を習得することを目的とする。テキストを熟読し、理解し、さらに自らの言葉で、的確に問題の要請する解答を書くことのできる能力を必要とする。そのことは同時に、「社会人基礎力」を養成することにもつながっていく。

本演習に参加するゼミナリステンは、それぞれの段階の「試験合格」という目標を持った学修を進めていく。さらに、財務諸表を作成する力、読み込む力も身につけることが可能となる。これは、自らの「就職力」を高めていくことにつながっていくと確信する。

将来職業イメージとしては、職業会計人(税理士、国税専門官など)や一般企業の財務・経理担当者、営業職、自治体の財政課職員などである。

授業概要(教育目的)

【年次計画】

＜2年次＞第一に、日本商工会議所簿記検定3級に合格することを目標として、要点の説明を行い、練習問題に取り組む。答え合わせも含めた解説を行い、合格の実力を養成する。第二に、3級に合格した後は2級に挑戦する実力を身に付ける努力をする。

＜3年次＞引き続き資格取得を目標として、理論的関心及び簿記論挑戦の基礎学力を養う。そのため日商2級に合格する実力を養う。平行して、就職活動準備及び実践に取り組む。

＜4年次＞税理士試験(簿記論)受験の基礎学力習得ため、引き続き日商2級合格を目指す。就職活動も引き続き行う。さらに、卒業論文に取り組み、完成させ、発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

全ての年次において、出席し、まじめに練習問題に取り組むこと、積極的に発表することが評価の基本である。

課題に対するフィードバック

執筆後、修正点を指摘する。

参考文献

講義時使用テキスト

政岡光宏編『初めて学ぶ財務諸表分析　三訂版』同文舘出版、平成25年

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】

自ら決めた目標に挑戦し、それをやり遂げていく実力を身につけるため、堪えざる努力をして欲しい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	経営分析の定義/分析対象としての会社	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
2	財務諸表の仕組みの理解①(財務諸表とは何か)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
3	財務諸表の仕組みの理解②(貸借対照表の構造と構成)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
4	財務諸表の仕組みの理解③(損益計算書の構造と構成)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
5	経営分析の目的と分析技法①(経営分析の目的/主体による目的の相違)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
6	経営分析の目的と分析技法②(経営分析の技法/期間比較と企業間比較)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
7	収益性分析①(収益性分析と何か)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
8	収益性分析②(資本利益率とその分解)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
9	収益性分析③(利益率系統の分析)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
10	収益性分析④(回転率系統の分析)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
11	安定性分析①(自己資本比率)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
12	安定性分析②(短期的支払能力の分析)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
13	安定性分析③(長期投資の安全性)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
14	経営分析の実践①(化粧品業界の収益性分析)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。
15	経営分析の実践②(化粧品業界の安定性分析)	テキストの該当箇所を読む。	練習問題を反復して行う。

講義名	2020027209 研究演習Ⅵ　村本ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

卒業論文・卒業制作を通じて、ITを活用した問題解決の提案ができる。

授業概要(教育目的)

従来インターネットを利用したコンテンツ配信を実現するためには、高速大容量な回線・高性能なサーバ機器を必要としてきたが、近年、クラウドコンピューティングにより、自前で情報システムを整備することなくシステム構築ができるようになりつつある。また、動画共有サイト等を利用して個人が簡単に情報配信することも可能となり、この仕組みをビジネスに有効活用しようとする取り組みも増えている。
本ゼミでは、デジタルコンテンツの編集技術やそれらを配信する仕組みについて調査・研究し、大学内や地域での活用を目的としたデジタルコンテンツ管理システムの構築・運用を行いながら、実践的な知識の習得とビジネスへのIT活用能力を培う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

卒業制作、卒業論文への取り組みを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。はちがくキャンパスWebに授業資料を掲載する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	研究演習用グループウェアの活用説明	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
2	卒業論文・卒業制作の 説明	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
3	卒業論文・卒業制作の 計画作成	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
4	卒業論文・卒業制作①（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
5	卒業論文・卒業制作②（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
6	卒業論文・卒業制作③（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
7	卒業論文・卒業制作④（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
8	卒業論文・卒業制作⑤（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
9	プレゼンテーション（中間発表会）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
10	卒業論文・卒業制作⑥（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
11	卒業論文・卒業制作⑦（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
12	卒業論文・卒業制作⑧（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
13	卒業論文・卒業制作⑨（指導・作成）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
14	卒業論文・卒業制作⑩（まとめ）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。
15	プレゼンテーション（卒業論文・卒業制作の 発表）	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を 読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で 紹介した資料や 参考図書、Webサイト等を 確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に 合うように 調べておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027212 研究演習Ⅵ　奈良ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

4年次「研究演習」の到達目標は、以下の2点である。
①これまで2年間のゼミ活動を通じ、培った問題意識に立脚し、各自、選択したテーマについて、卒業論文を作成し、発表し、大学における学習の集大成としていただく。
②卒論発表時のみならず、平素のゼミにおいても、2年次及び3年次以上に、質疑、討論に、積極的に参加していただき、「議論する力」を大いに高めていただく。

授業概要(教育目的)

最終学年を迎えた4年次「研究演習」(奈良ゼミ)の目的は、卒業論文を作成することにより、2年次及び3年次に培った、「調べる力」と「議論する力」、つまり、経済学に関わる様々な問題を調べ、考察し、分析し、まとめ、討論する方法をさらに高め、様々な局面で、それらを応用する力を身に着けることである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レジュメの作成、発表、その他の課題等々、平素のゼミにおける取組状況を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ゼミの中での各自の発表に対し、また、発表する際に、各自が作成し、使用したレジュメに対し、ゼミの中で、随時、講評し、アドバイスを贈る。

参考文献

講義時使用テキスト

以下の2点を、教材として用いる。
①担当教員作成のテキスト(「研究演習」要綱)、
②その他、インターネットを通じ入手する資料。

資格との関連

学生へのメッセージ

奈良ゼミでは、データを分析、レジュメの作成等を円滑に行うため、ゼミにノートパソコンを持参し、利用していただきます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	卒業論文中間発表。	各自作成したレジュメを確認する等、発表の準備をする。	発表時のアドバイスを踏まえ、レジュメを見直す。
2	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメを読み直す。
3	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメを読み直す。
4	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメを読み直す。
5	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメを読み直す。
6	卒業論文中間発表。	各自作成したレジュメを確認する等、発表の準備をする。	発表時のアドバイスを踏まえ、レジュメを見直す。
7	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメの読み直し。
8	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメの読み直し。
9	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメを読み直す。
10	卒業論文中間発表レジュメ作成 & 特定のテーマに基づく討論。	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上のレジュメを読み直す。
11	卒業論文中間発表。	各自作成したレジュメを確認する等、発表の準備をする。	発表時のアドバイスを踏まえ、レジュメを見直す。
12	卒業論文完成版の作成方法	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料を読み直す。
13	卒業論文完成版の作成	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上の卒論原稿を読み直す。
14	卒業論文完成版の作成	スケジュールを確認する。	ゼミで配布された資料と各自作成途上の卒論原稿を読み直す。
15	卒業論文完成版の提出。	スケジュールを確認するとともに、卒論の提出に備え、最終的な確認を行う。	ゼミで得たアドバイス、ゼミで学修した内容を振り返る。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027213 研究演習Ⅵ　坂本ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

ICT活用方法について理解し、「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できる。
ICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用ができる。

授業概要(教育目的)

コンピュータは「電子計算機」と呼ばれていたように、計算の道具として開発されましたが、今では、表現やコミュニケーションの道具として、私たちの日常生活をより豊かにしてくれるようになりました。さらにインターネットの普及拡大に伴い、情報通信技術(Information Communication Technology:ICT)の活用は、クラウドコンピューティングやユビキタスネットワークを中心とする新たな時代になっています。
社会人となる学生にとっては、ICT活用方法について理解し、基礎的能力を身につけておく必要があります。どんな仕事にも難題があるように、近年の社会では「問題解決能力」が求められ、ICTの利活用についても「作る技術」よりも、「使う技術」が求められるようになって来ています。「問題解決」のため色々と試し、楽しみながら情報や情報技術を適切に活用できることが重要な力だと思います。それには、情報や情報技術の知識だけでなく、課題を見つけ出し、仮説を立て、試行錯誤を繰り返しながら、答えに近づいていく、という力が必要です。
本ゼミでは、社会人として身につけるべきICTの知識やICT活用技術としての各種アプリケーションソフトウェアやネットワークの利活用方法を中心に考察します。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

●課題への取り組み態度・達成度を総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

講義時使用テキスト

適時、配布・説明。

資格との関連

ITパスポート試験

学生へのメッセージ

●学内外からインターネット利用可能なノートパソコン利用しますので準備してください。
●社会のあらゆる分野に興味を持つことと、自身が設定したテーマについては情報の収集、整理、分析等に積極的に取り組む姿勢が必要です。
●情報通信技術(ICT)を理解し、活用できる基礎的能力を身につけ、未来をともに切り開いていきましょう。
●無断欠席不可。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	文献読解と整理・保管①	研究調査段階で収集した情報を精読し情報を整理する	必要な情報を見極め、取捨選択する
2	文献読解と整理・保管②	研究調査段階で収集した情報を精読し情報を整理する	必要な情報を見極め、取捨選択する
3	文献読解と整理・保管③	研究調査段階で収集した情報を精読し情報を整理する	必要な情報を見極め、取捨選択する
4	文献読解と整理・保管④	研究調査段階で収集した情報を精読し情報を整理する	必要な情報を見極め、取捨選択する
5	文献読解と整理・保管⑤	研究調査段階で収集した情報を精読し情報を整理する	必要な情報を見極め、取捨選択する
6	文献読解と整理・保管⑥	研究調査段階で収集した情報を精読し情報を整理する	必要な情報を見極め、取捨選択する
7	仮アウトライン作成	論文の展開を考える	第三者にも分かるように整理する
8	仮執筆①	執筆を進め、試行錯誤しながら章立て考える	必要な情報を見極め、取捨選択する
9	仮執筆②	執筆を進め、試行錯誤しながら章立て考える	序論や主張、根拠を明らかにして順番を考える
10	仮執筆③	執筆を進め、試行錯誤しながら章立て考える	序論や主張、根拠を明らかにして順番を考える
11	仮執筆④	執筆を進め、試行錯誤しながら章立て考える	序論や主張、根拠を明らかにして順番を考える
12	仮執筆⑤	執筆を進め、試行錯誤しながら章立て考える	序論や主張、根拠を明らかにして順番を考える
13	最終アウトライン作成	章立てを確定する	下書きを推敲する
14	出典の表記確認	参考文献の情報を整理する	参考文献を明記する
15	仕上げ・提出	下書き推敲を繰り返し、提出前に確認する	提出後の論文を再確認する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027216 研究演習Ⅵ　幸田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

・会計学に関する研究を通じて、社会人に必要な情報の収集方法、資料の作成方法およびプレゼンテーション能力を習得する。
・簿記に関して正確かつ迅速な会計処理ができるよう、日商簿記検定試験2級程度の知識を習得する。

授業概要(教育目的)

自己の研究(研究課程の中で興味や関心のあるテーマ)について、作成・発表を行いながら卒業論文を完成させる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミへの貢献度、課題の提出状況、発表内容などから総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

適宜、指示する。

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
・本演習は、出席が大前提であり、無断欠席・遅刻は厳禁である。
・検定試験の取得に真剣に取り組むことのできる学生、ならびに会計学を学ぶ意欲の高い学生を歓迎する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	卒業論文の 進捗状況報告①(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
2	卒業論文の 進捗状況報告①(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
3	卒業論文の 進捗状況報告②(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
4	卒業論文の 進捗状況報告②(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
5	プレゼンテーション資料の添削(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
6	プレゼンテーション資料の添削(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
7	卒業論文の 中間報告(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
8	卒業論文の 中間報告(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
9	プレゼンテーション資料の 修正・報告(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
10	プレゼンテーション資料の 修正・報告(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
11	卒業論文の 進捗状況報告③(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
12	卒業論文の 進捗状況報告③(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
13	卒業論文の 発表(第1組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
14	卒業論文の 発表(第2組)	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。
15	卒業論文の提出	卒業論文の内容、論点を整理する。	卒業論文の内容、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027218 研究演習Ⅵ　髙須ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

現代社会における紛争解決の最終的手段である司法の在り方とそこで用いられている法的思考の道具立てを理解することを目的とする。

授業概要(教育目的)

本演習は、基本書、判例などを読み解くことで、具体的事件を解決するための妥当な結論がどのように導き出されているかを理解することで、法的思考を養成する。そして、最終的には資格試験、公務員試験などの法的問題にも対応できる能力を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表内容・レジュメなどを総合して評価する。

課題に対するフィードバック

卒論報告に対するコメントを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

授業中、適宜、参考文献を指示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

原則として、必ず出席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	第1回:卒論の報告(1)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	第2回:卒論の報告(2)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	第3回:卒論の報告(3)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	第4回:卒論の報告(4)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	第5回:卒論の報告(5)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	第6回:卒論の再報告(1)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	第7回:卒論の再報告(2)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	第8回:卒論の再報告(3)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	第9回:卒論の再報告(4)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	第10回:卒論の再報告(5)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	第11回:卒論の再々報告(1)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	第12回:卒論の再々報告(2)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	第13回:卒論の再々報告(3)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	第14回:卒論の再々報告(4)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	第15回:卒論の再々報告(5)	文献資料の該当箇所を通読し、論点をまとめておく	報告内容に対する批判点を整理し、分からない点があれば調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027222 研究演習Ⅵ　加来ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

①卒業論文の執筆について学び、卒業論文を完成させる能力を身につける。
②卒業論文を完成させ、自身の考えを発表する能力を身につける。

授業概要(教育目的)

研究演習Ⅴを踏まえ、卒業論文を完成させ、それらをまとめ発表する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

卒業論文の内容および発表によって評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
卒業論文の作成は自主性が求められる。計画に基づき、行動しなければ論文を完成させることは難しい。就職活動等で多忙になる4年次生は、徹底したスケジュール管理が求められるとともに、時間を有効的に活用することが望まれる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 卒業論文の進捗報告(Aチーム3)	シラバスを確認する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	2. 卒業論文の進捗報告(Bチーム3)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	3. 卒業論文の進捗報告(Cチーム3)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	4. 卒業論文の進捗報告(Aチーム4)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	5. 卒業論文の進捗報告(Bチーム4)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	6. 卒業論文の進捗報告(Cチーム4)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	7. 卒業論文の進捗報告(Aチーム5)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	8. 卒業論文の進捗報告(Bチーム5)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	9. 卒業論文の進捗報告(Cチーム5)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	10. 卒業論文の仮提出および卒業論文発表資料の 作成(Aチーム1)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	11. 卒業論文の仮提出および卒業論文発表資料の 作成(Bチーム1	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	12. 卒業論文の仮提出および卒業論文発表資料の 作成(Cチーム1)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	13. 卒業論文発表資料の作成	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	14. 卒業論文プレ発表(練習)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	15. 卒業論文の提出および発表会	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027229 研究演習Ⅵ　横田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①国際社会の諸課題の因果関係を自ら解明し、説明できるようになる。
②これまでの研究成果を論文としてまとめ、自らの考えを論理的に表現できる能力を身につける。
③地球的諸問題に対する解決策を自ら導出し、よりよい世界の実現に向けて行動できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、世界のさまざまな出来事から影響を受けるだけではなく、地球的諸問題の解決に貢献することも可能である。国際社会に存在する課題に取り組んでいくためには、その因果関係を自ら解き明かし、論理的に説明できるようになることが不可欠である。本演習では、この点を踏まえ、履修者が各自、卒業研究を進め、その結果を論文としてまとめるとともに、発表も行い、グローバル・アクターとして求められる地球的諸問題に対する論理的思考力を定着させると同時に、プレゼンテーション能力の向上を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

発表や報告の内容、ディスカッションでの発言などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

発表やディスカッションの際にコメントするとともに、レポートおよび論文の草稿に対してフィードバックを行う。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

なし。

資格との関連

学生へのメッセージ

ゼミナール(研究演習)は、大学生活のなかで最も重要な活動の1つであり、学生を主体として進めていく。そのため、積極的な参加と自主的に研究を進めていくことが求められる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	卒業論文の中間発表①	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
2	卒業論文の中間発表②	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
3	卒業論文の中間発表③	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
4	卒業論文の中間発表④	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
5	卒業論文の草稿の発表①	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
6	卒業論文の草稿の発表②	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
7	卒業論文の草稿の発表③	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
8	卒業論文の草稿の発表④	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を修正する。
9	卒業論文(初稿)の検討①	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を完成させる。
10	卒業論文(初稿)の検討②	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を完成させる。
11	卒業論文(初稿)の検討③	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を完成させる。
12	卒業論文(初稿)の検討④	これまでの研究成果を論文にまとめるとともに、その内容をレジュメに要約しておく。	アドバイスをもとに、論文を完成させる。
13	卒業論文の発表会①	卒業論文(決定稿)の内容をパワーポイントにまとめておく。	必要な場合は該当箇所を修正したうえで、論文を提出する。
14	卒業論文の発表会②	卒業論文(決定稿)の内容をパワーポイントにまとめておく。	必要な場合は該当箇所を修正したうえで、論文を提出する。
15	卒業論文の発表会③	卒業論文(決定稿)の内容をパワーポイントにまとめておく。	必要な場合は該当箇所を修正したうえで、論文を提出する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027230 研究演習Ⅵ　堤ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・学生が研究を行うために必要な情報を適切な方法で検索できる。
・学生が研究を行うために得た情報を適切な方法で整理できる。
・学生が研究計画を立てることができる。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

課題に対するフィードバック

課題(レポート)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	収集した文献の整理①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	収集した文献の整理②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	収集した文献の整理③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	収集した文献の整理④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	収集した文献の整理⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	収集した文献の整理⑥	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	入手した文献の内容紹介①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	入手した文献の内容紹介②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
9	入手した文献の内容紹介③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
10	入手した文献の内容紹介④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
11	入手した文献の内容紹介⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
12	研究計画書作成①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
13	研究計画書作成②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
14	研究計画書作成③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
15	研究計画書作成④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027231 研究演習Ⅵ　馬場ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

・学生が研究を行うために必要な情報を適切な方法で検索できる。
・学生が研究を行うために得た情報を適切な方法で整理できる。
・学生が研究計画を立てることができる。

授業概要(教育目的)

地域活性化、地域力アップのための国内外の地域事例を学ぶとともに、積極的に地域へ出かけ、自分の目で見て、聞いて、調べるというフィールドワークを主体とします。地域を知ることは、様々な人を知る良い機会となるだけではなく、多くの人と交流することでコミュニケーション能力が高まります。また、様々な地域課題を適切に掘り起し、課題解決策を考え、提言していく力を身につけていくことにつながります。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

課題に対するフィードバック

課題(レポート)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【学習上の留意点】
ゼミ学習では、基本的に自主的な学習を基礎に運営するため予習は必ず行ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	収集した文献の整理①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
2	収集した文献の整理②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
3	収集した文献の整理③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
4	収集した文献の整理④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
5	収集した文献の整理⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
6	収集した文献の整理⑥	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
7	入手した文献の内容紹介①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
8	入手した文献の内容紹介②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
9	入手した文献の内容紹介③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
10	入手した文献の内容紹介④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
11	入手した文献の内容紹介⑤	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
12	研究計画書作成①	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
13	研究計画書作成②	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
14	研究計画書作成③	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。
15	研究計画書作成④	興味・関心のある研究対象について関連書籍やインターネット等で調べる。	配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。

講義名	2020027232 研究演習Ⅵ　井上ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

特定の地域を選び、その地域が活性化するための事業計画や企画開発を構築し実施することで、実社会の現場でも役に立つ企画提案力やコミュニケーション能力を身につける。

授業概要(教育目的)

関係各所との調整を行い、フィールドワークやアンケート調査によって情報を収集し、分析結果をもとに企画を構築。それを関係者へ提案し実施、振り返りを行い、最終成果を発表する。事業や企画を検討する際にはマーケティングやマネジメント知識を活用し、提案や発表する際には広報戦略や持続可能性を考える。また、活動を通して地域でのキャリアについても検討していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

ゼミ活動におけると取組姿勢やディスカッション、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価します。

課題に対するフィードバック

課題は採点やコメントした上で返却する。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

机上の学問だけではなく、地域全体を学びのフィールドとすることが大切だと考えている。講義時間以外で学外でのフィールドワークを行うこともある。社会に出てから体験することは非常に難しく、学生だからこそ体験できる貴重な学びの機会である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	卒業論文計画とスケジュール確認	自分自身について振り返り、整理しておく	配付資料を読み直す
2	研究計画作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	研究資料整理	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	卒業論文作成指導①	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	卒業論文作成指導②	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	卒業論文作成指導③	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	中間発表資料作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	ゼミ内中間発表会	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	卒業論文作成指導④	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	卒業論文作成指導⑤	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	卒業論文作成指導⑥	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	卒業論文完成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	卒業論文発表資料作成	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	卒業論文発表会	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	発表会振り返り	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

講義名	2020027234 研究演習Ⅵ　木村浩哉ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

八戸圏域におけるスポーツの活性化について課題を総合的に認識し、解決に向けた分析、解決能力を身につける.

授業概要(教育目的)

将来地域スポーツの牽引車になるために、スポーツを「する」「観る」「支える」の観点から、基礎的な能力や広い社会性を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

八戸市スポーツ推進計画(平成31年3月、八戸市

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	種差海岸(釜の口)での観光客・散策者サポートについての整理、分析	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策1	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	種差海岸(白浜漁港～芝生キャンプ地)散策2	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	八戸市のスケートの歴史	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	YSアリーナの活用の実際 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	YSアリーナの活用2 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	YSアリーナの活用3 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	YSアリーナの活用4 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	YSアリーナの活用5 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用についてのレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	YSアリーナの活用6 アフタースケートから中心街の活性化を考える。レポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	YSアリーナの活用7 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	YSアリーナの活用8 日本で3箇所のみの屋内400mスピードスケートリンクの有効活用の実際	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	YSアリーナと中心街の活性化1 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	YSアリーナと中心街の活性化2 スポーツ施設が街の活性化につながっている全国的な例を調査、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	地域スポーツとしてのスケートの価値 八戸圏域におけるスポーツ文化としてのスケートの意義についてレポート作成、発表	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

講義名	2020027235 研究演習Ⅵ　アンソニーゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

The objective of this research seminar is to improve students' practical English skills, develop learner autonomy, and provide a deeper understanding of foreign cultures, while considering Japan's position through a global perspective in order to prepare and empower students for their lives in a rapidly globalizing Japan.

授業概要(教育目的)

As contending with the English language online, in technology, and with international media can be some of the most immediate and relevant challenges for many Japanese adults, this research seminar aims to employ various technologies and online resources as tools to improve students' English ability, develop learner autonomy, and foster greater international awareness. This seminar requires students to join both an intensive English language study program as well as participate in the Aomori Global Academy in order to enhance communication ability and "glocalization" knowhow. Additionally, this seminar will examine the Sustainable Development Goals (SDG's) as established by the United Nations as well as considering Japan's and other nations' responsibilities and efforts towards realizing these goals. Even without future goals of studying or working overseas, this seminar's approach will enable students to become more capable and confident global citizens within Japan.

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域の産業構造や地場産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

年次計画通り、ゼミ活動の積極的な参加・テスト・宿題・タスク等の実施、英語でのやり取に懸命に取り組むこと。

ゼミ時間中・課題。宿題などでは、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価する。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
English Centralオンライン教材で各自の評価・工程等は確認できます。

参考文献

講義時使用テキスト

①「Living as Global Citizens: An Introduction to the Sustainable Development Goals (地球市民として生きる:英語でSDGs実践入門)」NAN'UN-DO (ISBN: 9784523179313)

②「English Central」オンライン教材(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)＊春学期の「研究演習Ⅰ」と秋学期の「研究演習Ⅱ」両方登録学生は1年間の予約購読になる。

＊アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

①英語検定試験TOEIC(年2回受験)
②CNE1・CLASSMATE英語学習コースの参加・修了書(オンラインもしくは海外)(2年次)
③Aomori Global Academyの参加・修了書(3年次)

実務との関連

日本でのグローバル向け職業、日本で外国人の対応・英語に関わる職業
(日本でのグローバル向け・日本で外国人の対応・英語力(英語検定試験資格も含む))。

学生へのメッセージ

このゼミは基本英語で行う。ゼミの活動・内容・情報共有等の理解・動力するのはゼミ学生一人一人の必要条件。ゼミ学生も基本英語でのコミュニケーションが必要条件。

〈2年次〉〈3年次〉〈4年次〉
①メディアを通じて英語学習・異文化理解(ゼミ活動・プロジェクト等)
②英語検定試験(学内TOEIC等)を年2回受ける
③2年次の間、4週間以上フィリピンのCNE1学校・CLASSMATE等の集中英語学習コースを受講・完了
④3年次の間、青森県の「Aomori Global Academy」を受講・完了(年内週末x3回)
⑤4年次の間、英語で研究発表(プレゼンテーション)を実施

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Planning with Online Technologies and Systems Explanation A: Conversation Activity B: Discussion C: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	CALL - Computer Assisted Language Learning ① A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	Research Project Preparation ① A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Research Project Preparation ② A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Current News and Media ① A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	CALL - Computer Assisted Language Learning ② A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	Research Project Preparation ③ A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Research Project Preparation ④ A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Current News and Media ② A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	CALL - Computer Assisted Language Learning ③ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	Research Project Preparation ⑤ A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Research Project Preparation ⑥ A: Conversation Activity B: Review and Feedback C: Preparation D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Current News and Media ③ A: Conversation Activity B: Investigate and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	CALL - Computer Assisted Language Learning ④ A: Conversation Activity B: Practice and Review C: Discussion D: Write Journal	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Content Assessment and Planning A: Conversation Activity B: Discussion C: Feedback	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027236 研究演習Ⅵ　川守田ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について 最終確認	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	研究プロジェクト発表、フィードバック	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027237 研究演習Ⅵ　楊ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について 最終確認	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	研究プロジェクト発表、フィードバック	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027238 研究演習Ⅵ　埴原ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について 最終確認	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	研究プロジェクト発表、フィードバック	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2020027239 研究演習Ⅵ　堀谷ゼミ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。
「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである(Drucker,1993)。

起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。「社会の課題を見つけ、解決する力」又は、「夢中になれることを仕事にする力」を習得することを目標とし、講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。

授業概要(教育目的)

高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きて いく力の育成(レジリアンス)のために、起業家精神と起業家的資質・能力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

活動やフィールドワークを通じて、現状と課題を理解し、アントレプレナーに必要な行動特性(コンペテンシー)を身につけている。

評価方法

実践の状況、研究演習の発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

対話、発表を通じて、自分と他者との意見を比較しながら、課題解決に臨む。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

未経験なことについても挑戦してみる積極的な態度を望む。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション・ゼミの紹介と課題について 最終確認	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
2	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
3	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
4	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
5	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
6	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
7	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
8	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
9	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
10	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
11	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
12	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
13	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
14	研究プロジェクト	インターネット検索	インターネット検索 意見交換
15	研究プロジェクト発表、フィードバック	インターネット検索	インターネット検索 意見交換

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520009000 経営学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

経営学を体系的に初めて学ぶことを前提に講義内容を構成している。本講義の学習目標は2つ。企業及び組織の経営・管理に関する理論及び企業・公共事業体等組織が直面する課題と対応を理解できること。

1. 経営学の基本的知識の習得
2. 現代社会における“経営”のあり方を把握することで、基本的な経営学の理論と実例を説明できる。
3. 積極的に学ぶ意欲を保持できるようになること。企業及び組織の経営・管理に関する理論及び
企業・公共事業体等組織が直面する課題と対応を理解できること。

授業概要(教育目的)

本講義では、経営学をいつくかのテーマに沿った形式で講義を進める。そもそも経営学の意義とは、経営とは何か等から始め、現代の資本主義社会の重要なファクターである企業経営を中心に、企業の成り立ち、利益を上げる仕組みや健全な経営、経営組織で働く人々の尊重等々について、事例を用いた講義を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている

評価方法

・講義内で実施する小テスト・課題等提出物：50%
・定期試験または期末課題：50%

課題に対するフィードバック

課題等は採点の上返却する

参考文献

講義中に適宜紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス・・経営学の概要と学習の意義、講義の説明	「経営学」についてインターネットで調べてみる	講義ノートに目を通す
2	企業経営の全体像・・企業を取り巻く環境、企業活動とは	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
3	経営学の全体像・・稼ぐと儲けることの相違、経営学の対象とは	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
4	企業と会社・・会社の誕生、企業形態と株式会社の成立	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
5	企業創業と経営理念・・起業家精神の重要性、経営理念の意義	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
6	企業と市場の関係―インプット市場とアウトプット市場、利益の本質	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
7	戦略から経営戦略へ・・戦略とは何か、経営戦略の考え方	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
8	競争戦略のマネジメント・・競争優位の戦略、競争要因と基本戦略	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
9	企業の社会的責任・・CSRとは何か、CSRの多様性	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
10	大企業の経営・・大企業経営の特徴と組織構造	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
11	中小企業・ベンチャー企業の経営・・中小企業・ベンチャー企業経営の特徴と組織構造	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
12	ファミリービジネスの経営・・ファミリービジネス経営の特徴と組織構造	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
13	高公共性事業組織の経営・・社会的企業、病院、教育機関などの高公共性事業組織の経営	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
14	企業と人的資源・・企業組織を構成する人的資源の育成とキャリア開発	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
15	総括・・本科目の体系的理解とまとめ	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す

講義名	2520010000 経済学入門						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の①～④を講義の到達目標とする。
①学問としての経済学の存在意義(経済学とは何か、何のために存在するのか)を把握する。
②私たちが暮らす経済・社会のしくみを理解し、経済学の視点に基づく、物事の見方、考え方の基礎を学び、身につける。
③学問体系としての経済学が創始され、発展してきた歴史的な経緯を学び、把握する。
(八戸学院大学地域経営学部の2年生以上に配当される予定の経済学に関連する科目を念頭におき、経済学の一分野であるミクロ経済学、及びマクロ経済学は、いかなる社会の状況、背景のもと生み出されたのかを理解する。)
④上記③のミクロ経済学、マクロ経済学等、八戸学院大学地域経営学部で開講される2年生以上配当の経済学に関連する科目を理解するに必要な基礎を身につける。

授業概要(教育目的)

「経済学入門」は、私たちが暮らす経済・社会の基本的な仕組み、また、経済学の視点に立脚した考え方の基本、さらに、八戸学院大学における2年次以上配当の経済学関連科目(「ミクロ経済学」、「公共経済学」、「マクロ経済学」、「経済政策論」等)を学ぶための基礎的な知識、考え方を身につけることを目的とする。
「経済学入門」では、はじめに、学問としての経済学が創始された歴史的背景、その時々の社会の状況を反映しつつ、ミクロ経済学、マクロ経済学といった新たな学問領域の成立に至る経緯をあつかう。次に、経済主体、経済活動、及び、市場における取引と、それによる価格決定、(GDP等)一国全体における経済指標の表し方といった経済・社会の在り方を考察するに必要な考え方の基本をあつかう。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に随時実施する小テスト、その他課題を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

・小テストの模範解答をWebClassにアップロードし、通宜、解説を行う。

参考文献

講義時間中に随時説明する。

講義時使用テキスト

(必携)担当教員作成の講義資料を章ごとに配布し、メインテキストとして使用する。

資格との関連

学生へのメッセージ

「経済学入門」は必修科目であり、経済学関連の科目だけではなく、地域経営学部のすべての専門科目を学ぶ基礎となる。しっかり授業に出席し、しっかり理解することに努めること。また、「経済学入門」で学んだ知識を確認し、経済学に対する興味を深めるためにも、新聞を読み、社会の動きを知り、問題意識を養うこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「経済学入門」の目的と内容	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	経済学の歴史を学ぶことの意義	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	古典派経済学の背景と内容	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	自由な経済活動と貿易の利益	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	新古典派経済学の背景と内容	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	自由な経済活動がもたらす弊害と政府の役割	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	新古典派経済学に関連する現代社会の考察:電力自由化と電力システム改革	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	ケインズ経済学の背景と内容	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	総需要の拡大と経済波及効果	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	ケインズ経済学に関連する現代社会の考察:地域の衰退と地域活性化のための事業	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	経済主体と経済活動	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	経済活動と財・サービス市場	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	需要・供給分析の具体例	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	GDPと経済循環	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	地域経営学部における経済学関連科目の概要と相互の関連	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

講義名	2520011000 法学概論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

①裁判と裁判所の種類について説明することができる。
②制定法の種類を説明することができる。
③犯罪の成立要件を説明することができる。
④近代憲法の原理について説明することができる。
⑤裁判員裁判について説明することができる。

授業概要(教育目的)

今日の社会では、さまざまな価値観や利害が交錯しており、これまでの常識やモラルだけで物事を処理することが難しくなってきている。そこで、多様な観点を包摂する法は、ますますその役割が期待されている。法学概論では、法的なものの考え方とその道具立てを学ぶものである。具体的には、法とその他の社会規範の関係、法の種類、法の支配の重要性、裁判の在り方と裁判所制度、法的思考としての法的三段論法、裁判員裁判制度を念頭に置いて犯罪の成立と罪刑法定主義、法解釈の方法等を学ぶものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

講義時使用テキスト

髙橋雅夫編著『法学』(弘文堂)

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
テキストを必ず持ってくること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	法学概論へのいざない:日常生活と法	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	日本における近代法制の輸入:五大法律学校と近代法制	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	裁判の仕組み(1):裁判の種類	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	裁判の仕組み(2):裁判所の種類	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	法的思考と法の支配	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	近代における立憲主義	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	法の存在形式(1):国家機関が制定する法:憲法・条約・法律・命令(政令・省令)・議員規則・最高裁判所規則・条例	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	前半のまとめ	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	日本国憲法(人権)[ゲストティーチャー]	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	犯罪と刑罰に関する法(1):罪刑法定主義と責任主義	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	犯罪と刑罰に関する法(2):犯罪の成立要件:行為性・構成要件該当性・違法性・有責性	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	裁判員裁判(1):裁判員裁判制度の意義と手続	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	裁判員裁判(2):DVDで模擬裁判員制度	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	法の存在形式(2):不文法:判例法(1)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	法の存在形式(3):不文法:判例法(2)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520012000 簿記原理Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

会計関連科目の基礎である簿記の基礎原理ならびに記帳技術の基礎を習得することを目的とする。具体的な到達目標は、簿記と財務諸表の関係と簿記一巡の流れを理解し、仕訳技術の基礎を習得することである。

授業概要(教育目的)

簿記は、財務諸表作成の基礎となる重要な技術である。社会における複式簿記の意義とその原理、そこから生み出される財務諸表への理解を促す。簿記原理Ⅰでは、会計学関連科目の理解に必要となる利益計算構造に関する知識の習得を目的としている。会計主体を最も単純な個人商店と想定し、簡単な事例を用いて、その活動を複式簿記のルールに従い、記録・集計し、貸借対照表ならびに損益計算書を作成、利益を確定するまでのプロセスを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版

講義時使用テキスト

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版

資格との関連

日商簿記検定3級の導入部。

学生へのメッセージ

問題演習を行うため、12桁以上の電卓が必携である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	簿記の基礎概念、簿記一巡の手続き	テキストの1頁から5頁、32頁を読んでおくこと。	簿記の意義や種類、簿記一巡の流れについて把握しておくこと。
2	簿記の要素(資産・負債・純資産) 決算書(貸借対照表)	テキストの6頁から8頁を読んでおくこと。	資産・負債・純資産)の特徴を把握しておくと。
3	簿記の要素(収益・費用) 決算書(損益計算書)	テキストの6頁から8頁を読んでおくこと。 第2回第3回の講義内容を再度確認しておくこと。	収益・費用の特徴を把握しておくこと。 30頁、31頁の「純損益の計算」をよくこと。
4	取引①(意義と種類)	テキストの10頁、11頁を読んでおくこと。	取引の意義と種類を確認しておくこと。
5	取引②(8要素と結合関係)	テキストの21頁を読んでおくこと。	借方要素と貸方要素の結びつきについて整理しておくこと。
6	仕訳	テキストの12頁から18頁を読んでおくこと。	仕訳のフォームを正確に把握しておくこと。
7	転記(勘定記入法)	テキストの12頁から18頁を読んでおくこと。	テキスト13頁を再度読み、勘定科目や勘定記入のルールを理解しておくこと。
8	帳簿(仕訳帳と総勘定元帳)	テキストの20頁を読んでおくこと。	簿記一巡の流れ、補助簿の種類について正確に把握しておくこと。
9	決算手続①(試算表の作成)	テキストの22頁から29頁を読んでおくこと。	決算手続の流れを正確に把握しておくこと。
10	商品売買取引①(記帳)	テキストの34頁から36頁を読んでおくこと。	テキストの34頁から36頁までの問題を再度解いてみること。
11	商品売買取引②(補助簿)	テキストの58頁から61頁を読んでおくこと。	テキストの62頁の問題を再度解いてみること。
12	現金・預金等取引①(現金)	テキストの64頁、65頁、76頁から79頁を読んでおくこと。。	テキストの64頁、65頁、76頁から79頁までの問題を再度解いてみること。
13	現金・預金等取引②(預金)	テキストの66頁から73頁を読んでおくこと。	テキストの66頁から73頁までの問題を再度解いてみること。
14	商品売買取引③(売掛金・買掛金等)	テキストの37頁から39頁、48頁から57頁、82頁から84頁を読んでおくこと。	テキストの37頁から39頁、48頁から57頁、82頁から84頁までの問題を再度解いてみること。
15	商品売買取引④(手形等)	テキストの41頁から47頁、86頁から93頁を読んでおくこと。	テキストの41頁から47頁、86頁から93頁までの問題を再度解いてみること。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520013000 会計学原理						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1.「会計とは何か」について、定義し、それについて説明できる。
2. 財務諸表(貸借対照表・損益計算書)の内容について説明できる。
テーマ:会計の原理的な内容の把握

授業概要(教育目的)

会計とは、事業体の経済活動を期間を定めて、貨幣額で記録・計算し、その結果を報告するシステムである(桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門[第16版]』有斐閣、2023年)。この定義を基礎として、本講義では、事業体の種類、経済活動の内容(資金調達・資金投下・営業)、(複式簿記という)記録方式の説明、「勘定」による計算、決算、「報告」を要請する制度的基盤(法的規制)について説明する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

学期末試験の成績により評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験成績に疑義のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義中に「会計学原理ノート」を配布する。

講義時使用テキスト

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門【第18版】』有斐閣、2025年

資格との関連

税理士試験「財務諸表論」の基礎的知識の習得

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1.会計とは何か ①… 会計の定義とその説明	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
2	2.会計とは何か ②… 財務会計と管理会計	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
3	3. 会計の規則 ①…会計制度についての概略を押さえる	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
4	4. 会計の規則 ②… 金融商品取引法、会社法などの会計規定の説明	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
5	5. 会計の役割…各種の情報利用者にとっての会計の役割の説明	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
6	6. 経済活動と会計 ①…資金調達活動と会計	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
7	7. 経済活動と会計 ②…資金投下活動と会計	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
8	8. 経済活動と会計 ③…営業活動と会計	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
9	9. 損益計算の基本原則 ①… 収益・費用の認識と測定	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
10	10. 損益計算の基本原則 ②…費用収益対応の原則等についての説明	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
11	11. 財産計算の基本原則 ①…評価とは何か	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
12	12. 財産計算の基本原則 ②…費用配分の原則等についての説明	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
13	13. 財務諸表概論①…損益計算書概論	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
14	14. 財務諸表概論②…貸借対照表概論	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。
15	15. 再び、会計とは何か…会計の定義の再確認と説明	1.テキストの該当箇所を読む。	1.配布資料をよむ。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520014000 コンピュータサイエンス						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. コンピュータの歴史・特徴・種類を説明できる。
2. コンピュータの構成と役割を説明できる。
3. OSの役割と種類を説明できる。
4. ネットワークの特徴としくみを説明できる。
5. 情報モラルとセキュリティについて説明できる。

授業概要(教育目的)

情報技術は，私たちの生活に深く浸透し，今や重要な社会インフラになっている．あらゆるシステムに情報処理技術が使われており，さまざまな場面において開発者側，利用者側といった区別なく，職業人として益々，情報技術に関する基礎知識が必要とされている．
この講義は，コンピュータの世界の内部の構造を話題として，情報処理に関する基礎的な事項について講義を進めて行く．情報処理技術者(ITパスポート試験)への最初の入口となり，受験そして合格への足がかりになることを目的としている．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験，Web小テストにより総合的に評価する．

課題に対するフィードバック

Web小テストの成績は、自動採点され個別に成績確認ができる．
試験の成績を知りたい学生には個別に開示する．

参考文献

必要に応じ、講義時に紹介する．

講義時使用テキスト

購入必携「これだけは知っておこう　情報リテラシー　noa出版」改訂第5版

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

1. 使用テキストの学習するステップごとに，小テストを実施するので，テキストは必ず購入準備すること．
2. 各ステップごとにスキルチェックし，自身のレベルの確認を行うこと．

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータサイエンスと資格について	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料を読み直す
2	コンピュータと情報	事前配布資料を読む	授業内容を整理し論点を整理する
3	コンピュータの歴史・特徴・種類	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
4	コンピュータの構成と役割	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
5	マザーボードとCPU	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
6	メモリと補助記憶装置	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
7	出力装置(表示装置と印刷装置)	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
8	入力装置の役割と種類（入出力インタフェース） 講義第2回～第8回までに学習したハードウェア分野に関するWEB小テストを実施する。	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する ハードウェア分野に関するWEB小テストで合格点に達するまで繰り返し受験すること
9	OSの役割と種類	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
10	アプリケーションソフトウェア 講義第9回～第10回までに学習したソフトウェア分野に関するWEB小テストを実施する。	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する ソフトウェア分野に関するWEB小テストで合格点に達するまで繰り返し受験すること
11	情報通信ネットワークの特徴と基礎	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
12	LANの方式とハードウェア	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
13	インターネットのしくみとサービス	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する
14	セキュリティ 講義第11回～第14回までに学習したネットワーク＆セキュリティ分野に関するWEB小テストを実施する。	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する ネットワーク＆セキュリティ分野に関するWEB小テストで合格点に達するまで繰り返し受験すること
15	情報モラル	事前配布資料とテキスト該当箇所を読む	授業内容を整理し論点を整理する

講義名	2520021000 経営史						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

1. 経営の歴史的内容を説明できる。
2. 国内外の代表的な企業の史的展開を理解し、経営学的な立場から説明できる。
3. わが国の近代化の過程を説明できる。

授業概要(教育目的)

有名企業や大規模企業といえども、当然、創業より現在まで、様々な社会情勢に直面してきたといえる。経営史は、単に個別の企業の歴史(時系列的な推移)を追うのではなく、企業を中心に据えつつも、その企業が直面してきた社会情勢や企業内での組織構造の変遷など、経営に影響を与えるような出来事に対して、どのように対処し、それに伴い企業としてどのように変化し、そして現在に至るかを考察するものである。

この授業では、前半部分ではアメリカの代表的な企業の事例をA.チャンドラーの『組織は戦略に従う』を通じて説明し、後半部分ではわが国の事例について解説する。具体的にはアメリカおよび日本における経営体の事例を通じて、歴史的視点から、どのような変化があり、それがどのように経営組織の構造を形成するに至ったのかについて検討することが本講義の目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)によって評価する。

課題に対するフィードバック

質問などがある場合には、個別に対応する。

講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

参考文献

A.D.チャンドラーJr, 有賀裕子訳『組織は戦略に従う』, ダイヤモンド社, 2004年。
清水剛「感染症と経営」, 中央経済社, 2021年。
前田正名『興業意見』, 光生館, 1971年。
細井和喜蔵『女工哀史』, 岩波文庫, 1980年。
三和良一『概説日本経済史　近現代』、東京大学出版会、1993年。
作道洋太郎・三島康郎・安岡重明・井上洋一郎共著『日本経営史』、ミネルヴァ書房、昭和62年。

その他の参考文献は適宜指示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

履修にあたり、経営学、経営管理論、経営戦略論を履修し、その知識を有していることが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	経営史とは 経営史とは何であるか 経営史と経済史	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
2	アメリカ経営学とドイツ経営学 なぜ現代経営学はアメリカで発展したか アメリカの歴史と結びつけて考える	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
3	アメリカの発展と企業 石油、鉄鉱石などの自然資源と鉄道 地域独占と企業買収による巨大化・寡占化	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
4	『組織は戦略にしたがう』① デュポン社の事例	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
5	『組織は戦略にしたがう』② GM社の事例	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
6	『組織は戦略にしたがう』③ スタンダード石油ニュージャージー社の事例	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
7	『組織は戦略にしたがう』④ シアーズ・ローバック社の事例	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
8	アメリカの4社の変遷のまとめ	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
9	日本の資本主義発展と企業の近代化	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
10	近代的紡績企業の発展とその後 クラボウの歴史と社会的企業 カネボウの歴史とベンタゴン経営	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
11	豊田織機からトヨタ自動車 豊田織機から産まれたトヨタ	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
12	殖産興業と地域経済① 前田正名『興業意見』と地域の産業化	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
13	殖産興業と地域経済② グンゼ(郡是)からみる殖産興業 殖産興業と現代	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
14	近年の情報化と経営史 GAFAMにみる急速な企業成長 情報化の進展と企業活動の変化	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す
15	授業のまとめ	参考文献の関連個所を読む	配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520022000 金融入門						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

本講義は、金融について初めて学ぶ学生が主な対象である。学生本人の人生とお金に関する基礎知識を身につけてもらい、金融リテラシーを向上させる。そして各自の人生のデザインを描き、社会人として自立する能力を確立するための学習を行う。さらに、本講義での学習を通じ、FP(ファイナンシャルプランナー)3級程度のレベルに達することを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

「金融入門」は、金融を初めて学ぶ学生を対象とした入門科目である。日常生活や将来に関わる「お金」について身近な事例やニュースを通して基礎的な知識や考え方を学び、その内容を学生自身の生活と結びつけて考える。単に知識を覚えるだけでなく、必要な情報を確かめて自分の状況に応じた選択や判断ができる力を養い、金融リテラシーの向上を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート、定期試験により総合的に判断する

課題に対するフィードバック

授業中にフィードバックしていく

参考文献

適宜紹介する

講義時使用テキスト

・日本ファイナンシャル・プランナーズ協会「学生生活マネー&キャリアお役立ちハンドブック！」
・日本ファイナンシャル・プランナーズ協会「10代から学ぶパーソナルファイナンス」
※授業中に配布いたします
・教員作成資料

資格との関連

本講義の内容は、国家検定である「ファイナンシャル・プランニング技能検定(FP技能検定)」と深く関係している。受講者は本講義の受講を通じてFP技能検定に必要な基礎知識を身につけることができる

学生へのメッセージ

本講義は、1年生を対象としている。
金融について初めて学ぶ学生も多いと思うが、金融に関する知識は日々の生活や将来設計など自分自身に深く関わるものである。そのため授業内容を自分自身の問題として捉え、これまでの生活を振り返るとともに、これからの生活や将来について考えながら学習に取り組んでほしい。
また新聞や雑誌、ニュースサイトなどに掲載されている金融関連記事にも日頃から関心を持つことで、授業内容への理解をさらに深めることができる。
授業で学んだことを大学生活だけでなく卒業後の生活や進路、将来の意思決定にも活用してほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	お金についてなぜ学ぶのか －自分の生活とお金の関係を考える	・授業内容についてインターネットで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	これからどんな生活をしたいか －10年後の自分を思い描く	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	大学生の生活にはいくらかかるか －収入と支出を見えるようにする	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	銀行は何をしているのか －預金・貸出・送金の仕組み	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	物価や金利が変わるとどうなるか －金融ニュースをもとに考える	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	支払方法をどう選ぶか －身近な契約と消費者トラブル	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	契約するとき何に気を付けるか －身近な契約と消費者トラブル	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	お金を借りる前に考えること －金利と返済を知る	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	何のためにお金を貯めるのか －目的と期間から貯蓄を考える	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	お金を増やすとはどういうことか －リスクとリターンの基本を知る	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	働くといくら受け取れるのか －額面と手取りの違いを知る	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	税金はどこで支払っているのか －給与明細と源泉徴収票から考える	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	病気や失業にどう備えるか －公的保障と民間保険の役割を知る	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	これからの働き方と年金を考える －働き方で変わる保障と年金	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	自分の人生とお金の計画を作る －学んだ知識で将来の計画を見直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・テキストの該当箇所を読む ・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

講義名	2520023000 人的資源管理						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

企業の経営資源には、物的資源(モノ)財務的資源(カネ)情報的資源(情報)人的資源(ヒト)とあるが、唯一自ら意志を持ち、自発的に他の経営資源を有効活用することができる資源が人的資源(人材)である。しかしながら経営資源と異なり、人的資源(ヒト)は感情や欲求を保有する生き物であることによるマネジメントの難しさが発生する。人的資源(ヒト)はマネジメントが難しい経営資源ではあるが、非合理的発想による創造性やオリジナリティがあるので、企業とヒト自身を成長・発展させることができる可能性を秘めた存在なのである。
本講義では、情報社会における倫理の重要性をベースとして、上記の4つの経営資源の中でも特に経営情報との関係における人的資源管理と人材マネジメントを中心に事例を活用した講義を展開する。
　到達目標は、人的資源管理のフレームワークを理解することと、人材のマネジメントに関する生きがいに基づく働き方や人材教育・キャリア開発を理解し、自ら問題意識をもつこと。

授業概要(教育目的)

　企業の経営資源の中で、唯一自ら意志を持ち、自発的に他の経営資源を活用する能力を持つ経営資源が人的資源である。またそれゆえに人間を経営資源としてマネジメントすること自体の難しさが発生するが、他方では企業を成長させる原動力としての可能性を持つ経営資源でもある。本講義では、旧来の人事・労務管理の理解から新に人的資源管理へと発展した経緯と主な理由、そして人的資源管理論の構成内要素についておよび将来の働く社会人・組織人として実務に有用な講義を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

期末に実施する定期試験(60%)と授業時に行うミニレポート(40%)により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

個別に対応する。

参考文献

宮川公男『経営情報入門』実教出版、1999年4月。
西川清之『人的資源管理論の基礎』学分社、2010年5月。
平野文彦・幸田浩文 編著『新版 人的資源管理 (21世紀経営学シリーズ8)』学文社、2014年1月。

講義時使用テキスト

守島基博・島貫智行 編著『グラフィック ヒューマン・リソース・マネジメント』新世社、2023年2月。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	企業経営と人的資源管理(ヒューマン・リソース・マネジメント)	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
2	戦略人事	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
3	雇用区分制度と社員格付け制度	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
4	採用と定着	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
5	人材育成とキャリア	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
6	人事評価	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
7	報酬管理	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
8	昇進管理と異動・配置	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
9	高年齢者と退職管理	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
10	労働時間管理とワークライフバランス	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
11	非正社員と人材ポートフォリオ	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
12	国際経営とダイバーシティ・マネジメント	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
13	労使関係管理	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
14	地域社会における人的資源管理	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。
15	総括　授業の復習とまとめ	テキストを 読んでおくこと。	授業内容をまとめておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520024000 地域経営論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

・外発的発展と内発的発展の違いについて、簡単に説明することができる。
・青森・八戸の諸課題について知り、いくつか、説明することができる。
・将来、自分自身がどのように地域貢献に関わることができるかを想像することができる。

授業概要(教育目的)

現在、地域の発展に求められる姿勢は、自ら課題を発見し、自ら実践していくための、自立的な行動である。日本では、2000年代以降、バブル経済の崩壊やグローバリゼーションの進展を背景に、高齢化社会による社会保障、非正規雇用の増加による格差、TPPなどにみられる新たな貿易枠組み、世界的な環境問題など、多種多様な諸課題に対し、全国一律の総合開発という考え方では対応しきれなくなり、地域の実情に合わせた発展の仕方を模索することが求められている。
本講義では、これまでの地域開発の経緯に触れながら、青森・八戸を題材にその地域開発の変容と今日の課題について取り上げていく。具体的には、青森・八戸の地域開発の経緯と現状、人口問題と労働力、農林水産業、社会保障、観光業、国際化、環境問題などを取り上げる。
上記の諸課題は、地域によって濃淡を見せることから、縮小化していく地方財源に合わせ、その優先順位や対応を考えなければならない。これらは地域住民自らが設定し、計画し、実践することが望ましい。このことは、多くの住民を巻き込み、多くの意見を吸い上げることで効果を発揮することになるが、その行動を促進させ、まとめることは容易ではない。
そこで、地域共創論では、青森・八戸の諸課題について具体的に取り上げるとともに、それらを解決するための実践やガバナンスについても触れる。これらの内容を通して、履修生が、シチズンシップをイメージし、高次学年への学びの基礎を築くことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身に付けている。

評価方法

各回で実施されるレポートまたは小テストの点数を累計して評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、小テスト等)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜、担当教員より指示をする。

資格との関連

学生へのメッセージ

本科目は、青森県・八戸市の事象を分野ごとに異なる専門家が分析した内容になる。さまざまな視点から地域の実情を見ることは、自身の将来を考えるうえで、きっと参考になる。いつ、どこで、自身の興味が惹かれるかは、自身でもわからないものである。もしかすると、講義を通じて興味が湧くかもしれない。そのような機会を失わないためにも、講義には全て出席するよう心掛けること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	全国総合開発計画の経緯と「地方創生」	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
2	戦後八戸市経済の開発①	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
3	戦後八戸市経済の開発②	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
4	全国総合開発計画の経緯と環境問題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
5	人口問題と労働需要	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
6	青森県における農業生産の現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
7	青森県における地域ブランドの現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
8	社会保障の課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
9	社会保障の課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
10	アントレプレナーの現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
11	観光業の現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
12	青森・八戸市の国際化	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
13	青森・八戸市のガバナンス	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
14	地域政策のためのエビデンス	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
15	公共事業の課題と地域発展	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520025000 日本経済論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

日本及び世界の経済事情について概括し、学生自身が理解を深め、説明できるようになることである。

授業概要(教育目的)

本講義の目的は、日本及び世界の経済事情について、理解できるようになることである。具体的には、マクロ経済学、金融論、環境経済学、社会保障論、労働経済学の観点から、所得格差、環境・エネルギー問題、金融問題、災害復興の状況、社会保障の問題、などをキーワードに日本経済を理解していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

担当教員ごとで課されるレポートや小テストなどにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(コメントシート、リアクションペーパー)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之「日本経済論(第2版)」中央経済社 2021年

講義時使用テキスト

授業はレジュメ(ハンズアウト)に沿って進行する。レジュメ(ハンズアウト)は学内サイトに掲載予定。

資格との関連

学生へのメッセージ

授業に出ることで世の中を見る目が変わってくる(複眼的になる)。より深く理解したいという人にはまずは新聞(または新聞社などのニュースサイト)、とくに『デーリー東北』、『日本経済新聞』の購読をすすめたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	イントロダクション(日本経済論への招待)	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
2	高度成長はなぜ実現できたのか	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
3	バブルとその後の長期停滞	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
4	労働市場の構造変化と所得格差	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
5	近代資本主義社会における法制度	各回に掲げたキーワードをインターネット、新聞などで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
6	修正資本主義社会における法制度	各回に掲げたキーワードをインターネット、新聞などで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
7	中小企業・ベンチャー企業の役割	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
8	産業構造の変化と日本経済の盛衰	タイトルに関連する新聞記事、雑誌記事等を探し、目を通す。	・配布資料とノートを読み直す。 ・講義で説明された内容を確認し、論点と重要なポイントを整理する。
9	環境・エネルギー問題の克服	タイトルに関連する新聞記事、雑誌記事等を探し、目を通す。	・配布資料とノートを読み直す。 ・講義で説明された内容を確認し、論点と重要なポイントを整理する。
10	日本の金融システムと金融政策	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
11	ICT化社会と日本経済	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
12	財政政策と日本経済	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
13	地域経済と政府の役割	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
14	少子高齢化と社会保障	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く
15	国際経済の中の日本経済	各回に掲げたキーワードをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む。学内サイトの小テストを解く

講義名	2520026000 民法Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

民法Ⅰでは、民法総則、物権法の内容の授業を行う。
① 自然人の権利能力・意思能力・行為能力の意味内容を説明することができる。
② 法律行為における意思と表示が食い違った場合の法的対応を説明することができる。
③ 代理制度の意義と表見代理と無権代理の法的効果の違いを説明することができる。
④ 時効制度の意義と取得時効・消滅時効を説明することができる。
⑤ 債権の種類を説明することができる。
⑥ 債権の効力を説明することができる。
⑦ 契約の成立とその効果を説明することができる。
⑧ 契約の種類を説明することができる。
⑨ 不法行為の内容とその効果を説明することができる。

授業概要(教育目的)

民法は、財産法と家族法に分類することができる。本授業では、財産法の中でもその総則と債権法を中心に講義をする。授業の概要としては、自然人の権利能力・意思能力・行為能力、法律行為の定義と意思と表示の不一致の場合の対応、時効制度、物権と債権の違い、債権の効力、債権の種類、契約の種類等の財産法の基本的な知識の習得を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テスト(小テスト)の模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『民法概説(五訂版)』(司法協会・2021)

資格との関連

公務員試験・ファイナンシャルプランナー試験・宅地建物取引士試験・行政書士試験

学生へのメッセージ

① 公務員試験における試験科目ですので、公務員希望者は必ず受講することを勧める。
② テキスト、民法条文は必ず持ってくること。
③ 法制度に関して、新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	民法へのいざない	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	権利の主体・権利能力・行為能力	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	意思の不存在	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	瑕疵ある意思表示	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	無効・取消し、条件・期限・期間	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	時効(1)取得時効	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	時効(2)消滅時効	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	債権の種類	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	債権の効力(債務不履行による損害賠償)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	契約成立の要件とその効果	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	契約の効果(同時履行の抗弁権と危険負担・契約の解除)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	契約の種類(1)売買	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	契約の種類(2)賃貸借	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	不法行為(1):一般的不法行為	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	不法行為(2):特別な不法行為	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520027000 市民社会論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①市民社会の登場背景、特徴、および役割について説明できるようになる。
②市民社会をさまざまな学問的アプローチを用いて説明できるようになる。
③市民社会に参加し、社会の抱える課題解決に取り組むことができるようになる。

授業概要(教育目的)

現代社会が抱える課題の解決に向けて、政府や市場(企業)だけではなく、市民社会による取り組みも重要である。この授業では、市民社会の登場背景や特徴、役割、機能について学び、一人ひとりが主体的に市民社会に参加し、社会の課題解決に貢献していくために必要な知識を獲得することを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

坂本治也編『市民社会論――理論と実証の最前線』法律文化社、2017年。
五十嵐誠一『東アジアの新しい地域主義と市民社会――ヘゲモニーと規範の批判的地域主義アプローチ』勁草書房、2018年。

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

市民社会論の理解には法学、政治学、経済学、および社会学の知識が必要となることから、これらの科目を修得したうえでの履修を勧める。そのため、1年次から履修可能であるが、2年次以降の履修が望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	市民社会論を学ぶ意義	市民社会とは何か考えておくこと	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	市民社会の特徴と担い手	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	市民社会の台頭と役割	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	世界を動かす市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	国家を変える市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	地域を支える市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	社会運動①(日本の社会運動の史的展開)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	社会運動②(社会運動に関する諸理論)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	NGO/NPO①(NGO/NGOに関する諸概念)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	NGO/NPO②(マネジメントとその評価)	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	利益団体論から考える市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	熟議民主主義論から考える市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	ソーシャル・キャピタル論から考える市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	価値観から考える市民社会	参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	市民社会の課題	市民社会の抱える課題の克服策を考えておくこと	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520028000 簿記原理Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

商業簿記における主要項目(個別取引)の詳細な処理と記帳方法、決算手続を学び、貸借対照表および損益計算書を作成することを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

会計とは、企業の経済活動を貨幣額などによって記録・測定し、その結果を報告書にまとめて利害関係者に伝達するための仕組みである。一方、簿記とは「帳簿記録」を略したものと言われ、企業の経済活動を帳簿に記録・集計し、その結果を整理して報告するための技術のことである。本講義では、会計(財務会計)の理論的側面から簿記に代表される計算的側面までの基礎知識を習得することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版

講義時使用テキスト

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版

資格との関連

日商簿記検定3級

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1年次配当科目である「簿記原理Ⅰ」を履修済み(単位取得・認定)であることが望ましい。
また、問題演習を行うため、12桁以上の電卓が必携である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	会計と簿記の意義	テキストに目を通す。	簿記の意義や種類、簿記一巡の流れについて把握しておくこと。
2	その他の取引①(貸付金・借入金など)	テキストの94頁から105頁を読んでおくこと。	テキストの94頁から105頁までの問題を再度解いてみること。
3	その他の取引②(仮払金・仮受金など)	テキストの116頁から127頁を読んでおくこと。	テキストの116頁から127頁までの問題を再度解いてみること。
4	決算手続①(試算表の作成)	テキストの138頁から142頁、146頁から151頁を読んでおくこと。	勘定科目や勘定記入、転記のルールを理解しておくこと。
5	貸倒れと貸倒引当金	テキストの168頁から175頁を読んでおくこと。	テキストの168頁から175頁までの問題を再度解いてみること。
6	固定資産と減価償却	テキストの106頁から115頁、176頁から187頁を読んでおくこと。	テキストの106頁から115頁、176頁から187頁までの問題を再度解いてみること。
7	収益と費用の見越・繰延	テキストの194頁から212頁を読んでおくこと。	テキストの194頁から212頁までの問題を再度解いてみること。
8	税金	テキストの260頁から265頁を読んでおくこと。	テキストの260頁から265頁までの問題を再度解いてみること。
9	その他の決算整理	テキストの154頁から167頁、188頁から193頁を読んでおくこと。	テキストの154頁から167頁、188頁から193頁までの問題を再度解いてみること。
10	決算手続②(帳簿の締め切り)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
11	決算手続③(貸借対照表と損益計算書の作成)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
12	決算手続④(精算表の作成)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
13	株式の発行	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
14	剰余金の配当と処分	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
15	証ひょうと伝票	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520029000 中級簿記						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

株式会社を会計主体とし、そこで展開される経済活動を会計事象として認識し、記帳する技術を習得することを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

企業において複式簿記は、財務諸表作成に欠かせない技術である。本講義においては、会計主体を株式会社とし、中級レベルの商業簿記の知識の習得を目的とする。
中級レベルとは、日商簿記検定2級出題範囲のうち銀行勘定調整表、手形、有価証券、商品売買、固定資産、本支店会計などの基本的処理を想定している。
簿記原理Ⅰならびに簿記原理Ⅱで学んだ簿記原理を基礎とし、実際の株式会社の活動における取引の記録を実践し、株式会社の財務諸表作成のための簿記の技術を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験については、成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社
片山覚・渡部裕亘編著『段階式　日商簿記ワークブック2級商業簿記』税務経理協会

講義時使用テキスト

片山覚監修『新　中級商業簿記』創成社

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	現金預金(現金・当座預金・銀行勘定調整表・クレジット売掛金)	テキスト第1章を読む。	テキスト第1章の例題をもう一度解く。
2	手形①(約束手形と為替手形・手形の裏書譲渡と割引)	テキスト第2章を読む。	テキスト第2章の例題をもう一度解く。
3	手形②(不渡・金融手形・手形の更改・電子記録債権と電子記録債務)	テキスト第2章を読む。	テキスト第2章の例題をもう一度解く。
4	有価証券①(有価証券の範囲と種類・売買目的有価証券・満期保有目的債券)	テキスト第3章を読む。	テキスト第3章の例題をもう一度解く。
5	有価証券②(子会社関連会社株式・その他有価証券・有価証券の取得と売却)	テキスト第3章を読む。	テキスト第3章の例題をもう一度解く。
6	商品売買①(売上原価・商品の払出単価と期末棚卸高)	テキスト第4章を読む。	テキスト第4章の例題をもう一度解く。
7	商品売買②(棚卸減耗損と商品評価損・仕入割引と売上割引)	テキスト第4章を読む。	テキスト第4章の例題をもう一度解く。
8	固定資産①(固定資産とは・有形固定資産・減価償却)	テキスト第6章を読む。	テキスト第6章の例題をもう一度解く。
9	固定資産②(無形固定資産)	テキスト第7章を読む。	テキスト第7章の例題をもう一度解く。
10	引当金(引当金の概要・貸倒引当金・退職給付引当金・修繕引当金)	テキスト第9章を読む。	テキスト第9章の例題をもう一度解く。
11	株式会社会計①(純資産の分類・株式会社の設立・増資)	テキスト11章を読む。	テキスト第11章の例題をもう一度解く。
12	株式会社会計②(利益および損失の処理・株主資本等変動計算書・企業の合併)	テキスト第11章を読む。	テキスト第11章の例題をもう一度解く。
13	決算手続きと決算整理	テキスト第12章を読む。	テキスト第12章の例題をもう一度解く。
14	本支店会計①(本支店会計とは・本支店間取引・支店間取引)	テキスト第13章を読む。	テキスト第13章の例題をもう一度解く。
15	本支店会計②(本支店合併財務諸表の作成)	テキスト第13章を読む。	テキスト第13章の例題をもう一度解く。

講義名	2520030000 工業簿記						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

工業簿記の勘定構造を理解し、費目別計算、部門別計算、製品別計算及び勘定記入(仕訳と転記)ができることを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

工業簿記とは、製造業を営む企業に適用される簿記であり、材料の購買や製品の販売などの外部活動だけではなく、製造(内部)活動から生じた取引についても記録・計算を行う。そこで、本講義では、問題演習を通して、工業簿記の勘定記入、製造原価計算(費目別計算、部門別計算、製品別計算)などの工業簿記の基礎的な構造を理解することを目的とする。
なお、本講義は、2年次配当科目である「原価計算論」を学ぶための基礎として位置づけられる科目である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

小テスト(20%)、定期試験(80%)により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

岡本清『原価計算(六訂版)』 国元書房

講義時使用テキスト

CPA会計学院編著『いちばんわかる 日商簿記2級 工業簿記の教科書』アガルート

資格との関連

日商簿記検定2級

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1年次配当科目である「簿記原理Ⅰ」・「簿記原理Ⅱ」を履修済み(単位取得・認定)であることが望ましい。
また、問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 工業簿記の基礎①(意義)	テキストに目を通す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
2	工業簿記の基礎②(原価の意義と分類)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
3	工業簿記の基礎③(計算手続、勘定記入)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
4	材料費の計算と記帳①(購入原価の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
5	材料費の計算と記帳②(消費額の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
6	労務費の計算と記帳①(賃金支払額の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
7	労務費の計算と記帳②(消費賃金の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
8	経費の計算と記帳	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
9	製造間接費の計算と記帳①(実際配賦)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
10	製造間接費の計算と記帳②(予定配賦)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
11	製造間接費の計算と記帳③(差異分析)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
12	単純個別原価計算	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
13	部門別個別原価計算①(部門費の第1次集計)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
14	部門別個別原価計算②(部門費の第2次集計)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
15	部門別個別原価計算③(予定配賦)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。

講義名	2520031000 財務諸表論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 財務諸表の各項目についてその意義を説明できる。
2. 財務諸表の理論問題を解き明かすことができる。
テーマ:財務諸表の内容の説明と把握

授業概要(教育目的)

本講義では、会計学原理を受けて、財務諸表に表示される個々の項目について、経済活動(資金調達・資金投下・営業)の流れに沿って説明する。そこでは、企業の設立と資金調達、仕入・生産活動、販売活動、設備投資と研究開発、資金の管理と運用などに係る財務諸表項目について、理論的課題を明らかにする。その際、現場においてどのような会計処理がなされるのかということにも注意を払う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

学期末試験の成績により評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験成績に疑義のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義中に「財務諸表論ノート」を配布する。

講義時使用テキスト

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門【第18版】』有斐閣、2025年

資格との関連

日商簿記1～2級

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 企業の設立と資金調達の会計①(会社法上の会社の種類と株式会社の設立)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
2	2. 企業の設立と資金調達の会計②(自己資本と他人資本)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
3	3. 企業の設立と資金調達の会計③(増資と社債)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
4	4. 仕入・生産活動の会計①(営業循環と棚卸資産/取得原価)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
5	5. 仕入・生産活動の会計②(製品の製造原価)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
6	6. 仕入・生産活動の会計③(人材雇用と人件費の会計/引当金)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
7	7. 販売活動の会計①(売上の認識と測定)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
8	8. 販売活動の会計②(売上原価の計算)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
9	9. 販売活動の会計③(売上代金の回収/棚卸資産の期末評価)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
10	10. 設備投資と研究開発の会計①(固定資産の種類)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
11	11. 設備投資と研究開発の会計②(有形固定資産の取得原価)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
12	12. 設備投資と研究開発の会計③(減価償却/無形固定資産)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
13	13. 資金の管理と運用の会計①(余剰資金の運用)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
14	14. 資金の管理と運用の会計②(有価証券)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
15	15. 資金の管理と運用の会計③(キャッシュフロー計算書)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520032000 インターネット						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

1. 情報通信ネットワークの構成要素とその役割について説明できる。
2. インターネットを安全に利用するために、その仕組みを説明できる。
3. 家庭、企業の部署内といった小規模なLANを構築し、運用管理ができる。

授業概要(教育目的)

情報通信技術の高度化によって、国際的な広がりで企業はもちろんのこと、家庭生活の中にもコンピュータネットワークが浸透した。インターネットを活用したWebサービスは我々の生活やビジネスに急激に普及し、高度情報化社会を支える社会基盤として重要な役割を担っている。本講義では、インターネットの全体像についてその歴史も含めて知識を習得し、さらにネットワークを構成する機器やソフトウェア、構築・運用方法について理解することで、実際にインターネットを活用する能力を育成することを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験および課題の提出状況により評価する。
定期試験6割、課題提出を4割として合計で評価する。

課題に対するフィードバック

授業支援システム(WebClass)にてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

・「教養としてのコンピュータサイエンス」(日経BP)
・講義の予習復習教材として、IPSJ　MOOC(情報処理学会　公開教材)
(https://sites.google.com/a.ipsj.or.jp/mooc/)を利用する。利用方法は講義時に説明する。
・その他講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

・使用しない。

資格との関連

情報免許状コースの教科に関する科目

学生へのメッセージ

授業支援システム(WebClass)に授業資料を掲載するので、予習復習に利用すること。
予習課題、復習課題も含め提出期限があるので、必ず期限内に提出すること。(後日の提出は認めない)

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	情報通信ネットワークの構成と機能	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	情報通信のモデル	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	情報通信の基礎技術①(符号化)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	情報通信の基礎技術②(誤り制御) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	LANの仕組み①(LANの構成)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	LANの仕組み②(ネットワークトポロジ)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	LANの仕組み③(交換方式)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	LANの仕組み④(プロトコル) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	インターネット①(概要・歴史)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	インターネット②(TCP/IP) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	インターネット③(アプリケーション)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	インターネット④(セキュリティ) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	LANの構築	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	LANの運用管理	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	情報通信ネットワークの最新技術	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

講義名	2520033000 統計学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・データの種類や特徴を理解し、適切な表・グラフ・要約統計量を用いて整理できる。
・平均、中央値、分散、標準偏差、相関、標本、推定、仮説検定など、統計学の基礎概念を理解し、基本的な分析結果を解釈できる。
・データの特徴に応じて、基礎的な統計的手法を適切に選択し、その結果を説明できる。
・地域・経営・社会に関する身近なデータをもとに、根拠に基づいて考察し、自分の言葉で表現できる。

授業概要(教育目的)

現代社会では、地域課題、企業活動、行政施策、マーケティング、メディア報道など、さまざまな場面でデータに基づく判断が求められます。本授業では、統計学を単なる計算技術としてではなく、データを読み解き、根拠をもって考え、他者に分かりやすく伝えるための基礎的方法として学びます。

授業では、記述統計、確率、標本抽出、推定、仮説検定などの基礎を、身近な事例や地域・経営に関わるデータと関連づけながら学修します。さらに、表やグラフの作成、分析結果の解釈、考察のまとめ方も扱い、最終的には、受講者が自ら簡単な分析を行い、その結果を適切に説明できることを目指します。2年次以降の様々な科目にも関連する基礎的知識が得られます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

・講義内で実施する小テスト・課題等提出物:50%
・定期試験または期末課題:50%

課題に対するフィードバック

提出課題や小テストについては、採点後に講評を行い、必要に応じて個別に返却する。
誤答が多かった点や理解が不十分な点については、次回授業の冒頭で補足説明を行う。
演習課題については、計算手順だけでなく、結果の読み取り方や説明の仕方についてもフィードバックする。

参考文献

適宜講義内で紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

統計学は、計算の正確さだけでなく、データをどう読み、どう考え、どう説明するかを学ぶ学問です。本授業では、身近なデータや地域・社会の課題に結びつけながら学んでいきます。毎回の内容は積み重なっていくため、欠席せず、授業後にその日の内容を整理することが重要です。計算に不安がある場合でも、基礎から丁寧に進めるので、安心して受講してください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス―統計学とは何か、この 授業で 何を学ぶのか 授業の 目的、扱う範囲、履修するメリット、評価方法、受講上の注意、電卓の使い 方・学び 方の 方針	「統計」についてインター ネットで 調べてみる	講義ノートに目を通す
2	データの 種類を 理解する―数量データとカテゴリーデータ 変数、尺度水準、データの 種類、分析方法との 対応	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
3	データを 整理して 特徴をつかむ―分布・グラフ・代表値 度数分布表、ヒストグラム、棒グラフ、平均値、中央値、最頻値、四分位数	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
4	ばらつきをつかむ―分散と標準偏差 偏差、分散、標準偏差、外れ 値との 関係	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
5	2つの 変数の 関係をみる―散布図・相関・回帰の 入口 散布図、相関係数、回帰の 考え 方、相関と因果	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
6	偶然を 考える―確率の 基礎 確率、事象、条件付き確率、期待値	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
7	一部から 全体を 考える―母集団と標本 母集団、標本、抽出、標本誤差	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
8	推定とは何か―信頼区間で 考える 点推定、区間推定、標準誤差、信頼区間	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
9	仮説検定の 基礎―有意差とは何か 帰無仮説、対立仮説、有意水準、P値	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
10	平均値の 差を 比べる―t検定 1標本t検定、2標本t検定、対応あり・なし	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
11	割合やカテゴリの 違いをみる―クロス集計とχ²検定 分割表、独立性の 検定、適合度の 検定	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
12	実データを 分析する①―地域・経営データを 読む 実データの 整理、表・グラフ作成、基礎集計	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
13	実データを 分析する②―分析結果を 解釈する 結果の 読み 取り、比較、考察	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
14	分析結果をどう伝えるか―統計的に考え、説明する レポートの 書き 方、誤解を 招かない 表現、限界の 示し 方	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
15	統計学で 社会を 見る―総括ミニ発表 学修内容の 総括、活用可能性、発表またはまとめ	前回の 講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す

講義名	2520034000 統計演習（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

・各自で表計算ソフトを用いてデータの分析ができる。
・表計算ソフトの統計分析のツールを使いこなすことができる。
・各自で統計的分析を行うことができる。

授業概要(教育目的)

近年、情報化の進展が著しい社会情勢においてデータ分析が果たす役割は大きい。このことは、企業経営においても、例えば市場ニーズや環境の変化などを多角的かつ迅速に分析する必要がある。さらには、地域活性化や振興策を講じる上でもデータ分析は必要不可欠であると言える。その様な中で、近年では、表計算ソフトを用いた統計的データ処理の形態が一般的になり、統計パッケージと同等の分析処理が容易にできるようになった．従って、これらの統計ツールやパッケージソフトを利用するに当たり、データ分析における理論的かつ基本的な部分は1年次に開講されている統計学で教授された内容を実際のデータを用いて、科学的根拠に基づいたデータ分析の習得が求められている。

本授業では、表計算ソフトを利用し、実際のデータの統計処理の実習通じて、統計データ分析の基本的な手法や計算によって得られた結果の見方等を習得する．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に行う小テスト(課題)の内容およびレポート(最終課題)によって評価する．
定期試験は実施しないため、不可→追再試験は実施しない．

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．
成績を知りたい学生には個別に開示する．

講義時使用テキスト

特定の教科書は使用せず、自作のテキストを用いて実施する。

参考文献

①統計学の理論的な内容に関して
東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』, 東京大学出版会．
栗原伸一『入門 統計学 第2版』, オーム社．
秋山　裕『統計学基礎講義』, 慶應義塾大学出版会．
②Excelなどの統計ソフトの利用に関して
豊田裕貴『Excel分析ツール完全詳解』, 秀和システム．
荒川俊也『Excelによるやさしい統計解析』, オーム社．
③多変量解析に関して
大平　平『今日から使える統計解析 普及版』, 講談社ブルーバックス．
石村貞夫・有馬哲『多変量解析のはなし』, 東京書籍．

その他の参考文献等については、適宜指示する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関わる科目

学生へのメッセージ

情報処理基礎(1年次春学期)で扱ったエクセルについて理解している事を前提に講義・実習を進める。
1年次に開講されている情報処理基礎、データ分析入門、統計学のそれぞれの科目を履修し習得していることを前提に授業を進める。
座席は指定するので、必ず指示された座席に着席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	表計算ソフト(エクセル)の 概要と特徴 エクセルの「データ分析」ツー ルの 概要 基本統計量	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
2	記述統計学の 基礎的内容 データの 集計(度数分布図・度数分布表) 代表値、分散、偏差	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
3	2変数の 分析 散布図の 作成 相関係数と分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
4	単回帰分析(2変数での 回帰, 最小二乗法) 回帰分析の 意味と概要 従属変数, 独立変数, 決定係数 分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
5	仮説検定 帰無仮説、対立仮説 分散分析入門 データ分析における分散の 重要性について	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
6	t検定 1変数でのt検定 標本数が少ない場合での 仮説検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
7	t検定 2変数でのt検定(対応のある場合)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
8	t検定(対応の 無い場合) z検定(正規分布の 検定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	質的データの 分析 クロス集計(ピボットテーブル)による分割表の 作成 期待度数	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	カイ2乗検定 カイ2乗分析による独立性・適合度の 検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
11	多変量解析入門 多変量解析とは 多変量解析の 種類	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
12	重回帰分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	主成分分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	各自で、データを 仮説検定する①	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	各自で、データを 仮説検定する②	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

講義名	2520034001 統計演習（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

・各自で表計算ソフトを用いてデータの分析ができる。
・表計算ソフトの統計分析のツールを使いこなすことができる。
・各自で統計的分析を行うことができる。

授業概要(教育目的)

近年、情報化の進展が著しい社会情勢においてデータ分析が果たす役割は大きい。このことは、企業経営においても、例えば市場ニーズや環境の変化などを多角的かつ迅速に分析する必要がある。さらには、地域活性化や振興策を講じる上でもデータ分析は必要不可欠であると言える。その様な中で、近年では、表計算ソフトを用いた統計的データ処理の形態が一般的になり、統計パッケージと同等の分析処理が容易にできるようになった．従って、これらの統計ツールやパッケージソフトを利用するに当たり、データ分析における理論的かつ基本的な部分は1年次に開講されている統計学で教授された内容を実際のデータを用いて、科学的根拠に基づいたデータ分析の習得が求められている。

本授業では、表計算ソフトを利用し、実際のデータの統計処理の実習通じて、統計データ分析の基本的な手法や計算によって得られた結果の見方等を習得する．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に行う小テスト(課題)の内容およびレポート(最終課題)によって評価する．
定期試験は実施しないため、不可→追再試験は実施しない．

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．
成績を知りたい学生には個別に開示する．

講義時使用テキスト

特定の教科書は使用せず、自作のテキストを用いて実施する。

参考文献

①統計学の理論的な内容に関して
東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』, 東京大学出版会．
栗原伸一『入門 統計学 第2版』, オーム社．
秋山　裕『統計学基礎講義』, 慶應義塾大学出版会．
②Excelなどの統計ソフトの利用に関して
豊田裕貴『Excel分析ツール完全詳解』, 秀和システム．
荒川俊也『Excelによるやさしい統計解析』, オーム社．
③多変量解析に関して
大平　平『今日から使える統計解析 普及版』, 講談社ブルーバックス．
石村貞夫・有馬哲『多変量解析のはなし』, 東京書籍．

その他の参考文献等については、適宜指示する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関わる科目

学生へのメッセージ

情報処理基礎(1年次春学期)で扱ったエクセルについて理解している事を前提に講義・実習を進める。
1年次に開講されている情報処理基礎、データ分析入門、統計学のそれぞれの科目を履修し習得していることを前提に授業を進める。
座席は指定するので、必ず指示された座席に着席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	表計算ソフト(エクセル)の 概要と特徴 エクセルの「データ分析」ツー ルの 概要 基本統計量	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
2	記述統計学の 基礎的内容 データ の 集計(度数分布図・度数分布表) 代表値、分散、偏差	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
3	2変数の 分析 散布図の 作成 相関係数と分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
4	単回帰分析(2変数での 回帰, 最小二乗法) 回帰分析の 意味と概要 従属変数, 独立変数, 決定係数 分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
5	仮説検定 帰無仮説、対立仮説 分散分析入門 データ分析における 分散の 重要性について	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
6	t検定 1変数でのt検定 標本数が少ない場合での 仮説検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
7	t検定 2変数でのt検定(対応のある場合)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
8	t検定(対応の 無い場合) z検定(正規分布の 検定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	質的データの 分析 クロス集計(ピボットテーブル)による分割表の 作成 期待度数	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	カイ2乗検定 カイ2乗分析による独立性・適合度の 検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
11	多変量解析入門 多変量解析とは 多変量解析の 種類	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
12	重回帰分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	主成分分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	各自で、データを 仮説検定する①	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	各自で、データを 仮説検定する②	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

講義名	2520035000 経営管理論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

本講義の到達目標は以下の通りである。
① 経営学の理論を理解し、組織の分析に活用できる。
② 経営学の発展の流れを理解する。
③ 組織をミクロとマクロの両面から考察できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、経営管理の理論と経営管理者の役割について、テーマごとに学ぶ。

経営管理論は、1年次に学んだ経営学の基礎をもとに、それをより体系的・実践的に捉える科目である。

ここでいう「経営を管理する」とは、例えば次のような内容を指す。
① 無駄を削減し、効率を高めることで成果(利益)を向上させること。
② 企業という組織を、営業・経理・人事などの機能に分けて適切に運営すること。
③ 報酬や評価を通じて、従業員のモチベーションを高めること。

これらは特定の企業に限らず、多くの組織に共通する考え方である。したがって経営管理とは、人々からなる組織をいかに効果的に運営するかを考える学問であるといえる。

本講義では、組織をどのようにまとめ、機能させてきたのかという歴史的な背景も踏まえながら、教科書の構成に沿って講義を進める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

課題＋試験で学期全体の理解を評価する。

課題(レポート・提出課題):60%
- 授業で学んだ理論の理解と応用力
- 実在の企業や組織への適用、具体例を用いた論理的考察
- 提出期限や文章構成など、形式的要件も評価

期末試験:40%
- 学期全体の理解度の確認
- 理論の整理、応用力、課題で学んだ知識の総合的活用

課題に対するフィードバック

個別に対応する。

講義時使用テキスト

上野恭裕・馬場大治編著『経営管理論』【ベーシック＋】,中央経済社.

参考文献

塩次喜代明・高橋伸夫・小林忠男『経営管理　新版』有斐閣アルマ.
高橋伸夫編『よくわかる経営管理』, ミネルヴァ書房.

その他、必要に応じて紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

≪履修上の注意事項≫
・授業では担当教員の指示に従うこと。
・テキスト(教科書)は必ず購入すること。
・授業中は私語厳禁

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. ガイダンス 経営管理論の概要、学習の目的、講義の説明	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
2	2. 経営理念はなぜ必要か マネジメントとは何か マネジメントはなぜ必要か？	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
3	3. 企業とは何か 企業の役割 企業の社会的責任	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
4	4. 株式会社とその仕組み 株式会社とは何か 株式会社は誰が所有するのか 経営と所有の分離	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
5	5.マネジメントの誕生 科学的管理法 人間関係論	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
6	6. 組織マネジメント 個人と組織 組織とは(バーナードとマーチ・サイモン)	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
7	7.組織構造 官僚制組織 ライン組織とラインアンドスタッフ組織	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
8	8. モティベーションとリーダーシップ モティベーションとは モティベーションを産み出すマネジメント リーダーシップとは リーダーシップの役割と種類	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
9	9. 組織文化のマネジメント 組織文化とは何か 組織文化の形成と変革	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
10	10.外部環境のマネジメント 組織戦略のマネジメント 競争戦略のマネジメント	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
11	11.日本的経営 日本的経営の特徴 なぜ日本的経営といわれるのか	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
12	12.人材マネジメント ゲストスピーカーによる講義	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
13	13.日本企業の人材育成 人材育成とは 企業内人材育成	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
14	14.生産管理と日本的経営 生産管理と品質管理 デミングによる統計的品質管理 トヨタ生産方式	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。
15	15.総括 授業の復習とまとめ	授業内容について教科書やインターネットで調べる。また、教科書の該当範囲を読んでおく。	授業内容を各自でノートにまとめておくこと。また教科書の該当ページを読み直しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520036000 経営戦略論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

1. 経営戦略の基本的概念を学び、企業経営における戦略策定から実行までのフレームワークについて説明できる
2. 経営戦略の基礎的理論や分析ツールについて説明できる

授業概要(教育目的)

経営戦略は企業の持続的成長、発展のための重要な指標であり、経営戦略の策定・実行は企業にとって必要不可欠なものである。本講義では、経営戦略についての様々な理論や分析ツールを理解するとともに、現実の企業の具体的事例を織り交ぜながら、理論と実際の企業における戦略策定から実行までを学び、戦略的思考の基礎を身につけていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

小テストや定期試験により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

小テストや課題は採点の上返却する

参考文献

講義中に適宜紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 経営戦略とは	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	2. 経営戦略の定義と階層	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
3	3. 経営戦略策定のプロセス	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	4. 全社戦略策定と理論	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	5. 事業戦略策定と理論	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	6. 機能戦略策定と理論	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	7. 外部環境分析	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	8. 内部資源分析	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
9	9. SWOT分析	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
10	10. 戦略マネジメント	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
11	11. 成長と多角化の戦略	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	12. 競争戦略	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	13. 参入戦略	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
14	14. 事業再生戦略	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
15	15. グローバル時代の戦略	講義内容をインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す

講義名	2520037000 経営情報論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

・経営情報論の内容を説明できると同時に実際のビジネスの場で経営情報論の内容を応用できる。
・経営における「情報化」および「情報システム」の役割を理解できる。

授業概要(教育目的)

情報化は、日常生活の多くの場で取り入れられており、経営の現場においても例外ではない。特に近年ではインターネット上の通信販売や独自サービスなども積極的に展開されており、情報化の進展により従来のビジネスモデルも大きく変わろうとしている。
本講義は、経営に関する「情報」の役割・位置づけについて基礎的内容を学びながら、実際のビジネスの現場でどのようにそれが用いられているかについて講じる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)によって評価する。

課題に対するフィードバック

採点の結果等について、要望があれば開示する。

参考文献

必要に応じて参考資料を作成し配布する。
また、適宜指示する。

講義時使用テキスト

生稲史彦ほか『経営情報論』(有斐閣、2025)

資格との関連

学生へのメッセージ

経営学、経営管理論、経営戦略論といった経営学に関する科目に加え、インターネット、情報通信ネットワークなどの情報関連の科目の知識が求められる。
本科目は、高等学校第1種教員免許(情報)の資格を得る上で、必修科目となっているが、教員免許状を取得する意思を有している学生は、将来、教員として相応しい態度で授業に臨むことが要求される。
授業中に学生に質問や教科書の朗読を求める。
教科書は、各自で必ず用意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	情報通信技術によって企業経営をどのように変えるのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
2	どのような脅威にさらされているのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
3	なぜ同じ業界で成果が異なるのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
4	どのようにICTは企業の可能性を広げるのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
5	情報システムをどのように開発するのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
6	情報システムを構築する新しい手法はどのようなものか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
7	新技術によってビジネスはどう変わるのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
8	どのように情報システムを使いこなすのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
9	どのように顧客の欲求を満たすのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
10	どのようにICTの特性を活かしてビジネスを組み立てるのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
11	どのようにユーザとともにビジネスを魅力的にするのか	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
12	ビジネスと法制度	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
13	情報化の進展と法律的制度	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
14	情報通信技術と企業(情報化時代の企業の社会的責任)、情報化の進展とこれからのビジネス	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。
15	電子商取引と商法	教科書を事前に読んでおく。	教科書やノート、配布資料を見直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520038000 経営科学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

・経営科学の基礎的な分析方法である「OR(オペレーションズ・リサーチ)」や「統計学を用いた品質管理」の基礎的内容を説明でき、実際のビジネスの現場での使用をイメージできる。
・ORの基礎的内容の理解。
・品質管理についての、統計的処理、QC(Quality Control)に関する理解。

授業概要(教育目的)

本講義では、経営の計画などに必要不可欠であるORの基礎的内容について講じる。特に、需要予測、品質管理、待ち行列など実際のビジネスの現場において、いかに効率よくそれを実現できるかといった内容について、具体的事例などを取り上げながら、理論と現実との整合性について講じる。また、講義が主体であるが必要に応じてエクセルなどを使い、理論的内容を直感的に理解できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)によって評価する。

課題に対するフィードバック

授業時の小テストについて採点後に返却する。

参考文献

松井泰子・根本俊男・宇野毅明『入門オペレーションズリサーチ』, 東海大学出版部.
ガス著・小山昭雄訳『線形計画法』, 好学社.
小山昭雄『ダイナミック・システム(上・下)』, 岩波書店.
東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』, 東京大学出版会.
加藤昭吉『計画の科学』, 講談社ブルーバックス.
齊藤芳正『はじめてのOR』, 講談社ブルーバックス.
品質管理については、「QC検定」の4級～2級の各参考書・問題集などが有益である。

講義時使用テキスト

使用せず。
授業の資料を配付し、それに基づき進行する。

資格との関連

学生へのメッセージ

数学、情報処理基礎、統計学、統計演習、経営学、ミクロ経済学を履修していることが望まれる。
授業の第2回～第8回の授業については、微分・積分の計算ができること。
第9回～第15回は、統計学(推測統計学)について、理解していること。
1年次の「数学」と「統計学」を履修し、単位取得済みであること。これらの内容については既知であることを前提に授業をすすめる。
本科目は、高等学校第1種教員免許(情報)の資格を得る上で、必修科目となっているが、教員免許状を取得する意思を有している学生は、将来、教員として相応しい態度で授業に臨むことが要求される。
授業中にスマートフォンなどを操作している学生に対しては、厳しく対処する。
関数電卓を用意すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	経営科学とは何か ケース・スタディとデータ・スタディ	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
2	ORの考え方とモデル化(モデルとは何か？)	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
3	線形計画法の基礎(目的関数と制約条件)	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
4	単体法(シンプレックス法)	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
5	線形計画法の幾何的解釈と凸集合	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
6	双対性と相補性	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
7	ネットワーク計画法(ネットワーク、枝、グラフ)	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
8	最短経路問題と輸送問題	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
9	品質管理における確率的・統計的考え方 確率分布 標準正規分布 ポアソン分布	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
10	カイ2乗検定による仮説・検定	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
11	不良品率に関する仮説検定	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
12	分散分析と実験計画	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
13	相関と回帰	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
14	抜き取り検査	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。
15	管理図	授業内容についてインターネットで調べる	ノートや配布資料、教科書等を見直す。 演習問題等に取組む。

講義名	2520039000 中小企業・ベンチャー企業論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

1. ベンチャービジネスについての正しい理解を深める。
2. 自らの就職活動、将来の人生設計にも有益な基礎知識を得る。
3. ビジネスプランの作成実習で、将来、自らベンチャー起業家としてチャレンジする事を想定し、検討する。

授業概要(教育目的)

日本の全企業に占める中小企業の割合は99%を超えている。中小企業が経済の中心であることは事実であり、青森県でも地場産業の担い手である多くの中小企業が活躍している。一方で、成熟した日本の経済界において様々な格差で苦戦する青森県では、ベンチャー企業が経済活性化の鍵を握っている。八戸はITベンチャー企業の集積も進みつつあり、全国からも注目を浴びはじめている。さらには、学生や社会人の間でも、起業が現実的な選択肢のひとつとして考えられつつあり、ベンチャー企業の存在感はさらに増していくことが予想される。一方で、ベンチャービジネスはハイリスクハイリターンという事実もある。
本講義では、ベンチャー企業の可能性とリスクを総合的に学ぶ。ベンチャービジネスの学習のみならず、自身の就職活動や進路選定の参考になる内容とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている

評価方法

毎回講義にて実施する小課題やレポート課題などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストや課題は採点の上返却する

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(作品写真・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

毎回講義資料を配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

企業家・起業家としての実現を果たすための準備や起業家精神について、そして成功に向けてのマネジメント能力向上に関することを、国内/海外での起業経験にもとづいた話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション:ベンチャーとは	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
2	事例(1):ベンチャーの光と影	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
3	事例(2):働き方とベンチャー	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
4	事例(3):コンセプト	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
5	青森県とベンチャー企業	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
6	マーケティング(1):マーケティング基礎	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
7	マーケティング(2):ベンチャーのマーケティング	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
8	ビジネスモデル(1):ビジネスモデル基礎	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
9	ビジネスモデル(2):ベンチャーのビジネスモデル	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
10	ビジネスプラン(1):ビジネスプラン基礎	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
11	ビジネスプラン(2):ベンチャーのビジネスプラン	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
12	モラル(1):CSR・社会課題解決	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
13	モラル(2):企業のありかた	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
14	ビジネスプラン作成(1):基礎(グループワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する
15	ビジネスプラン作成(2):リーンスタートアップ(グループワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連箇所を読む 授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520040000 金融経済論 国際ロータリー第2830地区寄附講座「けっぱれ金融経済論」						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

本講義では、金融に関する基礎知識を前提として、金融理論、金融制度、金融市場、金融政策および実体経済との関係について理解を深める。特に、実務的な内容を取り入れ、中央銀行、金融機関、企業、地域経済等の現場で生じている金融上の課題等を学ぶ。

到達目標は、①金融の基本機能と金融市場・金融機関の役割を説明できること、②金融政策や金融行政が経済社会に与える影響を理解できること、③金利、物価、為替、景気、企業金融、地域金融等の現実的課題を理論と関連づけて、現代の金融経済について考察できること。

授業概要(教育目的)

金融は、家計、企業、政府、地域経済、国際経済の活動を支える重要な仕組みであり、金利、物価、為替、景気、財政、企業経営などと密接に関わっている。本講義は、国際ロータリー第2830地区による寄付講座として、県内のロータリークラブに所属し、様々な分野において活動している企業家や専門家が講師を務め、それぞれの専門分野や仕事に対する姿勢、地域における活動や、ロータリーのこと等について講義を行う。

金融経済の理論と現実を総合的に学ぶ科目であるが、特に、理論的理解に加え、金融機関の実務、地域金融の役割、中小企業金融、地域経済の現状、現代の金融経済が直面する課題について、実践的な視点から学ぶ。学生が金融経済の仕組みを理解し、現実の経済社会における金融の役割と課題について主体的に考察できるようになることを教育目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

毎講義提出してもらうリアクションペーパーや講義意欲等で総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

個別に開示する。

参考文献

講義内で適宜紹介する

講義時使用テキスト

レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は、2年生以上を対象としている。金融に関する基礎知識をもっている学生を想定しているので、基礎コースである「金融入門」授業の聴講をお勧めする。なお、金融経済の実際と理論の両面を学習するに当たって、新聞や雑誌などに掲載されている金融関連の記事を読むことは本講義の内容に関する理解度を高めると思われる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	この講座の目的とRCの活動	・授業内容についてインターネットで調べる	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	金融・経済において信用金庫と信用組合の果たしている役割	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	企業経営と金融・経済(1)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	金融・経済において生命保険会社の果たしている役割	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	金融・経済において損害保険会社の果たしている役割	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	企業経営と金融・経済(2)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	金融・経済において銀行の果たしている役割-青森みちのく銀行の新たな挑戦-	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	我が国の経済情勢と日本銀行の役割・金融政策	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	金融・経済において証券会社の果たしている役割	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	金融・経済と法(1)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	企業経営と公認会計士の果たしている役割	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	企業経営と金融・経済(3)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	金融・経済と法(2)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	企業経営と金融・経済(4)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	講義のまとめ	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520041000 保険論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	福田　弥夫		

学習目標(到達目標)

本講義は、保険の基礎理論と実務の内容に関する学習を通じて、保険の知識を身につけることを目標とする。さらに、第8回の授業では、前半での学習を生かして、実際に保険を利用した生活設計を受講生のみなさんと行う。それにより、単なる保険内容の説明のみでなく、身近にある保険をどのように利用するのかについて実際の生活設計を行い、保険の経済的な効用を感じることを目標とする。
なお、グループワークを通じて、自分のコミュニケーションスキルを向上させることも学習・教育の目標である。

授業概要(教育目的)

保険論は、15回の講義を大きく2つに分けて、前半は保険の基礎理論に関する内容を、後半は保険の経営に関する実務的な内容を説明する。前半の保険の基礎理論については、現代社会における保険の役割を説明し、保険の歴史から仕組みまで保険の全般的な基礎理論について学習することを目標とする。後半の保険の経営については、保険事業をめぐる全般的な事情について説明し、保険事業における販売チャネルと資産運用の現状と課題について説明する。そして、保険事業をめぐる規制状況、社会的責任、今後の課題についても説明する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦著『保険学(補訂版)』有斐閣
2. 大谷幸一編著『保険論』成文堂
3. 水島一也著『現代保険経済(第8版)』千倉書房

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	現代社会における保険の役割	・授業内容についてインターネットで調べる	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	保険の歴史(生成と発展)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	リスクマネジメントと保険	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	保険の種類と仕組み	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	保険料の構成、算出方法	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	保険商品の種類と構造	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	保険の契約	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	保険を利用した生活設計	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	保険事業の特徴①(保険産業の事情)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	保険事業の特徴②(保険会社の販売チャネルにおける現状と課題)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	保険事業の特徴③(保険会社の資産運用における現状と課題)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	保険事業に関する規制	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	保険会社における社会的責任(CSR)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	保険事業・政策における課題	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	保険事業のグローバル化と規制	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

講義名	2520042000 労働問題 ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. 労働問題について考察する上で必要な基本的な知識等をマスターする。
2. 社会人として身に付けておきたい基本的な法律知識等をマスターする。

授業概要(教育目的)

大学を卒業すると、多くの学生は企業や官公署に就職し、学生から社会人になる。社会人になると、企業等の社員(職員)としての側面と、一個人の労働者としての側面を持つことになる。現在起きている労働問題は労働法によって判断されることが多いが、これらの問題を未然に防ぐ観点からも、労働法の基本的な法律を正しく理解しておくことは必要である。
本講義では、労働問題について考察する上で必要となる基本的な事項や、働く前に身に付けておきたい基本的な事項を、代表的な労働法や社会保険に関する法律等を取り上げて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に実施する確認小テストや確認レポート、定期試験などを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

個別に対応する。

参考文献

講義時使用テキスト

必要に応じて講義ペーパーを用意する。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 働くということ－労働の基本 確認レポートあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
2	2. 雇用形態を理解しよう－正規労働、非正規労働、自営業 確認レポートあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
3	3. 報酬と賃金について 確認レポートあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
4	4. 労働法の基礎知識①：使用者と労働者が締結する労働契約、契約期間 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
5	5. 労働法の基礎知識②：使用者が作成する就業規則、賃金、労働時間、休憩・休日 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
6	6. 労働法の基礎知識③：時間外・休日労働、年次有給休暇、懲戒 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
7	7. 労働法の基礎知識④：解雇、解雇以外の雇用関係の終了 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
8	8. 労働法の基礎知識⑤：育児休業・介護休業、ワークライフバランス 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
9	9. 労働法の基礎知識⑥：ハラスメント、労働災害 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
10	10. 社会保険の基礎知識①：保険料、ケガ等をした場合に適用される労災保険・健康保険 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
11	11. 社会保険の基本知識②：失業等をした場合に適用される雇用保険、年金の基礎知識 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
12	12. 社会保険の基本知識③：老齢・障害・死亡時に適用される厚生年金保険 確認小テストあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
13	13. 就職・退職の際に注意すること 確認レポートあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
14	14. 仕事について考える 確認レポートあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。
15	15. 企業の人事部・労務部の仕事 確認レポートあり	授業内容についてインターネットで調べる	授業内容をまとめておくこと。

講義名	2520043000 地域イノベーション・マネジメント						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

1. 地域イノベーションの概念の変遷・現代の意義を説明できる
2. 地域課題の抽出法を身につけ、課題解決の思考力、想像力を高める

授業概要(教育目的)

本授業では、イノベーションを単なる技術革新としてではなく、新たな価値を創出し、地域社会に変化をもたらす取組として捉える。地域産業、地域資源、関係者の連携、地域課題の解決に関する事例を学ぶとともに、フィールドワークを通じて、実際の地域資源や地域産業に対する理解を深める。

さらにフィールドワークで得た情報をもとに地域課題を抽出し、その背景や構造を整理する。イノベーション理論やマネジメント理論を踏まえながら、地域資源を活用した課題解決の方策や新たな価値創造の可能性を検討し、継続可能なビジネスモデルや活動の仕組みを構想する。

これらの学びを通じて、地域イノベーションの可能性を理解しサステイナブルな地域づくりに主体的に関わり、地域の未来を切り拓くことのできる人材へと成長することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている

評価方法

フィールドワークへの取組状況、課題(レポート)等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

授業内で適宜行う

参考文献

木谷哲夫(2024)「イノベーション全史」BOW&PARTNERS
それ以外は講義中に適宜紹介する

講義時使用テキスト

使用しない
講義ごとに配布するレジュメ(プリント)と板書によって講義を行う

資格との関連

学生へのメッセージ

講義のうち1日は、六ケ所へフィールドワークに出かける。(8月28日予定)
受講者にはフィールドワークについての必要事項等を、メール、掲示などで事前に連絡をするので必ず確認をすること

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域イノベーションとは	授業内容についてインターネットで調べる	配付資料を読み直す
2	地域の産業構造と変遷	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	地域イノベーション×エネルギー産業	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	フィールドワーク準備	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	フィールドワーク①　六ケ所原燃PRセンター・日本原燃㈱濃縮工場車中見学	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	フィールドワーク②　日本原燃㈱低レ・低レベル埋設地・尾駮レイクタウン・むつ小川原港・太陽光発電所等車中見学	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	フィールドワーク③　道の駅・風力発電トレーニングセンター車中見学等	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	フィールドワーク④　日本原燃㈱　高レベル管理施設等見学	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	フィールドワーク振り返り	フィールドワークで経験したことを整理する	学んだことを整理する
10	イノベーション理論の整理	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	マネジメント理論の整理	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	地域産業の創出とサステイナブルな地域づくり	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	地域課題×マーケティング思考	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	地域資源を活用した新たな価値創造	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	ビジネスモデル構築	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520044000 マーケティング論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・マーケティングの基礎的な概念・理論を説明できる
・マーケティング思考を身につける

授業概要(教育目的)

現代のビジネス・組織活動において、マーケティングは欠くことのできない市場創造活動である。今日のマーケティングは、企業活動において中心的役割を果たすに至っており、営利企業のみならず、自治体、大学、病院等、公共組織・非営利組織においても、マーケティングの必要性が唱えられる時代となっている。本講義では、具体的な事例を取り上げ、　日常生活に関連させながら、マーケティングの基礎知識を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

・講義内で実施する小テスト・課題等提出物:50%
・定期試験または期末課題:50%

課題に対するフィードバック

課題等は採点のうえ返却する

参考文献

講義中に適宜紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	マーケティングとは	「マーケティング」についてインターネットで調べてみる	講義ノートに目を通す
2	マーケティングの歴史	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
3	マーケティングコンセプトの変遷	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
4	マーケティング活動①環境分析	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
5	マーケティング活動②セグメンテーション	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
6	マーケティング活動③ターゲッティング	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
7	マーケティング活動④ポジショニング	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
8	マーケティング活動⑤マーケティングミックス	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
9	マーケティングミックス①製品・サービス	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
10	マーケティングミックス②価格	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
11	マーケティングミックス③販売促進	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
12	マーケティングミックス④流通	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
13	マーケティング・リサーチ	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
14	消費者行動の理解①経済学的アプローチ	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
15	消費者行動の理解②心理学的アプローチ	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520045000 地域マーケティング						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・地域におけるマーケティング活動の重要性、必要性を説明できる
・八戸をはじめとした各地域の歴史や文化、産業を理解する。
・地域における課題抽出やその解決手法を理解する。

授業概要(教育目的)

地域の価値を高め、創造するための地域課題抽出および地域住民など様々な主体による地域課題解決のツールとしてマーケティング手法がある。その理論と実践事例を理解し、地域経営、地域活性化、地域ブランド等、地域の価値を高めるためのマーケティング思考を鍛え、地域を理解し、課題解決および各種手法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

・講義内で実施する小テスト・課題等提出物:50%
・定期試験または期末課題:50%

課題に対するフィードバック

課題等は採点のうえ返却する

参考文献

講義中に適宜紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域を学ぶ意義	「地域とは」インターネットで調べてみる	講義ノートに目を通す
2	地域資源とは	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
3	地域資源を活用した新たな商品・サービスの開発	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
4	地域資源を活用した事業事例①まちづくり	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
5	地域資源を活用した事業事例②ものづくり	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
6	環境・エネルギーの現状と地域の資源の魅力	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
7	エネルギー産業等に伴う地域活性化	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
8	地域の産業立地の歴史と現状(エネルギー施設等)	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
9	【八戸地域学①】産学官連携による講座「タイトル未定」	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
10	【八戸地域学②】産学官連携による講座「タイトル未定」	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
11	【八戸地域学③】産学官連携による講座「タイトル未定」	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
12	海外・国内地域モデル	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
13	地域資源を活かし、付加価値力・地域力を高める	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
14	地域活性化に向けた地域ブランド戦略	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
15	地域の今後の課題と方向性	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す

講義名	2520046000 消費者行動論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・消費者社会の変遷や消費者の基本的な行動原理、意思決定について説明できる。
・消費者の行動に関する各種分析手法を習得できる。

授業概要(教育目的)

消費者行動の研究は、これまでマーケティングの分野において最も活発に行われてきたが、現代社会における消費者行動の多様性と変化を捉えることが重要視されるにつれて、経済学、経営学のみならず、社会学、社会心理学、文化人類学の分野など、様々な学問分野の視点で活発に研究されるようになってきている。
本講義では、具体的な事例を取り上げ、身近な消費行動に関連させながら、消費者行動の内的・外的要因のダイナミクスを考察することにより、消費者の基本的な行動原理や消費者行動の分析手法等について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

・講義内で実施する小テスト・課題等提出物：50%
・定期課題または期末課題：50%

課題に対するフィードバック

課題等は採点の上返却する

参考文献

講義中に適宜紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	消費者行動とは	「消費者行動」についてインターネットで調べてみる	講義ノートに目を通す
2	消費社会の変遷①戦後～1960年代	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
3	消費社会の変遷② 1970年～	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
4	マーケティングと消費者行動	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
5	消費者行動と企業行動	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
6	需要と供給	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
7	家計の行動	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
8	消費行動と経済波及効果	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
9	各種消費行動分析手法	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
10	消費者行動分析①〈実習〉回帰分析の基礎	前回の講義ノートに目を通す	提出課題のEXCELファイルを見直す
11	消費者行動分析②〈実習〉単回帰分析・相関分析	前回の提出課題に目を通す	提出課題のEXCELファイルを見直す
12	消費者行動分析③〈実習〉重回帰分析	前回の提出課題に目を通す	提出課題のEXCELファイルを見直す
13	消費者行動分析④〈実習〉価格感度分析	前回の提出課題に目を通す	提出課題のEXCELファイルを見直す
14	消費者の購買意思決定プロセス	「意思決定プロセス」についてインターネットで調べてみる	講義ノートに目を通す
15	消費者の購買行動における心理的プロセス	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す

講義名	2520047000 地域産業論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

国全体の産業配置を俯瞰した上で見えてくる地域の特徴や問題点を、立地理論や国際的な比較などを通して、一般理論も考慮したなかで具体的に説明できる。

授業概要(教育目的)

近年、地域の人口減少・産業の衰退が問題となっているが、過去の地域の成長・産業の発展がどのような条件の下に達成され、変化し、現状に至っているかを立地論を元に理論的に理解する。あわせて、青森県及び八戸市地域の産業構造や地場産業の現状と課題について紹介し、それらを通じて、地域産業における地域の特性や優位性、成長の方策などを考察する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

期中の小テスト、および論述を中心とした期末試験。
試験では参考資料にある記述を参照するだけではなく、講義内容を踏まえての、自分の経験や観察、調査に基づく記述を重視する。難しいことを書く必要はない。むしろ、自分が街の中で実感したオリジナリティのある考察、論述を大いに評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをフィードバックする。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 島田晴雄「産業創出の地域構造」、東洋経済新報社、1996年
2. 関　満博「地域産業の未来」、有閣斐選書、2002年

講義時使用テキスト

富田和暁「地域と産業　新版」、原書房、2006年
新刊書は高価。アマゾンなどでの古書購入でもかまわない。

資格との関連

学生へのメッセージ

八戸を始めとして、自分の出身地や興味のある地域などから、受講する学生諸君それぞれの関心のある産業に関する情報を収集して欲しい。そして眼前に現れている現象だけでなく、その背後にある歴史的経緯や先人が築いた一般理論も知ることによって、現在我々が居住しており、将来そこで仕事をして生きていくであろう地域で起きている産業活動の様々な事象の理解を目指して欲しい。
将来どこに住むことになろうとも、諸君が日常の暮らしを送っている場所が「地域」「地元」であり、そこでの生活を通して諸君の人生を豊かなものにしていくために、地域の産業のあり方を理解しよう。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 地域経済の発展と変化・危機	地域経済・地域産業の定義について、また現在問題となっている地域の衰退について調査しておく。	講義の内容を整理し、自分の考えと一般的な理解を整理する。
2	2. 産業立地論1 チューネンの理論	チューネンの「孤立国」について教科書、参考書等を調べておく。	チューネンの孤立国概念で今の地元小都市の説明ができるよう、講義を整理する。
3	3. 産業立地論2 ウェーバーの理論	ウェーバーの「工業立地論」について、教科書の該当箇所や一般の資料を読んでおく。	工業立地の原理となる原料指数についてノートに定義をまとめておく。
4	4. 産業立地論3 クリスタラーの理論	クリスタラーの「中心地理論」「立地階層化」について教科書の該当箇所や一般の資料を読んでおく。	孤立国概念から工業立地論、中心地理論への理論の発展を自分の知る実例に照らし合わせてノートにまとめる。
5	5. 産業立地論4 オフィス立地論	教科書のオフィス立地論を通読した上で、工業社会から情報社会への変遷とはどういうことなのか調べておく。	オフィス立地論の概念について自分なりの理解をノートにまとめ、都市間競争やストロー現象について自分の知る都市の実例を考えてみる。
6	6. 産業立地政策の変遷:政府方針	TVA、「全国総合開発計画」と高度経済成長政策について調べておく。	鉄道、高速道路網、地域空港整備の変遷について歴史的観点からノートにまとめる。
7	7. 工業化時代の産業立地:大企業	八戸キャニオンとは何か、また八戸セメントという会社の歴史について調べておく。	八戸における代表的大企業の立地について、再度工業立地論的観点から実例を調べてみる。
8	8. 中小企業政策と地域経済	八戸地区・青森・東北・自分の出身地などの自分に身近な企業のがなぜそこに立地しているのか調べておく。	地域に共通する問題や成功の要因についてノートにまとめる。
9	9. 地元資本・地域ベンチャービジネス	自分の地元と地元資本・地域発ベンチャービジネスとしての代表例にどのような企業があるかを調べておく。	成功事例・衰退事例についてその要因をノートにまとめる。
10	10. 地域産業をになう商店街・中小零細企業	自分の地元に特徴的な地域産業や商店街、地元特産品・産業の特徴について調べておく。	自分が調べた地域でその産業・製品などが成立した要因についてまとめる。
11	11. 地域経済・産業の空洞化	自分の地元の地域経済・商店街の立地条件を産業立地論の中で再検討してみる。	地元の中小零細企業・商店街の今後のあるべき姿についてまとめる。
12	12. 商店街・都市の成立条件、繁栄・衰退のサイクル	「商店街」とは何か、その定義と歴史、法制、後継者問題について調べておく。	発展している企業・業種の特徴についてノートにまとめておく。
13	13. グローバル資本主義と地域経済	ウォーラーステインの「帝国」について概略を調べておく。	ヘゲモニー国家の歴史的推移について自分の理解をまとめておく。
14	14. 未来型産業支援施設の展開	青森市の「アウガ」、八戸市の「はっち」について、過去に何が起こったのかネットなどで経緯を調べておく。	アウガの教訓と他都市の成功例について比較し、相違点など気付いたことをまとめておく。
15	15. 地域産業を支える人材・労働力	教科書の中心地理論・オフィス立地論を概観し、自分はどのような場所で働きたいか考えてみる。	将来自分が就きたい職業とその立地論的特性についてまとめる。自分はどの地域で働くのが良いのか、その場所の将来について立地論的観点から考えてみよう。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520048000 農業概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	豊川　良昭		

学習目標(到達目標)

1. 日本農業の現状と農政の移り変わり、農業組織及び時事問題等を説明できる。
2. 農畜産物及び農業の現況を理解し、農業関連ビジネスの将来性等について説明できる。

授業概要(教育目的)

農業の成り立ち、農業や農家の現状、各農畜産物の特徴、日本農政の移り変わり、農業を支える組織及び時事問題等について理解し、どのように対応していくべきかを学ぶことを目的とする。
総論として、国際化に対応できる日本農業の将来と、農業で起業するために必要な知識等を得ると共に、農ビジネスの将来性を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

毎回のリアクションペーパー及び、最終課題レポート等の内容により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

内容に応じて、講義時に紹介する。

講義時使用テキスト

毎回講義資料を配付する。

資格との関連

学生へのメッセージ

1. 日々報道される、食料、農業、農村及び農政に関する情報に関心を持つことで、より理解が深まる。
2. 農業生産、流通、加工、食品に対して興味・関心が高まるよう、適宜演習や青森県内の特色ある事例等の紹介(動画上映)を取り入れることとする。
※演習ではグループワークを数回予定しているので、誰とでもグループになれるよう、また、グループ内では協力して作業を行うよう心掛けておくこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	日本農業の基礎知識 「農政時事」の内容紹介、日本農業の特徴　など	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連個所を読む 配布資料とノートを読み直す
2	日本の農政 農地改革、農業基本法、総合農政、食料・農業・農村基本法　など	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連個所を読む 配布資料とノートを読み直す
3	肥料と農薬の基礎知識 肥料、農薬　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
4	日本農業を支える組織 農林水産省、青森県農林水産部、JA　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
5	世界経済の中の日本農業 GATT、GTO、EPAとFTA　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
6	加速する農業のビジネス化 農業法人、企業の農業参入、植物工場、産直　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
7	農業を進化させるテクノロジー バイオテクノロジー、IT・ロボットの活用　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
8	持続可能な農業に向けて 有機農業、環境保全型農業、GAP　など	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連個所を読む 配布資料とノートを読み直す
9	米のイロハ 米の種類、日本の稲作クローズアップ、米の品種　など	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連個所を読む 配布資料とノートを読み直す
10	畑のイロハⅠ 日本の畑作クローズアップ、野菜の種類、豆の種類　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
11	畑のイロハⅡ 小麦について、大麦・裸麦について、果樹を知ろう　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
12	畜産のイロハ 日本の畜産クローズアップ、牛を知ろう、豚を知ろう、鶏を知ろう　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
13	日本の食料事情 日本の食生活の変化と食料自給率の推移、トレーサビリティ、遺伝子組換え作物　など	授業内容についてインターネットで調べる	参考文献の関連個所を読む 配布資料とノートを読み直す
14	日本の食をめぐる動き ブランド野菜、農家レストラン、グリーンツーリズム　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
15	世界の食料事情と食をめぐる問題 世界の食料事情、育種法　など	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520049000 農業経済学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

食料・農業・農村の諸問題に対し、経済理論を用いて解釈および説明することができる。

授業概要(教育目的)

本講義は、農業経済学の基礎理論を学ぶことを目的とする。具体的には、日本農業が抱える担い手の不足と農村の衰退問題、拡大する農産物貿易の問題、世界的な飢餓と飢饉による食糧問題、食の安全性の問題、自然環境との関わりの中での農業の課題などの実例を紹介し、それらの諸問題および課題に対し、経済学のアプローチから理解を深めていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

試験結果によって評価する。

課題に対するフィードバック

授業中に行う小テストやレポートは、次回以降の授業においてフィードバックする。

参考文献

田代洋一著『農業・食料問題入門』大月書店,2012年

講義時使用テキスト

荏開津典夫,鈴木宣弘『農業経済学』岩波書店、2020年、第5版

資格との関連

学生へのメッセージ

農業を体系的に理解するため、農業に関する基礎的知識を事前に予習しておくことが望ましい。また、農業に関心のある学生には、同じく基礎科目農業経営学、応用科目として食料経済学を合わせて受講されることが望まれる。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1、農業経済学の概要	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
2	2、経済発展と農業	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
3	3、食料の需要と供給	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
4	4、農業生産と土地	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
5	5、農業の経営組織	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
6	6、農産物の市場組織	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
7	7、農産物貿易と農業保護政策①（穀物貿易の特質、国内農業保護政策、農産物の過剰生産）	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
8	8、農産物貿易と農業保護政策②（GATT、WTO、FTA等に対する変遷過程）	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
9	9、世界の人口と食料	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
10	10、食生活の成熟とフード・システム	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
11	11、農業の近代化	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
12	12、資源・環境と農業	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
13	13、日本の農業と食料①（日本の農業・食料問題、農業基本法と構造改善、食管法と米の問題）	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
14	14、日本の農業と食料②（食料の内外価格差、食料・農業・農村基本法、21世紀の日本農業と農業政策）	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
15	15、農業政策と農業経済学	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。

講義名	2520050000 農業経営学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

①現在の農業経営に求められる資質が何かを説明できる。
②農業経営の経営計画の基本的枠組みを理解し作成できる。

授業概要(教育目的)

近年の日本の農業経営は、グローバル化の進展に伴い、ますます競争が激しくなることが予想される。これに対応するように日本農政は、食糧法の改正による自由販売の拡充、農地制度の改正に伴う農業生産法人の参入緩和措置などを決定し、さらには6次産業化策の推進や海外市場開拓など市場経済に対応する農業経営を新たな担い手として求めている。つまり、これまでの家業的な農業から脱皮し一般企業と同様に"企業的"な活動が農業経営に求められているといえる。本講義では、これからの農業経営に必要な基本的な視点を説明すると同時に、本講義の後半以降では、刻々と環境が変化することに合わせ、現代的な農業経営の姿も説明していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に課すレポート(発表も含む)や試験結果によって評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

『現代農業のマネジメント―農業経営学のフロンティア―』2008年，日本経済評論社

講義時使用テキスト

大泉一貫、津谷好人、木下幸雄ほか『農業経営概論』実教出版、2016年10月

資格との関連

学生へのメッセージ

農業事情、農業経済学の科目を受講することで、より農業の理解が深まるので合わせて受講することをお勧めする。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	農業の動向と農業経営	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
2	現代の農業経営	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
3	農業経営の主体と目標、生産要素	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
4	農業経営組織	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
5	農業経営の運営	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
6	農業経営と情報	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
7	農業経営のマーケティング	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
8	農業経営の社会環境	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
9	農業経営の会計①(簿記の基礎)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
10	農業経営の会計②(各種取引の基調と決算)	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む
11	農業経営の会計③(農産物の原価計算)	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
12	農業経営の診断	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
13	農業経営の設計	テキストの該当箇所を読む	授業のポイントをノートに整理する。
14	ICT活用による農業経営	ICT活用と農業についてインターネット、書籍などで事前に調べる。	授業のポイントをノートに整理する。
15	6次産業化の現状	6次産業化についてインターネット、書籍などで事前に調べる。	授業のポイントをノートに整理する。

講義名	2520051000 食料経済学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

①フードシステム(フードチェーン)とは何かを説明できる。
②戦後日本から現在までの食糧(料)に関する環境変化について説明できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、フードシステム論(ないしはフードチェーン)の観点から、普段何気なく食している食料、食品の本質について探ることを目的としている。昨今の“食”と“農”を囲む環境は、“農業の工業化”、バイオエタノール利用、地球温暖化の影響等によって、大きな変化がみられる。一方では食と農の乖離を促進するような動きと他方でこれらを取り戻そうとする動きである。これらの動向を客観的に捉え、受講生にとって、将来の食について一人ひとりが考えるきっかけとなることを目指している。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

テストの結果と授業中に課すレポートによって評価する。

課題に対するフィードバック

授業中にフィードバックを行う。

参考文献

1. 時子山ひろみ　荏開津典生『フードシステムの経済学』医歯薬出版
2. 高橋正郎『フードシステムと食品流通』農林統計協会
3. 高橋正郎　斉藤修『フードシステム学の理論と体系』農林統計協会
4. 明治大学農学部食料環境政策学科『食料環境政策学を学ぶ』日経評論社

講義時使用テキスト

高橋正郎監修、清水みゆき編著『食料経済ーフードシステムからみた食料問題　第6版』オーム社, 2022年3月

資格との関連

学生へのメッセージ

その他の農業関連の科目(農業経済学、農業経営学)を受講することが望ましい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	食糧環境論とは	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
2	食生活の変遷と特徴	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
3	成熟期における食の需給	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
4	食の外部化	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
5	農畜水産物の生産	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
6	食品製造業と食品企業の展開	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
7	食品の流通	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
8	食料・食品輸入の増加	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
9	世界の食料問題	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
10	日本の食料政策と食品政策	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
11	食品の安全性と食をめぐる資源・環境問題	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
12	放射能事故と農産物の事故対応	放射能事故によって起こった食料の問題は何があるのか、雑誌・新聞記事、インターネット等で調べよ。	授業のポイントをノートに整理する。
13	食育基本法の制定と食育の課題	食育基本法について調べよ。	授業のポイントをノートに整理する。
14	日本の食料問題を考える	テキストの該当箇所を読んでくる。	授業のポイントをノートに整理する。
15	食料について考える。講義では映像を視聴し、ワークシートを用いて考えをまとめる。	これまでの授業内容を総体的に概観し、人と食料について考えをまとめておく。	授業のポイントをノートに整理する。

講義名	2520052000 水産経済論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	中川　雄二		

学習目標(到達目標)

我が国の産業構造における水産業、水産物の商品市場、並びに水産物のフードチェーンの構造と機能について基本的に説明できる。また、グローバル社会における我が国の水産業と水産物のフードチェーンの動向と関係について基本的な理解を持つ。

授業概要(教育目的)

本講義では、水産物に係る生産、市場、流通、加工、並び関連する政策の構造と機能について基礎的な知見を得るため、我が国の水産業に係る左記の特質と問題点について認識を深め、今後の同産業の展開と方向について、産業組織、国際関係、並びに環境問題等の視点から学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

講義で得られた知見をもとに論点を整理し、その論点に関する論述を講義の単元別に行ってもらい、受講の到達度を総合的に評価する。
学習の到達度のみならず、得られた知見に基づく問題の抽出力とその解決のための提案力について論述内容から評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)は採点の上返却する。

講義時使用テキスト

当方で事前に講義資料(講義レジュメと講義解説)を用意し、受講者に配布する。

参考文献

受講にあたり、我が国の水産庁のホームページより『令和5年度水産白書』(PDF版)をダウンロードし、その概要を把握しておくことが望ましい。

資格との関連

学生へのメッセージ

水産業を含め、我が国の従来産業は、過去30年の間に大きな変容を遂げてきた。これは、1980年代以来、我が国が本格的にグローバル経済に構造的かつ機能的に組み込まれ、資本と労働の移動による国際分業の進展、並びにそうした変化を根底に進展した我が国の産業構造と市場構造の変化によるものである。したがって、グローバル経済における我が国の産業経済のポジションが変化する中で、水産業とそれに伴う地域経済の現状と今後の方向がどのように変化するのかについて考えてもらいたい。自らの足元に見える些細で日常的な数々の個別事象が実は全体的な事象の変化の中で決定づけられていることを思考の根本に置き、常に戦略的な視野の下で自らの知見を活用し、活動して欲しい。水産経済から見るグローバル経済や我が国の産業構造の動きを捉え、社会人としての行動の指針の形成の一助としてもらいたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	グローバル経済下の我が国の産業構造における水産業と関連産業の位置	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
2	市場経済の中での水産業、関連産業および関連市場の連環と各機能	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
3	水産業の生産構造:漁業、養殖業、関連産業	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
4	水産業を成立させる社会経済的な要因と要因の背後にある問題	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
5	水産業の持続性とその戦略的な方向:資源の分布と再生産サイクルの中での原料調達、産業継承の主体、商品と市場のデザイン	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
6	水産業の持続性をめぐる制度と政策①:資源管理、食種管理、市場管理	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
7	水産業の持続性をめぐる制度と政策②:市場管理、消費管理、標準化	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
8	水産物の流通構造:フードチェーンの構造と機能	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
9	水産物のフードチェーンにおける川上セクターの主体とそのビジネスモデルの動向	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
10	水産物のフードチェーンにおける川中セクターの主体とそのビジネスモデルの動向	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
11	水産物のフードチェーンにおける川下セクターの主体とそのビジネスモデルの動向	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
12	水産物のフードチェーンにおける食の安全・安心問題、安全管理、商品デザイン	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
13	水産物のフードチェーンにおける技術革新とその導入の動向	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
14	水産物のフードチェーンにおける環境問題とグローバル社会	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
15	水産物のフードチェーンにおけるグローバル経済と地域経済:産業の立地と優位性	テキストの該当箇所を読む 参考文献の関連個所を読む	授業内容についてインターネットで調べる 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520053000 流通経済論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	中居　裕		

学習目標(到達目標)

以下の2事項を達成目標とする。
1. 港湾が果たしている港湾物流の経済的な役割を説明することができる。
2. 港湾の内部構造がどのようになっているか説明することができる。

授業概要(教育目的)

日本におけるロジスティクスのとらえ方は経済活動(生産活動、流通活動、消費活動)において、物資流通の円滑化を実現するため、調達・生産・包装、荷役および情報等の活動を総合的に管理することと考えられている。なかでも日本の場合には人口が都市圏に極度に集中していること、四面海に囲まれた島国であること、その島国が南北に長いという地形的な特性から内国貿易に、大きな特徴をもっている。また、海外との輸送は外航海運にその多くを依存している。したがって、日本におけるロジスティクスは「港湾における荷役、輸送、保管、包装、情報活動」が大きな分野を形成している。
本講では、「ロジスティックスとはどのようにとらえたらよいのか」をスタートラインに日本の実情、特徴を明らかにした上で、その主要部分を担っている港湾に注目して、①港湾をどのように理解したらよいのか。②港湾物流の中核を担っている港湾運送業とはどのような構造になっているのか。③港湾はどのような機能を果たしているのか。④物流の近代化(貨物のコンテナ化)が進行する中で、港湾物流がどのように変化・課題を抱えているのか。これらのテーマを通して、港湾が果たしている経済的な役割の理解を深化することにある。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

参考文献

講義の中でその都度紹介するが、主なものは以下のようである。
池田宗雄著『港湾知識のABC』成山堂書店／市来清也著『港湾管理論』成山堂書店
ジェイアール貨物・リサーチセンター『日本の物流とロジスティクス』成山堂書店
阿保栄司著『ロジスティクスの基礎』税務経理協会

講義時使用テキスト

毎回講義のレジュメを用意、テキストは使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ロジスティクスとは(講義の 進め 方も 含めて)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
2	商流と物流(物流の 歴史、アメリカ・日本の 物)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
3	商流と物流(日本における 物流の 実態)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
4	日本の物流の 特徴	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
5	物流ニーズの 変化	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
6	港湾の 種類(港湾の 用途から)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
7	港湾の 種類(立地条件、貿易形態から)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
8	港湾の 種類(港湾に 関連する 法体型から)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
9	港湾とは	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
10	港湾の内部構造＝港湾運送事業	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
11	港湾産業とは	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
12	港湾が果たしている機能	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
13	港湾物流(概念、活動諸形態、特質)	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
14	港湾の管理・運営	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す
15	港湾物流の近代化と課題	授業内容についてインターネットで 調べる	配布資料とノートを 読み 直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520054000 地域活性化システム論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

地域の多様な関係性を踏まえ、持続可能性の観点から地域活性化の取り組みについて理解できる。
授業を通じて得られた知見について、地域の課題の抽出、そして検討結果を筋道立ててまとめ、方向性を示すことができる。

授業概要(教育目的)

本授業では、地域活性化を地域の現状と取り組み事例をもとに学ぶ。人口動態、産業、生活環境、行政の施策などが相互に関係しながら地域が変化する点に着目し、地域課題の捉え方と検討の進め方を整理する。
講義に加えて外部との連携を行い、そこで得られた情報を整理・検討したうえで理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業中に課すワークシートやレポートの内容、実習への取り組み、最終レポートの内容で総合的に判断する

課題に対するフィードバック

ワークシートやレポートなどの課題については、授業の中でフィードバックしていく。

参考文献

授業中、必要に応じて適宜示す。

講義時使用テキスト

使用せず。

資格との関連

学生へのメッセージ

・自分の意見を持ち相手に伝えること、また相手の意見を聞きながら、よりよい方向へ考えを深めていくことが大事になっていくので、コミュニケーションを重視します。
・人の話を聞くこと、自分の意見を言葉にして伝えることが苦手な学生も、社会に出る前の練習の機会として積極的に挑戦してください。
・実習の授業も予定していますので、基本的な礼儀(服装や身だしなみ、遅刻厳禁など)やマナー(挨拶や話し方)を身につけて臨みましょう。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
2	地域活性化とは／システムとして考えるということ	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
3	分析フレームを考える①	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
4	分析フレームを考える②	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
5	分析フレームを考える③	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
6	事例① 教育×地域運営	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
7	事例② 観光① DMO	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
8	事例③ 観光② 観光×中心市街地	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
9	事例④ 観光③ 持続可能性	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
10	フィールドワークについて	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
11	フィールドワーク実施①	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
12	フィールドワーク実施②	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
13	フィールドワーク整理	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
14	フィールドワーク報告	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
15	振り返り／まとめ	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520055000	ミクロ経済学					
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の2点を講義の到達目標とする。
1. 需要曲線の背後にある消費者の意思決定プロセスを把握し、説明できる。
2. 供給曲線の背後にある生産者の意思決定プロセスを把握し、説明できる。

授業概要(教育目的)

ミクロ経済学があつかう問題は、(1)消費の主体である家計はいかなる財・サービスをどれだけ消費するか、(2)財・サービスを生産する主体である企業は、対象となる商品をどれだけ生産し、販売するか、(3)家計と企業が市場で取引することにより、財・サービスの価格はどう決まるか、等である。すなわち、ミクロ経済学とは、個々の経済主体による意思決定及び取引に焦点を当て、分析する学問である。
本講義では、ミクロ経済学における様々な問題のうち、市場の完全性が成り立っているもとでの家計と企業の行動をあつかう。すなわち、無数の家計と無数の企業が市場で財・サービスを取引する場合、家計はいかに行動するか、また、企業はいかに行動するか、といった個々の経済主体の基本的な行動決定プロセスを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に随時実施する小テスト、提出課題を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

・小テストの模範解答をWebClassにアップロードし、適宜、解説を行う。

参考文献

講義時間中に随時説明する。

講義時使用テキスト

担当教員作成の講義資料を章ごとに配布し、メインテキストとして使用する。

資格との関連

本講義は地方(国家)公務員試験を目指すものにとって、秋学期開講の「公共経済学」とともに、(ミクロ経済学分野についての)基本的な知識が得られるように配慮してある。

実務との関連

学生へのメッセージ

「ミクロ経済学」は経済主体による経済活動を数式で表現し、展開し、考察する学問であり、講義を理解するには、(2次関数、微分等)高等学校で学んだ数学の知識が必要不可欠である。
したがって、数学に苦手意識を持っている方、1箇所でつまずくとその先が全く理解できなくなる型の科目が苦手な方にとり、「ミクロ経済学」を受講し、理解するには大きな困難が伴う。
また、必修科目の「経済学入門」とは異なり、選択科目である「ミクロ経済学」は、「難しいけれども、自分にとって意味のある内容であれば真剣に学んでみたい」と考える方々を対象とした科目であり、単位取得のハードルも高くなる。
よって、「難しいけれども真剣に学んでみたい」と思える覚悟と意欲を持てる方のみ、「ミクロ経済学」を履修選択することを勧める。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「ミクロ経済学」とは	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	ミクロ経済学の課題と経済主体	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	効用最大化とその考え方	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	効用最大化の理解に必要な数学	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	効用最大化問題の解法	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	マーシャルの需要関数	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	代替効果と所得効果	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	財・サービスとその性質	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	需要の価格弾力性	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	完全競争市場の概念と生産関数	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	短期における利潤最大化とその考え方	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	短期における利潤最大化の理解に必要な数学	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	短期における利潤最大化問題の解法	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	短期における費用関数	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	短期における供給関数と損益分岐点	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520056000 公共経済学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の2点を講義の到達目標とする。
①市場の効率性を、計測・比較する手法を身につけ、説明できる。
②市場の効率性が阻害される(適正な資源配分が行われない)理由と解決方法を説明できる。

授業概要(教育目的)

「ミクロ経済学」において想定した市場の完全性が、何らかの理由で成り立たない場合、たとえば、独占市場のような不完全競争市場において、自由な経済活動に委ねることによって効率的な資源配分は達成されない。すなわち、資源配分上の歪みが生じる。そして、資源配分上の歪みを是正すべく、政府による家計や企業の経済活動への介入が求められる。
「公共経済学」では、はじめに、資源配分上の歪みが生じているか否かを計測・判定する基準、すなわち部分均衡分析による市場の効率性計測の手法(余剰分析)及び一般均衡分析による市場の効率性を判定する基準(パレート基準)を学ぶ。次に、独占市場を含め、市場の完全性が成り立たないがゆえに効率的な資源配分が達成されない状況(市場が失敗する状況)を分類し、資源配分に歪みが生じるメカニズムにつき、それを是正する方法とともに学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に随時実施する小テスト、提出課題を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

・小テストの模範解答をWebClassにアップロードし、通宜、解説を行う。

参考文献

講義時間中に随時説明する。

講義時使用テキスト

担当教員作成の講義資料を章ごとに配布し、メインテキストとして使用する。

資格との関連

本講義は地方(国家)公務員試験を目指すものにとって、春学期開講の「ミクロ経済学」とともに、(ミクロ経済学分野についての)基本的な知識が得られるように配慮してある。

実務との関連

学生へのメッセージ

「公共経済学」の講義を受講し、理解するには、完全競争市場における消費や生産の理論をはじめ、微分法等の数学の知識も含め、「ミクロ経済学」で学んだ内容が前提になっているので「ミクロ経済学」を履修した経験がなければ、「公共経済学」を理解し、単位を取得することは、困難となる。
したがって、「ミクロ経済学」を履修済みの学生のみ、「公共経済学」を履修選択すること。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「公共経済学」とは	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	市場均衡と様々な調整過程	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	消費者余剰と生産者余剰	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	純粋交換経済とボックスダイアグラム	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	パレート効率性の考え方	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	パレート効率性の具体例	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	競争と資源配分の効率性(規制の意義と具体例)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	独占市場における企業の行動(その考え方)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	独占市場における企業の行動(価格等の決定)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	独占市場における経済厚生	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	市場の失敗の概要	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	市場の失敗:費用逓減産業	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	市場の失敗:望ましい公共料金のあり方	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	市場の失敗:公共財の供給に関わる問題(モデルの設定)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	市場の失敗:公共財の供給に関わる問題(モデルの展開)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520057000 マクロ経済学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の2点を講義の到達目標とする。
①マクロ経済学の基礎的な理論を把握し、説明できる。
②実物経済に関するマクロ経済データの見方等の基礎的な知識を身につけ、それらを用いて簡単な実証分析を行うことができる

授業概要(教育目的)

マクロ経済学とは、個々の家計の消費水準、個々の企業の生産水準、個々の財・サービスの価格等を一国全体で集計した経済指標(総消費、総生産、物価指数等)の決定プロセス及び変動要因を分析対象とする学問である。したがって、マクロ経済学をよりよく理解するには、基礎的な理論を身に着けることも重要であるが、一国全体で集計した経済指標に関するデータ(マクロ経済データ)に関する基本的な知識と簡単な分析手法を身につけることが必要不可欠である。

マクロ経済データは、GDP、消費、投資水準、生産水準、物価水準等実物経済(モノの流れ)に関するデータ、通貨の流通量、債券発行残高、金利の水準等金融経済(カネの流れ)の2種類に大別することができる。

「マクロ経済学」では、上記のうちGDP, 国民所得や物価指数、数量指数等、主として、実物経済(モノの流れ)に関する理論と実証を学ぶ。特に、実物経済に関するデータの(作成目的等)基礎的な情報とデータを収録した統計資料の仕組み及び統計資料の見方を学ぶ。また、外国との取引がない単純な枠組みを想定した産業連関分析等、データを用いた簡単な実証分析の方法を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に随時実施する小テスト、提出課題を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

・小テストの模範解答をWebClassにアップロードし、適宜、解説を行う。

参考文献

講義時間中に随時説明する。

講義時使用テキスト

担当教員作成の講義資料を章ごとに配布し、使用する。
(各章の講義資料は、PowerPointで作成された資料(メインテキスト)とExcelで作成された資料(統計資料)の2種類により、構成される。)

資格との関連

本講義は地方(国家)公務員試験を目指すものにとって、秋学期開講の「経済政策論」とともに、経済原論(マクロ経済分野)について基本的な知識が得られるように配慮してある。

学生へのメッセージ

講義の復習をしっかり行うこと。また、マクロ経済学の基礎的な理論とマクロ経済データに関する基礎的な情報と分析方法に関しては、教員作成の独自テキストを用いて説明する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「マクロ経済学」とは何か	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	国民経済計算体系とは	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	GDPと三面等価の原則	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	国民可処分所得と国民所得	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	所得支出勘定と資本勘定・金融勘定(位置づけと役割)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	制度部門別所得支出勘定	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	制度部門別資本勘定・金融勘定	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	国民経済計算とストック	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	物価水準の意味と計測の方法	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	物価指数の算出方法	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	物価指数の統計とその考え方:物価はいかなる場合にどのように変動するか	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	物価指数の統計とその動向:物価統計から日本経済の推移を観察する	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	産業連関表の概要:産業連関表の仕組み・見方と投入係数	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	初歩的な産業連関分析:逆行列係数と経済波及効果の考え方	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	総務省産業連関表の解説	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

講義名	2520058000 経済政策論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	奈良　卓		

学習目標(到達目標)

以下の2点を講義の到達目標とする。
1. 消費、投資及び金融市場に関する基礎的な理論を把握し、説明できる。
2. 消費、投資及び金融市場に関するマクロ経済データについての基礎的な知識を身につけ、それらを用いて簡単な実証分析を行うことができる。

授業概要(教育目的)

「マクロ経済学」では実物経済(モノの流れ)のうち、GDP、物価指数等主要なマクロ経済データに関する基礎的な情報と簡単な実証分析の方法を学んだ。これに対し、「経済政策論」では、実物市場のうち消費や投資に関する理論、統計及び実証分析の方法を学ぶ。また、マネーストック(マネーサプライ)やマネタリーベース、市場利子率等金融市場(カネの流れ)に関する理論、統計及び実証分析の方法を学ぶ。また、財政政策あるいは金融政策の発動によってGDP、所得、また、市場利子率が変動するメカニズムについても学ぶ。

実証分析の例として、消費と投資に関しては、回帰分析によって消費関数や投資関数の推計を行うとともに、政府支出乗数の推移を観察する。金融面では、我が国におけるマネーストック(マネーサプライ)やマネタリーベースに関する統計を利用し、貨幣乗数の推移を観察する。

上記に加え、最近年の我が国においていかなる財政政策、金融政策が発動されてきたか、その時々の経済・社会の状況、関連するデータの動きと関連付けながら説明する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に随時実施する小テスト、提出課題を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

・小テストの模範解答をWebClassにアップロードし、通宜、解説を行う。

参考文献

講義時間中に随時説明する。

講義時使用テキスト

担当教員作成の講義資料を章ごとに配布し、使用する。
(各章の講義資料は、Powerpointで作成されたもの(メインテキスト)とExcelで作成されたもの(統計資料)の2種類により、構成される。)

資格との関連

本講義は地方(国家)公務員試験を目指すものにとって、春学期開講の「マクロ経済学」とともに、経済原論(マクロ経済学分野)についての基本的な知識が得られるように配慮してある。

学生へのメッセージ

講義の復習をしっかり行うこと。「経済政策論」の理解と履修には、「マクロ経済学」で学んだ内容が前提になっているので、「マクロ経済学」を履修済みの学生のみ、履修選択すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	経済政策の理解に必要な実証分析の方法	・授業内容をインターネットで調べる。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
2	消費に関する統計	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
3	消費に関する理論と実証分析	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
4	民間投資に関する統計	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
5	民間投資に関する理論と実証分析	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
6	政府支出乗数と財政政策(基礎編)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
7	政府支出乗数と財政政策(応用編)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
8	日本経済の現状と財政政策	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
9	貨幣と債券	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
10	債券価格と市場利子率	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
11	貨幣市場と貨幣需要関数	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
12	マネーストックとマネーストック統計	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
13	金融政策の概要	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
14	マネタリーベースと通貨乗数	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。
15	日本経済の現状と金融政策	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。	・配布資料とノートを読み直す。 ・授業の内容を確認し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520059000 財政学						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

本講義の目的は、政府の経済活動である財政について認識を深めてもらうことにある。財政学、地方財政論は、公務員試験の必須科目でもあるので、本講義を通じて試験に必要な知識を習得することを到達目標としたい。

授業概要(教育目的)

本講義の目的は、政府の経済活動である財政について認識を深めてもらうことにある。歳入、歳出等の予算の構成、歳入、歳出の内訳、国債の発行とその問題点、財政投融資改革、社会保障給付の増大と公共事業関係費の減少、租税の種類と分類、公共財供給の理論等について解説し、更に近年の財政状況やニューパブリックマネジメント等の行財政改革の現状、地方財政の仕組み、財政制度の国際比較について解説することで、財政の問題点について理解を深めてもらう。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や毎回のコメントシート(リアクションペーパー)提出とその内容により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(コメントシート、リアクションペーパー)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

適時講義時に提示する

講義時使用テキスト

神野直彦著『財政のしくみがわかる本』有斐閣　2007年

資格との関連

公務員試験を受験する予定の者は、憲法、行政法、マクロ経済学、地方財政論等とあわせて受講してほしい。

学生へのメッセージ

公務員試験における試験科目であるので、公務員希望者は必ず受講することを勧める。
より深く理解したいという人にはまずは新聞(または新聞社などのニュースサイト)、とくに『デーリー東北』、『日本経済新聞』の購読をすすめたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	イントロダクション(財政の仕組み・財政をとりまく状況)	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
2	財政って何だろう(1):「財政」ということば	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
3	財政って何だろう(2):財政が成り立つための条件	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
4	予算って何だろう(1):①単一予算主義、②ノン・アフェクタシオンの原則、③総額主義の原則	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
5	予算って何だろう(2):①予算編成のしくみ、②地方自治体の予算編成	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
6	税はどんな仕組みになっているのだろう(1):①租税を成立させる三要素、②課税の根拠	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
7	税はどんな仕組みになっているのだろう(2):複税制度	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
8	どんなところにお金を使っているのだろう(1):①使い道の分類	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
9	どんなところにお金を使っているのだろう(2):①防衛・警察、②経済関係費・社会関係費	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
10	借金は財政にどんな意味をもつか(1):財政における借金の意味、②国の借金と自治体の借金	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
11	国と自治体の関係(1):①補完性の原理、②機関委任事務、	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
12	国と自治体の関係(2):①地方分権、②公的企業	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
13	いま財政が抱える問題(1):①社会的危機と財政の関係、②産業構造の大変革への対応	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
14	いま財政が抱える問題(2):格差社会をもたらしているもの	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む
15	財政の未来像をえがく	各回に掲げたテーマをインターネットなどで調べておく	授業で紹介した参考文献の該当箇所を読む

講義名	2520060000 地方財政論 ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

本講義においては、地方政府(地方自治体)の経済活動である、財政政策について、制度的側面、理論的側面を理解し、地方財政の基礎的内容について説明できることを最終的な目的とする。
より具体的には、地方財政に関する経済学的な理論を理解した上で、それを説明することができる。さらには、活用することができる。
地方財政の制度的な役割について説明することができる。さらには、それを卒業論文などを執筆する際の分析などに活用することができる。
少子高齢化時代における、地方財政の課題と地方財政の役割について理解し、それを説明できる。
これらを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

少子高齢化や地方分権などが進展している今日において、地方の役割はますます大きくなっているといえる。
本講義においては、以下の内容の習得を目的とする。
地方財政の役割について習得する。
地域住民の支出としての納税とその対価としての公共サービスについての経済学的流れについて理解する。
地方財政の現状の課題について理解する。
これらの内容を習得することが、本講義の教育目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)により評価する。

課題に対するフィードバック

質問などがあり次第、個別に対応する。

参考文献

池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣　2015年
沼尾波子，池上岳彦ら著『地方財政を学ぶ』有斐閣　2017年
他の文献については、適宜指示する。

講義時使用テキスト

中井英雄・齊藤稹・堀場勇夫・戸谷裕之 『新しい地方財政論　新版』，有斐閣アルマ.

資格との関連

地方公務員、消防士、警察官などの公務関連の1次試験などに対応。

学生へのメッセージ

2年次に開講されている、ミクロ経済学、マクロ経済学、公共経済学を履修している事。
3年次春学期に開講されている財政学の内容を理解しておくことに加え、3年次秋学期に開講されている経済政策論も同時に履修すること。

授業中は、スマートフォンは机上に置かないこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地方財政論とは 財政学と地方財政論の違い 自治体の経済活動としての財政 地方自治法による地方の定義	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
2	地方財政の予算 国家予算と地方予算 国税と地方税 地方税の体系	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
3	地方財政の経費 地方財政の経費(支出) 義務教育と財政 少子高齢化対策と財政	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
4	地方財政の健全化 財政危機 農山村財政	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
5	地方公営企業(第3セクター) 経済セクターの種類 公社と第3セクター	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
6	公共投資と公共サービス 公共投資の役割 社会資本整備と地域経済 公共投資の経済学的意味	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
7	自治体経営 経済的効率配分か公共経営か 行政の外部化	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
8	財政の経済理論① 競争市場 資源配分とパレート効率 ピグー的課税	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
9	財政の経済理論② 純粋公共財と地方公共財 地域間財政競争(足による投票)	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
10	財政の経済理論③ マクロ経済から見る財政の役割 財政の3機能とマクロ経済学	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
11	地方財政の制度的変遷 平成の大合併と地方財政 シャウプ勧告と財政システム 地方財政計画	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
12	地域づくりと財政 人口による格差拡大 市町村財政構造と3割自治	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
13	地方財政システム システムの類型 各国の地方財政システム	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
14	現代の地方財政の課題 人口減少と財政 少子高齢化と財政システム	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。
15	今後の地方自治体と地方財政	授業の内容の資料を予めダウンロードし、読んでおくこと。	授業の資料やノートを見直し、重要な用語等を確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520061000 民法Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

民法Ⅱでは、物権法、債権法の一部、家族法の内容の授業を行う。
① 物権と債権の違いを説明することができる。
② 物権の種類と物権的請求権を説明することができる。
③ 不動産と動産の対抗要件の違いを説明することができる。
④ 用益物権と担保物権の種類を説明することができる。
⑤ 責任財産の保全としての債権者代位権と詐害行為取消権を説明することができる。
⑥ 多数当事者の債権・債務関係(連帯債務・保証債務)を説明することができる。
⑦ 債権譲渡と債務の引受を説明することができる。
⑨ 戸籍制度を説明することができる。
⑩ 婚姻と離婚の要件と効果を説明することができる。
⑪ 相続制度を説明することができる。

授業概要(教育目的)

民法は、財産法と家族法に分類することができる。本授業では、財産法の中でも物権法と債権法の一部、家族法を中心に講義をする。授業の概要としては、物権の一般的効力、物権の種類、責任財産の保全制度、多数当事者の債権・債務関係、家族法の一部の基本的な知識の習得を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テスト等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、授業内で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『民法概説(五訂版)』(司法協会・2021)

資格との関連

公務員試験、ファイナンシャル・プランナー試験、宅地建物取引士試験、行政書士試験

学生へのメッセージ

① 必ず民法Ⅰの単位を修得していること
② 公務員試験における試験科目であるので、公務員希望者は必ず受講することを勧める。
③ テキスト、民法条文は必ず持ってくること。
③ 法制度に関して、新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	物権の意義	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	物権の一般的効力	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	物権の変動	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	物権の種類(1):所有権・占有権等	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	物権の種類(2):抵当権・質権等	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	代理(1):代理の意義と要件	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	代理(2):無権代理・表見代理	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	債権の保全制度(1):債権者代位権	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	債権の保全制度(2):債権者取消権	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	債権譲渡と債務の引受け	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	多数当事者の債権及び債務	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	親族法(1):①親族、②婚姻	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	親族法(2):①親子、②後見・扶養	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	相続法(1):①相続人、②相続分	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	相続法(2):①遺言、②遺留分	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

講義名	2520062000 商事法						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

①会社法の中核部分である株式会社に関する法制度を説明することができる。
②会社が生まれてから息を引き取るまでの一連の流れを理解することができる。

授業概要(教育目的)

会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関等の主要な論点が理解できるようになるために、この授業を通じて会社法制度の全体構造、株式制度、会社の機関、組織再編等の主要な論点についての知識を獲得し、さらに会社法上の基本問題について説明できる技能を身に付けるとともに、法的な解答を示すことのできる論理的思考を発揮する態度を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

平常評価40%、定期試験60%で評価する。

課題に対するフィードバック

コメントペーパーに対し適宜回答をしていく。

参考文献

デイリー六法等

講義時使用テキスト

松嶋隆弘、大久保拓也編『商事法講義(第2版)』(中央経済社、2023)

資格との関連

公務員試験・行政書士試験等

学生へのメッセージ

教科書を主体として講義を進めていくため、必ず購入すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	会社法総論～株式会社はなぜ発明されたのか・従業員(労働者)は仲間じゃない！？～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	会社の設立～会社はどのようにつくるのか～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	株式会社の機関(1)～株主総会ってなんだろう？～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	株式会社の機関(2)～取締役・監査役・会計参与？会社の役員とは？～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	株式会社の機関(3)～取締役会は何ができる？取締役の報酬はどのように決める？～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	株式会社の機関(4)～出世はつらいよ？取締役の義務と責任～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	株式会社の資金調達(1)～お金集めは好きですか？「株」の本質とは～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	株式会社の資金調達(2)～「株」を発行してみよう・「株」の発行を邪魔してみよう～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	株式会社の資金調達(3)～エクイティ？デット？他にもあるぞ、お金集めの手段～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	新しい株式会社制度(1)～委員会設置会社ってなんだろう？～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	新しい株式会社制度(2)～権力の源を剥奪してみよう～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	株式会社が息を引き取るとき(1)～解散と清算～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	株式会社が息を引き取るとき(2)～破産した会社はどうなるのね～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	株式会社が息を引き取るとき(3)～会社にも「手術」がある？敗者復活戦としての再建手続～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	株式会社が息を引き取るとき(4)～「手術」が成功した会社のリハビリ～	テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

講義名	2520063000 行政法						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須 則行		

学習目標(到達目標)

①行政法の基本原理を説明することができる。
②行政行為の定義と種類を説明することができる。
③行政救済法の仕組みを説明することができる。
④国家賠償について説明することができる。
⑤取消訴訟について説明することができる。

授業概要(教育目的)

現代社会では日常生活に行政機関が関わる領域が質的にも量的にも広がってきている。したがって、私たちは行政機関がどういうものであって、どのような役割を担っているかを知らなければならないだろう。行政法では、行政法総論と行政救済制度とに分けて、前者では、行政機関の内部関係、法律による行政の原理とその例外と限界、行政行為とは何か等を、後者では、行政訴訟の類型とその訴訟要件、行政上の不服申立制度の類型とその要件、国家賠償制度の意義等を学ぶものである。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験および小テストなどにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、授業内で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

『新谷一郎の行政法 新・まるごと講義生中継 (公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ)』

資格との関連

公務員試験、行政書士試験

学生へのメッセージ

① 公務員試験における試験科目であるので、公務員希望者は必ず受講することを勧める。
② テキストは必ず持ってくること。
③ 法制度に関して、新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	行政法の基本構造	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	行政法の基本原理と行政上の法律関係	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	行政組織法	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	行政作用法(1)行政行為の意義と効力	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	行政作用法(2)行政行為の種類、瑕疵論、取消と撤回	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	行政作用法(3)行政裁量、行政立法	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	行政作用法(4)行政契約、行政指導、行政計画	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	行政手続と行政法上の強制	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	行政救済法の仕組みと国家賠償(1)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	国家賠償(2)と損失補償	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	行政事件訴訟法(1)概観と取消訴訟 行政書士の職務内容について(ゲストスピーカー)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	行政事件訴訟法(2)取消訴訟の審理、判決、執行停止	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	行政事件訴訟法(3)その他の訴訟	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	行政不服申立	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	地方自治	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520064000 地域社会論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①ローカル(地方・地元)が国内社会や国際社会で担う役割について説明できるようになる。
②ローカルが直面している課題とその要因について説明できるようになる。
③ローカルの発展策を自ら見つけ出したうえで、その実現に向けて行動できるようになる。

授業概要(教育目的)

日本のローカル(地方・地元)は現在、社会的課題の解決に向けて大きな役割を担うことを期待されている一方で、人口減少をはじめとするさまざまな困難に直面している。この授業では、ローカルについて正しい理解を身につけるとともに、その課題解決と発展に求められるノウハウの獲得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

山本務編『地域社会学入門――現代的課題との関わりで』学文社、2019年。

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

ローカル(地域・地元)の課題解決や発展について考える講義であることから、能動的に自らの地域・地元について情報を収集するとともに、地元愛をもって参加してもらいたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域社会について学ぶ理由	自らの地元に関心をもっておくこと	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	ローカルとは何か	WebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	都市と農村①(地域社会学のアプローチ)	WebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	都市と農村②(都市研究)	WebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	都市と農村③(農村研究)	WebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	農村の衰退①(半農半都化)	WebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	農村の衰退②(過疎化)	WebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	一村一品運動	インターネット等を用いて、地元の名産品を調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	スローフード運動	インターネット等を用いて、イタリアについて調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	グローカル	インターネット等を用いて、愛知県や豊田市について調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	地方と地方の連結	インターネット等を用いて、東南アジアの国境経済地域について調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	同じ条件の街から学ぶ	インターネット等を用いて、タイのチェンマイについて調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	ローカル企業の重要性	インターネット等を用いて、八戸のこれまでの発展策を調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	対抗軸としてのローカリズム	インターネット等を用いて、グローバル化の問題点について調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	青森・八戸の発展を考える	これまでの講義に内容を踏まえて、八戸の発展策を考えておく	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520065000 原価計算論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

総合原価計算、標準原価計算及び直接原価計算の計算技法の習得を到達目標とする。

授業概要(教育目的)

原価計算とは、製造した製品またはサービスの原価を算定する手続きのことであるが、これは原価計算を扱う領域の一部分に過ぎない。そこで本講義では、「工業簿記」で学習したことを前提に、原価計算の計算手続である製品別計算(総合原価計算)、さらに経営管理に関わる標準原価計算、CVP分析、直接原価計算などについて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

小テスト(20%)、定期試験(80%)により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

岡本清『原価計算(六訂版)』 国元書房

講義時使用テキスト

CPA会計学院編著『いちばんわかる 日商簿記2級 工業簿記の教科書』アガルート

資格との関連

日商簿記検定2級

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
本講義は、2年次配当科目である「工業簿記」の内容を基礎とし、その応用として位置づけている科目であることから、「工業簿記」を履修済み(単位取得・認定)であることが望ましい。
したがって、「工業簿記」を履修(単位取得・認定)していない学生は、基礎知識について自身で学習する必要があることに留意する。
また、問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 原価計算の 基礎	2年次配当科目である「工業簿記」における配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
2	単純総合原価計算①(月末仕掛品の 評価)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
3	単純総合原価計算②(平均法と先入先出法)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
4	単純総合原価計算③(材料の 追加投入)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
5	単純総合原価計算④(減損の 処理)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
6	単純総合原価計算⑤(仕損の 処理)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
7	工程別総合原価計算	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
8	組別総合原価計算	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
9	等級別総合原価計算	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
10	標準原価計算①(概論)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
11	標準原価計算②(記帳)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
12	標準原価計算③(原価差異の 計算と分析)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
13	直接原価計算①(意義、計算手続)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
14	直接原価計算②(固定費調整)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。
15	直接原価計算③(CVP分析、原価の 固変分解)	前回の 配布資料とテキストの 当該箇所を 読み 直す。	配布資料を 読み 直すとともに 例題・問題を 解く。

講義名	2520066000 上級簿記						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

株式会社を取り巻く制度や会計基準が背景にあること理解し、テーマ毎の具体的な会計処理・記帳技術の習得を到達目標とする。

授業概要(教育目的)

本講義においては、リース会計や税効果会計、外貨建取引や連結会計などについて学び、「商業簿記(中級)」で習得した知識を基礎とし、株式会社におけるより高度な会計事象を理解し、当該取引を会計処理をできるようになること目的としている。また、会計処理の背後にある会計基準や制度についても理解を深め、続く会計理論科目への橋渡しとする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

中央経済社編『新版　会計法規集』中央経済社

講義時使用テキスト

片山覚　監修『新中級商業簿記』創成社

資格との関連

日商簿記検定2級
日商簿記検定1級

学生へのメッセージ

【履修条件】
2年次配当科目である「中級簿記」を履修済み(単位取得・認定)、または同等の知識を有する者。

【履修上の注意】
毎回の講義において問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 連結財務諸表	連結財務諸表の構成について調べる。	HPなどで開示されている企業の財務諸表の種類や財務諸表の構成を確認してみる。
2	リース取引①(意義と分類、ファイナンス・リース取引の処理)	テキスト第8章を読む。	テキスト第8章の例題を解く。
3	リース取引②(オペレーティング・リース取引の処理)	テキスト第8章を読む。	テキスト第8章の例題を解く。
4	税金①(法人税等)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
5	税金②(消費税)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
6	税効果会計①(目的、差異の種類と分類)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
7	税効果会計②(繰延税金資産と繰延税金負債)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
8	税効果会計③(その他有価証券の評価差額)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
9	外貨建取引①(外貨換算と換算方法、取引発生時の処理)	テキスト第15章を読む。	テキスト第15章の例題を解く。
10	外貨建取引②(決済時、決算時の処理)	テキスト第15章を読む。	テキスト第15章の例題を解く。
11	外貨建取引③(為替予約)	テキスト第15章を読む。	テキスト第15章の例題を解く。
12	連結会計①(資本連結:概論)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。
13	連結会計②(資本連結:作成手続)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。
14	連結会計③(成果連結:内部取引および債権債務の相殺消去)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。
15	連結会計④(成果連結:未実現利益の消去)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。

講義名	2520067000 管理会計論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

管理会計の理論と技法(財務諸表分析、予算統制など)について理解することを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

管理会計とは、企業が経営を行う際に必要とする会計情報を経営管理者に提供するシステムである。管理会計の目的は、マネジメント・プロセス(PDCA)における意思決定や業績評価(分析)に有用な(役立つ)会計情報を提供することにある。
そこで本講義では、財務的なデータを作成するだけではなく、管理会計の基礎的な内容について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)により評価する。

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

岡本清・廣本敏郎・尾畑佑裕・挽文子『管理会計(第2版)』中央経済社
門田安弘『管理会計レクチャー』税務経理協会
櫻井通晴『管理会計(第七版)』同文舘出版

講義時使用テキスト

適宜、指示する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
2年次配当科目である「工業簿記」・「原価計算論」を履修済み(単位取得・認定)であることが望ましい。
また、問題演習を行うため、12桁以上の電卓が必携である。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 管理会計の 意義	2年次配当科目である「工業簿記Ⅰ・Ⅱ」における配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
2	管理会計の 基礎概念①(領域)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
3	管理会計の 基礎概念②(体系)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
4	財務諸表分析①(収益性分析・安全性分析)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
5	財務諸表分析②(成長性分析・生産性分析、投資収益性分析)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
6	経営計画と利益計画①(経営計画)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
7	経営計画と利益計画②(利益計画)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
8	予算管理①(予算の 機能)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
9	予算管理②(予算編成)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
10	予算管理③(予算統制)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
11	意思決定会計①(業務的意思決定:意義と区分)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
12	意思決定会計②(業務的意思決定:差額原価収益分析)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
13	意思決定会計③(戦略的意思決定:経営戦略と意義)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
14	意思決定会計④(戦略的意思決定:設備投資)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。
15	意思決定会計⑤(戦略的意思決定:経済性評価)	前回の 配布資料とノートを 読み 直す。	配布資料とノートを 読み 直す。

講義名	2520068000 監査論 ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

学習目標は、監査制度の概要とその社会的意義を理解することである。
さらに具体的な到達目標は、現代社会における「監査」という行為の意義や役割について理解したうえで、繰り返し起こる企業の不正会計問題・粉飾と監査のあり方について、自らの見解を論じることができることである。

授業概要(教育目的)

監査(Audit)とは、企業の経済活動についての開示データを基準に照らし合わせ、その適正性の評価を会計監査人が企業の利害関係者に伝達する行為である。監査という社会制度がいかなる変遷を経て形成され、会計プロフェッションと呼ばれる高度な専門知識を持った会計監査人(公認会計士・CPA)がいかなる経緯から成立したかを学習する。
また、この監査人の行為・行動・倫理観や監査という行為が、現代社会にとっていかなる意義を持っているかについて各自が理解を深めることが重要である。
とりわけ、我が国において、監査制度がいかなる変遷を経て形成されたかを理解し、イギリスにおける監査制度の発展とアメリカにおける監査制度の発展、アメリカ監査の我が国への影響などを検討する。その中で、現代会計(特に国際会計との関係)をより深く理解することができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中の課題(小テスト)100%(6点×14回と16点×1回で合計100点)

課題に対するフィードバック

講義毎回の課題は提出し、翌週(場合により2週間後)採点の上返却。

参考文献

盛田良久・蟹江章・長吉眞一編著 『監査論スタンダードテキスト第4版』中央経済社

講義時使用テキスト

山浦久司著『監査論テキスト　第6版』　中央経済社

資格との関連

監査論は公認会計士試験の受験科目である。公認会計士の試験制度については、講義の中でも扱う。US－CPAは、アメリカ公認会計士を意味する。日本人でも受験可能であるが、この場合、アメリカにおける監査、US－GAAP(FASBの基準など)をかなり詳細に理解し、英語の出題に対応できなくてはならない。(国際会計論の部分で説明した)
TOEIC、短文のこたえがなければ合格は難しい。

学生へのメッセージ

監査論は会計学の中でも、どちらかというと特別な分野であり、経済学部や経営学部を卒業したとしても、監査についてすべての人が十分な理解をしているとは言い難い。社会一般と監査人がするべき(もしくは監査人ができることの限界)とのギャップは「期待ギャップ」と呼ばれ、監査の重要用語である。つまり、これは、いかに社会が監査を理解していないかという問題でもある。ビジネス学部の学生には、専門教科としてのみならず、ビジネスに関する重要な知識としても、ぜひ受講し理解を深めてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	監査とは何か	会計監査についてインターネット等で調べる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
2	監査制度の生成と発展	監査制度の概要についてインターネットや書物で調べる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
3	我が国における監査制度とその発展	我が国の第二次大戦後の監査をめぐる状況についてインターネットや書物で調べる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
4	監査とその基本的役割	テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し論点を整理する。
5	会計監査の現代的機能	テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し論点を整理する。
6	金融商品取引法監査	金融商品取引法について調べてみる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
7	会社法監査	会社法の概要について調べてみる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
8	監査基準①(一般基準)	監査基準について、インターネットや書物で調べてみる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
9	監査基準②(近年の改訂とその意義)	最新の監査基準を読んでみる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
10	リスクアプローチ	テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し論点を整理する。
11	内部統制	テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し論点を整理する。
12	監査計画	テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し論点を整理する。
13	監査報告書	関心のある企業の実際の監査報告書をインターネットで探して読んでみる。	授業の内容を整理し論点を整理する。
14	監査意見	テキストの該当箇所を読む。	授業の内容を整理し論点を整理する。
15	会計監査と不正への対応。	会計不正の事例をインターネットや書物で調べてみる。	授業の内容を整理し論点を整理する。

講義名	2520069000 税務会計論 ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

税務会計は会計関連科目の中でも、特殊かつ重要な分野である。税務会計の基礎について学び、その会計学の体系の中での位置づけを理解することを目的としている。

授業概要(教育目的)

我が国においては、法人の課税所得計算は会計制度に基づくこととされ、税務会計はとりわけ企業会計との深い関係が保たれてきた。しかしながら、企業会計の国際化を経て、現代の税務会計を取り巻く環境は複雑化しつつある。

税法には、所得税法、法人税法、消費税法など様々なものがあり、企業はその規程に基づいて会計処理を行わなければならない。個人事業者は所得税法上の事業所得者であり、所得税法上の所得金額が課税対象となる。法人企業には法人税が適用され、法人税法上の所得金額が課税対象となる。また、消費税法は個人事業者・法人企業に適用される。消費税は間接税であるので、基本的には最終消費者が負担する税を預り納税する仕組みである。

本講義においては、私たちの生活と税、会計学の体系における税務会計について、その基礎を学習し、修得することを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

毎講義ごとに、リアクションペーパーを提出する。

課題に対するフィードバック

翌週に返却。

参考文献

財務省「もっと知りたい税のこと」令和4年6月

講義時使用テキスト

成道秀雄監修・坂本雅士編著『現代税務会計論第5版』中央経済社 2022年

資格との関連

簿記検定試験、税理士。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
会計学・簿記の基本的な知識は修得しているものとして進みます。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	税務会計とは何か	会計学の学習ですでに扱った、税について、復習しておく。	指定教科書コラム1から5を熟読する。
2	税と私たち	財務省「もっと知りたい税のこと」令和4年6月を入手し、通読しておく。	講義内で扱った資料を熟読。
3	税務会計の生成と発展	指定教科書の序章第2を読む。	我が国における税務会計の展開について調べてみる。
4	課税所得の計算構造	指定教科書の第Ⅰ部第1章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第1章の要点をまとめる。
5	益金の会計①(収益の計上基準・工事の請負)	指定教科書の第Ⅰ部第2章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第2章第1と第2の要点をまとめる。
6	益金の会計②(受取配当等・有価証券の譲渡損益及び損益)	指定教科書の第Ⅰ部第2章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第2章第3と第4の要点をまとめる。
7	損金の会計①(売上原価)	指定教科書の第Ⅰ部第3章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第3章第1の要点をまとめる。
8	損金の会計①(固定資産の減価償却)	指定教科書の第Ⅰ部第3章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第3章の第2の要点をまとめる。
9	損金の会計②(特別償却・資本的支出と修繕費・繰延資産の償却)	指定教科書の第Ⅰ部第3章を読む	指定教科書の第Ⅰ部章第3章の第3.4.5をまとめる。
10	損金の会計③(給与等・寄付金)	指定教科書の第Ⅰ部第3章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第3章第3・4・5をまとめる。
11	損金の会計④(交際費・引当金・準備金)	指定教科書の第Ⅰ部第3章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第3章第8.9.10をまとめる。
12	損金の会計⑤(圧縮記帳・貸倒損失・租税公課)	指定教科書の第Ⅰ部第3章をよむ。	指定教科書の第Ⅰ部第3章第11.12.14をまとめる。
13	課税所得・税額の計算	指定教科書の第Ⅰ部第4章を読む。	指定教科書の第Ⅰ部第4章をまとめる。
14	国際課税の進展	指定教科書の第Ⅲ部を読む。	指定教科書の第Ⅲ部第1章2章3章をまとめる。
15	会計基準の変容と課税所得計算	指定教科書の終章を読む。	指定教科書の終章をまとめる。

講義名	2520070000 経営分析論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1　財務諸表(貸借対照表・損益計算書)を読むことができる。
2　財務諸表を分析して、当該企業の収益性・安定性を明らかにできる。

授業概要(教育目的)

経営分析とは、貸借対照表・損益計算書などの財務諸表を主な対象として、一定に比率を用いて分析し、企業の状況を明らかにすることをいう。
本講義においては、分析の基礎となる財務諸表を読み解く能力を身につけ、さらに、当該企業の収益性・安定性を明らかにできる能力も身に付けることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

期末試験で評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験成績に疑義のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

政岡光宏編著『初めて学ぶ財務諸表分析【三訂版】』同文舘出版、2013年

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 経営分析の定義/分析対象としての会社	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
2	2. 財務諸表の仕組みの理解 ①(財務諸表とは何か)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
3	3. 財務諸表の仕組みの理解 ②(貸借対照表の構造と構成)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
4	4. 財務諸表の仕組みの理解 ③(損益計算書の構造と構成)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
5	5. 経営分析の目的と分析技法 ①(経営分析の目的/主体による目的の相違)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
6	6. 経営分析の目的と分析技法 ②(経営分析の技法/期間比較と企業間比較)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
7	7. 収益性分析 ①(収益性分析と何か)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
8	8. 収益性分析 ②(資本利益率とその分解)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
9	9. 収益性分析 ③(利益率系統の分析)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
10	10. 収益性分析 ④(回転率系統の分析)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
11	11. 安定性分析 ①(自己資本比率)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
12	12. 安定性分析 ②(短期的支払能力の分析)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
13	13. 安定性分析 ③(長期投資の安全性)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
14	14. 経営分析の実践 ①(化粧品業界の収益性分析)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
15	15. 経営分析の実践 ②(化粧品業界の安定性分析)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。

講義名	2520071000 公会計論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 公会計とは何かについて定義し、それを説明できる。
2. 中央政府会計・地方政府会計の概要について説明できる。

授業概要(教育目的)

公会計とは、中央政府や地方政府の事業活動を期間を定めて、貨幣額で記録・計算し、非財務情報とともにその結果を報告することを通して、国民(住民)に対する説明責任を果たす営みである。この定義を基礎として、国の会計、地方自治体の会計、公営企業会計などについて説明する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

期末試験の成績で評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験成績に疑義のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

講義中に「公会計論ノート」を配布し、講義を行う。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 公会計とは何か/財政と予算	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
2	2. 国の会計(1)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
3	3. 国の会計(2)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
4	4. 地方自治体の会計(1)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
5	5. 地方自治体の会計(2)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
6	6. 公営企業の会計(1)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
7	7. 公営企業の会計(2)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
8	8. 公会計改革の動向	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
9	9. 貸借対照表の読み方(1)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
10	10. 貸借対照表の読み方(2)	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
11	11. 行政コスト計算書の読み方	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
12	12. パブリック・アカウンタビリティ	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
13	13. 公契約とコスト	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
14	14. 公会計の国際化	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。
15	15. 再び公会計とは何か	テキストの該当箇所を読む。	配布資料を読む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520072000 情報社会論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	埴原　啓正		

学習目標(到達目標)

・情報化社会において、職業人として諸事態に的確に対応していくために必要な基本的内容を説明できる。

授業概要(教育目的)

インターネットや情報通信技術は社会構造に組み込まれて現代社会を豊かにし、また経済や産業社会にとって欠くことのできないものとなっている。それは新しい可能性をもたらすとともに、反面マイナス面の問題点も生じている。これらを技術面・法制面等の施策によって克服し、さらに発展させて今日の高度化した情報化社会を運用していくことは必須の要件となっている。本講義では、高度情報化社会に対処していくための基本的諸課題について学び、的確に対処しうる能力の習得を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験60%および課題の提出状況、質疑応答、授業態度等40%により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

松井茂記ほか編『インターネット法』(有斐閣、2015)。田中浩之、萬大輔『60分でわかる！改正個人情報保護法超入門』(技術評論社、2022)等。その他講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

梅本吉彦編『改訂版　情報社会と情報倫理』(丸善出版、2020)

資格との関連

情報免許状コースの教科に関する科目

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	情報倫理とは(情報化社会に潜む様々なリスク)	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
2	情報通信社会とインターネットの進化と変遷、企業活動への影響	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
3	ネット時代のコミュニケーションとリスク(やらせ投稿、ステルスマーケティング)	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
4	メディアの変遷とメディア・リテラシー	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
5	企業の事業活動デジタル化	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
6	情報技術とセキュリティ	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
7	インターネットと犯罪(SNSを利用した犯罪や金融犯罪)	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
8	個人情報とプライバシー	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
9	知的所有権とコンテンツ	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
10	企業と情報倫理(ITと企業活動に関する諸問題・電子商取引)	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
11	科学技術と倫理、ブロックチェーン技術と法務	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
12	ビッグデータとAIの倫理・法務	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
13	デジタルデバイドとユニバーサルデザイン	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
14	ソーシャルネットワークサービス(SNS)と情報モラル	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。
15	情報通信社会とリテラシー	・教科書を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業で紹介した資料や参考図書、Webサイト等を確認しておくこと。 ・授業でレポート課題が提出された場合は、提出期限に間に合うように調べておくこと。

講義名	2520073000 データベース設計						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

・データベースについて、基礎的な内容および活用技術について説明できる。

授業概要(教育目的)

インターネット上の検索サイトやSNS等の情報サービスは我々の生活やビジネスに急激に普及し、高度情報化社会を支える社会基盤として重要な役割を担っている。これらの情報システムにおいて、大量のデータを蓄積し、高速な検索を可能としているのが、データベースである。本講義では、リレーショナル(関係)データベースについて、基本概念、設計論、クエリ(問い合わせ)などについて学習する。また、データベースを活用したアプリケーション構築のための基礎知識や技法についても学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート、小テスト、実習課題等により総合的に評価する。
課題提出率が6割未満の場合は欠席扱いとする。

課題に対するフィードバック

・提出課題には授業支援システム(WebClass)にて評価、個別にコメントする。
・WebClassの講義回毎「本日のミニットペーパー」を設定しているので、本日の講義でわかったこと、よく理解できなかったことを記入すること。次回講義時にフィードバックする。

講義時使用テキスト

宇田川佳久、藤原丈史　著『実学としてのデータベース　基礎から実践まで』、数理工学社
注)データベース実習でも使用する。

参考文献

ファイルやフォルダの操作が苦手な学生は以下のサイトで予習復習を行い、操作をマスターすること。
情報機器の操作(北海道教育大学函館校今野研究室)
ファイル操作の基本
https://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/db/890/filebasic.html
・その他講義時に適宜紹介する。

資格との関連

情報免許状コースの教科に関する科目

学生へのメッセージ

・情報処理基礎レベルのWord, Excel, PowerPointの利用は問題なく利用できることを前提とした講義である。
・データベース実習を履修する学生は必ず履修すること。
・授業支援システム(WebClass)に授業資料を掲載するので、予習復習を必ず行うこと。
・講義時使用テキストは必ず準備すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	データベースとは	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
2	データモデルとデータベース管理システム	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
3	リレーショナルデータモデル	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
4	正規化①(第1から第3正規形)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
5	正規化②(演習問題)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
6	ERモデル①(ER図の 作成手順)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
7	(ER図からリレーションへの 変換手順)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
8	SQLの概要・テーブルの 作成・データの登録	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
9	SQLによるデータの 検索①(SELECT文の 基本)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
10	SQLによるデータの 検索②(テーブルの 結合)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
11	SQLによるデータの 検索③(集計関数)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。
12	SQLによるデータの 検索④(副問合せ)	・テキスト、WebClassにアップロードしている授業資料を 読んでおくこと。 ・WebClassに事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業時間内に提出できなかった課題は自習で 補うこと。 ・授業の内容について 整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を 利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520074000 データベース実習						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	実習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

・データベースを用いたウェブアプリケーション開発に必要な基礎知識・技法について説明できる。

授業概要(教育目的)

インターネット上の検索サイトやSNS等の情報サービスは我々の生活やビジネスに急激に普及し、高度情報化社会を支える社会基盤として重要な役割を担っている。これらを実現する情報システムでは、大量のデータを蓄積し、高速な検索を可能とするデータベースとの連携が不可欠である。本授業では、簡易言語によるデータベース利用プログラム作成を通して、インターネット上でデータベースを利用したアプリケーション開発に必要な基礎知識・技法を学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート、実習課題等により総合的に評価する。
課題の提出率が6割未満の場合は評価欠席とする。

課題に対するフィードバック

・提出課題には授業支援システム(WebClass)にて評価、個別にコメントする。
・WebClassの講義回毎「本日のミニットペーパー」を設定しているので、本日の講義でわかったこと、よく理解できなかったことを記入すること。次回講義時にフィードバックする。

参考文献

ファイルやフォルダの操作が苦手な学生は以下のサイトで予習復習を行い、操作をマスターすること。
情報機器の操作(北海道教育大学函館校今野研究室)
ファイル操作の基本
https://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/db/890/filebasic.html?id=30327
・その他講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

宇田川佳久、藤原丈史　著『実学としてのデータベース　基礎から実践まで』、数理工学社
注)データベース設計でも使用

資格との関連

情報免許状コースの教科に関する科目

学生へのメッセージ

・履修条件:データベース設計の単位を取得していること。
・授業支援システム(WebClass)に授業資料を掲載するので、予習復習に利用すること。
・授業時間内に提出できなかった課題は自習で補うこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ウェブアプリケーションの事例紹介	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	ウェブベースのシステム環境の構築	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	ウェブベースのシステム環境の運用管理	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	ウェブアプリケーションの開発環境	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	ウェブページ作成	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	データベースとSQL①(基本操作)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	データベースとSQL②(応用操作)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	データベースアクセス①(スクリプト言語PHPの基本)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	データベースアクセス②(フォームとPHPの連携)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	データベースアクセス③(PHPとSQL)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	ウェブアプリケーションの設計①(売上管理システムの設計)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	ウェブアプリケーションの設計②(データベース構造の決定)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	ウェブアプリケーション作成①(各テーブル内容の表示プログラム)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	ウェブアプリケーション作成②(テーブル結合と集計プログラム)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	ウェブアプリケーション作成③(検索プログラム)	・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

講義名	2520075000 情報システム設計						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

コンピュータがどのように動作し、様々な機能を提供しているのか説明できる。
情報処理システム設計・開発プロセスにおける上流部分となる、設計・計画・管理について説明できる。

授業概要(教育目的)

本講義では、情報システムの基本計画から開発・運営に至る開発サイクルの上流工程である要求分析と設計の工程、プロジェクトの管理を学習する。しかし、上流工程の作業を実践するためには、下流工程やコンピュータについての基礎的な理解が必要となる。そこで本講義では、コンピュータアーキテクチャや情報システムの構成といった基礎的な理解を下敷きにしながら、情報システム設計について全体像を理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

講義中にて行う実技、演習、テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・提出課題には授業支援システム(WebClass)にて評価、個別にコメントする。
・WebClassの講義回毎「本日のミニットペーパー」を設定しているので、本日の講義でわかったこと、よく理解できなかったことを記入すること。次回講義時にフィードバックする。

参考文献

参考文献や資料は適宜紹介する。

講義時使用テキスト

伊藤潔、明神知　他著『IT Text 情報システムの分析と設計』、オーム社

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・「情報システム開発」を履修する学生は本講義を履修すること。

【履修のための条件】
・「データベース設計」「データベース実習」を履修済みであること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータアーキテクチャ①(コンピュータアーキテクチャとは)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
2	コンピュータアーキテクチャ②(プロセッサアーキテクチャ)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
3	コンピュータアーキテクチャ③(メモリアーキテクチャ)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
4	コンピュータアーキテクチャ④(コンピュータの性能)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
5	情報システム①(情報システムの例)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
6	情報システム②(情報システムの構成)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
7	情報システムの開発工程	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
8	要求分析と設計①(ユースケース図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
9	要求分析と設計②(データベース・ER図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
10	要求分析と設計③(コンポーネント図・配置図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
11	要求分析と設計④(コミュニケーション図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
12	開発過程のモデル	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
13	UMLによるシステム記述①(クラス図・オブジェクト図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
14	UMLによるシステム記述②(シーケンス図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
15	システム記述(データフロー図)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する

講義名	2520076000 情報システム開発						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

企業情報システムの開発手法について説明できる。
アジャイル開発の概要について説明できる。

授業概要(教育目的)

この授業では、企業における情報システム開発の基礎から応用までを幅広く学ぶ。IEを用いた情報システム分析の事例演習では、大学の教務システムを題材に、実践的な演習を行う。また、アジャイル開発では、スマートフォンアプリ開発などを通して、要求の変更に柔軟に対応する考え方を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

講義中にて行う実技・演習とテストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・提出課題には授業支援システム(WebClass)にて評価、個別にコメントする。
・WebClassの講義回毎「本日のミニットペーパー」を設定しているので、本日の講義でわかったこと、よく理解できなかったことを記入すること。次回講義時にフィードバックする。

参考文献

参考文献や資料は適宜紹介する。

講義時使用テキスト

伊藤潔、明神知　他著『IT Text 情報システムの分析と設計』、オーム社

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修条件】
・履修登録時、「情報システム設計」の単位取得済み、または「情報システム設計」を履修登録していること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	企業情報システムの開発(企業情報システムとは)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
2	モデリングによる情報システム開発①(モデリング開発)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
3	モデリングによる情報システム開発②(サービス指向アーキテクチャ)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
4	モデリングによる情報システム開発③(マイクロサービス)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
5	企業情報システムの開発①(高品質システム開発)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
6	企業情報システムの開発②(デジタルビジネス)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
7	企業情報システムの開発③(サービスデザイン思考)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
8	IE(Information Engineering)①(基本的な考え方)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
9	IE(Information Engineering)②(教務情報システムの分析)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
10	アジャイル開発①(アジャイル要求)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
11	アジャイル開発②(アジャイル開発)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
12	アジャイル開発③(スクラムの概要)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
13	アジャイル開発④(スクラム)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
14	アジャイル開発演習①(演習問題)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
15	アジャイル開発演習②(演習問題)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520077000 プログラミング						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

・標準的なアルゴリズムを理解し、流れ図に基づいてJavaで簡単なプログラムを作成し説明できる。

授業概要(教育目的)

プログラミングとは、「ある問題を解決する場合にその問題を抽象化(モデル化)し、処理の手続き(アルゴリズム)を考え、コンピュータが理解できる言語で記述することにより、問題解決のシステムを創る」ということである。この授業は、プログラミング言語の習得が目的ではなく、問題解決におけるコンピュータの活用方法を学ぶことを目的としている。本授業ではプログラミング言語としてJavaを用いるが、基本的なアルゴリズムをコンピュータで実行させるためのツールとして利用するのであり、アルゴリズムを理解することが重要である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験および実習課題の提出状況により評価する。
定期試験4割、課題提出6割で評価する。

課題に対するフィードバック

授業支援システム(WebClass)にてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

・柴田望洋著、明解Java入門(ソフトバンク)。
・講義の予習復習教材として、IPSJ MOOC(情報処理学会 公開教材)
(https://sites.google.com/a.ipsj.or.jp/mooc/)を利用する。利用方法は講義時に説明する。
・その他講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

使用しない。

資格との関連

情報免許状コースの教科に関する科目

学生へのメッセージ

・履修条件:情報処理基礎、コンピュータサイエンスの単位を取得していること。
・履修登録人数が35名を超えた場合は、クラス分けを行い、同時双方向遠隔授業を行う場合がある。
・授業支援システム(WebClass)に授業資料を掲載するので、予習復習に利用すること。
・課題には、提出期限がある。提出期限以降の提出は受け付けないので期限内に学習して提出すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	数値計算の基礎	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	モデル化とシミュレーション	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	データの型とデータ構造	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	データ処理のアルゴリズム(1)順次実行、分岐命令	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	データ処理のアルゴリズム(2)繰返し命令	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	Javaの基礎知識(実習を含む)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	基本的なプログラミング(1)データ型	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	基本的なプログラミング(2)算術演算子	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	処理の流れの制御(1)分岐命令プログラム実習	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	処理の流れの制御(2)繰返しプログラム実習	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	整列法のアルゴリズム実習 ※完成したプログラムの動作確認は、グループワークで相互評価を実施する。	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	探索法のアルゴリズム実習 ※完成したプログラムの動作確認は、グループワークで相互評価を実施する。	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	簡単なシステム設計(1)流れ図	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	簡単なシステム設計(2)実習 ※完成したプログラムの動作確認は、グループワークで相互評価を実施する。	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	データベースシステムの概要	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520078000 アプリケーション開発実習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	実習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

コンピュータ・アーキテクチャやプログラミングの基礎について把握しつつ、アプリケーション設計の手順と各項目で行われることを説明できる。

授業概要(教育目的)

本演習は、アプリケーションの設計を演習によって実際に体験することにより、情報技術の習得および情報システム設計の枠組みを学習する。

本演習では、アプリケーションの基本計画から開発・運営に至る開発サイクルの上流工程である要求分析と設計の工程、プロジェクトの管理を体験的に学習する。上流工程の作業を実践するために必要となるコンピュータの動作原理やプログラミングといった基礎的な理解についても体験しつつ、アプリケーション設計について全体像を理解することを目標とする。

なお、開発サイクルの下流工程である開発については「情報システム開発」および「アプリケーション開発実習Ⅱ」にて扱う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

講義にて行う演習・課題により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・提出課題には授業支援システム(WebClass)にて評価、個別にコメントする。
・WebClassの講義回毎「本日のミニットペーパー」を設定しているので、本日の講義でわかったこと、よく理解できなかったことを記入すること。次回講義時にフィードバックする。

参考文献

・WebClassにて適宜紹介する。
・iPhone用アプリ開発用参考図書(図書館所蔵)
　藤治仁　他著『たった2日でマスターできる　iPhoneアプリ開発集中講座 Xcode 15 iOS 17 Swift 5.9対応』、ソシム

講義時使用テキスト

使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・「情報システム設計」は本講義と対をなす講義なので、必ず履修すること。

【履修条件】
・「プログラミング」「データベース設計」「データベース実習」を履修済みであること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	コンピュータ・アーキテクチャに関する実習①(2進数・アセンブリ言語に触れる)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
2	コンピュータ・アーキテクチャに関する実習②(メモリと外部記憶を把握し、取り扱う)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
3	コンピュータ・アーキテクチャに関する実習③(インタプリタ言語を使用する)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
4	コンピュータ・アーキテクチャに関する実習④(演習問題)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
5	プログラム基礎実習①(変数・演算)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
6	プログラム基礎実習②(配列)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
7	プログラム基礎実習③(連想配列)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
8	プログラム基礎実習④(関数)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
9	プログラム基礎実習⑤(構造体)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
10	プログラム応用実習①(アプリ開発環境)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
11	プログラム応用実習②(基本操作)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
12	プログラム応用実習③(レイアウト調整)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
13	情報システム設計実習①(演習)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
14	情報システム設計実習②(演習)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
15	情報システム設計実習③(演習)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520079000 アプリケーション開発実習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	実習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	村本　卓		

学習目標(到達目標)

アプリケーション開発の手順と各項目で行われることを説明・実践できる。

授業概要(教育目的)

本演習は、アプリケーションの開発を演習(グループワーク)によって実際に体験することにより、情報技術の習得および情報システム開発の枠組みを学習する。

本演習では、①または②の実習により、アジャイル開発について全体像を理解することを目標とする。
①プラットフォームとしてApple社のiOSを用い、iPhone向けアプリケーションを開発する
②データベース実習での環境を用い、データベースを用いたWebアプリを開発する

なお、開発サイクルの上流工程である設計については「情報システム設計」および「アプリケーション開発実習１」にて扱う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

講義にて行う演習・グループワークと、第15回講義にて行うプレゼンテーションにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・提出課題には授業支援システム(WebClass)にて評価、個別にコメントする。
・WebClassの講義回毎「本日のミニットペーパー」を設定しているので、本日の講義でわかったこと、よく理解できなかったことを記入すること。次回講義時にフィードバックする。

参考文献

・WebClassにて適宜紹介する。
・iPhone用アプリ開発用参考図書(図書館所蔵)
　藤治仁　他著『たった2日でマスターできる　iPhoneアプリ開発集中講座 Xcode 15 iOS 17 Swift 5.9対応』、ソシム

講義時使用テキスト

使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・「情報システム開発」は本講義と対をなす講義なので、併せて履修すること。

【履修条件】
・「アプリケーション開発実習Ⅰ」を履修済みであること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	アジャイル開発の 概要	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
2	プロダクトの 構想①(チームビルディング、開発テーマ)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
3	プロダクトの 構想②(インセプションデッキ)	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
4	ユーザーストーリー	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
5	ユーザーストーリーマッピング	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
6	プロダクトバックログの 作成	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
7	スプリントバックログの 作成①	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
8	開発実習①	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
9	開発実習②	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
10	スプリントレビューと振り返り①	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
11	スプリントバックログの 作成②	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
12	開発実習③	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
13	開発実習④	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
14	スプリントレビューと振り返り②	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する
15	全体プレゼンテーション	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、インターネットで調べ、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520080000 デザイン						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

「デザイン」の意味を把握し、効果的なコミュニケーションや問題解決のために、情報を整理したり、目的や意図を持った情報を受け手に対して分かりやすく伝達したり、操作性を高めたりするためのデザインの基礎知識を使って表現できる。

授業概要(教育目的)

商品やサービスを実際に開発して世界に問うという活動は、デザインにほかならない。そもそもデザインとは何かを理解し、何をデザインするか・どうデザインするかについて発見・解釈・構築・伝達する能力がビジネスの現場では求められる。
本講義では、わかりやすく伝える視点を基礎にデザインとは何か、情報デザインのプロセスと手法について明らかにしていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

全回講義にて随時実施するワーク課題と最終レポート課題を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ワーク課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(作品写真・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

毎回WebClassに資料を提示する。

資格との関連

高等学校一種教員免許状(情報)

学生へのメッセージ

毎回の講義で、その回の講義内容に関するワーク課題を行い提出させますので、講義では主体的な取り組み姿勢が重要。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	アートとデザインの違い、情報デザインとは？	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
2	コミュニケーションデザインのヒント「ついやってしまう」体験のつくりかた	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
3	情報デザイン「抽象化」	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
4	デザイン思考のプロセス(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
5	情報デザイン「可視化・図解化」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
6	図解化(グループワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
7	情報デザイン「可視化・箇条書き」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
8	情報デザイン「可視化・表」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
9	情報デザイン「可視化・グラフ」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
10	情報デザイン「可視化・ロジックツリー」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
11	情報デザイン「可視化・写真」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
12	デザインの4原則とレイアウト	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
13	情報デザイン「構造化」とコンセプトデザイン手法(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
14	コンセプトデザインとプロダクトデザイン(グループワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
15	デザインとは何か	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520081000 デザイン実習（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	実習	対象年次	2・3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. マルチメディアの基礎知識を習得し、メディア処理のためのデジタル処理技術を説明できる。
2. マルチメディアを活用しデザインされた表現力のあるコンテンツを作成できる。

授業概要(教育目的)

近年、我々を取り巻く環境はデジタル化され、さらにデザインされた情報で溢れている。情報のデジタル化が進み、コミュニケーション方法のみならず、あらゆる分野の仕組みが大きく変化してきている。この授業では、文字、音、画像、動画などの様々な情報のデジタル化について学び、デジタルコンテンツの表現・制作に必要とされる基礎的な知識と技術を身につけることを目的とする。多彩な表現をする技術としてコンピュータグラフィックス(2DCG)と動画編集の基礎を学び、コンテンツ制作を通じて2DCGとデジタル動画 によるデザイン表現方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題と実習課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(計算問題)は採点の上返却する.
演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

マルチメディアと情報化社会(ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化)第二版　CG-ARTS協会

講義時使用テキスト

特になし(授業用Webサイトにて随時公開する)

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

履修者数がPC実習室のPC台数を超えた場合は、2クラス編成に調整する.

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	マルチメディアの 基礎	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	デジタル化した社会	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	マルチメディアの 特徴	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	デジタル表現方法①(2進数、10進数、16進数)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 授業内容に 関する課題(計算問題)を作成する
5	デジタル表現方法②(パッケージ系メディアとネットワーク系メディア)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 授業内容に 関する課題(計算問題)を作成する
6	音のデジタル表現と画像のデジタル表現	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	人間の 視覚と聴覚(感性とメディア)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	図形・画像処理技術①(特殊効果)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	図形・画像処理技術②(レイヤー)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	図形・画像処理技術③(画像合成クロマキー 処理とオーバーレイ)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	図形・画像処理技術④(イラスト加工処理)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	図形・画像処理技術⑤(アニメーション 設計)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	図形・画像処理技術⑥(アニメーション 処理)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	動画処理技術①(映像取り込みと編集)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	動画処理技術②(映像による表現)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520081001 デザイン実習（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	実習	対象年次	2・3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. マルチメディアの基礎知識を習得し、メディア処理のためのデジタル処理技術を説明できる。
2. マルチメディアを活用しデザインされた表現力のあるコンテンツを作成できる。

授業概要(教育目的)

近年、我々を取り巻く環境はデジタル化され、さらにデザインされた情報で溢れている。情報のデジタル化が進み、コミュニケーション方法のみならず、あらゆる分野の仕組みが大きく変化してきている。この授業では、文字、音、画像、動画などの様々な情報のデジタル化について学び、デジタルコンテンツの表現・制作に必要とされる基礎的な知識と技術を身につけることを目的とする。多彩な表現をする技術としてコンピュータグラフィックス(2DCG)と動画編集の基礎を学び、コンテンツ制作を通じて2DCGとデジタル動画 によるデザイン表現方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題と実習課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(計算問題)は採点の上返却する.
演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

マルチメディアと情報化社会(ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化)第二版　CG-ARTS協会

講義時使用テキスト

特になし(授業用Webサイトにて随時公開する)

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

履修者数がPC実習室のPC台数を超えた場合は、2クラス編成に調整する.

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	マルチメディアの 基礎	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	デジタル化した社会	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	マルチメディアの 特徴	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	デジタル表現方法①(2進数、10進数、16進数)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 授業内容に 関する課題(計算問題)を作成する
5	デジタル表現方法②(パッケージ系メディアとネットワーク系メディア)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 授業内容に 関する課題(計算問題)を作成する
6	音のデジタル表現と画像のデジタル表現	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	人間の 視覚と聴覚(感性とメディア)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	図形・画像処理技術①(特殊効果)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	図形・画像処理技術②(レイヤー)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	図形・画像処理技術③(画像合成クロマキー 処理とオーバーレイ)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	図形・画像処理技術④(イラスト加工処理)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	図形・画像処理技術⑥(アニメーション 設計)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	図形・画像処理技術⑧(アニメーション 処理)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	動画処理技術①(映像取り込みと編集)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	動画処理技術②(映像による表現)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

講義名	2520082000 マルチメディアシステム論（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. 3次元CGによるシミュレーションの処理手順を理解し、3次元空間での照明やカメラの設定、物体の形状や質感を定義する技法を活用できる。

授業概要(教育目的)

今日，コンピュータグラフィックス(3DCG)は，映画やゲームをはじめ多くの分野で活用されている．マルチメディアコンテンツにおいても，3DCGは画像や映像に利用される重要な技術である．この授業では3DCGソフト(Pov-Ray)を用いた3DCG演習を通じて座標変換，モデリング，レンダリング，アニメーションの基礎理論を体験的に学習し理解を深め，プログラミングによる手作業では難しい新たな造形・可視化の技法を身に付けることを目標としている．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題と演習課題の提出状況等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

演習課題(レポート)は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．成績を知りたい学生には個別に開示する．

参考文献

POV-Rayではじめるレイトレーシング：小室　日出樹(著)：株式会社アスキー
CG検定ガイドブック3級：佐野典秀(著)CG検定研究会(監修)CG－ARTS協会(協力)：ソフトバンクパブリッシング株式会社

講義時使用テキスト

使用しない。
授業用Webサイトにて随時紹介する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

授業用Webサイトにて講義資料等を公開しているので、パソコン所有、インターネット接続環境であることが望ましい。
また、この科目の履修には、2年次の「デザイン実習」科目の単位取得が望ましい。
履修者数がPC実習室のPC台数を超えた場合は、2クラス編成に調整する．

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	CGによるシミュレーションの概要	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
2	3次元画像とその生成過程	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
3	3次元空間の座標(左手系と右手系)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
4	Pov-Rayの基本(モデリングとレンダリング)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
5	3次元空間におけるオブジェクトの作成、座標変換、拡大・縮小	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
6	3次元空間におけるオブジェクトの回転、各種光源について	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
7	物体の形状や質感におけるオブジェクトのマッピング、テクスチャの定義と設定	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
8	物体の形状や質感におけるテクスチャの色、光の反射、表面の凹凸	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
9	物体の形状や質感における各種テクスチャの設定	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
10	複雑形状(プリミティブとCSGの立体定義)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
11	CSG高度な立体形状(スイープ表現)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
12	Pov-Rayアニメーション表現	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
13	変数clockの使い方	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
14	3次元画像作品の取り纏め 動画作成・編集	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する 第1回～第14回まで学習した3DCGの理論・作成技法についてレポートを作成する
15	3次元動画コンテンツ配信を行うWebページ制作	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する

講義名	2520082001 マルチメディアシステム論（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. 3次元CGによるシミュレーションの処理手順を理解し、3次元空間での照明やカメラの設定、物体の形状や質感を定義する技法を活用できる。

授業概要(教育目的)

今日，コンピュータグラフィックス(3DCG)は，映画やゲームをはじめ多くの分野で活用されている．マルチメディアコンテンツにおいても，3DCGは画像や映像に利用される重要な技術である．この授業では3DCGソフト(Pov-Ray)を用いた3DCG演習を通じて座標変換，モデリング，レンダリング，アニメーションの基礎理論を体験的に学習し理解を深め，プログラミングによる手作業では難しい新たな造形・可視化の技法を身に付けることを目標としている．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題と演習課題の提出状況等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

演習課題(レポート)は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．成績を知りたい学生には個別に開示する．

参考文献

POV-Rayではじめるレイトレーシング：小室　日出樹（著）：株式会社アスキー
CG検定ガイドブック3級：佐野典秀(著)CG検定研究会(監修)CG－ARTS協会(協力)：ソフトバンクパブリッシング株式会社

講義時使用テキスト

使用しない。
授業用Webサイトにて随時紹介する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

授業用Webサイトにて講義資料等を公開しているので、パソコン所有、インターネット接続環境であることが望ましい。
また、この科目の履修には、2年次の「デザイン実習」科目の単位取得が望ましい。
履修者数がPC実習室のPC台数を超えた場合は、2クラス編成に調整する．

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	CGによるシミュレーションの概要	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
2	3次元画像とその生成過程	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
3	3次元空間の座標(左手系と右手系)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
4	Pov-Rayの基本(モデリングとレンダリング)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
5	3次元空間におけるオブジェクトの作成、座標変換、拡大・縮小	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
6	3次元空間におけるオブジェクトの回転、各種光源について	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
7	物体の形状や質感におけるオブジェクトのマッピング、テクスチャの定義と設定	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
8	物体の形状や質感におけるテクスチャの色、光の反射、表面の凹凸	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
9	物体の形状や質感における各種テクスチャの設定	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
10	複雑形状(プリミティブとCSGの立体定義)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
11	CSG高度な立体形状(スイープ表現)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
12	Pov-Rayアニメーション表現	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
13	変数clockの使い方	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
14	3次元画像作品の取り纏め 動画作成・編集	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する 第1回～第14回まで学習した3DCGの理論・作成技法についてレポートを作成する
15	3次元動画コンテンツ配信を行うWebページ制作	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する

講義名	2520083000 グラフィックス ※2026年度開講せず						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1. デジタルコミュニケーションにおける表現技術としてのグラフィックの役割や特徴を理解し，説明できる.
2. 課題制作の中で、Illustrator,Photoshopを用いたDTP(DeskTopPublishing)のスキルを体得し，グラフィック処理における色，画像と品質，描画ツールに関する特徴を理解し，オリジナルの作品を制作できる.

授業概要(教育目的)

コンピューターとそのネットワークを基盤とするデジタルコミュニケーションは、これからの人類社会において、新たな活動空間とでも言うべき大きな存在へと発展を続けている。本科目は、デジタルコミュニケーションにおける重要なコンテンツであり、且つ主要なコミュニケーションの場として機能するWebサイトの中で、視覚化情報であるWebグラフィックスの学習を通して、情報伝達の本質を理解していく。また併せて、講義ではクリエイティブについても言及する為、学生のクリエイティビティに対する興味を喚起することにも注力したい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

演習課題の提出状況，完成度および理解度を元に総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(計算問題)は採点の上返却する.
演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

授業用Webサイトにて随時公開する

講義時使用テキスト

「CGリテラシー　Photoshop & Illustrator CC+CS6」
影山明俊・コスミックエンジン(著)；実教出版

資格との関連

学生へのメッセージ

PhotoshopやIllustratorのアプリケーションソフトウェアの購入は、学生からすると非常に高額になるため、自分のPCに購入インストールすることは困難と思われます。
また、本学の実習室環境(731実習室のみ)では、最新バージョンのPhotoshopやIllustratorではなく、古いバージョンのCS6となっていることを予め理解しておいて欲しい。

この科目を受講する場合は、実習手順を理解するため使用テキスト購入は必須とする。
また、2年次で「デザイン実習」科目と3年次「マルチメディアシステム論」を単位取得し、CGやデジタルデータに関する知識を理解しておくことが望ましい。
履修者数が実習室利用人数を超過する場合には、上記「デザイン実習」と「マルチメディアシステム論」の単位取得状況により選抜する場合がある。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	グラフィックスの基礎知識(ビットマップ画像:ペイント系ツールとベクトル画像:ドロー系ツール)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	グラフィックスの基礎知識(CGで扱う色表現，データ圧縮とファイル形式)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	Illustrator基礎1：Illustratorの基本操作，描画ツールでのロゴ作成	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	Illustrator基礎2：ペンツールでのイラスト作成	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
5	Illustrator基礎3：テキストツールでのタイポグラフィ作成	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
6	Illustrator基礎4：各種ツールなどを使用した地図作成	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	Illustrator基礎5：トレース機能でのイラスト作成	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	Photoshop基礎1：Photoshopの基本操作，写真の補正(解像度変更・トリミング)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
9	Photoshop基礎2：写真の補正(色調補正)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
10	Photoshop基礎3：写真の修復(修正ツール)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	Photoshop基礎4：写真の合成(調整レイヤー・アンチエリアス・マスク処理)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	Photoshop基礎5：文字入力と特殊効果フィルター(バナー作成)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
13	制作課題の流れ：企画立案(コンセプト・コンテンツ検討)，制作準備(デザイン設計・素材収集)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
14	チラシやポスター制作実習(印刷出力まで)	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
15	制作課題講評：課題の発表、及び全員の講評，知的財産・著作権について	テキスト及び事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する

講義名	2520084000 情報と職業						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

将来の職業分野として、情報関連分野に携わる者が、基本的に身に付ける必要のある事項を習得し、高校生の職業選択に対して適切なアドバイスができる。

授業概要(教育目的)

近年、情報化が急速に進展したことに伴って、情報関連の新しい産業・職業が次々に誕生しており、これらに従事する職業人も増加している。本講義は、高等学校指導要領による情報科目の免許取得を目指す学生を対象として、現代社会と情報、情報と職業の関わり、および情報に関わる職業人としての在り方などについて学び、高校生が将来の職業分野として情報関連分野を職業選択する際に、適切なアドバイスができることを目的としている。
授業は講義だけでなく事例に基づく演習や、課題についての調査・意見発表、模擬授業なども予定している。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題、発表の内容等によって総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

レポート課題は、完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

「情報と職業」情報産業で働くための基礎知識：山﨑信雄編著：丸善プラネット株式会社
IT Text「情報と職業」：駒谷昇一・辰巳丈夫・楠元範明：株式会社オーム社

講義時使用テキスト

特になし。(毎回、講義資料を配布する)

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報) に関する科目

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
履修条件として「情報」の教員免許取得を目指す学生を対象とするので、教職課程(情報)を履修していること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教科「情報と職業」の 意義	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
2	働くとは(働くことの 意義、働く場、業種と職種、情報関連業界)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
3	情報を 扱う職種(派遣労働、情報処理の 専門職)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する 情報処理の 専門職についてレポートを 作成する
4	情報技術とビジネス(情報システム変遷)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
5	労働環境と労働観の変化	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する 労働環境の 変化としてテレワークに関するレポートを 作成する
6	資格(情報に関する資格)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する 情報に関する資格としてIT パスポートの 問題を 解く
7	仕事と適性(キャリア形成と自己理解)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する 適性検査としてクレペリン 検査, SPI 適性検査を 体験する
8	情報にまつわる法制度(法律の 体系)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
9	情報化社会の発展と法制度の整備	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
10	情報倫理	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
11	知的財産権(特許、著作権)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
12	情報化とプライバシー(個人情報保護法と情報漏洩)	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
13	情報化社会における犯罪	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する 第10回～第13回までに 学習した内容についてレポートを 作成する
14	セキュリティー 対策	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する
15	情報リスクマネジメント	配布資料を 読んで、内容を 整理する	授業内容を 整理し、論点を 整理する 第10回～第15回までに 学習した内容について 高校教員としての 立場で 教材研究する

講義名	2520085000 職業指導						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

生徒の進路の多様化に対応する観点から、商業の各分野で学習する内容と関連する職業とのつながりに着目し、規範意識、倫理観等とともに、将来の職業を見通し学び続ける力を育成する。

授業概要(教育目的)

これまでの進路指導が、進学・就職の出口指導に偏りすぎていた反省を踏まえ、豊かな人間性や一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばし、それぞれのキャリアを形成するために必要な意欲・態度を育てる教育が求められている。教員免許状の取得を目指す学生を対象に、高等学校における進路指導の理論と実践に焦点を当て、生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるように、進路指導・キャリア教育の目的、活動領域、方法・技術などについて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題については、学生と共に内容を振り返り、職業指導の学習目標を再確認する。

参考文献

「進路指導・キャリア教育の理論と実践」　吉田辰雄・篠翰　著　日本文化科学社
「高等学校キャリア教育の手引き」　文部科学省　著　文部科学省
「文部科学白書」　文部科学省　著　文部科学省

講義時使用テキスト

毎時、講義概要のプリントを配布する。

資格との関連

教員免許「商業科」を取得するためには、必須の科目である。

学生へのメッセージ

実務との関連

公立高等学校の教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとにキャリア教育について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	職業指導の意義と目的	職業指導について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
2	キャリア教育	キャリア教育について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
3	職業指導の役割と在り方	職業指導の役割について調べる、インターネット等で	配布資料を読み返す
4	進路指導の歴史と変遷	進路指導の歴史について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
5	ライフサイクル	ライフサイクルについて、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
6	人間観・人間存在	人間観について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
7	進路指導の現状と課題	進路指導の現状について、インターネット等で調べる	配布資料を読み直す
8	高等学校における進路指導の現状と課題	高等学校における進路指導について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
9	言葉遣いと接客の仕方	言葉遣いについて、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
10	ビジネス・マナーの実践	ビジネス・マナーについてインターネット等で調べる	配布資料を読み返す
11	就職活動に必要な文書作成	就職活動に必要な文書について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
12	面接試験の対策	面接試験について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
13	ビジネス・コミュニケーション	ビジネス・コミュニケーションについて、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
14	起業家精神	起業家について、インターネット等で調べる	配布資料を読み返す
15	キャリア教育・職業教育の推進	これまでの配布資料を読み返す	これまでの授業内容を振り返る

講義名	2520086000 専門英語						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

International Workplaceで基本的な英語理解ややり取りができる。

授業概要(教育目的)

現代はInternational Workplaceで英語は海外での仕事だけではなく、国内の会社・職場でも英語版のニュース、ビジネス情報、書類等の理解能力や外国人とのやり取りが必要になった。ビジネスにおける英語の重要性を今さらここで繰り返す必要もないであろう。電話やFaxだけではなくメールやインターネットで世界中と瞬時にやり取りができる時代である。この講義では、実際に用いる可能性の高い英語表現をさまざまな場面ごとに身に付けてゆくことを目的とする。ビジネス英語と聞くと難しいと思われがちだが、分かり易く進めていくので敬遠しないでほしい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

講義中の使用テキストはなし。
参考文献は全て授業中に紹介する。
英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

覚えておかなければならないのは、講義中は、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。
タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Advertisements (language, money, and measurements)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	First Meetings and Introductions	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	English at the Workplace ① (handling customers)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Current News Events ① (comprehension and culture discussion)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Filling in Forms ① (online registration forms)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	You and Your Company	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	English at the Workplace ② (resolving problems)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Current News Events ② (comprehension and culture discussion)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Filling in Forms ② (application forms)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Visiting a Client	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	English at the Workplace ③ (handling customers)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Current News Events ③ (comprehension and culture discussion)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Filling in Forms ③ (resumes)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Filling in Forms ④ (cover letters)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Answering the Phone	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520087000 インターンシップ（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

「インターンシップ」の到達目標は、以下の3点である。
①「インターンシップ」での体験を通し、自らのキャリア、職業選択を考える手がかりを得る。
②社会からみた自己の評価を知ることにより、自己発見の機会とする。
③上記①,②を、大学での学習にフィードバックする。

授業概要(教育目的)

インターンシップとは、在学中のある一定期間、企業などにおいて、自らの専攻、将来のキャリア
に関連した就業体験を行うこと制度であり、以下の①及び②を通じ、主体的に職業を選択する能力
を身につけさせ、高い職業意識を育成することを目的としている。

①学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供する。
②大学における学修を深化し、新たな学習意欲を喚起する。

「インターンシップ」は、大きく事前指導、実習、事後指導の順序で進められる。
・事前指導は前期の時間割で空き時間に実施する。
・実習は長期休暇中に各実習先で実施する。
・事後指導は後期の時間割で空き時間に実施する。
(詳細については、「授業計画表」に記す。)

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

・「インターンシップ」は、事前指導、実習、事後指導のすべてを終了して単位が認定される。
・したがって、評価についても、事前指導、実習、事後指導のすべてを総合し、行う。
・上記について、以下の①,②に、特に注意すること。
①事前指導を欠席した場合、実習への参加が認められない。
②事後指導での課題への取り組み、提出を怠った場合、実習に参加しても単位は認定されない。

・また、事後指導後にインターンシップ全てを振り返って最終レポートを提出する。

課題に対するフィードバック

・事前指導の課題(面談シート)については、面談時にアドバイスする。
・実習時の課題(実習日誌)については、実習先とやりとりする。
・事後指導の課題(成果発表)については、発表時に講評を行う。

参考文献

講義時使用テキスト

・「インターンシップの手引き」
(初回の授業で配布：毎回持参すること。)
・上記以外にも、随時、資料を配布する。

資格との関連

特記事項なし。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・インターンシップを履修する学生は、研修先で八戸学院大学を代表することになる。
・自分は、八戸学院大学を代表して、研修先にお世話になるということを肝に銘じること。
・研修先での身勝手な行動、社会常識に反する行動は慎むこと。
・自己都合による、研修のキャンセルは絶対にできないので、履修する際、この点を必ず約束すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	事前指導(1)インターンシップの学習の流れと本学における事例	・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
2	事前指導(2)外部講師講話(インターンシップの経緯と意義、最新事例)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
3	事前指導(3)マッチングテスト(外部テスト活用)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。
4	事前指導(4)マッチング作業①(アンケート・面談)	・面談シートを作成する。 ・面談で答えるべき内容を準備する。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。
5	事前指導(5)マッチング作業②(面談・報告)	・面談で答えるべき内容を準備する。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。
6	事前指導(6)マッチング作業③(面談・報告)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
7	事前指導(7)就活最前線(外部講師)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
8	事前指導(8)ビジネスマナーと社会人対応、実習日誌について	・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
9	研修先での実習(1)	・事前指導で学んだ内容を確認し、論点を整理する。・それぞれの研修先で実習を行うに際しての事前の注意事項を再確認する。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
10	研修先での実習(2)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
11	研修先での実習(3)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
12	研修先での実習(4)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
13	研修先での実習(5)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
14	研修先での実習(6)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
15	研修先での実習(7)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
16	研修先での実習(8)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
17	研修先での実習(9)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
18	研修先での実習(10)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
19	研修先での実習(11)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
20	研修先での実習(12)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
21	研修先での実習(13)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
22	研修先での実習(14)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
23	研修先での実習(15)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
24	研修先での実習(16)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
25	研修先での実習(17)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
26	研修先での実習(18)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520088000 地域経営学特殊講義Ⅰ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	崔　桓碩		

学習目標(到達目標)

本講義では、「地域における金融の役割」を大きなテーマとして行う。「金融入門」と「金融経済論」の授業を踏まえ、地域の課題に対する金融の役割は何なのかについて説明する。具体的には、都市銀行、地方銀行、証券会社、保険会社などのような民間の金融機関が地域とどのような関りを持っているのかについて把握する。たとえば、民間の金融機関による地域での展開、そしてそのサービスを利用する地域住民の金融行動について説明する。その他に、協同組合が行う金融事業(銀行、共済など)についても取り上げることにしたい。これらの講義内容を踏まえ、地域おける金融の現状について把握し、最終的には、地域でのより良い暮らしを創り上げるための金融の役割について自分なりの考えを立てるのが到達目標である。

授業概要(教育目的)

地域経営学特殊講義の授業目的は、地域経営学部の地域経営領域、会計・情報領域の学びを踏まえて、より時事的、実践的な地域の課題に対して地域経営学の視点から対応するために開設する科目である。具体的には、地域のための起業家養成に関する講義、地域の課題に対して産学官金が連携して対応するための講座、地域資源の探索・活用等を考える講座等が予定されている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 谷内満著『入門金融の現実と理論(第2版)』センゲージラーニング
2. 晝間文彦著『金融論(第2版)』新世社
3. 家森信善『地方創生のための地域金融機関の役割』中央経済社
4. 大庫直樹『地域金融のあしたの探り方』きんざい
5. 高橋克英『図解入門ビジネス 最新地方銀行の現状と取組みがよ~くわかる本』秀和システム
6. 津田倫男『地方銀行消滅(朝日新書)』朝日新聞出版

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地域と金融の関係(地域金融について)	・授業内容についてインターネットで調べる	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	経済主体別における金融の役割①(地方自治団体における金融の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	経済主体別における金融の役割②(地方企業における金融の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	経済主体別における金融の役割③(地方家計における金融の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	民間の金融機関別における金融の役割①(地域における都市銀行・地方銀行の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	民間の金融機関別における金融の役割②(地域における証券会社の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	民間の金融機関別における金融の役割③(地域における保険会社の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	民間の金融機関別における金融の役割④(地域における信用組合の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	協同組合による金融事業(銀行、共済など)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	地域金融における競争状況の評価のあり方	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	人口減少下での地域金融機関の競争と経営の安定性	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	地域金融機関の経営統合への対応	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	地域金融に対する金融庁の政策	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	地域活性化における地域金融の役割	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	地域金融機関の競争環境と事業所の開廃業	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520089000	地域経営学特殊講義Ⅱ					
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

・将来予測される地球温暖化の影響を理解する。
・地域の自治体や会社がなぜ持続的な社会を目指す必要があるのか述べることができる。
・森林がもつ公益的機能の役割を理解する。

授業概要(教育目的)

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書によると、地球温暖化の影響は、人為的に引き起こされている可能性が極めて高いとする見解が示されている。本授業では報告書の予測研究を基に、地球環境への影響と求められている対応について解説し、SDGsの意義と企業の対応の必要性を説明する。特に、地球環境問題の中でも森林資源は重要な役割を果たしていることから森林の公益的機能の理解や世界的な森林資源の現状、日本林業の特徴、生産林と自然林の問題などを重点的に取り上げる。また、座学のみならず実際に三八地域の森(現場)にでかけ林業の作業体験を通じて、林業の仕事理解を図るとともに現場の問題点や公益機能について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

講義中の課題や講義後に課すレポートによって評価する。

課題に対するフィードバック

ディスカッションにおいて、フィードバックする。

参考文献

北尾邦伸著『森林政策学』J-FIC,2004年
事業構想大学出版部『SDGsの実践～自治体・地域活性化編～』宣伝会議, 2019年

講義時使用テキスト

なし。適宜プリントを配布する

資格との関連

なし。

学生へのメッセージ

【本講義の諸注意】
本講義は本学で座学を5コマ行い、残り10コマをフィールドワークとする。
フィールドワークは青森県新郷村にて軽微な林務を体験を予定とする。受講生を15名程度とし、予定人数を大幅に超えた場合は、GPA基準の高得点順から選択する。また、本講義の作業体験は、地域の方々の手伝いによって成り立っていることから、お手伝いの方々の負担を考え、最小人数3名から本授業を開講する。
【作業の格好について】
各自、長靴を持参してもらう。また、作業着は汚れても良い恰好を用意すること。山に入るので、蜂などの虫に刺されないよう黒服は避け、長そでを必ず着用すること。雨天の場合、別途連絡をする。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ICPPの報告書を基に地球環境問題を概観する。	インターネットや事前に配布した資料を活用し、課されたテーマの概要を調べておく。	ポイントをノートに整理する
2	国連におけるこれまでの地球環境保全・保護の取り組みを概観し、SDGsの位置づけや意義について説明する。	インターネットや事前に配布した資料を活用し、課されたテーマの概要を調べておく。また、参考文献を読んでおくこと。	ポイントをノートに整理する
3	自治体・企業等の地球環境保全・保護活動の意義について学ぶ。	インターネットや事前に配布した資料を活用し、課されたテーマの概要を調べておく。また、参考文献を読んでおくこと。	ポイントをノートに整理する
4	地球環境の保全・保護において森林が持つ役割について学ぶ。	インターネットや事前に配布した資料を活用し、課されたテーマの概要を調べておく。また、参考文献を読んでおくこと。	ポイントをノートに整理する
5	世界の森林資源の現状と日本の森林資源と林業の特徴を説明し、経済林と生態林との関係について学ぶ。	インターネットや事前に配布した資料を活用し、課されたテーマの概要を調べておく。また、参考文献を読んでおくこと。	ポイントをノートに整理する
6	青森県林業の特徴について学ぶ。	インターネットを通じて、『青森県の森林・林業』などの資料を調べておくこと。	ポイントをノートに整理する
7	全国の『木の駅プロジェクト』について学ぶ他、実際に新郷村で行われているプロジェクトの取り組みを理解する。	インターネットを通じて、『木の駅プロジェクト』などの資料を調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
8	道具の説明と使い方について学ぶ①	参考資料やインターネット通じて、森林施業の必要性を調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
9	道具の説明と使い方について学ぶ②	参考資料やインターネット通じて、森林施業の必要性を調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
10	手入れされた森林を見ることで、森林の公益的機能を学ぶことや作業の方法について学ぶ。	参考資料やインターネット通じて、森林施業の必要性を調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
11	木材市場の機能について学ぶ①	参考資料やインターネットを通手次木材市場の役割や木材の流通について調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
12	木材市場の機能について学ぶ②	参考資料やインターネットを通手次木材市場の役割や木材の流通について調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
13	製材工場の製品特性と製造の効率化について学ぶ①	LVLの製品とは何か、製材工場の最近の特徴はどのようなことか、参考資料やインターネットで調べておくこと	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
14	製材工場の製品特性と製造の効率化について学ぶ②	LVLの製品とは何か、製材工場の最近の特徴はどのようなことね、参考資料やインターネットで調べておくこと。	ヒアリングノートを整理し、改めてポイントをまとめること
15	木材利用と森林保全についてディスカッションを行う。	これまで整理したノートを活用し、自身の考えをまとめる準備をしておく。	議論した内容をノートにまとめ、自分以外の考えなどを踏襲し、レポート用紙にまとめる

講義名	2520090000 地域経営学特殊講義Ⅲ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

① グループワークに参加して、自分の意見を人に話せる
② 他人を理解しようと他人の話を聴き質問できる
③ 自分の考えを相手に理解してもらうために、相手のことを考え、伝え方を工夫する
④ 新たなことに興味関心を持ち、自分なりに調べる
⑤ 現場で事実を見たり聞いたりして、当事者として考える
⑥ 地域の課題について、自分の言葉で解決案を提案できる
⑦ 経験したことを振り返り、自分の将来について考える

授業概要(教育目的)

地域社会における他者との協働や課題解決の提案を実践的に学ぶために、グループワークやフィールドワークを中心とした演習形式の授業とする。社会で求められるコミュニケーション能力や考える力、まとめて発表する力を、現場体験を通して身につけることが目的である。
地域社会で実際に起きている課題やニーズに対応するプログラムを、地域の関係者と協議しながら構築する。具体的には、「A.地域特産品づくり」、「B.観光企画づくり」、「C.地域コミュニティづくり」の3パターンを想定し、履修者の特性に合わせて1つを選び体験内容を決める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業中のワークシートの内容(30%)
受入先への発表内容と発表態度(40%)
最終課題レポートの内容(30%)

課題に対するフィードバック

レポート等の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

特に使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

この講義を履修する上で、地域経営論、地域活性化システム論を履修していることが望ましい。
また、フィールドワークを実施するため人数制限を設けており、履修希望者が多数いた場合は履修状況や成績によって選抜することがある。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	事前ワークシートと自己紹介シートの記入。授業内容や目的を説明し、お互いについて知るためのワークを実施し、4,5人のチームを形成。	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	チーム内で作成したシートをもとに深い自己紹介ワーク。チームでの役割を決め、チームとしての目標を設定。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
3	コミュニケーションや対話について基本的な知識を説明。チームで質問し合うワークを通して、具体的な言葉の重要性を認識。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
4	フィールドワークを実施する前に必要な知識や考え方を講義。講義中にグループワークを行い、チームの視点を合わせる。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
5	訪問先となる地域について情報収集しチーム内で共有する。フィールドワーク受入先の状況と最終課題について説明。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
6	フィールドワーク: 訪問先見学。観察と洞察について説明し、発見したことを写真撮影しワークシートに記入。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
7	フィールドワーク: 現場体験。実際に仕事の一部を体験したり、顧客向けのサービスを体験したりする。感じたことをワークシートに記入。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
8	振り返りと仮説設定。歴史を聞き現状を体験し、学んだことや感じたことをワークシートにまとめる。また今後の改善点や提案を、仮説として考える。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
9	前回で考えた仮説を、受入先へ提出するレポートに整理。聞き手のことを考える視点や予測される反応をイメージしながら作成。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
10	フィールドワーク: 仮説検証。チームごとに発表し、受入先からフィードバックをもらい、地域課題や地域ニーズについて意見交換。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
11	フィールドワーク: 課題設定。これまでの学びを活かし、再度現場見学や仕事・サービスを体験し、対応すべき課題やニーズを特定する。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
12	何ができたかできなかったか、何が必要かを振り返り、ワークシートにまとめる。その後、解決に向けた提案の作りこみを行う。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
13	フィールドワーク: 受入先への最終発表に向けた準備。発表はパワーポイントを使用。必要であれば再度現場へ行き素材を集めることも可能。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
14	フィールドワーク: 受入先への提案を発表。チームごとに発表し、受入先の担当者から評価をいただく。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
15	発表を通して学んだことをワークシートに記入。今後の学生生活や将来社会人となったときに実現したいことをまとめる。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す

講義名	2520091000 職業英語						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	グレゴリー・アンソニー		

学習目標(到達目標)

International Workplaceで基本的な英語理解ややり取りができる。

授業概要(教育目的)

現代はInternational Workplaceで英語は海外での仕事だけではなく、国内の会社・職場でも英語版のニュース、ビジネス情報、書類等の理解能力や外国人とのやり取りが必要になった。ビジネスにおける英語の重要性を今さらここで繰り返す必要もないであろう。電話やFaxだけではなくメールやインターネットで世界中と瞬時にやり取りができる時代である。この講義では、実際に用いる可能性の高い英語表現をさまざまな場面ごとに身に付けてゆくことを目的とする。ビジネス英語と聞くと難しいと思われがちだが、分かり易く進めていくので敬遠しないでほしい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。

課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。

参考文献

講義時使用テキスト

講義中の使用テキストはなし。
参考文献は全て授業中に紹介する。
英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

資格との関連

学生へのメッセージ

覚えておかなければならないのは、講義中は、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。
タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	Advertisements (language, money, and measurements)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	First Meetings and Introductions	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	English at the Workplace ① (handling customers)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	Current News Events ① (comprehension and culture discussion)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	Filling in Forms ① (online registration forms)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	You and Your Company	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	English at the Workplace ② (resolving problems)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	Current News Events ② (comprehension and culture discussion)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	Filling in Forms ② (application forms)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	Visiting a Client	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	English at the Workplace ③ (handling customers)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	Current News Events ③ (comprehension and culture discussion)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	Filling in Forms ③ (resumes)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	Filling in Forms ④ (cover letters)	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	Answering the Phone	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520092000 インターンシップⅠ（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

「インターンシップⅠ」の到達目標は、以下の3点である。
①インターンシップでの体験を通し、自らのキャリア、職業選択を考える手がかりを得る。
②社会からみた自己の評価を知ることにより、自己発見の機会とする。
③上記①,②を、大学での学習にフィードバックする。

授業概要(教育目的)

インターンシップとは、在学中のある一定期間、企業などにおいて、自らの専攻、将来のキャリア
に関連した就業体験を行うこと制度であり、以下の①及び②を通じ、主体的に職業を選択する能力
を身につけさせ、高い職業意識を育成することを目的としている。

①学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供する。
②大学における学修を深化し、新たな学習意欲を喚起する。

「インターンシップ」は、大きく事前指導、実習、事後指導の順序で進められる。
・事前指導は前期の時間割で空き時間に実施する。
・実習は長期休暇中に各実習先で実施する。
・事後指導は後期の時間割で空き時間に実施する。
(詳細については、「授業計画表」に記す。)

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

・「インターンシップⅠ」は、事前指導、実習、事後指導のすべてを終了して単位が認定される。
・したがって、評価についても、事前指導、実習、事後指導のすべてを総合し、行う。
・上記について、以下の①,②に、特に注意すること。
①事前指導を欠席した場合、実習への参加が認められない。
②事後指導での課題への取り組み、提出を怠った場合、実習に参加しても単位は認定されない。

・実習、事後指導後にインターンシップ全てを振り返って最終レポートを提出する。

課題に対するフィードバック

・事前指導の課題(面談シート)については、面談時にアドバイスする。
・実習時の課題(実習日誌)については、実習先とやりとりする。
・事後指導の課題(成果発表)については、発表時に講評を行う。

講義時使用テキスト

・「インターンシップⅠの手引き」
(初回の授業で配布：毎回持参すること。)
・上記以外にも、随時、資料を配布する。

参考文献

資格との関連

特記事項なし。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・インターンシップを履修する学生は、研修先で八戸学院大学を代表することになる。
・自分は、八戸学院大学を代表して、研修先にお世話になるということを肝に銘じること。
・研修先での身勝手な行動、社会常識に反する行動は慎むこと。
・自己都合による、研修のキャンセルは絶対にできないので、履修する際、この点を必ず約束すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	事前指導(1)インターンシップの学習の流れと本学における事例	・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
2	事前指導(2)外部講師講話(インターンシップの経緯と意義、最新事例)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
3	事前指導(3)マッチングテスト(外部テスト活用)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。
4	事前指導(4)マッチング作業①(アンケート・面談)	・面談シートを作成する。 ・面談で答えるべき内容を準備する。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。
5	事前指導(5)マッチング作業②(面談・報告)	・面談で答えるべき内容を準備する。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。
6	事前指導(6)マッチング作業③(面談・報告)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
7	事前指導(7)就活最前線(外部講師)	・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
8	事前指導(8)ビジネスマナーと社会人対応、実習日誌について	・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 ・配布資料の該当箇所を読む。 ・授業内容をインターネットで調べる。	・授業の内容を確認し、論点を整理する。 ・配布資料とノートを読み直す。
9	研修先での実習(1)	・事前指導で学んだ内容を確認し、論点を整理する。・それぞれの研修先で実習を行うに際しての事前の注意事項を再確認する。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
10	研修先での実習(2)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
11	研修先での実習(3)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
12	研修先での実習(4)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
13	研修先での実習(5)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
14	研修先での実習(6)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
15	研修先での実習(7)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
16	研修先での実習(8)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
17	研修先での実習(9)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
18	研修先での実習(10)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
19	研修先での実習(11)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。
20	研修先での実習(12)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
21	研修先での実習(13)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
22	研修先での実習(14)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
23	研修先での実習(15)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
24	研修先での実習(16)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
25	研修先での実習(17)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。
26	研修先での実習(18)	・実習の準備をする。	・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。 ・実習日誌を記入する。

講義名	2520093000 インターンシップⅡ（地域共創学科）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、持続可能な地域を共に創るために必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

講義時使用テキスト

資格との関連

実務との関連

授業概要(教育目的)

課題に対するフィードバック

参考文献

学生へのメッセージ

授業計画表

	内容	予習	復習

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520094000 地域共創論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

・外発的発展と内発的発展の違いについて、簡単に説明することができる。
・青森・八戸の諸課題について知り、いくつか、説明することができる。
・将来、自分自身がどのように地域貢献に関わることができるかを想像することができる。

授業概要(教育目的)

現在、地域の発展に求められる姿勢は、自ら課題を発見し、自ら実践していくための、自立的な行動である。日本では、2000年代以降、バブル経済の崩壊やグローバリゼーションの進展を背景に、高齢化社会による社会保障、非正規雇用の増加による格差、TPPなどにみられる新たな貿易枠組み、世界的な環境問題など、多種多様な諸課題に対し、全国一律の総合開発という考え方では対応しきれなくなり、地域の実情に合わせた発展の仕方を模索することが求められている。

本講義では、これまでの地域開発の経緯に触れながら、青森・八戸を題材にその地域開発の変容と今日の課題について取り上げていく。具体的には、青森・八戸の地域開発の経緯と現状、人口問題と労働力、農林水産業、社会保障、観光業、国際化、環境問題などを取り上げる。

上記の諸課題は、地域によって濃淡を見せることから、縮小化していく地方財源に合わせ、その優先順位や対応を考えなければならない。これらは地域住民自らが設定し、計画し、実践することが望ましい。このことは、多くの住民を巻き込み、多くの意見を吸い上げることで効果を発揮することになるが、その行動を促進させ、まとめることは容易ではない。

そこで、地域共創論では、青森・八戸の諸課題について具体的に取り上げるとともに、それらを解決するための実践やガバナンスについても触れる。これらの内容を通して、履修生が、シチズンシップをイメージし、高次学年への学びの基礎を築くことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身に付けている。

評価方法

各回で実施されるレポートまたは小テストの点数を累計して評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、小テスト等)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

適宜、担当教員より指示をする。

資格との関連

学生へのメッセージ

本科目は、青森県・八戸市の事象を分野ごとに異なる専門家が分析した内容になる。さまざまな視点から地域の実情を見ることは、自身の将来を考えるうえで、きっと参考になる。いつ、どこで、自身の興味が惹かれるかは、自身でもわからないものである。もしかすると、講義を通じて興味が湧くかもしれない。そのような機会を失わないためにも、講義には全て出席するよう心掛けること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	全国総合開発計画の経緯と「地方創生」	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
2	戦後八戸市経済の開発①	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
3	戦後八戸市経済の開発②	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
4	全国総合開発計画の経緯と環境問題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
5	人口問題と労働需要	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
6	青森県における農業生産の現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
7	青森県における地域ブランドの現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
8	社会保障の課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
9	社会保障の課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
10	アントレプレナーの現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
11	観光業の現状と課題	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
12	青森・八戸市の国際化	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
13	青森・八戸市のガバナンス	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
14	地域政策のためのエビデンス	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること
15	公共事業の課題と地域発展	講義内容に関連するキーワードをインターネット等で調べておくこと	講義資料を基に学びのポイントを要約すること

講義名	2520095000 商業簿記（中級）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

株式会社を会計主体とし、そこで展開される経済活動を会計事象として認識し、記帳する技術を習得することを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

企業において複式簿記は、財務諸表作成に欠かせない技術である。本講義においては、会計主体を株式会社とし、中級レベルの商業簿記の知識の習得を目的とする。
中級レベルとは、日商簿記検定2級出題範囲のうち銀行勘定調整表、手形、有価証券、商品売買、固定資産、本支店会計などの基本的処理を想定している。
簿記原理Ⅰならびに簿記原理Ⅱで学んだ簿記原理を基礎とし、実際の株式会社の活動における取引の記録を実践し、株式会社の財務諸表作成のための簿記の技術を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験については、成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社
片山覚・渡部裕亘編著『段階式　日商簿記ワークブック2級商業簿記』税務経理協会

講義時使用テキスト

片山覚監修『新　中級商業簿記』創成社

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	現金預金(現金・当座預金・銀行勘定調整表・クレジット売掛金)	テキスト第1章を読む。	テキスト第1章の例題をもう一度解く。
2	手形①(約束手形と為替手形・手形の裏書譲渡と割引)	テキスト第2章を読む。	テキスト第2章の例題をもう一度解く。
3	手形②(不渡・金融手形・手形の更改・電子記録債権と電子記録債務)	テキスト第2章を読む。	テキスト第2章の例題をもう一度解く。
4	有価証券①(有価証券の範囲と種類・売買目的有価証券・満期保有目的債券)	テキスト第3章を読む。	テキスト第3章の例題をもう一度解く。
5	有価証券②(子会社関連会社株式・その他有価証券・有価証券の取得と売却)	テキスト第3章を読む。	テキスト第3章の例題をもう一度解く。
6	商品売買①(売上原価・商品の払出単価と期末棚卸高)	テキスト第4章を読む。	テキスト第4章の例題をもう一度解く。
7	商品売買②(棚卸減耗損と商品評価損・仕入割引と売上割引)	テキスト第4章を読む。	テキスト第4章の例題をもう一度解く。
8	固定資産①(固定資産とは・有形固定資産・減価償却)	テキスト第6章を読む。	テキスト第6章の例題をもう一度解く。
9	固定資産②(無形固定資産)	テキスト第7章を読む。	テキスト第7章の例題をもう一度解く。
10	引当金(引当金の概要・貸倒引当金・退職給付引当金・修繕引当金)	テキスト第9章を読む。	テキスト第9章の例題をもう一度解く。
11	株式会社会計①(純資産の分類・株式会社の設立・増資)	テキスト11章を読む。	テキスト第11章の例題をもう一度解く。
12	株式会社会計②(利益および損失の処理・株主資本等変動計算書・企業の合併)	テキスト第11章を読む。	テキスト第11章の例題をもう一度解く。
13	決算手続きと決算整理	テキスト第12章を読む。	テキスト第12章の例題をもう一度解く。
14	本支店会計①(本支店会計とは・本支店間取引・支店間取引)	テキスト第13章を読む。	テキスト第13章の例題をもう一度解く。
15	本支店会計②(本支店合併財務諸表の作成)	テキスト第13章を読む。	テキスト第13章の例題をもう一度解く。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520096000 工業簿記Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

工業簿記の勘定構造を理解し、費目別計算、部門別計算、製品別計算及び勘定記入(仕訳と転記)ができることを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

工業簿記とは、製造業を営む企業に適用される簿記であり、材料の購買や製品の販売などの外部活動だけではなく、製造(内部)活動から生じた取引についても記録・計算を行う。そこで本講義では、問題演習を通して、工業簿記の勘定記入、製造原価計算(費目別計算、部門別計算、製品別計算)などの工業簿記の基礎的な構造を理解することを目的とする。
なお、本講義は、2年次配当科目である「工業簿記Ⅱ」を学ぶための基礎として位置づけられる科目である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

小テスト(20%)、定期試験(80%)により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

岡本清『原価計算(六訂版)』 国元書房

講義時使用テキスト

CPA会計学院編著『いちばんわかる 日商簿記2級 工業簿記の教科書』アガルート

資格との関連

日商簿記検定2級

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1年次配当科目である「簿記原理Ⅰ」・「簿記原理Ⅱ」を履修済み(単位取得・認定)であることが望ましい。
また、問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 工業簿記の基礎①(意義)	テキストに目を通す。	配布資料を読み直す。
2	工業簿記の基礎②(原価の意義と分類)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
3	工業簿記の基礎③(計算手続、勘定記入)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
4	材料費の計算と記帳①(購入原価の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
5	材料費の計算と記帳②(消費額の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
6	労務費の計算と記帳①(賃金支払額の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
7	労務費の計算と記帳②(消費賃金の計算と記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
8	経費の計算と記帳	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
9	製造間接費の計算と記帳①(実際配賦)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
10	製造間接費の計算と記帳②(予定配賦)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
11	製造間接費の計算と記帳③(差異分析)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
12	単純個別原価計算	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
13	部門別個別原価計算①(部門費の第1次集計)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
14	部門別個別原価計算②(部門費の第2次集計)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
15	部門別個別原価計算③(予定配賦)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520097000 情報処理応用　Aクラス						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

・表計算ソフトに入力されたデータを計算式、関数を用いて適切に処理できる。
・表計算ソフトのグラフや図版などの機能を理解し、データの視覚化ができる。
・表計算ソフトを使用してデータの基礎を理解し、データ分析ができる。

授業概要(教育目的)

この科目は、情報処理基礎およびデータサイエンス入門で学んだことをベースに、表計算ソフトの応用的機能・操作を理解し、企業での日常業務や市場分析・企画立案活動に必要とされるデータ処理技術を習得することを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業の中で理解度を確認する実習課題をWebClass上で実施し、課題完成度の確認結果をフィードバックする。
成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

WebClassにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報処理基礎で使用したテキスト「情報リテラシー　総合編Windows 11・Office2021対応」富士通エフ・オー・エム(株)。その他、毎回WebClassに資料を提示する。

資格との関連

マイクロソフト社のMOS資格認定試験(EXCEL)

学生へのメッセージ

本科目はパソコンでの実習を含む科目である。授業各回に以下のように、自主学習が求められる。
各自で情報処理基礎で学んだ基本的なEXCEL操作の知識を確認してから講義に臨むこと。.
また授業後には、WebClassで提供する講義資料やテキストを利用して、講義内容や授業中に課された課題を復習し、理解を深めること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	・表計算ソフトの 基本操作復習 数式、絶対・相対参照、基本関数 SUM/AVERAGE/MAX/MIN/ROUND//MEDIAN/RANK	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
2	・関数を 使いこなそう(1) PHONETIC/COUNTA/COUNTIF	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
3	・関数を 使いこなそう(2) VLOOKUP/IF/IFS/AND/OR	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
4	・演習課題 第2回・第3回での 学習に関する演習課題	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
5	・関数を 使いこなそう(3) SUMIF/SUMIFS/SUMPRODUCT	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
6	・関数を 使いこなそう(4) COUNTIFS/AVERAGEIF/AVERAGEIFS	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
7	・演習課題 第5回・第6回での 学習に関する演習課題	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
8	・関数を 使いこなそう(5) HLOOKUP/XLOOKUP/MATCH/INDEX/UNIQUE	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
9	・演習課題 第8回での 学習に関する演習課題	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
10	・ユーザ定義の 表示形式の 設定と入力規則 数値/日付/文字列 入力規則:リスト入力等	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
11	・条件付き書式の 設定と高度なグラフ作成 条件付き書式の 設定 複合グラフ作成 スパークラインの 作成	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
12	・データベースの 活用 テーブルの 利用	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
13	・財務関数とWhat If分析 FVとゴールシーク機能、売上伸び 率シミュレーションとシナリオ 機能	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
14	・データ分析(1) 値上げか 薄利多売かシミュレーション	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
15	・データ分析(2) 儲けはでるのか 損益分岐点とシナリオ	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520097001 情報処理応用　Bクラス						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	堀谷　大輔		

学習目標(到達目標)

・表計算ソフトに入力されたデータを計算式、関数を用いて適切に処理できる。
・表計算ソフトのグラフや図版などの機能を理解し、データの視覚化ができる。
・表計算ソフトを使用してデータの基礎を理解し、データ分析ができる。

授業概要(教育目的)

この科目は、情報処理基礎およびデータサイエンス入門で学んだことをベースに、表計算ソフトの応用的機能・操作を理解し、企業での日常業務や市場分析・企画立案活動に必要とされるデータ処理技術を習得することを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業の中で理解度を確認する実習課題をWebClass上で実施し、課題完成度の確認結果をフィードバックする。
成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

WebClassにて随時紹介する。

講義時使用テキスト

情報処理基礎で使用したテキスト「情報リテラシー　総合編Windows 11・Office2021対応」富士通エフ・オー・エム(株)。その他、毎回WebClassに資料を提示する。

資格との関連

マイクロソフト社のMOS資格認定試験(EXCEL)

学生へのメッセージ

本科目はパソコンでの実習を含む科目である。授業各回に以下のように、自主学習が求められる。
各自で情報処理基礎で学んだ基本的なEXCEL操作の知識を確認してから講義に臨むこと。
また授業後には、WebClassで提供する講義資料やテキストを利用して、講義内容や授業中に課された課題を復習し、理解を深めること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	・表計算ソフトの 基本操作復習 数式、絶対・相対参照、基本関数 SUM/AVERAGE/MAX/MIN/ROUND//MEDIAN/RANK	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
2	・関数を 使いこなそう(1) PHONETIC/COUNTA/COUNTIF	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
3	・関数を 使いこなそう(2) VLOOKUP/IF/IFS/AND/OR	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
4	・演習課題 第2回・第3回での 学習に関する演習課題	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
5	・関数を 使いこなそう(3) SUMIF/SUMIFS/SUMPRODUCT	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
6	・関数を 使いこなそう(4) COUNTIFS/AVERAGEIF/AVERAGEIFS	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
7	・演習課題 第5回・第6回での 学習に関する演習課題	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
8	・関数を 使いこなそう(5) HLOOKUP/XLOOKUP/MATCH/INDEX/UNIQUE	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
9	・演習課題 第8回での 学習に関する演習課題	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
10	・ユーザ定義の 表示形式の 設定と入力規則 数値/日付/文字列 入力規則:リスト入力等	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
11	・条件付き書式の 設定と高度なグラフ作成 条件付き書式の 設定 複合グラフ作成 スパークラインの 作成	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
12	・データベースの 活用 テーブルの 利用	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
13	・財務関数とWhat If分析 FVとゴールシーク機能、売上伸び 率シミュレーションとシナリオ 機能	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
14	・データ分析(1) 値上げか 薄利多売かシミュレーション	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。
15	・データ分析(2) 儲けはでるのか 損益分岐点とシナリオ	「情報処理基礎」の 教科書「情報リテラシー」を一読し、EXCELの 基本操作を 再確認してくこと。	授業内容を 反復し、課題に取り組むこと。

講義名	2520098000 統計学基礎						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1・2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・データの種類や特徴を理解し、適切な表・グラフ・要約統計量を用いて整理できる。
・平均、中央値、分散、標準偏差、相関、標本、推定、仮説検定など、統計学の基礎概念を理解し、基本的な分析結果を解釈できる。
・データの特徴に応じて、基礎的な統計的手法を適切に選択し、その結果を説明できる。
・地域・経営・社会に関する身近なデータをもとに、根拠に基づいて考察し、自分の言葉で表現できる。

授業概要(教育目的)

現代社会では、地域課題、企業活動、行政施策、マーケティング、メディア報道など、さまざまな場面でデータに基づく判断が求められます。本授業では、統計学を単なる計算技術としてではなく、データを読み解き、根拠をもって考え、他者に分かりやすく伝えるための基礎的方法として学ぶ。

授業では、記述統計、確率、標本抽出、推定、仮説検定などの基礎を、身近な事例や地域・経営に関わるデータと関連づけながら学修する。さらに、表やグラフの作成、分析結果の解釈、考察のまとめ方も扱い、最終的には、自ら簡単な分析を行い、その結果を適切に説明できることを目指す。2年次以降の様々な科目にも関連する基礎的知識が得られる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

・講義内で実施する小テスト・課題等提出物:50%
・定期試験または期末課題:50%

課題に対するフィードバック

提出課題や小テストについては、採点後に講評を行い、必要に応じて個別に返却する。
誤答が多かった点や理解が不十分な点については、次回授業の冒頭で補足説明を行う。

参考文献

適宜講義内で紹介する

講義時使用テキスト

毎回講義レジュメを配付する

資格との関連

学生へのメッセージ

統計学は、計算の正確さだけでなく、データをどう読み、どう考え、どう説明するかを学ぶ学問です。本授業では、身近なデータや地域・社会の課題に結びつけながら学んでいきます。毎回の内容は積み重なっていくため、欠席せず、授業後にその日の内容を整理することが重要です。計算に不安がある場合でも、基礎から丁寧に進めるので、安心して受講してください。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス―統計学とは何か、何を学ぶのか 授業の目的、扱う範囲、履修するメリット、評価方法、受講上の注意、電卓の使い方・学び方の方針	「統計」についてインターネットで調べてみる	講義ノートに目を通す
2	データの種類を理解する―数量データとカテゴリーデータ 変数、尺度水準、データの種類、分析方法との対応	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
3	データを整理して特徴をつかむ―分布・グラフ・代表値 度数分布表、ヒストグラム、棒グラフ、平均値、中央値、最頻値、四分位数	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
4	ばらつきをつかむ―分散と標準偏差 偏差、分散、標準偏差、外れ値との関係	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
5	2つの変数の関係をみる―散布図・相関・回帰の入口 散布図、相関係数、回帰の考え方、相関と因果	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
6	偶然と考える―確率の基礎 確率、事象、条件付き確率、期待値	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
7	一部から全体を考える―母集団と標本 母集団、標本、抽出、標本誤差	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
8	推定とは何か―信頼区間で考える 点推定、区間推定、標準誤差、信頼区間	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
9	仮説検定の基礎―有意差とは何か 帰無仮説、対立仮説、有意水準、P値	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
10	平均値の差を比べる―t検定 1標本t検定、2標本t検定、対応あり・なし	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
11	割合やカテゴリの違いをみる―クロス集計とχ²検定 分割表、独立性の検定、適合度の検定	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
12	実データを分析する①―地域・経営データを読む 実データの整理、表・グラフ作成、基礎集計	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
13	実データを分析する②―分析結果を解釈する 結果の読み取り、比較、考察	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
14	分析結果をどう伝えるか―統計的に考え、説明する レポートの書き方、誤解を招かない表現、限界の示し方	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す
15	統計学で社会を見る―総括とミニ発表 学修内容の総括、活用可能性、発表またはまとめ	前回の講義ノートに目を通す	講義ノートに目を通す

講義名	2520099000 統計学演習（Aクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

・各自で表計算ソフトを用いてデータの分析ができる。
・表計算ソフトの統計分析のツールを使いこなすことができる。
・各自で統計的分析を行うことができる。

授業概要(教育目的)

近年、情報化の進展が著しい社会情勢においてデータ分析が果たす役割は大きい。このことは、企業経営においても、例えば市場ニーズや環境の変化などを多角的かつ迅速に分析する必要がある。さらには、地域活性化や振興策を講じる上でもデータ分析は必要不可欠であると言える。その様な中で、近年では、表計算ソフトを用いた統計的データ処理の形態が一般的になり、統計パッケージと同等の分析処理が容易にできるようになった．従って、これらの統計ツールやパッケージソフトを利用するに当たり、データ分析における理論的かつ基本的な部分は1年次に開講されている統計学で教授された内容を実際のデータを用いて、科学的根拠に基づいたデータ分析の習得が求められている。

本授業では、表計算ソフトを利用し、実際のデータの統計処理の実習通じて、統計データ分析の基本的な手法や計算によって得られた結果の見方等を習得する．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に行う小テスト(課題)の内容およびレポート(最終課題)によって評価する．
定期試験は実施しないため、不可→追再試験は実施しない．

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．
成績を知りたい学生には個別に開示する．

講義時使用テキスト

特定の教科書は使用せず、自作のテキストを用いて実施する。

参考文献

①統計学の理論的な内容に関して
東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』, 東京大学出版会．
栗原伸一『入門 統計学 第2版』, オーム社．
秋山　裕『統計学基礎講義』, 慶應義塾大学出版会．
②Excelなどの統計ソフトの利用に関して
豊田裕貴『Excel分析ツール完全詳解』, 秀和システム．
荒川俊也『Excelによるやさしい統計解析』, オーム社．
③多変量解析に関して
大平　平『今日から使える統計解析 普及版』, 講談社ブルーバックス．
石村貞夫・有馬哲『多変量解析のはなし』, 東京書籍．

その他の参考文献等については、適宜指示する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関わる科目

学生へのメッセージ

情報処理基礎(1年次春学期)で扱ったエクセルについて理解している事を前提に講義・実習を進める。
1年次に開講されている情報処理基礎、データ分析入門、統計学のそれぞれの科目を履修し習得していることを前提に授業を進める。
座席は指定するので、必ず指示された座席に着席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	表計算ソフト(エクセル)の 概要と特徴 エクセルの「データ分析」ツー ルの 概要 基本統計量	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
2	記述統計学の 基礎的内容 データの 集計(度数分布図・度数分布表) 代表値、分散、偏差	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
3	2変数の 分析 散布図の 作成 相関係数と分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
4	単回帰分析(2変数での 回帰, 最小二乗法) 回帰分析の 意味と概要 従属変数, 独立変数, 決定係数 分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
5	仮説検定 帰無仮説、対立仮説 分散分析入門 データ分析における分散の 重要性について	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
6	t検定 1変数でのt検定 標本数が少ない場合での 仮説検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
7	t検定 2変数でのt検定(対応のある場合)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
8	t検定(対応の 無い場合) z検定(正規分布の 検定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	質的データの 分析 クロス集計(ピボットテーブル)による分割表の 作成 期待度数	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	カイ2乗検定 カイ2乗分析による独立性・適合度の 検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
11	多変量解析入門 多変量解析とは 多変量解析の 種類	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
12	重回帰分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	主成分分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	各自で、データを 仮説検定する①	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	各自で、データを 仮説検定する②	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

講義名	2520099001 統計学演習（Bクラス）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	田村　正文		

学習目標(到達目標)

・各自で表計算ソフトを用いてデータの分析ができる。
・表計算ソフトの統計分析のツールを使いこなすことができる。
・各自で統計的分析を行うことができる。

授業概要(教育目的)

近年、情報化の進展が著しい社会情勢においてデータ分析が果たす役割は大きい。このことは、企業経営においても、例えば市場ニーズや環境の変化などを多角的かつ迅速に分析する必要がある。さらには、地域活性化や振興策を講じる上でもデータ分析は必要不可欠であると言える。その様な中で、近年では、表計算ソフトを用いた統計的データ処理の形態が一般的になり、統計パッケージと同等の分析処理が容易にできるようになった．従って、これらの統計ツールやパッケージソフトを利用するに当たり、データ分析における理論的かつ基本的な部分は1年次に開講されている統計学で教授された内容を実際のデータを用いて、科学的根拠に基づいたデータ分析の習得が求められている。

本授業では、表計算ソフトを利用し、実際のデータの統計処理の実習通じて、統計データ分析の基本的な手法や計算によって得られた結果の見方等を習得する．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に行う小テスト(課題)の内容およびレポート(最終課題)によって評価する．
定期試験は実施しないため、不可→追再試験は実施しない．

課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．
成績を知りたい学生には個別に開示する．

講義時使用テキスト

特定の教科書は使用せず、自作のテキストを用いて実施する。

参考文献

①統計学の理論的な内容に関して
東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』, 東京大学出版会．
栗原伸一『入門 統計学 第2版』, オーム社．
秋山　裕『統計学基礎講義』, 慶應義塾大学出版会．
②Excelなどの統計ソフトの利用に関して
豊田裕貴『Excel分析ツール完全詳解』, 秀和システム．
荒川俊也『Excelによるやさしい統計解析』, オーム社．
③多変量解析に関して
大平　平『今日から使える統計解析 普及版』, 講談社ブルーバックス．
石村貞夫・有馬哲『多変量解析のはなし』, 東京書籍．

その他の参考文献等については、適宜指示する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関わる科目

学生へのメッセージ

情報処理基礎(1年次春学期)で扱ったエクセルについて理解している事を前提に講義・実習を進める。
1年次に開講されている情報処理基礎、データ分析入門、統計学のそれぞれの科目を履修し習得していることを前提に授業を進める。
座席は指定するので、必ず指示された座席に着席すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	表計算ソフト(エクセル)の 概要と特徴 エクセルの「データ分析」ツー ルの 概要 基本統計量	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
2	記述統計学の 基礎的内容 データ の 集計(度数分布図・度数分布表) 代表値、分散、偏差	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
3	2変数の 分析 散布図の 作成 相関係数と分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
4	単回帰分析(2変数での 回帰, 最小二乗法) 回帰分析の 意味と概要 従属変数, 独立変数, 決定係数 分析結果の 見方	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
5	仮説検定 帰無仮説、対立仮説 分散分析入門 データ分析における 分散の 重要性について	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
6	t検定 1変数でのt検定 標本数が少ない場合での 仮説検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
7	t検定 2変数でのt検定(対応のある場合)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
8	t検定(対応の 無い場合) z検定(正規分布の 検定)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	質的データの 分析 クロス集計(ピボットテーブル)による分割表の 作成 期待度数	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	カイ2乗検定 カイ2乗分析による独立性・適合度の 検定	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
11	多変量解析入門 多変量解析とは 多変量解析の 種類	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
12	重回帰分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	主成分分析	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	各自で、データを 仮説検定する①	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	各自で、データを 仮説検定する②	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520100000 情報通信ネットワーク						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	馬場　祥次		

学習目標(到達目標)

1. 情報通信ネットワークの構成要素とその役割について説明できる。
2. インターネットを安全に利用するために、その仕組みを説明できる。
3. 家庭、企業の部署内といった小規模なLANを構築し、運用管理ができる。

授業概要(教育目的)

情報通信技術の高度化によって、国際的な広がりで企業はもちろんのこと、家庭生活の中にもコンピュータネットワークが浸透した。インターネットを活用したWebサービスは我々の生活やビジネスに急激に普及し、高度情報化社会を支える社会基盤として重要な役割を担っている。本講義では、インターネットの全体像についてその歴史も含めて知識を習得し、さらにネットワークを構成する機器やソフトウェア、構築・運用方法について理解することで、実際にインターネットを活用する能力を育成することを目的としている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験および課題の提出状況により評価する。
定期試験6割、課題提出を4割として合計で評価する。

課題に対するフィードバック

授業支援システム(WebClass)にてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

参考文献

・「教養としてのコンピュータサイエンス」(日経BP)
・講義の予習復習教材として、IPSJ　MOOC(情報処理学会　公開教材)
(https://sites.google.com/a.ipsj.or.jp/mooc/)を利用する。利用方法は講義時に説明する。
・その他講義時に適宜紹介する。

講義時使用テキスト

・使用しない。

資格との関連

情報免許状コースの教科に関する科目
ITパスポート(国家試験)　基本情報技術者試験(国家試験)などの資格を取りたい人は履修してほしい。

学生へのメッセージ

授業支援システム(WebClass)に授業資料を掲載するので、予習復習に利用すること。
予習課題、復習課題も含め提出期限があるので、必ず期限内に提出すること。(後日の提出は認めない)

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	情報通信ネットワークの構成と機能	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
2	情報通信のモデル	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
3	情報通信の基礎技術①(符号化)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
4	情報通信の基礎技術②(誤り制御) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
5	LANの仕組み①(LANの構成)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
6	LANの仕組み②(ネットワークトポロジ)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
7	LANの仕組み③(交換方式)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
8	LANの仕組み④(プロトコル) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
9	インターネット①(概要・歴史)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
10	インターネット②(TCP/IP) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
11	インターネット③(アプリケーション)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
12	インターネット④(セキュリティ) ※理解度確認のため、はちキャンWebで確認テスト実施(スマホ等利用)	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
13	LANの構築	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
14	LANの運用管理	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。
15	情報通信ネットワークの最新技術	・はちキャンWebにアップロードしている授業用スライド、参考資料を読んでおくこと。 ・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。	・授業時に提示した演習問題について復習しておくこと。 ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。

講義名	2520101000 アントレプレナーシップ入門						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

アントレプレナーシップの基本を理解し、その姿勢や能力を身につけることを目的とする。
また、実践力として、基本的な「アイデア発想力」および「課題発見力」を獲得することを目的とする。

1　アントレプレナーシップとは何かを理解し、自分の言葉で説明できる
2　企業や製品の分析を行い、その結果をビジネスモデルキャンバスなどを使い説明できる。新しいビジネスのアイデアを形にし、プレゼンテーションできる
3　調査、分析、観察等を通して、課題の特定や解決策を発想することができる
4　ビジネスモデルコンペティションにアイデアを提案できる

授業概要(教育目的)

本講義では、企業とは何か、組織が持続し成長するために必要な要素は何かを学ぶ。そのうえで技術経営の基礎を修得し、イノベーションプロセスを体験的に理解することで、ビジネスパーソンとして求められる基礎的能力の涵養を図る。本講義を通して、新たな価値を創造し、課題を主体的に解決できる人材、ひいては産業の発展およびより良い社会の構築に貢献できる人材への成長を目指す。

本講義は、①講義・演習、②ゲスト講師による講演、の二つにより構成する。
講義・演習では、ビジネスの基礎、イノベーションのプロセス、組織マネジメントについて学び、個人・ペア・グループワークによる演習を通して理解を深める。

また、ゲスト講師による講演では、企業経営、新事業創出、起業等について、専門分野および実務経験に基づいた知見を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

持続可能な地域を共に創るための汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

評価は、授業内での取組状況、提出課題の内容、および授業全体を通した学修成果を総合的に勘案して行う。

具体的には、授業内でのディスカッションやグループワークへの参加状況、確認ワーク、各種課題の達成度等を評価対象とする。

なお、授業内で適宜フィードバックを行う。

課題に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義は第1回講義より、グループワーク、ディスカッション、確認テスト等を取り入れながら進める。本講義では多くのグループワークを実施する。将来いかなる進路を選択した場合であっても、他者と協働して物事に取り組む機会は必ず生じる。そのような力は今後の人生において重要な能力であることを踏まえ、本講義を通して主体的に向上を図ることを求める。

また、本講義では企業関係者による講演および交流の機会を設ける。社会人に対する基本的なマナー(挨拶、時間厳守等)を遵守することはもちろん、来訪者から積極的に学ぼうとする能動的な姿勢で受講することを期待する。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 導入: 講義概要、評価、受講にあたっての 諸注意等。経営とは 何か、なぜビジネスについて 学ぶことが 大事なのかを 理解する。	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
2	2. アントレ・イノベーションがなぜ 必要: 企業の 目的と 成果の 出る 組織について、事例を 元に 説明する。	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	3. ビジネスモデルとは？(Business Model Canvas:の 紹介):ペアを 作って BMCづくりにトライする	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	4. ビジネス・アイディアの 発想に 挑戦する: シナジー　1+1>2になるアイディア 発想の しかたを 紹介	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
5	5. ペアの 技術についての 知識を 深めよう(ビジネスモデルの 作成1): ペアからグループへ➡プロジェクト・グループ 結成！ 翌週のゲストへの 質問を 準備	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
6	6. ゲスト講義:	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	7. 競合他社の 調査を 使って 独自性を 検証しよう(ビジネスモデルの 作成2): 今実現していること、していないことは 何？ 新しい 技術を 使うとどんなことが 実現できる？	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	8. 中間テスト: 顧客は 誰？を 改めて 考えて みよう(ビジネスモデルの 作成3):	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	9. ビジネスが 提供できる 価値の 再考(ビジネスモデルの 作成4): 誰のどんな 問題を 解決できる？ 誰のどんな 幸せに 貢献できる？ 自分たちのビジネスを 発表・エレベータースピーチ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	10. ビジネスに 必要な 仲間・資源の 再考(ビジネスモデルの 作成5): 仲間や 資源の 獲得に 必要な 費用はどれくらい？ 教員からのフィードバック①	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	11. ビジネスの「儲けかた」の 再考(ビジネスモデルの 作成6): 教員からのフィードバック②	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	12. ピッチ(＝グループ 発表)1: このビジネスは、資金を 調達できるのか？みんなで 評価しよう	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	13. ピッチ(グループ 発表)2: このビジネスは、資金を 調達できるのか？みんなで 評価しよう	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	14　発表フィードバックを 元に 再提案:	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	15. レポートの 提出・発表ーレポートを 提出し、内容について 発表する。全体講評と 講義のふりかえり:	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520102000 観光学入門						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

観光とは何か、これまでの歴史を理解し、観光の仕組みについて説明ができる。そして現在の観光について状況を把握し、今後の観光について自分なりの意見を述べられるようになる。

授業概要(教育目的)

地域共創そして地方創生にとって大きな影響を与えるのが「観光」である。地域の主幹産業となりうる観光であるが、これまでの歴史では失敗と言わざるを得ないこともあった。その反省と、現代社会を取り巻く環境を理解したうえで、次の観光について考えていかなければならない。いま日本の観光にはチャンスが訪れているが、それを活かして地域活性化につなげられるかどうかは、地域の受け入れ態勢次第であり、観光学を学んだ人が地域の観光を導いていかなければならないのである。
この授業では、観光に関する基礎的な知識を学ぶだけでなく、様々な事例を参考にしてわかりやすく解説していく。そして覚えるだけでなく、その知識を活用して今後の観光について学生同士で考えるようなグループワークも取り入れる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

持続可能な地域を共に創るための汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

①筆記試験60%:学期末の定期試験期間に実施(持ち込み不可)
②リアクションペーパー40%:毎回配布し授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーについては、次回の授業でポイントを復習する。
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

一般社団法人浅虫温泉観光協会理事、浅虫まちづくり協議会理事として、青森市浅虫地区の観光に関わっている経験について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション「観光とは何か」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
2	観光の基礎知識 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
3	観光の歴史 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
4	観光の行動 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
5	観光産業①(旅行業) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
6	観光産業②(宿泊業) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
7	観光産業③(交通運輸業) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
8	観光産業④(テーマパーク・観光施設) ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
9	観光産業とホスピタリティ ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
10	観光政策 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
11	観光の国際化 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
12	諸外国の観光政策 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
13	観光とまちづくり ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
14	観光の実践者から講話 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
15	これからの観光 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。

講義名	2520103000 地域理解演習						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	堤　静子		

学習目標(到達目標)

・社会調査手法を学び、自ら調査の立案・実施する基礎的な力を身に付ける。
・調査を通じ、地域の産業において、新たな事柄を発見することができる。
・調査をするにあたり、心構え及びフィールドワーク現場からの信頼を得ることができる。

授業概要(教育目的)

本科目は、基礎的な社会調査手法を学び、地域の産業の諸課題や事柄等を新たに発見する力を身に付けるものである。具体的には、数量データを取得するためのアンケート等を行う方法や数量データだけでは捉えきれない音声や絵、文章等の質的データを収集して、さまざまな分析方法を学ぶことになる。
さらに本科目は、各手法を学ぶだけでなく、各グループの問題意識に基づき、現地調査計画書を作成し、自ら調査を実践できる力を養うことを目的としている。八戸市内もしくは周辺地域において特徴的な産業や地区等を選定し、具体的に調査計画書を作成し、発表することを課すことで、実践力を養う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域課題やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

各回で実施されるレポートおよび最終レポート(調査計画書)の点数を累計して評価する。

課題に対するフィードバック

レポート等において手本や参考となるものは、次回講義等において紹介する。この他、レポート評価に対し、コメント等を求める者には、個別に対応する。

講義時使用テキスト

講義中に配布する

参考文献

盛山和夫『社会調査入門』有斐閣ブックス,2004年
佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版―書を持って街へ出よう―』新曜社,2006年
岸　政彦,石岡丈昇,丸山里美『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学―』有斐閣,2016年
宮本常一,安渓遊地『調査されるという迷惑　増補版』みずのわ出版,2024年

資格との関連

学生へのメッセージ

【講義手法と特徴】
・グループワークによる発表
・授業時間以外での課題がある。
・現地調査を行った学生には加点する。
　これらをよく、把握しておくこと。

実務との関連

担当教員は、これまでさまざまな社会調査を行った経験を持つ。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	社会調査とは何か	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
2	社会調査の基本的な考え方	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
3	量的調査の基本的な考え方	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
4	質的調査の基本的な考え方	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
5	量的調査方法―マーケティング・リサーチ	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
6	量的調査方法―国際比較調査―	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
7	質的調査―インタビュー	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
8	質的調査―参与観察、非参与観察	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
9	質的調査―ドキュメント分析・ライフヒストリー 分析	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
10	量的調査と質的調査の関連	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
11	調査の倫理と責任、社会貢献	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
12	現地調査計画書の作成①	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
13	現地調査計画書の作成②	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
14	現地調査計画書の報告会①	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。
15	現地調査計画書の報告会②	講義内容のテーマにおけるキーワードをインターネットや参考文献で調べる。	講義において配布した資料を基に、要点をまとめる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520104000 ファイナンシャルプランニング						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	崔　桓碩		

学習目標(到達目標)

本講義は、国家検定であるファイナンシャル・プランナー(FP)資格の3級および2級の取得を目指すことを主な目標とする。まずは、ファイナンシャルプランニングに関する基本的な内容を理解し、過去問を実際取り組むことにより、試験への合格率を向上させることを目標とする。なお、資格取得のみではなく、実際の生活にも役に立てるよう、自分の生活設計についてもある程度の基準を確立することを目標とする。

授業概要(教育目的)

ファイナンシャルプランニングは、15回の講義を大きく2つに分けて、前半はファイナンシャルプランニングに関する内容について説明し、後半は実際に出題された過去問を解いて、その内容について開設する。前半のファイナンシャルプランニングに関する内容については、①ライフプランニングと資金計画、②リスクマネジメント、③金融資産運用、④タックスプランニング、⑤不動産、⑥相続・事業承継の内容について詳細に説明し、ファイナンシャルプランニングに関する全般的な知識を習得することを目標とする。後半の過去問の学習については、実際に出題された過去問を少なくとも学科と実技ともに3回以上解いてみることを目標とし、解いた後は解説を行い、さらに理解度の向上を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

持続可能な地域を共に創るための汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 滝澤ななみ著『みんなが欲しかった!FPの教科書 3級』(TAC出版)

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

国家検定であるファイナンシャル・プランナー(FP)資格の3級および2級の取得を目指す。

学生へのメッセージ

本講義を通じてファイナンシャル・プランナー(FP)資格に積極的にチャレンジしてほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	授業内容の説明とFP試験の紹介	・授業内容についてインターネットで調べる	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	FP内容の説明(ライフプランニングと資金計画①)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	FP内容の説明(ライフプランニングと資金計画②)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	FP内容の説明(リスクマネジメント①)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	FP内容の説明(リスクマネジメント②)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	FP内容の説明(金融資産運用①)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	FP内容の説明(金融資産運用②)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	FP内容の説明(タックスプランニング①)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	FP内容の説明(タックスプランニング②)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	FP内容の説明(不動産①)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	FP内容の説明(不動産②)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	FP内容の説明(相続・事業継承①)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	FP内容の説明(相続・事業継承②)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	過去問テストと解説①	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	過去問テストと解説②	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520105000 リスク・マネジメントⅠ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	崔　桓碩		

学習目標(到達目標)

本講義は、リスクマネジメントとしての保険制度に関する基本的な内容の学習を通じて、保険の知識を身につけることが目的である。さらに、保険の基本原則は何か、保険の仕組みは何か、保険業界の現状と課題等についての学習を通じ、自分なりの見解(問題意識)を持ち(たとえば、保険制度のあるべき姿について)、自分の言葉で説明できることを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

本講義の目的は、我々の日常生活に深く関係している保険の役割と機能、そして種類について学習し、保険の基礎知識を身につける。具体的には、現代社会における保険の役割を経済主体別に分けて説明し、保険の歴史から仕組みまで保険の全般的な基礎理論について学習する。そして、最後の授業では、今までの学習を生かして、実際に保険を利用した生活設計を受講生のみなさんと行う。それにより、単なる保険内容の説明のみでなく、身近にある保険をどのように利用するのかについて実際の生活設計を行い、保険の経済的な効用を感じることを目標とする。また、グループワークを通じて、自分のコミュニケーションスキルを向上させることも学習・教育の目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦著『保険学(補訂版)』有斐閣
2. 大谷幸一編著『保険論』成文堂
3. 水島一也著『現代保険経済(第8版)』千倉書房

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	現代社会における保険の役割①(私たちの生活と保険)	・授業内容についてインターネットで調べる	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	現代社会における保険の役割②(企業活動・社会における保険の役割)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	リスクマネジメントと保険①(リスクの定義と種類)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	リスクマネジメントと保険②(リスクマネジメントとしての保険)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	社会保険制度の種類と機能	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	私的保険制度の種類と機能	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	保険の歴史(生成と発展)①(海上・火災保険)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	保険の歴史(生成と発展)②(生命保険)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	保険の基礎理論(大数の法則、収支相等の原則等)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	保険商品の種類と仕組み①(生命保険商品)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	保険商品の種類と仕組み②(損害保険商品)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	保険商品の種類と仕組み③(医療保険商品)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	保険料の算出方法①(生命保険の保険料)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	保険料の算出方法②(損害保険の保険料)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	契約者配当と保険を利用した生活設計	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520106000 リスク・マネジメントⅡ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	崔　桓碩		

学習目標(到達目標)

本講義は、リスクマネジメントとしての保険制度に関する基本的な内容の学習を通じて、保険の知識を身につけることが目的である。さらに、保険の基本原則は何か、保険の仕組みは何か、保険業界の現状と課題等についての学習を通じ、自分なりの見解(問題意識)を持ち(たとえば、保険制度のあるべき姿について)、自分の言葉で説明できることを到達目標とする。

授業概要(教育目的)

本講義の目的は、保険の契約と保険会社の経営について学習し、金融機関としての保険について理解を深める。具体的には、保険会社の経営について、保険事業をめぐる全般的な事情について説明し、保険事業における販売チャネルと資産運用の現状と課題について説明する。そして、保険事業をめぐる規制状況、社会的責任、今後の課題についても説明する。また、保険会社によるグローバル展開や国際的な監督および規制の取り組みについても紹介し、保険業界をめぐる全般的な状況についても解説する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

1. 近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦著『保険学(補訂版)』有斐閣
2. 大谷幸一編著『保険論』成文堂
3. 水島一也著『現代保険経済(第8版)』千倉書房

講義時使用テキスト

レジュメ配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	保険の機能(保障・補償機能、金融商品機能)	・授業内容についてインターネットで調べる	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
2	保険の契約	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
3	保険業界における販売チャネル	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
4	保険会社における資産運用	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
5	保険会社の組織形態別の特徴①(株式会社・相互会社・共済)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
6	保険会社の組織形態別の特徴②(株式会社・相互会社・共済)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
7	保険業界の歴史と現状	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
8	保険事業に対する監督・規制の意義と歴史	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
9	保険法と保険業法(施行規則も含む)の内容	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
10	保険業界におけるディスクロージャー制度の導入と現状	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
11	保険会社の破綻処理と保険契約者保護	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
12	保険会社における社会的責任(CSR)	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
13	保険事業・政策における課題	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
14	保険会社によるグローバル展開の現状と課題	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す
15	保険監督者国際機構(IAIS)の監督・規制の取り組み	・授業内容についてインターネットで調べる ・前回の配布資料とノートを読み直す	・授業内容についてインターネットで調べる ・配布資料とノートを読み直す

講義名	2520107000 民法Ⅲ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	髙須　則行		

学習目標(到達目標)

① 親族法における専門用語、制度内容、問題点を説明することができる。
② 相続法における専門用語、制度内容、問題点を説明することができる。

授業概要(教育目的)

本講義では、民法第4編に規定されている親族法・相続法について基礎的な知識を修得・理解することを目的としている。
親族法には、婚姻・離婚・内縁・親子・養子・扶養などの内容が含まれている。
相続法には、相続人・相続分・相続の効力・遺産分割・遺留分・遺言などの内容が含まれている。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

確認テスト(小テスト)の模範解答を示す。

参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

講義時使用テキスト

資格との関連

公務員試験・ファイナンシャルプランナー試験(3級、2級)・宅地建物取引士試験・行政書士試験

学生へのメッセージ

① 公務員試験における試験科目ですので、公務員希望者は必ず受講することを勧める。
② テキスト、民法条文は必ず持ってくること。
③ 法制度に関して、新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	民法へのいざない	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
2	権利の主体・権利能力・行為能力	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
3	意思の不存在	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
4	瑕疵ある意思表示	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
5	無効・取消し、条件・期限・期間	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
6	時効(1)取得時効	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
7	時効(2)消滅時効	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
8	債権の種類	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
9	債権の効力(債務不履行による損害賠償)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
10	契約成立の要件とその効果	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
11	契約の効果(同時履行の抗弁権と危険負担・契約の解除)	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
12	契約の種類(1)売買	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
13	契約の種類(2)賃貸借	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
14	不法行為(1):一般的不法行為	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。
15	不法行為(2):特別な不法行為	テキストの該当箇所を通読し、論点をまとめておく。	授業内容を整理し、分からない点があれば調べておく。

講義名	2520108000 行政学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①現代日本ならびに地域社会において行政が担っている機能や役割について説明できるようになる。
②行政学の成立とその後の展開を踏まえたうえで、諸理論を理解し、活用できるようになる。
③行政に携わるために必要な知識を身につけ、各種公務員試験に対応できるようになる。

授業概要(教育目的)

行政は、立法ならびに司法とともに三権の1つであり、20世紀後半以降に日本を含む先進諸国で福祉国家化とともに、他の2つの権力を上回る権能を有するようになった。きわめて多数の市民に関わる多様な業務を担うことから、運営に当たり固有の知識やスキルが求められる。本授業では、行政職(公務員)として活躍するために不可欠となるこれらの点を理解するとともに、現代の行政が直面している諸課題の克服に向けた方策を自ら考えられるようになることを目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

持続可能な地域を共に創るための汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

授業中に実施する課題等を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

外山公美編『行政学(第2版)』弘文堂、2016年。

資格との関連

学生へのメッセージ

行政学の学修には、政治や法律に関する知識が必要となるため、それらに関する科目を事前に履修していくことを勧める。行政とそれを取り巻く諸課題は絶えず変化しているものであることから、日頃から新聞やテレビニュースを確認するよう心がけてもらいたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	行政学のすゝめ	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
2	行政学の起源と展開	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
3	官僚制	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
4	行政管理論	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
5	行政組織論	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
6	行政統制論と行政責任論	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
7	行政に関する新しい諸理論	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
8	行政と政策形成過程	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
9	政策評価	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
10	行政改革	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
11	行政の民営化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
12	公務員制度改革	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
13	地方分権	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
14	オンブズマン制度と住民参加	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する
15	新しい時代の行政に向けて	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を確認し、論点を整理する

講義名	2520109000 グローバル・ガバナンス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①地球的諸課題の解決に向けて取り組む際のさまざまな手法について理解し、説明できるようになる。
②国際レジームとグローバル・ガバナンスに関する議論の展開を踏まえたうえで、各理論を理解し、活用できるようになる。
③国際協力に関わる諸アクターとその機能について理解し、地球的諸課題の解決に向けて主体的に関与できるようになる。

授業概要(教育目的)

私たちが暮らす国際社会には多種多様な課題が存在し、そのなかには国家・中央政府による取り組みだけでは解決できないものも多い。このような背景を受けて、地球的諸課題の解決に向けては、非国家アクターの参画も含めたかたちでの国際協力の拡充が不可欠だと指摘されている。本授業では、国際レジーム論ならびにグローバル・ガバナンス論の検討をとおして、国際協力の展開や手法、成果、限界を学び、持続可能な開発目標(SDGs)に代表される地球的諸課題の解決に資する人材となるために有用な知識を身につけることを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

本授業で扱う国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論は、いずれも国際関係理論であることから、事前に国際関係論を履修しておくことが求められる。加えて、政治学も履修していると望ましい。また、日頃から国際情勢に関心をもち、新聞の国際面に目をとおしたり、世界の出来事を伝えるニュース番組を観たりするように心がけてもらいたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	グローバル・ガバナンスの 射程	地球的諸課題や国際協力に興味・関心をもち、それらの現状について調べておく	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	国際協力の歴史的展開	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	国際レジーム論の 定義と位置づけ	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	国際レジームとパワー・利益・規範	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	国際レジームの 形成・維持・変容	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	国際レジームと行動	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	レジーム・コンプレックスと国際レジーム間の 相互作用	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	グローバル・ガバナンスの 登場と定義(国際レジームとの 比較)	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	グローバル・ガバナンスの 類型	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	経済分野における国際レジーム	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	経済分野におけるグローバル・ガバナンス化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	安全保障分野における国際レジーム	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	安全保障のグローバル・ガバナンス化	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論から見た地域統合	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	グローバル・ガバナンスの 可能性と限界	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520110000 ローカル・ガバナンス						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①地方自治体(都道府県・市区町村)の権能について説明できるようになる。
②地方自治体が直面している諸課題を理解し、解決策を自ら考えられるようになる。
③地方自治体の取り組みに多様なアプローチから参加し、地域社会の発展に向けて活動できるようになる。

授業概要(教育目的)

日本の地方自治体は1990年代から、地方分権の受け皿として、その権能の拡大が期待されている一方で、税収の落ち込みをはじめとする諸課題に直面している。加えて、その解決の観点からも住民参加が一層求められている。この授業では、地方自治体を取り巻く現状をについて正しい理解を身につけるとともに、地方自治に参画し、地域社会の発展に必要なノウハウの獲得を目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

講義時使用テキスト

福島康仁(編)『地方自治論(第2版)』弘文堂、2018年。

資格との関連

学生へのメッセージ

ローカル・ガバナンスの理解には、政治や法律に関する知識が不可欠なため、それらに関する科目を事前に履修しておくことを勧める。また、地域社会の根幹を担う地方自治体について考える授業であることから、能動的に地域・地元が直面する諸課題について検討する姿勢をもって参加してもらいたい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地方自治の重要性	自らが住む都道府県庁や市役所・町村役場について 調べておく	授業の内容を整理し、論点を 整理する
2	日本の地方自治制度の史的展開	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
3	日本国憲法と地方自治	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
4	地方自治法と地方自治制度	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
5	地方自治と民主主義	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
6	日本の地方自治と地方自治体の実情	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
7	地方財政に関する制度と課題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
8	地方分権の意義と展開	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
9	地方分権に係る諸課題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
10	都市制度と都市政策	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
11	環境政策	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
12	地方自治体による広報活動と広聴活動	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
13	地方自治への多様なアクターの参画	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
14	地方自治体のICT化とその課題	テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む	授業の内容を整理し、論点を 整理する
15	地域社会の持続可能な発展と地方自治	自ら地方自治にどう貢献できるか考えておく	授業の内容を整理し、論点を 整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520111000 地球環境問題						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	横田　将志		

学習目標(到達目標)

①さまざまな地球環境問題の因果関係と影響について説明できるようになる。
②地球環境問題に関する国際協力の展開と課題について理解し、その解決策について自ら考えられるようになる。
③地球市民の一人として、地球環境問題の解決に向けて能動的に行動できるようになる。

授業概要(教育目的)

気候変動(地球温暖化)問題に代表される地球環境問題は、地域社会の持続可能な発展にとどまらず、人類の生存にとって大きな脅威となっている。解決に向けて、国際協力の着実な実施が不可欠であるが、十分であるとは言い難い現状にある。この授業では、地球環境問題とそれに関する国際協力に特有の複雑性について理解を深めるとともに、その克服のために求められる対応についての知識を獲得することも目指す。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

参考文献

なし

講義時使用テキスト

授業のなかで適宜紹介する。

資格との関連

学生へのメッセージ

地球環境問題とそれに関する国際協力は、主に国際レジーム論やグローバル・ガバナンス論といった国際関係理論を用いた分析が行われてきた。そのため、国際関係論ならびにグローバル・ガバナンスを事前に履修しておくことを勧める。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地球環境問題に取り組む重要性	さまざまな環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	地球環境問題の特徴と国際協力の必要性	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	ヨーロッパの大気汚染問題に関する協力①(LRTAP条約まで)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	ヨーロッパの大気汚染問題に関する協力②(LRTAP条約以降)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	オゾン層保護に関する国際協力①(モントリオール議定書まで)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	オゾン層保護に関する国際協力②(モントリオール議定書以降)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	気候変動問題に関する国際協力①(国連気候変動枠組条約まで)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	気候変動問題に関する国際協力②(京都議定書まで)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	気候変動問題に関する国際協力③(パリ協定まで)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	気候変動問題に関する国際協力④(パリ協定以降)	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	北東アジアの環境問題に関する国際協力	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	「枠組み条約―議定書方式」の効用と限界	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	東南アジアの環境問題に関する国際協力	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	地球環境問題を捉える視座と新しい国際協力の必要性	WebClassにある資料を確認するとともに、今回扱う環境問題に関して本やインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	地球環境問題の解決に向けて	地球環境問題の解決のために、自ら何ができるか考えておく	授業の内容を整理し、論点を整理する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520112000 簿記演習Ⅰ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	演習	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

簿記の基礎原理ならびに記帳技術を体系的に理解し、日商簿記検定試験3級程度の簿記会計能力を習得する。

授業概要(教育目的)

日商簿記検定試験3級取得に向けて、問題演習の解説等を中心に「簿記原理Ⅰ」・「簿記原理Ⅱ」で学習した知識の確認と定着を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版

講義時使用テキスト

TAC株式会社(簿記検定講座)編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.15.0』TAC出版
:「簿記原理Ⅰ」・「簿記原理Ⅱ」で使用したテキスト

資格との関連

日商簿記検定試験3級

学生へのメッセージ

【履修条件】
1年次配当科目である「簿記原理Ⅰ」・「簿記原理Ⅱ」を履修済み(単位取得・認定)、または同等の知識を有する者。

【履修上の注意】
毎回の講義において問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 単元別問題演習①(現金・預金等取引)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
2	単元別問題演習②(商品売買取引:掛け取引)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
3	単元別問題演習③(商品売買取引:手形等)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
4	単元別問題演習④(その他の取引:貸付金・借入金など)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
5	単元別問題演習⑤(その他の取引:仮払金・借受金など)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
6	単元別問題演習⑥(固定資産)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
7	単元別問題演習⑦(試算表)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
8	単元別問題演習⑧(決算手続:決算整理事項)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
9	単元別問題演習⑨(決算手続:貸借対照表)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
10	単元別問題演習⑩(決算手続:損益計算書)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
11	単元別問題演習⑪(決算手続:精算表)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
12	総合問題演習①	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
13	総合問題演習②	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
14	総合問題演習③	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
15	総合問題演習④	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520113000 簿記演習Ⅱ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田　威久矢		

学習目標(到達目標)

日商簿記検定試験2級程度の「商業簿記」および「工業簿記」の知識と計算技術を理解する。

授業概要(教育目的)

日商簿記検定試験2級取得に向けて、問題演習の解説等を中心に「商業簿記(中級)」・「商業簿記(上級)」・「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」で学習した知識の確認と定着を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

片山覚　監修『新中級商業簿記』創成社
:「商業簿記(中級)」・「商業簿記(上級)」で使用したテキスト
CPA会計学院編著『いちばんわかる 日商簿記2級　工業簿記の教科書』アガルート
:「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」で使用したテキスト

資格との関連

日商簿記検定試験2級

学生へのメッセージ

【履修条件】
2年次配当科目である「商業簿記(中級)」・「商業簿記(上級)」・「工業簿記Ⅰ」・「工業簿記Ⅱ」を履修済み(単位取得・認定)、または同等の知識を有する者。

実務との関連

【履修上の注意】
毎回の講義において問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 単元別問題演習①(決算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
2	単元別問題演習②(有価証券、費目別計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
3	単元別問題演習③(固定資産、単純個別原価計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
4	単元別問題演習④(外貨建取引、部門別個別原価計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
5	単元別問題演習⑤(収益認識、単純総合原価計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
6	単元別問題演習⑥(株主資本等変動計算書、工程別・組別・等級別総合原価計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
7	単元別問題演習⑦(連結会計、標準原価計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
8	単元別問題演習⑧(連結会計、直接原価計算)	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
9	総合問題演習①	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
10	総合問題演習②	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
11	総合問題演習③	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
12	総合問題演習④	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
13	総合問題演習⑤	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
14	総合問題演習⑥	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。
15	総合問題演習⑦	配布資料とノートを読み直す。	配布資料とノートを読み直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520114000 工業簿記Ⅱ						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

総合原価計算、標準原価計算及び直接原価計算の計算技法の習得を到達目標とする。

授業概要(教育目的)

原価計算とは、製造した製品またはサービスの原価を算定する手続きのことであるが、これは原価計算を扱う領域の一部分に過ぎない。そこで本講義では、「工業簿記Ⅰ」で学習したことを前提に、原価計算の計算手続である製品別計算(総合原価計算)、さらに経営管理に関わる標準原価計算、CVP分析、直接原価計算などについて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

小テスト(20%)、定期試験(80%)により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

岡本清『原価計算(六訂版)』 国元書房

講義時使用テキスト

CPA会計学院編著『いちばんわかる 日商簿記2級 工業簿記の教科書』アガルート

資格との関連

日商簿記検定2級

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
本講義は、2年次配当科目である「工業簿記Ⅰ」の内容を基礎とし、その応用として位置づけている科目であることから、「工業簿記Ⅰ」を履修済み(単位取得・認定)であることが望ましい。
したがって、「工業簿記Ⅰ」を履修(単位取得・認定)していない学生は、基礎知識について自身で学習する必要があることに留意する。
また、問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	原価計算の基礎	2年次配当科目である「工業簿記Ⅰ」における配布資料とノートを読み直す。	配布資料を読み直す。
2	単純総合原価計算①(月末仕掛品の評価)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
3	単純総合原価計算②(平均法と先入先出法)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
4	単純総合原価計算③(材料の追加投入)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
5	単純総合原価計算④(減損の処理)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
6	単純総合原価計算⑤(仕損の処理)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
7	工程別総合原価計算	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
8	組別総合原価計算	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
9	等級別総合原価計算	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
10	標準原価計算①(概論)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
11	標準原価計算②(記帳)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
12	標準原価計算③(原価差異の計算と分析)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
13	直接原価計算①(意義、計算手続)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
14	直接原価計算②(固定費調整)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。
15	直接原価計算③(CVP分析、原価の固変分解)	前回の配布資料とテキストの当該箇所を読み直す。	配布資料を読み直すとともに例題・問題を解く。

講義名	2520115000 商業簿記（上級）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	幸田 威久矢		

学習目標(到達目標)

株式会社を取り巻く制度や会計基準が背景にあること理解し、テーマ毎の具体的な会計処理・記帳技術の習得を到達目標とする。

授業概要(教育目的)

本講義においては、リース会計や税効果会計、外貨建取引や連結会計などについて学び、「商業簿記(中級)」で習得した知識を基礎とし、株式会社におけるより高度な会計事象を理解し、当該取引を会計処理をできるようになること目的としている。また、会計処理の背後にある会計基準や制度についても理解を深め、続く会計理論科目への橋渡しとする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

定期試験(100%)

課題に対するフィードバック

定期試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

中央経済社編『新版　会計法規集』中央経済社

講義時使用テキスト

片山覚　監修『新中級商業簿記』創成社

資格との関連

日商簿記検定2級
日商簿記検定1級

学生へのメッセージ

【履修条件】
2年次配当科目である「商業簿記(中級)」を履修済み(単位取得・認定)、または同等の知識を有する者。

【履修上の注意】
毎回の講義において問題演習を行うため、必ず電卓(12桁以上)を持参すること。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	連結財務諸表	連結財務諸表の構成について調べる。	HPなどで開示されている企業の財務諸表の種類や財務諸表の構成を確認してみる。
2	リース取引①(意義と分類、ファイナンス・リース取引の処理)	テキスト第8章を読む。	テキスト第8章の例題を解く。
3	リース取引②(オペレーティング・リース取引の処理)	テキスト第8章を読む。	テキスト第8章の例題を解く。
4	税金①(法人税等)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
5	税金②(消費税)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
6	税効果会計①(目的、差異の種類と分類)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
7	税効果会計②(繰延税金資産と繰延税金負債)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
8	税効果会計③(その他有価証券の評価差額)	テキスト第10章を読む。	テキスト第10章の例題を解く。
9	外貨建取引①(外貨換算と換算方法、取引発生時の処理)	テキスト第15章を読む。	テキスト第15章の例題を解く。
10	外貨建取引②(決済時、決算時の処理)	テキスト第15章を読む。	テキスト第15章の例題を解く。
11	外貨建取引③(為替予約)	テキスト第15章を読む。	テキスト第15章の例題を解く。
12	連結会計①(資本連結:概論)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。
13	連結会計②(資本連結:作成手続)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。
14	連結会計③(成果連結:内部取引および債権債務の相殺消去)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。
15	連結会計④(成果連結:未実現利益の消去)	テキスト第14章を読む。	テキスト第14章の例題を解く。

講義名	2520116000 地方公会計論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	田中　哲		

学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 公会計とは何かについて定義し、それを説明できる。
2. 地方政府会計の概要について説明できる。

授業概要(教育目的)

地方公会計とは、地方政府の事業活動を期間を定めて、貨幣額で記録・計算し、非財務情報とともにその結果を報告することを通して、国民(住民)に対する説明責任を果たす営みである。この定義を基礎として、国の会計、地方自治体の会計、公営企業会計などについて説明する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

期末試験の成績で評価する。

課題に対するフィードバック

期末試験成績に疑義のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

講義中に配布した地方公会計論ノートで行う。

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	地方公会計とは何か/地方財政との関連性	シラバスを読む。	配布資料を読む。
2	地方財政とは何か(1)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
3	地方財政とは何か(2)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
4	地方自治体の会計(1)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
5	地方自治体の会計(2)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
6	公営企業の会計(1)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
7	公営企業の会計(2)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
8	地方公会計改革の動向	配布資料を読む。	配布資料を読む。
9	貸借対照表の読み方(1)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
10	貸借対照表の読み方(2)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
11	行政コスト計算書の読み方	配布資料を読む。	配布資料を読む。
12	純資産変動計算書の読み方	配布資料を読む。	配布資料を読む。
13	資金収支計算書の読み方	配布資料を読む。	配布資料を読む。
14	再び地方公会計とは何か(1)	配布資料を読む。	配布資料を読む。
15	再び地方公会計とは何か(2)	配布資料を読む。	配布資料を読む。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520117000 情報デザイン（旧 デザイン）						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

「デザイン」の意味を把握し、効果的なコミュニケーションや問題解決のために、情報を整理したり、目的や意図を持った情報を受け手に対して分かりやすく伝達したり、操作性を高めたりするための情報デザインの基礎知識を使って表現できる。

授業概要(教育目的)

商品やサービスを実際に開発して世界に問うという活動は、デザインにほかならない。そもそもデザインとは何かを理解し、何をデザインするか・どうデザインするかについて発見・解釈・構築・伝達する能力がビジネスの現場では求められる。
本講義では、わかりやすく伝える視点を基礎にデザインとは何か、情報デザインのプロセスと手法について明らかにしていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

全回講義にて随時実施するワーク課題と最終レポート課題を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

ワーク課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料（作品写真・映像・参考資料・図書等）については、必要に応じて適宜紹介する。

講義時使用テキスト

毎回WebClassに資料を提示する。

資格との関連

高等学校一種教員免許状(情報)

学生へのメッセージ

毎回の講義で、その回の講義内容に関するワーク課題を行い提出させますので、講義では主体的な取り組み姿勢が重要。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	アートとデザインの違い、情報デザインとは？	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
2	コミュニケーションデザインのヒント「ついやってしまう」体験のつくりかた	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
3	情報デザイン「抽象化」	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
4	デザイン思考のプロセス(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
5	情報デザイン「可視化・図解化」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
6	図解化(グループワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
7	情報デザイン「可視化・箇条書き」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
8	情報デザイン「可視化・表」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
9	情報デザイン「可視化・グラフ」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
10	情報デザイン「可視化・ロジックツリー」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
11	情報デザイン「可視化・写真」(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
12	デザインの4原則とレイアウト	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
13	情報デザイン「構造化」とコンセプトデザイン手法(ワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
14	コンセプトデザインとプロダクトデザイン(グループワーク)	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する
15	デザインとは何か	授業内容についてインターネットで調べる	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する

講義名	2520118000 マルチメディアⅠ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分		対象年次	2・3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. マルチメディアの基礎知識を習得し、メディア処理のためのデジタル処理技術を説明できる。
2. マルチメディアを活用しデザインされた表現力のあるコンテンツを作成できる。

授業概要(教育目的)

近年、我々を取り巻く環境はデジタル化され、さらにデザインされた情報で溢れている。情報のデジタル化が進み、コミュニケーション方法のみならず、あらゆる分野の仕組みが大きく変化してきている。この授業では、文字、音、画像、動画などの様々な情報のデジタル化について学び、デジタルコンテンツの表現・制作に必要とされる基礎的な知識と技術を身につけることを目的とする。多彩な表現をする技術としてコンピュータグラフィックス(2DCG)と動画編集の基礎を学び、コンテンツ制作を通じて2DCGとデジタル動画 によるデザイン表現方法を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題と実習課題の提出状況等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(計算問題)は採点の上返却する.
演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

参考文献

マルチメディアと情報化社会(ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化)第二版　CG-ARTS協会

講義時使用テキスト

特になし(授業用Webサイトにて随時公開する)

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

履修者がPC実習室のPC台数を超えた場合は、2クラス編成とする.

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	マルチメディアの 基礎	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
2	デジタル化した社会	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
3	マルチメディアの 特徴	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
4	デジタル表現方法①(2進数、10進数、16進数)	事前配布資料に読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 授業内容に関する課題(計算問題)を作成する
5	デジタル表現方法②(パッケージ系メディアとネットワーク系メディア)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 授業内容に関する課題(計算問題)を作成する
6	音のデジタル表現と画像のデジタル表現	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
7	人間の 視覚と聴覚(感性とメディア)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
8	図形・画像処理技術①(特殊効果)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
9	図形・画像処理技術②(レイヤー)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
10	図形・画像処理技術③(画像合成クロマキー 処理とオーバーレイ)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
11	図形・画像処理技術④(イラスト加工処理)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について論点を整理する
12	図形・画像処理技術⑤(アニメーション 設計)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
13	図形・画像処理技術⑥(アニメーション 処理)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
14	動画処理技術①(映像取り込みと編集)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する
15	動画処理技術②(映像による表現)	事前配布資料を読み、授業の内容を整理する	授業内容について 論点を整理する 演習課題を 作成する

講義名	2520119000 マルチメディアⅡ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	坂本　貴博		

学習目標(到達目標)

1. 3次元CGによるシミュレーションの処理手順を理解し、3次元空間での照明やカメラの設定、物体の形状や質感を定義する技法を活用できる。

授業概要(教育目的)

今日，コンピュータグラフィックス(3DCG)は，映画やゲームをはじめ多くの分野で活用されている．マルチメディアコンテンツにおいても，3DCGは画像や映像に利用される重要な技術である．この授業では3DCGソフト(Pov-Ray)を用いた3DCG演習を通じて座標変換，モデリング，レンダリング，アニメーションの基礎理論を体験的に学習し理解を深め，プログラミングによる手作業では難しい新たな造形・可視化の技法を身に付けることを目標としている．

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

評価方法

レポート課題と演習課題の提出状況等により総合的に評価する

課題に対するフィードバック

演習課題(レポート)は、課題完成度の確認結果をフィードバックする．成績を知りたい学生には個別に開示する．

参考文献

POV-Rayではじめるレイトレーシング：小室　日出樹(著)：株式会社アスキー
CG検定ガイドブック3級：佐野典秀(著)CG検定研究会(監修)CG－ARTS協会(協力)：ソフトバンクパブリッシング株式会社

講義時使用テキスト

使用しない。
授業用Webサイトにて随時紹介する。

資格との関連

高等学校教諭一種免許(情報)に関する科目

学生へのメッセージ

授業用Webサイトにて講義資料等を公開しているので、パソコン所有、インターネット接続環境であることが望ましい．
また、この科目の履修には「マルチメディアⅠ」科目の単位取得が望ましい．
履修者数がPC実習室のPC台数を超えた場合は、2クラス編成とする．

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	CGによるシミュレーションの概要	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
2	3次元画像とその生成過程	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
3	3次元空間の座標(左手系と右手系)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する
4	Pov-Rayの基本(モデリングとレンダリング)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
5	3次元空間におけるオブジェクトの作成、座標変換、拡大・縮小	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
6	3次元空間におけるオブジェクトの回転、各種光源について	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
7	物体の形状や質感におけるオブジェクトのマッピング、テクスチャの定義と設定	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
8	物体の形状や質感におけるテクスチャの色、光の反射、表面の凹凸	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
9	物体の形状や質感における各種テクスチャの設定	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
10	複雑形状(プリミティブとCSGの立体定義)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
11	CSG高度な立体形状(スイープ表現)	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
12	Pov-Rayアニメーション表現	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
13	変数clockの使い方	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する
14	3次元画像作品の取り纏め動画作成・編集	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する 第1回～第14回まで学習した3DCGの理論・作成技法についてレポートを作成する
15	3次元動画コンテンツ配信を行うWebページ制作	事前配布資料を読み、内容を整理する	事業内容の論点を整理する 演習課題を作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520120000	ソーシャル・アントレプレナーシップ					
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科			担当教員	川守田　景子		

学習目標(到達目標)

経営と結び付けることで事業を通じて社会、経済、環境の課題解決に取り組み、企業価値の向上につなげるCSVによるイノベーションを起こす企業の新規事業開発者や、ソーシャルビジネス／ソーシャルデザインを目指す社会起業家に必要な能力・スキルを習得する。

授業概要(教育目的)

本講義では、新たな経営モデルの潮流(CSV(共通価値の創造))、新たな経営モデルへのシフトに向けた戦略(サーキュラー・エコノミー)などについて、クライアントやゲストスピーカー(社会起業家、SDGs専門家、企業の経営企画担当など)の実践に学ぶ。環境、教育、文化、経済、倫理、人権、人口、医療、市民、資源、安全、食料などの社会課題に対して、ビジネスの手法を通して課題解決を目指すソーシャルビジネスや、社会課題の解決と経済利益の追求の両立を目指すCSV(共通価値の創造)を実践するための社会起業や社会変革の進め方について実践的に学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、持続可能な地域を共に創るために必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業中のアクティブラーニング(ディスカッション、体験・実演、他者に教える活動等)への取組状況、小テストの結果、発表内容、レポートの提出状況および内容を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業内で適宜フィードバックを行う。

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

本講義では、社会や地域が直面するさまざまな課題に目を向け、その解決に向けて主体的に考え、行動する姿勢を重視する。正解を覚えるのではなく、自ら問いを立て、他者と協働しながら新たな価値を創造する力を養うことを目指す。

実務との関連

社会課題の解決に関心のあるすべての受講者を歓迎する。専門分野やこれまでの経験は問わない。現状に疑問を持ち、より良い社会を実現したいという意欲を持つ者の積極的な参加を期待する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. イントロダクション	授業内容についてインターネットで調べる	配付資料を読み直す
2	2. ユヌス・ソーシャル・ビジネスの特徴・価値を理解する 社会課題の背景や社会的なニーズを学ぶ	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
3	3. ユヌス・ソーシャル・ビジネスにおける原体験の重要性を理解する ソーシャルビジネスのケースよりグラミンモデルの理解を深める	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
4	4. 社会課題に対する解決アプローチを学びYSBの理解を深める 自身が解決したい社会課題をニーズベースで解決する案を考える	配付資料の該当箇所を読む 授業内容についてインターネットで調べる	配付資料を読み直す
5	5. ビジネスを起こす条件を理解する	配付資料の該当箇所を読む 授業内容についてインターネットで調べる	配付資料を読み直す
6	6. ビジネスモデルをブラッシュアップする	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
7	7. 仮説検証の必要性を理解する	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
8	8. 長期的な視点で利益創出を計画する	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
9	9. ユヌス・ソーシャル・ビジネスモデルをつくる面白さと難しさを体感する ビジネスプランについて次の実践ステップにつなげるフィードバックを得る	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
10	10. ソーシャルアントプレナーとの交流(ONLINE)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
11	11. ソーシャルアントプレナーとの交流(ONLINE)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
12	12. ソーシャルアントプレナーとの交流(ONLINE)	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
13	13. ピッチ(ミグループ発表)1: このビジネスは、資金を調達できるのか？みんなで評価しよう	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
14	14　ピッチ(グループ発表)2: このビジネスは、資金を調達できるのか？みんなで評価しよう 発表フィードバックを元に再提案:	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す
15	15. 全体講評と講義のふりかえり:	配付資料の該当箇所を読む	配付資料を読み直す

講義名	2520121000 観光地域振興論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

観光と地域振興(地域づくり・地域おこし)の関連性を理解し、今後の観光による地域活性化について自分なりの意見を述べられるようになる。

授業概要(教育目的)

いま日本の観光にはチャンスが訪れているが、それを活かして地域活性化につなげられるかどうかは、地域の受け入れ態勢次第であり、観光の専門人材が求められている。
本講義では、観光を学んだ人が地域経済の発展や観光地域づくりにつなげていくために、まずは事例からその関連性を学ぶ。そして観光地域振興の仕組みや理論を体系的に理解し、今後の持続可能な観光地域振興について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、持続可能な地域を共に創るために必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

①筆記試験60%:学期末の定期試験期間に実施(持ち込み不可)
②リアクションペーパー40%:毎回配布し授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーについては、次回の授業でポイントを復習する。
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

一般社団法人浅虫温泉観光協会理事、浅虫まちづくり協議会理事として、青森市浅虫地区の観光に関わっている経験について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	観光学の復習と授業の流れ ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
2	観光地域振興事例:熱海①「日本を代表する温泉リゾート」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
3	観光地域振興事例:熱海②「衰退からのV字回復」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
4	観光地域振興事例:釜石①「東日本大震災と復興」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
5	観光地域振興事例:釜石②「持続可能な観光に向けて」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
6	観光地域振興事例:浅虫①「東北の熱海と呼ばれた時代」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
7	観光地域振興事例:浅虫②「どん底からの 再生へ」 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
8	地域振興と観光ブランド ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
9	観光ブランドとマーケティング ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
10	観光ブランドによる地域の差別化 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
11	観光地域振興の 課題 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
12	地域観光ブランドを 考える ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
13	観光ブランドと地域振興の 成果をどう評価するか ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
14	持続可能な観光地域づくりに 向けて ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
15	観光地域振興についてグループディスカッション ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520122000 観光学実務						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

国内・海外の観光に関わる実際の業務(実務)を理解し、地域資源や市場動向を把握したうえで自ら観光プランが企画できるようになる。

授業概要(教育目的)

この授業では、観光学を学んだ人が地域の観光を導いていくために、まずは国内と海外での実際の業務をデータや事例を通じて学ぶ。そして、地域資源を有効活用し、ターゲットや市場動向に適応した観光コンテンツを開発し、効果的に集客できるような手法を身につける。そのうえで、グループに分かれて実際に観光プランを検討し、お互いに発表して意見交換することで実務への理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、持続可能な地域を共に創るために必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

①期末最終レポート60%:最終回の観光プラン発表とその後の振り返りを加筆したもの
②リアクションペーパー40%:毎回配布し授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

課題に対するフィードバック

・授業中に取り組むワークについては、毎回提出し、次回の授業で返却する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

資格との関連

「観光プランナー」の資格取得に役立つ講義となっている。なお、資格取得を目指す場合は、別途申込と受講料が必要となる。詳細は講義中に説明する。

学生へのメッセージ

この授業ではフィールドワークがあり、変則的な時間設定や、場合によっては土日での活動になる可能性がある。
フィールドワークに参加できない学生は、単位取得が難しくなるため、履修を認めないことがある。

実務との関連

一般社団法人浅虫温泉観光協会理事、浅虫まちづくり協議会理事として、青森市浅虫地区の観光に関わっている経験について話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	観光学・観光地域振興論の復習と授業の流れ ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
2	八戸圏域の観光について ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
3	八戸市観光振興プラン ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 記入提出	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
4	観光プラン検討に向けた事前調査 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
5	観光プラン素案検討 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
6	フィールドワーク計画立案 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
7	フィールドワーク1 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
8	フィールドワーク2 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
9	フィールドワーク3 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
10	フィールドワーク4 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
11	フィールドワーク5 ・ワークシート記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
12	フィールドワーク振り返りと整理 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
13	グループワーク:観光プランの作成 ・発表資料提出	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
14	グループワーク:観光プランの発表	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
15	発表の振り返りと講評 ・リアクションペーパー 記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520123000 イベントプランニング						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

授業を通じて地域活性化の企画イベントについて理解できる。
この授業で得られた知見について、自分たちの地域の課題の抽出、それに応じた地域活性化の企画やイベント開催に結び付けることができる。

授業概要(教育目的)

近年、「地域活性化」・「地方創生」などという言葉を聞くことが多い。その多くは、地域住民が主体となって実施されているものが多い。特に、少子高齢化や人口減少が著しい青森県においては、持続可能なまちづくりなど、地域活性化が一層求められる。
そこで本講義においては、学外の他の機関などとも連携しつつ、地域活性化について以下の内容を中心に実施する。
①地域活性化の現状と先進事例について調査。
②地域活性化を目的とした企画やイベントの参加。
③地域活性化を行う上でのポイントについて整理。
これらについて、知識や考え方を習得することが本講義の目的である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業中に課すワークシートやレポートの内容、グループワークや活動発表の内容、最終レポートの内容を総合的に判断する。

課題に対するフィードバック

ワークシートやレポートなどの課題については、採点の上、各自返却する。

参考文献

枝廣淳子『地元経済を創りなおす－分析・診断・対策』, 岩波新書.
NPO法人自治経営『公民連携事業ケーススタディブック』
それ以外については、必要に応じて適宜示す。

講義時使用テキスト

使用せず。

資格との関連

学生へのメッセージ

・学外での授業(現地集合、現地解散)があるため、移動手段を確保していることが望ましい(自家用車、公共交通機関での移動)
・グループワークが中心となるため、コミュニケーション能力が求められる。人の話を聞く、自分の意見を発現することを重視している。
・外部の方と活動することがあるため、基本的な礼儀(服装や身だしなみ)やマナー(挨拶や話し方)を身につけておくこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス:授業計画の説明	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
2	オリエンテーション:地域活性化とは何か	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
3	地域活性化の先進事例の調査	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
4	グループワーク:地域の課題と解決方法	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
5	フィールドワーク:現場調査	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
6	フィールドワーク:現場ヒアリング	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
7	グループワーク:現場ヒアリングの振り返り	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
8	グループワーク:地域活性化の企画提案	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
9	グループワーク:イベントプランニング	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
10	フィールドワーク:地域企業ヒアリング	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
11	フィールドワークの振り返り	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
12	グループワーク:地域活性化イベントに向けて	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
13	フィールドワーク:地域活性化イベントの実施	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
14	フィールドワーク:地域活性化イベントへの参加	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。
15	地域活性化イベント参加の振り返りとまとめ	配布資料等を予めダウンロードし、読んでおく。	授業の内容について、ノートや資料を見直し、内容を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520124000 防災まちづくり						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	井上　丹		

学習目標(到達目標)

安心安全なまちづくりに向けて、基本的な対策とレジリエンスを考慮した対策の提案ができるようになる。

授業概要(教育目的)

本講義では、安心安全なまちづくりに向けて、防災意識を高めるだけでなく、自助・共助・協働による活動を推進できるよう、授業中では学生同士による積極的なグループディスカッションを行う。そして、グループで導き出した意見や提案をお互いに発表し、相互理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、持続可能な地域を共に創るために必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

①最終レポート60%：学期末に提出
②ワークシートおよびプレゼン資料40%：毎回授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーについては、次回の授業でポイントを復習する
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

参考文献

2024年度版『防災士教本』認定特定非営利活動法人日本防災士機構

講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	防災を学ぶ意義 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
2	災害発生のしくみ（地震・津波・気象災害など） ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
3	近年の主な自然災害（ゲストティーチャー） ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
4	被害想定・ハザードマップ ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
5	災害関連情報と予報・警報 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
6	行政の災害対策と危機管理 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
7	復旧・復興と被災者支援 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
8	災害医療とこころのケア ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
9	企業・団体の事業継続 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
10	災害への備え ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
11	自主防災活動と地区防災計画 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
12	地域防災と多様性への配慮 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
13	災害ボランティア活動 ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
14	安心安全なまちづくり・レジリエンス ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。
15	防災士について ・レジュメ配布 ・リアクションペーパー 配布記入提出 ・グループワークあり	テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。	授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520125000 スポーツまちづくり						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

地域の多様な課題を解決するツールの一つとしてスポーツが持つ魅力を認識し、スポーツの持つ力をもとに周囲の人と共創し、地域・街を振興する力を育てる。

授業概要(教育目的)

スポーツの持つ力(楽しさ、感動、共感など)を整理し、認識したうえで、スポーツの持つ力が地域が抱える様々な課題(少子高齢化、健康増進、活性化)にどのように対応できるかを考え、地域共創、まちつくりの具体案を提案できるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、持続可能な地域を共に創るために必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

レポート、授業中の取り組み・発言等によって総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。

参考文献

①「スポーツまちづくりの教科書」 慶應義塾大学出版会 (青弓社)
②「スポーツで地域をつくる」 東京大学出版会
③「スポーツビジネスイノベーション」 間野義之 (日経BP)
④「都市緑地・農地・公園の活用」 都市緑地法制研究会編 (ぎょうせい)

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

教科書・参考文献などにしっかり目をとおし、道徳的実践力を培うための指導について理解できる事前事後の取組みを行うこと。また必要に応じて、関連項目などをインターネットで調べ授業に臨むこと。

実務との関連

八戸市スポーツによる人・健康・まちづくり推進競技委員会委員、八戸市地域スポーツ・文化活動検討協議会委員の実務を踏まえる。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	スポーツと人 スポーツの 成り立ち	・授業内容の該当箇所の論点やポイントをインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する
2	人と街 街の 成り立ち	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点やポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
3	スポーツと人と街	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点やポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
4	スポーツイベントと街(国内・国外)	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
5	部活動の地域移行	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
6	スポーツによる街つくり例1 国内	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
7	スポーツによる街つくり例2 海外1	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点 ・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
8	スポーツによる街つくり例3 海外2	・前回の授業内容のを読み直す ・授業内容の該当箇所の論点 ・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
9	国民スポーツ大会 国民スポーツ大会青森大会	・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点 ・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
10	スポーツによる街つくり人つくり例1	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
11	スポーツによる街つくり人つくり例2 ゲストテーチャー	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点やポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する
12	スポーツによる国際交流1	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点やポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
13	スポーツによる国際交流2	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点 ・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
14	スポーツ産業(国内・国外)	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点 ・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する
15	スポーツ・インテグリティ	・前回の授業内容を読み直す ・授業内容の該当箇所の論点やポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・講義内容全体を把握する

講義名	2520126000 農山村まちづくり						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	加来　聡伸		

学習目標(到達目標)

・持続可能な地域づくりを目指す「木の駅プロジェクト」を理解する。
・地域通貨の意義と課題について理解する。
・森林がもつ多面的機能の役割を理解する。

授業概要(教育目的)

本講義の目的は、「木の駅」プロジェクトと呼ばれる森林整備と地域活性化を目指す全国運動を理解し、青森県新郷村の取り組みをケーススタディとして、その課題を考えることにある。
「木の駅」とは、2005年に高知県の森・救援隊とNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）のバイオマスプラント実験事業として始まった取り組みをきっかけとしている。この事業で誕生した取り組みを誰でもマニュアルを見れば参加できるように標準化したものが「木の駅」と呼ばれる取り組みとなり、2019年末時点で全国74箇所に普及している。
この「木の駅」の方式は、自伐型林業を核とした収集方法の導入を提唱し、林地残材や間伐を集め、その対価として相場より高い価格となる地域通貨が支払われている。林家らにとっては、気軽に山から木を出してお小遣いにでき、森林の整備を促進することができる。また地域にとっては、この対価を利用することで地域内循環が起こり地元商店街等の地域活性化を図る狙いがある。
長らく低迷を続ける日本林業は、山村の高齢化や過疎の進行によって森林の荒廃が問題視されている。この「木の駅」では、「C材で晩酌を！」を合言葉に、“素人山主”の自伐を促している。このような関心を持つ者が増えることで、森林・林業の整備が促され、ひいては山村の地域活性化が期待されているのである。
しかしながら、「木の駅」の取り組みには、課題も多い。本講義では、その課題に触れながら、青森県新郷村のケースから実際に作業体験を通じ、同地域の課題を考えることで、地域活性化について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業参加貢献度やレポートによって評価を行う。

課題に対するフィードバック

グループワークは村民の方を交えて行い、それぞれ講評をもらう。

参考文献

泉　留維・中里裕美「木の駅センサスから見えてきた日本地域通貨の新潮流」『専修経済学論集』vol55, No.3, 153-165, 2021年
　興梠　克久・股　静冬「木の駅プロジェクトの現状と課題―地域通貨の視点から―」『木材情報』日本木材総合情報センター, pp.19-22, 2020年8月
丹羽健司「「素人」たちが変える森と村―目覚める小規模零細山主たち―」『農業と経済』昭和堂,2016年12月

講義時使用テキスト

適宜配布する

資格との関連

学生へのメッセージ

【注意点】
　本講義は本学で座学を5コマ行い、5コマをフィールドワーク、5コマをグループワークとする。
　フィールドワークは青森県新郷村にて軽微な林務を体験を予定とする。受講生を15名程度とし、予定人数を大幅に超えた場合は、GPA基準の高得点順から選択する。また、本講義の作業体験は、地域の方々の手伝いによって成り立っていることから、お手伝いの方々の負担を考え、最小人数3名から本授業を開講する。
【作業の格好について】
　各自、長靴を持参してもらう。また、作業着は汚れても良い恰好を用意すること。山に入るので、蜂などの虫に刺されないよう黒服は避け、長そでを必ず着用すること。雨天の場合、別途連絡をする。

実務との関連

新郷村の協力者の方々は、林務作業を行っている方々である。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	本講義の概要ー目的と内容ー	地域通貨に関する資料等を見ておく	配布した資料を要約する
2	森林の多面的機能	森林の多面的機能に関する資料等を見ておく	配布した資料を要約する
3	木の駅プロジェクトの取り組みと地域通貨	参考資料等における木の駅プロジェクトの取り組みを調べる	配布した資料を要約する
4	地域通貨の現状と課題	参考資料等を事前に読む	講義のポイントを要約する
5	新郷村の概要と木の駅プロジェクトの取り組み	新郷村について調べる	講義のポイントをまとめる
6	作業確認および枝打ち体験	事前に配布した作業マニュアルに目を通す	レポートにまとめる
7	保育間伐	事前に配布した作業マニュアルに目を通す	レポートにまとめる
8	きのこの自然栽培	きのこ栽培についてインターネット等で調べる	レポートにまとめる
9	伐採木の搬出	ロープウィンチ作業についてインターネット等で調べる	レポートにまとめる
10	木の駅プロジェクトの説明と検知作業	事前の座学において学んだことをまとめ、質問等を考えておく	レポートにまとめる
11	木の駅プロジェクトの課題等について話し合うグループワーク①ブレーンストーミングによる課題の可視化	KJ法を調べる	レポートにまとめる
12	木の駅プロジェクトの課題等について話し合うグループワーク②課題解決に向けたアイデアの選定	KJ法を調べる	レポートにまとめる
13	木の駅プロジェクトの課題等について話し合うグループワーク③発表資料をまとめる	KJ法を調べる	レポートにまとめる
14	木の駅プロジェクトの課題等について話し合うグループワーク④発表	KJ法を調べる	レポートにまとめる
15	木の駅プロジェクトの課題等について話し合うグループワーク⑤村民からの講評	KJ法を調べる	レポートにまとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	2520127000 観光まちづくり						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分		対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	楊　麗栄		

学習目標(到達目標)

① グループワークに参加して、自分の意見を人に話せる
② 他人を理解しようと他人の話を聴き質問できる
③ 自分の考えを相手に理解してもらうために、相手のことを考え、伝え方を工夫する
④ 新たなことに興味関心を持ち、自分なりに調べる
⑤ 現場で事実を見たり聞いたりして、当事者として考える
⑥ 地域の課題について、自分の言葉で解決案を提案できる
⑦ 経験したことを振り返り、自分の将来について考える

授業概要(教育目的)

地域社会における他者との協働や課題解決の提案を実践的に学ぶために、グループワークやフィールドワークを中心とした演習形式の授業とする。社会で求められるコミュニケーション能力や考える力、まとめて発表する力を、現場体験を通して身につけることが目的である。
大学で用意するプログラムよりも、地域社会で実際に起きている課題やニーズに対応するプログラムを、地域の関係者と協議しながら構築する。具体的には、「A.地域特産品づくり」、「B.観光企画づくり」、「C.観光地域づくり」の3パターンを想定し、履修者の特性に合わせて1つを選び体験内容を決める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

評価方法

授業中のワークシートの内容(30%)
受入先への発表内容と発表態度(40%)
最終課題レポートの内容(30%)

課題に対するフィードバック

レポート等の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

特に使用しない。

資格との関連

学生へのメッセージ

この講義を履修する上で、地域共創論、観光学入門、観光地域振興論、観光学実務、イベントプランニングを履修していることが望ましい。
また、フィールドワークを実施するため人数制限を設けており、履修希望者が多数いた場合は履修状況や成績によって選抜することがある。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 事前ワークシートと自己紹介シートの記入。授業内容や目的を説明し、お互いについて知るためのワークを実施し、4,5人のチームを形成。	授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	2. チーム内で作成したシートをもとに深い自己紹介ワーク。チームでの役割を決め、チームとしての目標を設定。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
3	3. コミュニケーションや対話について基本的な知識を説明。チームで質問し合うワークを通して、具体的な言葉の重要性を認識。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
4	4. フィールドワークを実施する前に必要な知識や考え方を講義。講義中にグループワークを行い、チームの視点を合わせる。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
5	5. 訪問先となる地域について情報収集しチーム内で共有する。フィールドワーク受入先の状況と最終課題について説明。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
6	6. フィールドワーク: 訪問先見学。観察と洞察について説明し、発見したことを写真撮影しワークシートに記入。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
7	7. フィールドワーク: 現場体験。実際に仕事の一部を体験したり、顧客向けのサービスを体験したりする。感じたことをワークシートに記入。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
8	8. 振り返りと仮説設定。歴史を聞き現状を体験し、学んだことや感じたことをワークシートにまとめる。また今後の改善点や提案を、仮説として考える。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
9	9. 前回で考えた仮説を、受入先へ提出するレポートに整理。聞き手のことを考える視点や予測される反応をイメージしながら作成。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
10	10. フィールドワーク: 仮説検証。チームごとに発表し、受入先からフィードバックをもらい、地域課題や地域ニーズについて意見交換。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
11	11. フィールドワーク: 課題設定。これまでの学びを活かし、再度現場見学や仕事・サービスを体験し、対応すべき課題やニーズを特定する。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
12	12. 何ができたかできなかったか、何が必要かを振り返り、ワークシートにまとめる。その後、解決に向けた提案の作りこみを行う。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
13	13. フィールドワーク: 受入先への最終発表に向けた準備。発表はパワーポイントを使用。必要であれば再度現場へ行き素材を集めることも可能。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
14	14. フィールドワーク: 受入先への提案を発表。チームごとに発表し、受入先の担当者から評価をいただく。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す
15	15. 発表を通して学んだことをワークシートに記入。今後の学生生活や将来社会人となったときに実現したいことをまとめる。	前回の内容を整理し、論点を整理する	配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000002000 教育原理						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	鈴木　康弘		

学習目標(到達目標)

1. 西洋と日本の教育の思想と歴史を中心とする教職教養の基礎的知識を理解し、身につけることができる。
2. 現代の教育課題について、家族と学校のあり方がどのように変化してきたかを踏まえて、多角的な視点から理解することができる。

授業概要(教育目的)

この授業では、教育を考えるための基本的な知識を学ぶために、教育の思想と歴史に関するトピック・テーマについての講義を行う。授業の前半では、西洋と日本の教育の思想と歴史に関する通史を扱い、後半では、教育の思想と歴史が、現在の学校や家庭のあり方、教育問題に対して、どのような影響を与えているのかについて、受講者とのディスカッションを通して、多角的な捉え方から理解を深めていきたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

成績評価は、定期試験の結果を8割、小テストや授業課題、受講態度（遅刻や早退、毎回の授業後のリアクションペーパーの提出状況を含む）を2割として行います。

課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は、教務学生課の窓口から「成績疑問申請」を受け取り、記載のうえ、提出してください。

参考文献

参考資料やブックガイド等は、授業中に配布します。

講義時使用テキスト

木村元・汐見稔幸編『教育原理（アクティベート教育学 1)』(ミネルヴァ書房、2020年)

資格との関連

教職に関する科目(教育の基礎理論)

学生へのメッセージ

【授業課題について】授業コメントやアンケート、クイズの結果を共有するため、Google Formsを活用します。八戸学院アカウントを使用できるように、スマートフォンやタブレット等を準備してください。

【遅刻について】授業開始後20分以内に入室した学生は、【遅刻】とし、それ以降の入室は、【欠席】とします。また、事前に連絡がない提出物の遅れは、大幅な減点をします。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教育をどのように捉えるか	シラバスで授業内容を確認されたうえで、出席してください。	授業内容とスケジュールの再確認を行う。
2	子ども・家庭・社会	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
3	公教育の組織化	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
4	西洋教育思想の源流	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
5	宗教と教育	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
6	近代教育の思想	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
7	新教育の思想	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
8	近代学校の誕生と展開	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
9	日本における近代以前の人間形成	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
10	日本型の学校の形成	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
11	戦後の学校　その展開と課題	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
12	西洋における教育の実践	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
13	日本における教育の実践	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
14	資質・能力と学力	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。
15	情報化社会の公教育	配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。	授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。

講義名	5000003000 教育心理学						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	野口　和也		

学習目標(到達目標)

次の5点を到達目標とする。
1. 発達の特性と発達段階について説明することができる。
2. 学習の仕組みについて説明することができる。
3. 学習意欲を喚起するにはどうしたらよいかを論じることができる。
4. 教師と生徒の関係についての社会心理学的概念を説明することができる。
5. 教育評価はなぜ、どのようにして行うかを述べることができる。

授業概要(教育目的)

この科目は、教育職員免許法に定められている「幼児、児童および生徒の心身の発達及び学習の過程」を学習するものである。発達、学習、パーソナリティを中心に、教育に関する基礎的な知識を学び、併せて障害のある児童・生徒の発達についても学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

小テスト、レポート、授業の参加態度等により各担当者が評価を行い、それらを総合して科目の評価とする。

課題に対するフィードバック

毎回の授業の終わりに、出席確認と授業内容の確認の意味で、小テストを実施する。
課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

講義時使用テキスト

秋田喜代美・藤江康彦(監修)黒田祐二(編著)『実践につながる教育心理学』

資格との関連

教員免許状取得のための必修科目であり、今まで学んできた一般心理学を基礎とし、学校教育の現場と結びつくように、より具体的な事象を取りあげる。心理学という視点からも考えて、子どもたちにアプローチできるようにする。

学生へのメッセージ

受講者には教職をめざすという夢や希望、意欲をもって参加し、日ごろから「学ぶこと」や「教えること」などについて考え、自己研鑽に努めることを期待する。
なお、この授業は2人の教員のオムニバスであり、各教員の担当は計画の通りだが、順番は必ずしも呈示した通りに進まない。変更がある場合は授業中に説明するので留意してほしい。

実務との関連

心理・発達支援の研究とともに、臨床心理士・公認心理師として、教育場面へのコンサルテーションを実施し、児童生徒の最適な環境づくりに取り組んでいる。その実践経験をふまえて、教育心理学の知見を提供していく。(野口)
臨床心理士・公認心理師として，行政の精神科デイケアでの勤務歴がある。発達障害の方や不登校などの学校不適応経験がある方との関わり等の実務経験をふまえ，教育場面で活用できる知見を提供していく。(今川)

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教育心理学の目的と体系 －理論と実践の往還を目指して－	シラバスを事前に読み、参考図書に目を通す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
2	教育心理学の研究法 －実験と面接を中心に－	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
3	子どもの発達と学習の過程①発達の特性	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
4	子どもの発達と学習の過程②発達理論と発達段階	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
5	子どもの発達と学習の過程③行動の分析	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
6	子どもの発達と学習の過程④行動の変容	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
7	学級集団:集団の特性、教師と子どもの関係、仲間関係	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
8	学習指導①学習行動・学習原理	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
9	学習指導②動機づけ・学習指導の方法	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
10	生徒指導:生徒指導の意義、生徒の理解、問題行動の指導	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
11	特別活動(特別活動の意義、特別活動の指導、問題行動の指導	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
12	自己とパーソナリティ	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
13	学校不適応(不登校、いじめ、自殺など子どもの不適応へのかかわり方) SOSの出し方など、心理教育の例を紹介する。	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
14	学習指導と教育評価①学習指導の方法、個に応じた指導	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する
15	学習指導と教育評価②教育評価の種類、個人差の理解と指導	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す 課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000004000 教育行政						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	4
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	種市　朋哉		

学習目標(到達目標)

1. 中央と地方の教育行政について説明できる。
2. 教育に行政がどのように関わっているかについて説明できる。
3. 様々な教育課題について、行政の視点も加味しながら意見を持つことができる。

授業概要(教育目的)

教育行政は、将来、教職をめざす学生に、教育学の基礎的教養を提供するとともに、「教育に関する社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目」内容を詳細に指導する科目である。したがって、既習の教職科目を基礎に、近代公教育制度の歴史と構造、日本国憲法や教育基本法の関連を学習し、民主化行政の仕組み、学校・学級の経営、教育課程、社会変動と教育、教師の特質と資質、社会教育と生涯学習等々で分野は広範にわたる。
講義では、教員の行政経験を踏まえつつ時事的な教育情報も活用しながら学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

毎時間提出してもらうレポート(出欠確認を含む)を中心に意欲・態度等をもとに総合的に評価にする。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

勝野正章・藤本典裕(編)「教育行政学」学文社
青木栄一(編著)「教育制度を支える教育行政」ミネルヴァ書房

講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、パワーポイントを活用しつつ資料等も適宜配布する。

資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

新聞、ニュース等を通じて、教育の現状や諸問題について理解を深めておくこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教育行政と学校制度	授業内容についてインターネットで調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
2	教育行政の組織(文科省・教育委員会、事務局)	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
3	教員の身分、服務、研修	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
4	教員の長時間労働、部活動の地域移行	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
5	教員採用と教員不足	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
6	特別支援教育	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
7	発達障害	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
8	学校安全と危機管理	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
9	いじめ問題	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
10	学校の統廃合	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
11	教育格差	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
12	地域との連携　1	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
13	地域との連携　2	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
14	新指導要領における学習評価	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
15	教員評価(人事評価)と令和の日本型教育	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す

講義名	5000005000 教育課程論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

学校の教育的諸活動の総合的な計画である「教育課程」について、その意義及び編成の方法等を説明できる。

授業概要(教育目的)

我が国の教育界は転換期に直面していると言われ、様々な「教育改革プログラム」が策定されている。その中でもとりわけ注目されているのが、「これまでの学校教育の基調を転換する」ことを目指した教育課程の改革である。教職を目指す学生は、教育課程に関する基本的用語・知識、教育課程編成の歴史的変遷、そして新しい教育課程の開発等の理解を深めることが不可欠である。教育課程編成に関わる基本的知識の理解を深めながら、考え方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題について毎時間、寸評する。

参考文献

『小学校学習指導要領』　文部科学省
『中学校学習指導要領』　文部科学省
『高等学校学習指導要領』　文部科学省
『教育課程(カリキュラム入門)』　柴田義松　編　有斐閣
『教育課程論』　田中智志也　監修　一藝社

講義時使用テキスト

講義概要のプリントを毎時配付する。

資格との関連

【教職課程】の必修科目である。

学生へのメッセージ

【授業外活動状況】
講義内容に連続性があるので、前時の学修内容を復習して講義に臨むこと。

実務との関連

公立高等学校教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教育課程の意義と目的	・シラバスを読む	・授業内容を振り返る
2	教育課程の歴史的変遷①(戦後～教育の現代化)	・教育課程の歴史的変遷について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
3	教育課程の歴史的変遷②(「ゆとり」教育～PISA型学力)	「ゆとり」教育について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
4	教育課程に関する法制度	・教育課程に関する法について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
5	諸外国の教育課程の現状①(アメリカ、イギリス、韓国)	・諸外国の教育課程について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
6	学習指導要領(中学校・高等学校)	・学習指導要領について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
7	学校経営・学級経営	・学級経営について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
8	生徒指導と教育課程	・生徒指導について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
9	教育評価	・教育評価について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
10	諸外国の教育課程の現状①(フィンランド、カナダ)	・諸外国の教育課程について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
11	道徳と総合的な学習の時間	・道徳について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
12	学校間連携と接続	・学校間連携について、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
13	カリキュラム・マネジメント	・カリキュラム・マネジメントについて、インターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
14	メディア・リテラシー	・メディア・リテラシーについインターネット等で調べる	・授業内容を振り返る
15	教育課程の諸問題(チーム学校への対応を含む)	・授業内容について振り返る	・教育課程について振り返る

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000006000 商業科教育法Ａ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

教員免許(商業)に必要な基礎的な知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領の教科(商業)の指導内容について説明でき、ICTを活用した授業ができる。

授業概要(教育目的)

商業教育は急激な経済社会の変化に即応しながら、教育内容と教育方法を改善し、人材の育成に努めてきている。これから高等学校商業教育に携わる者は、商業教育の「不易」な理念を思い起こし、社会の変化という「流行」にもしっかりと対応しなければならない。
　教科の基準となる高等学校学習指導要領の「総則」並びに教科「商業」を中心に、時代に相応した指導内容と指導方法について学ぶ。学習指導案作成及び模擬授業においてICTを活用する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度、課題提出、課題発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

各自の学習指導案を、学生間でグループ討議する。
模擬授業を行い、学生間でグループ討議する

参考文献

「高等学校学習指導要領解説」商業編　文部科学省
「商業科教育論」日本商業教育学会　編　実教出版
「ビジネス基礎」青島矢一ほか　著　実教出版
「マーケティング」武井寿ほか　著　実教出版
「ビジネス・マネジメント」軽部大ほか　著　実教出版
「情報処理」並木通男ほか　著　実教出版

講義時使用テキスト

「新簿記」 安藤英義ほか　著　実教出版

資格との関連

教職課程(高等学校:商業科)の必修科目である

学生へのメッセージ

簿記・情報処理に関する基礎・基本の修得に取り組むこと。
各自、ノートパソコンを準備すること。

実務との関連

公立高等学校商業科教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに商業科教育について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	商業教育の意義と目的	【教職課程履修の手引き】を読む ・インターネットで調べる	・配付資料を読み直す
2	商業教育の歴史と変遷	・配付資料を読む ・インターネットで調べる	・配布資料を読み直す
3	商業教育の目標と内容	・配布資料を読む ・インターネットで調べる	・学習内容を整理し、概要を把握する
4	「ビジネス基礎」の教材研究	・配布資料を読み、学習内容を把握する ・インターネットで調べる	・学習内容を整理し、概要を把握する
5	「ビジネス基礎」の学習指導案作成(ICTの活用)	・学習指導案(ICTを活用)を作成する ・インターネットで調べる	・学習指導案を見直し、模擬授業の準備をする。
6	「ビジネス基礎」の模擬授業	・「ビジネス基礎」の模擬授業を行う	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
7	「マーケティング」の教材研究	・配布資料を読み、学習内容を把握する、 ・インターネットで調べる。	・学習内容を整理し、概要を把握する
8	「マーケティング」の学習指導案作成(ICTの活用)	・学習指導案(ICTを活用)を作成する インターネットで調べる	・学習指導案を見直し、模擬授業の準備をする。
9	「マーケティング」の模擬授業	・「マーケティング」の模擬授業を行う	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
10	「ビジネス・マネジメント」の教材研究と学習指導案作成(ICTの活用)	・学習内容を把握しながら、インターネットで調べる。 ・学習指導案(ICTを活用)を作成する	・学習指導案を見直し、模擬授業の準備をする。
11	「ビジネス・マネジメント」の模擬授業	・「ビジネス・マネジメント」の模擬授業を行う	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
12	「情報処理」の教材研究と学習指導案作成(ICTの活用)	・学習内容を把握しながら、インターネットで調べる。 ・学習指導案(ICTの活用)を作成する	・学習内容を整理し、模擬授業の準備をする。
13	「情報処理」の模擬授業	・「情報処理」の模擬授業を行う	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
14	「課題研究」の教材研究	・学習内容のねらいを把握しながら、インターネットで調べる。	・課題研究のねらいを整理する。
15	商業科教育の学習内容を振り返る	・商業科の学習内容を振り返る	・これまでの授業内容を振り返る。

講義名	5000007000 商業科教育法B						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

教員免許(商業)に必要な専門的知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領の教科(商業)の指導ができ、ICTを活用した授業ができる。

授業概要(教育目的)

高等学校商業教育に携わる者は、経済社会の急激な変化に対応していく商業教育に関する知識・技術を習得していく必要がある。
「商業科教育法A」を基礎として、教科「商業」に関する指導内容と指導方法(指導の展開を含める)について、模擬授業を積極的に取り入れ、ICTを活用しながら指導法について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度、課題提出、課題発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

各自の学習指導案を、学生間でグループ討議する。
模擬授業を行い、学生間でグループ討議する。

参考文献

「情報処理」 並木通男ほか 著　　実教出版

講義時使用テキスト

「新簿記」 安藤英義ほか 著　　実教出版

資格との関連

教職課程(高等学校:商業科)の必修科目である。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】 「商業科教育法A」を履修・修得していること。
【授業外活動状況】「簿記」「情報処理」の内容を指導できるように学修すること。
毎時間、ノートパソコンを持参すること。

実務との関連

公立高等学校商業科教諭として青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに商業科教育について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	「会計」「ビジネス情報」分野の目標を把握する	・商業科の学習内容を把握する	・配付資料を読み直す
2	模擬授業「簿記」(企業の簿記、簿記の要素)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
3	模擬授業「簿記」(取引と勘定、仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
4	模擬授業「簿記」(試算表、決算)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
5	模擬授業「簿記」(現金・預金の記帳、商品売買の記帳、掛け取引の記帳)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正
6	模擬授業「簿記」(固定資産の記帳、決算その1)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
7	模擬授業「簿記」(手形取引の記帳、その他の債券・債務の記帳)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
8	模擬授業「簿記」(有価証券の記帳、営業費の記帳、資本の記帳)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
9	模擬授業「簿記」(税金の記帳、決算その2)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
10	模擬授業「情報処理」(情報の活用と情報モラル)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
11	模擬授業「情報処理」(情報通信ネットワーク)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
12	模擬授業「情報処理」(ビジネス情報の処理と分析)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
13	模擬授業「情報処理」(ビジネス文書の作成)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
14	模擬授業「情報処理」(プレゼンテーション)(ICTの活用)	・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする	・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
15	商業教育と教師の資質	・商業科の学習内容を振り返る	・これまでの授業内容を振り返る

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000008000 情報科教育法A						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

教員免許(情報)に必要な知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領の共通教科(情報)が指導でき、ICTを活用した授業ができる。

授業概要(教育目的)

情報活用能力の育成、情報に関する倫理的態度、安全に配慮する態度や規範意識の育成を重視した上で、生徒の能力や適性、興味、関心、進路希望等の実態に応じて、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方について、より広く、深く学ぶことを可能とするようにする。さらに、時代に即応した情報教育の指導内容と指導方法について学ぶ。ICTを活用して、模擬授業を積極的に取り入れる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度、課題提出、課題発表等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・各自の学習指導案を学生間でグループ討議する。
・模擬授業を行い学生間でグループ討議する。

参考文献

「高等学校学習指導要領解説」情報編　文部科学省

講義時使用テキスト

「情報Ⅰ」　赤堀侃司ほか　著　東京書籍

資格との関連

教職課程(高等学校:情報科)の必修科目である。

学生へのメッセージ

・授業ではパソコンを使用するので各自準備して授業時に持参すること。
・データ保存の記憶メディア(USB等)も準備すること。
・ICTの情報に興味・関心を持ち、その知識・技術の修得に心がけること。

実務との関連

公立高等学校教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに情報科教育について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	情報教育の意義と目的	・情報科の学習内容を把握する	授業内容を振り返る
2	コンピュータとプログラミング(1) (ICTの活用)	コンピュータの特徴、アルゴリズムについて調べる(ICTの活用)	授業内容を振り返る
3	コンピュータとプログラミング(2) (ICTの活用)	コンピュータで扱われる情報の特徴、アルゴリズムについて調べる(ICTの活用)	授業内容を振り返る
4	コンピュータとプログラミング(3) (ICTの活用)	プログラミングにより、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法を調べる(ICTの活用)	授業内容を振り返る
5	コンピュータとプログラミング(4) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を解決してみる(ICTの活用)	授業内容を振り返る
6	コンピュータとプログラミング(5) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を解決してみる(ICTの活用)	授業内容を振り返る
7	情報通信ネットワークとデータ活用(1) (ICTの活用)	情報通信ネットワークの仕組み等について、概要を把握する(ICTの活用)	授業内容を振り返る
8	情報通信ネットワークとデータ活用(2) (ICTの活用)	データを蓄積・管理・提供する方法等について、概要を把握する(ICTの活用)	授業内容を振り返る
9	情報社会の問題解決・模擬授業(1) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
10	情報社会の問題解決・模擬授業(2) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
11	情報社会の問題解決・模擬授業(3) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
12	情報社会の問題解決・模擬授業(4) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
13	情報デザイン・模擬授業(1) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
14	情報デザイン・模擬授業(2) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する
15	情報デザイン・模擬授業(3) (ICTの活用)	学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用)	模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000009000 情報科教育法B						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

教員免許(情報)の取得に必要な知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領(情報)の指導ができる。ICTを活用した授業ができる。

授業概要(教育目的)

情報技術の急速な進展に相まって、社会の様相は著しく変化している。このため、情報科教員は、情報社会の様相を把握するといった能力に加え、指導過程においても社会の変化に適応する能力が特に求められている。

情報通信技術の進歩や社会環境の変化について対応しながら、「情報科教育法A」を基礎として、教科「情報」に関する指導内容と指導方法(指導の展開を含める)について、模擬授業を積極的に取り入れ、ICTを活用する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

学習指導案、模擬授業、授業態度等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・各自の学習指導案を学生間でグループ討議する。
・模擬授業を行い学生間でグループ討議する。

参考文献

「高等学校学習指導要領解説」情報編　文部科学省
「情報科教育法」改訂3版　久野靖・辰巳丈夫　監修　オーム社

講義時使用テキスト

「情報Ⅰ」　赤堀侃司ほか　著　　東京書籍

資格との関連

教職課程(高等学校:情報科)の必修科目である。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・「情報科教育法A」を履修・修得していること。
・授業ではノートパソコンを持参すること。

【授業外活動状況】
・ICTの情報に興味・関心を持ち、その知識・技術の修得に心がけること。

実務との関連

公立高等学校教諭として青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに情報科教育について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	情報科の学習内容を再確認	学習指導要領「情報科」解説編を 読む	授業内容を振り返る
2	コンピュータとプログラミング(1) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	授業内容を振り返る
3	コンピュータとプログラミング(2) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	模擬授業の準備
4	コンピュータとプログラミング(3) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
5	コンピュータとプログラミング(4) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
6	コンピュータとプログラミング(5) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
7	コンピュータとプログラミング(6) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
8	コンピュータとプログラミング(7) (ICTの活用)	目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
9	「コンピュータの 仕組み・特徴」・模擬授業 (ICTの 活用)	学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
10	「アルゴリズム」・模擬授業 (ICTの 活用)	学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
11	「情報通信ネットワーク」・模擬授業 (ICTの 活用)	学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
12	「情報セキュリティ」・模擬授業 (ICTの 活用)	学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
13	「データの 活用」・模擬授業 (ICTの 活用)	学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用)	模擬授業を振り返る
14	「問題解決」・模擬授業 (ICTの 活用)	学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用)	授業内容を振り返る
15	情報科と教師の資質	情報科の学習内容を振り返る	これまでの授業内容を振り返る

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000010000 保健体育科教育法A						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

この講義を通じて「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

授業概要(教育目的)

「保健」担当教員に必要なすぐれた授業観を形成するとともに、「保健」の教育内容及び指導方法に関する基本的な事項について理解を図り、保健授業の実践的な能力を高める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。
また、原則として再試験・追試験は行わない。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
また、レポート等の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

新・めざそう！保健体育教師(朝日出版社)

講義時使用テキスト

高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	保健の新しい方向(学習指導要領)	テキストの該当箇所を読む。	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
2	総則と健康(学習指導要領)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
3	保健の目標(学習指導要領)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
4	保健の内容(学習指導要領)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
5	保健の指導計画(学習指導要領)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
6	保健の学習指導・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
7	保健の学習評価・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
8	授業の展開1　年間指導計画・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
9	授業の展開1　単元指導計画・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
10	授業の展開1　単位時間指導計画・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
11	授業の展開2　①現代社会と健康・模擬授業 (タブレット端末等のICTを活用)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
12	授業の展開2　②生涯を通じる健康・模擬授業 (タブレット端末等のICTを活用)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
13	授業の展開2　③社会生活と健康・模擬授業 (タブレット端末等のICTを活用)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
14	模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
15	授業後のプレゼンテーション・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す

講義名	5000011000 保健体育科教育法Ｂ						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

この講義を通じて「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

授業概要(教育目的)

体育科の性格、目標、カリキュラム、学習内容、教材づくり、学習指導などに関する基本的な知識について理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

講義の課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	保健体育の新しい方向(学習指導要領)	テキストの該当箇所を読む。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
2	保健体育科の目標	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
3	保健体育科の内容及び内容の取り扱い・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
4	保健体育科の教材・教具づくり・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
5	保健体育科の指導計画・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
6	保健体育科の学習指導・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
7	保健体育科における情報機器(タブレット端末等のICT)の活用方法・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
8	保健授業の展開2 ①現代社会と健康・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
9	保健授業の展開2 ②生涯を通じる健康・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
10	保健授業の展開2 ③社会生活と健康・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
11	教材研究2 ①現代社会と健康・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
12	教材研究2 ②生涯を通じる健康・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
13	教材研究2 ③社会生活と健康・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
14	模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。
15	模擬授業・まとめ	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。	テキストの該当箇所を読む。 前回の配布資料とノートを読み直す。

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000012000 保健体育科教育法C						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

講義を通して「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

授業概要(教育目的)

保健体育教師の求められる実務的知識、技術について理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

講義の課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題等の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

新・めざそう！保健体育教師(朝日出版社)

講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	望ましい教師の資質・能力「不易と流行」	テキストの該当箇所を読む	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
2	保健体育教師の職務① 保健体育教師の資質	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
3	保健体育教師の職務② 教科指導	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
4	保健体育教育の職務③ 生活指導	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
5	保健体育教師と他教科教師との協力	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
6	教師集団としてのあり方・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
7	年間カリキュラムづくり・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
8	情報機器を用いた体育授業の展開方法・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
9	選択制授業①　意義と履修の仕方・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
10	選択制授業②　男女共習授業と評価・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
11	教材研究　体つくり運動・模擬授業 (タブレット端末等のICTを活用)	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
12	教材研究　器械運動・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
13	教材研究　陸上競技・模擬授業	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
14	模擬授業の実践	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 授業内容についてインターネットで調べる	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
15	模擬授業の実践・まとめ	テキストの該当箇所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 授業内容についてインターネットで調べる	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000013000 保健体育科教育法D						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	平塚　和也		

学習目標(到達目標)

この講義を通じて「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

授業概要(教育目的)

体育科の性格、目標、カリキュラム、学習内容、教材づくり、学習指導などに関する基本的な知識について理解し、授業の実践的な能力を高める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

資格との関連

教師を目指す学生必携

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	体育科設置の趣旨・歴史	テキストの該当箇所を読む。	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
2	中学校体育の①年間計画　②単元計画	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
3	中学校体育の③単位時間計画の例	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
4	高等学校体育の①年間計画　②単元計画	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
5	高等学校体育の③単位時間計画の例	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
6	中学校保健の①年間計画　②単元計画	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
7	中学校保健の③単位時間指導案	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
8	高等学校保健の①年間計画　②単元計画	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
9	高等学校保健の③単位時間指導案	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
10	教材研究　球技・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
11	教材研究　ダンス・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
12	教材研究　武道・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
13	教材研究　体育理論・模擬授業	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
14	ICTを用いた体育理論の実践・・模擬授業 (タブレット端末等のICTを活用)	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す
15	模擬授業の実践・まとめ	テキストの該当箇所を読む。 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 授業内容についてインターネットで調べる	テキストの該当箇所を読む 配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000014000	看護科教育法Ａ					
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	浜中　のり子		

学習目標(到達目標)

1. 高等学校における看護教育の変遷、看護の学科の特徴、教育課程編成上の特徴について説明できる。
2. 教職課程全体を通して育成を目指す資質・能力について説明できる。
3. 看護師に求められる実践能力に基づく「学びの過程」とその活用について説明できる。
4. 学習指導案を作成し、模擬授業の実施、評価・修正ができる。
5. コンピューターや情報通信ネットワークなどを活用し、学習の効果を高めるための工夫ができる。

授業概要(教育目的)

高等学校看護科教員としての資質形成を図るため、教科指導に必要な知識と技術の基礎を習得する。
具体的には、
1. 高等学校学習指導要領及び「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」
(令和3年11月11日)をふまえ、高等学校看護科を取り巻く現状、看護科の目標、育成を目指す資質・能力、教育課程実施・改善のための取り組みについて理解を深める。
2. 科目に応じた学習指導案の作成及び模擬授業の実施と評価を行う。
3. コンピューターや情報通信ネットワーク等を活用する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「③医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている」に関連する。

評価方法

授業中の取り組み、模擬授業、課題提出により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

1. 授業中、随時質問の時間を設ける。
2. 課題提出、授業中の発言等から理解の状況を確認し、随時指導する。

参考文献

1. 文科省:「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」令和3年11月11日
2. 文科省　高木邦子:新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
(高等学校　専門教科「看護」)
3. 青森県庁HP:学校教育における各種様式

講義時使用テキスト

文科省「高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　看護編」 東京法令出版

資格との関連

高等学校教諭一種免許状(看護)

学生へのメッセージ

教科指導に必要な知識と技術の基礎を習得し、生徒が看護に対する興味・関心、学びたい気持ちをもてる授業を目指しましょう。

実務との関連

看護師として医療機関に、看護教員として看護師養成機関に勤務した経験を基に、看護教員に必要な知識・技術・態度について授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス 高等学校看護科を取り巻く現状について	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	育成を目指す資質・能力について	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	教育課程実施・改善のための取り組みについて	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	授業づくりの過程と学習指導案	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	単元の学習指導案の作成①(単元を選択する)	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	単元の学習指導案の作成②	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	単元の学習指導案の作成③	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	本時の学習指導案の作成①	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	本時の学習指導案の作成②	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	本時の学習指導案の作成③	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	本時の学習指導案の作成④	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	模擬授業の実施	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	模擬授業の評価、学習指導案の修正	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	授業到達目標の評価	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	「私が目指す高校看護科の教員像」についてまとめる	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。

講義名	5000015000	看護科教育法Ｂ					
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	浜中　のり子		

学習目標(到達目標)

1. 高等学校における看護臨地実習の目標・内容および内容を取り扱う際の配慮事項について説明できる。
2. 5年一貫看護師課程における看護臨地実習計画、評価方法について説明できる。
3. 看護臨地実習の指導体制の整備を図るうえで重要な保護者との連携、実習施設との連携、校内連携について説明できる
4. 看護臨地実習における看護教員の役割について説明できる。
5. 看護臨地実習における看護教員の役割の一部について学習指導案を作成し、模擬授業の実施、評価・修正ができる。
6. コンピューターや情報通信ネットワーク等を活用し、学習の効果を高めるための工夫ができる。

授業概要(教育目的)

高等学校看護科教員として、看護臨地実習の目標の達成を目指し、生徒の成長を支えることができるために必要な知識と技術を習得する。
具体的には、
1. 高等学校学習指導要領及び「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」
(令和3年11月11日)をふまえ、看護臨地実習の目標・内容の構成・内容を取り扱う際の配慮事項について理解する。
2. 高等学校看護科における看護臨地実習計画、評価方法、指導体制の整備を図るうえで重要な事項について理解する。
3. 看護臨地実習における看護教員の役割について理解する。
4. 学習指導案の作成及び模擬授業の実施と評価を行う。
5. コンピューターや情報通信ネットワークなどの効果的な活用について理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「③医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている」に関連する。

評価方法

授業中の発言、模擬授業、課題提出により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

1. 授業中、随時質問の時間を設ける。
2. 課題提出、授業中の発言等から理解の状況を確認し、随時指導する。

参考文献

1. 文科省:「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」令和3年11月11日
2. 文科省　高木邦子:新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
(高等学校　専門教科「看護」)
3. 青森県庁HP:学校教育における各種様式
4. 足立はるゑ他:改訂2版　臨地実習指導サポートブック、メディカ出版、2022.

講義時使用テキスト

文科省「高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　看護編」東京法令出版

資格との関連

高等学校教諭一種免許(看護)

学生へのメッセージ

臨地実習は看護実践力を着実に育成し、看護師としての資質・能力の基礎を身につけるうえで重要不可欠です。看護科の生徒が患者さんや指導者から謙虚に学ぶ姿勢を持ち、取り組めるようにサポートする力を養いましょう。

実務との関連

看護師として医療機関に、看護教員として看護師養成機関に勤務した経験を基に、看護教員に必要な知識・技術・態度について授業を行う。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス　高等学校における看護臨地実習の目標・内容の構成、配慮事項	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	5年一貫看護師課程における看護臨地実習計画、評価方法	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	看護臨地実習の指導体制の整備	テキス・参考資料トの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	看護臨地実習における看護教員の役割	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	学習指導案の作成①	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	学習指導案の作成②	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	学習指導案の作成③	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	学習指導案の作成④	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	学習指導案の作成⑤	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	学習指導案の作成⑥	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	模擬授業の実施	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	模擬授業の評価	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	模擬授業を評価し、論点を整理する。
13	学習指導案の修正	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	授業到達目標の評価	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	「臨地実習において、看護実践力を着実に育成し、生徒の成長を支えるために大切にしたいこと」についてまとめる	テキスト・参考資料の該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000017000 特別活動論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	田代　高章		

学習目標(到達目標)

次の2事項を到達目標とする。
1. 特別活動の重要性と今日的な課題を説明できる。
2. 特別活動の概念と指導の実際を説明できる。

授業概要(教育目的)

目まぐるしく移り変わる社会の変化の中で21世紀をたくましく生きる力を育てるため、豊かな人間性を育むと共に、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばしていく教育の在り方が問われている。しかし、日常的に子ども達と接触しているホームルーム担任は、担任としての仕事と教科指導の仕事が渾然一体として、「教師の仕事」の中で、担任としてしなければならないことは何なのかさえも、必ずしも明確にされにくい状況下に置かれてきた。
　また、特別活動が教職単位として必修化されはしたが、特にこの領域に関する免許が与えられているわけでもないこと等から、「誰でも指導できるはず」であると見過ごされ、計画的・継続的に指導されている現場もあるが、そうとは言い難い現場が多いのが実情である。
　そこで、特別活動の重要性と、しっかりとした概念把握や指導法を身に付けていくことが、上記の教育の在り方にも応える結果につながることを理解させたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

定期試験で評価する。但し、毎時間の振り返りシート(出欠確認用)の内容についても加味することがある。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

高等学校学習指導要領解説(特別活動編)
特別活動の基礎と展開(関川悦雄著)
高等学校学習指導要領の展開…特別活動編(鹿島研之助他編著)
「特別活動の理論と方法(改訂版)」 江川　玟成　編(学芸図書)

講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、パワーポイントを活用しつつ資料等も適宜配布する。

資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　教師と生徒及び生徒相互の人間関係の深化を図る中で各種の資質や能力を身に付けさせていく事をねらいとする特別活動は、学校の教育活動の基盤となるものであり、この講義を通してホームルーム担任としての実践的な指導力を身に付けるべく臨んでほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	特別活動とは何か(どんな学習活動か)	授業内容についてインターネットで調べる。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
2	特別活動の教育上の特質 1	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
3	特別活動の教育上の特質 2	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
4	特別活動の目標と主な内容	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
5	特別活動の教育課程上の位置づけ	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
6	特別活動で求められている資質(教師の力量) 1	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
7	特別活動で求められている資質(教師の力量) 2	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
8	特別活動の全体計画と指導計画	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
9	学級活動・ホームルーム活動とは	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
10	学級活動・ホームルーム活動の指導の実際 1	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
11	学級活動・ホームルーム活動の指導の実際 2	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
12	児童会活動・生徒会活動とは何かとその指導の実際 1	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
13	児童会活動・生徒会活動とは何かとその指導の実際 2	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
14	クラブ活動・学校行事の内容と指導と実際	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。
15	特別活動の評価	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業の内容を整理し、論点を整理する。

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000018000 教育方法論（ICT活用含む）						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	2
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	森本　洋介		

学習目標(到達目標)

教育技術(情報機器を活用した効果的な授業方法を含む)と教育評価の基本的な理論と事項について理解する。主体的・対話的で深い学びの実現における基本的な要素を理解する。そのうえで、それらを実践するための基本的なスキルを獲得する。また、主体的・対話的で深い学びにおける学習者の学びをどのように評価するのか、パフォーマンス評価の方法についても理解する。

授業概要(教育目的)

本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法(情報機器を活用した効果的な授業方法を含む)および評価方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目も重要であるが、自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることにより重点を置いて授業を進める。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

定期試験(60%)、授業内活動実習(40%)

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

ルネ・ホッブス、デビッド・クーパー・ムーア著：森本洋介監訳『メディア・リテラシー教育と出会う―小学生がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』弘前大学出版会、2016年3月

講義時使用テキスト

森本洋介『子どもたちのクリティカルな思考を育むメディア・リテラシー教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2025

資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で教員免許状資格取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

科目は講義の扱いですが，実際の授業は演習を多く含むのでそのつもりで受講してください。授業に出てさえいれば，スマホで遊んでいても私語をしても寝ていても単位が取れると思っている人は，受講しても時間の無駄ですので，無理に教職課程を取る必要はありません。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	オリエンテーション	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	第3章　教育技術の基本(教材、教授行為、学習形態)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	第1章　メディア・リテラシーとは何か	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
4	第2章　メディア・リテラシーと類似の能力との違い	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	第12章　カナダのメディア・リテラシー教育	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
6	第5章　主体的・対話的で深い学び	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
7	第6章　GIGAスクール構想	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
8	第7章　各教科でのメディア・リテラシー教育の実践	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
9	第8章　小学校から高校までのメディア・リテラシー教育	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
10	第4章　子どもの発達とメディア・リテラシー教育	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
11	第9章　前半(学習評価)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	第9章　後半(ルーブリック作成)	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	第9章　ユネスコのMILカリキュラムの実践	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
14	生成AIと学習指導	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
15	教育方法論に関する総合的な演習	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	課題のレポートを作成する

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000019000 生徒指導論						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	野口　和也		

学習目標(到達目標)

次の2事項を到達目標とする。
1. 生徒指導の意義と内容、及び今日的な課題を説明できる。
2. 生徒指導の実践的な内容とその指導の実際を説明できる。

授業概要(教育目的)

それぞれの学校の現場では「生徒指導」という言葉で色々な取り組みが行われている。しかし、その受け止め方は各学校によってまちまちであり、更に各教師によっても違っているのが実情である。
このような生徒指導の現状は、教員養成の段階で、教育職員免許法の改定によって「生徒指導等に関する科目」が必修になったのにも関わらず、ややもすれば理論的な面に終始し、現場での実践を踏まえた講義が学生に十分になされ
ていないことに起因するのではないかと考えられる。 そこで、生徒指導とは「生徒の自己指導能力」を育てる事であるという認識の基に生徒指導論を展開させ、将来教壇に立つ学生の実践的な指導力を少しでも高めさせていきたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

定期試験で評価する。但し、毎時間の振り返りシート(出欠確認用)の内容についても加味することがある。

課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

参考文献

高等学校学習指導要領解説(特別活動編)
改訂生徒指導提要 (文部科学省)
生徒指導の機能と方法 (坂本昇一著)
最近の生徒指導と進路指導(吉田辰雄編)
Q&A生徒指導の法律知識(下村哲夫著)
江川　玟成　編『生徒指導の理論と方法(改訂版)』学芸図書

講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、パワーポイントを活用しつつ資料等も適宜配布する。

資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

生徒指導は観念的・理論的に理解するだけでは現実の学校現場では機能しない。目まぐるしく移り変わる社会の変化の中で生徒たちの抱える問題は多種多様にわたり、そうした中で生徒指導の目標とする、一人一人の「自己指導能力」
を高めていくことは極めて難しい状況でもある。また、生徒指導においては生徒と共にある教師の生き方が不可欠であり、この講義を通して実践的な指導力を高めるべく臨んでほしい。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	生徒指導の歴史と目的	授業内容についてインターネットで調べる。	授業内容を整理し、論点を整理する。
2	生徒指導提要	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
3	生徒指導の意義と原理	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
4	生徒指導と教育課程・学習指導要領 1	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
5	生徒指導と教育課程・学習指導要領 2	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
6	学校における指導体制(組織と機能)	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
7	生徒理解の意味と機能	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
8	安全・安心な学校づくり	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
9	集団指導の意味と形態	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
10	集団指導の実際と留意点	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
11	個別指導の意味と留意点	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
12	教育相談と学校教育相談	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
13	問題行動の概念と種類	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
14	問題行動の原因	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。
15	問題行動指導の実際と留意点	前回の配布資料とノートを読み直す。	授業内容を整理し、論点を整理する。

講義名	5000020000 教育相談						
年度	2026	開講時期	前期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

教師に求められる教育相談についての基本的知識を習得し、方法としての教育相談を学ぶだけではなしに、かけがえのない一人ひとりの子どもや保護者を大切にできる。さらに、自らを振り返り、他者を大切にすることを学ぶことで、子どもの充実した学校生活を支えることができることを目標とする。

授業概要(教育目的)

子どもは、日々成長し、生活する中で諸問題に直面する可能性がある。問題解決の方策として、教師は専門知識を持ち、具体的解決策や予防法を習得する必要に迫られている。また、知識のみならず、子どもや保護者との信頼関係の構築が不可欠であり、そのための教育相談の重要性を認識し、真摯に取り組む姿勢が求められている。そのためにも、授業では、教育相談に必要な知識や態度について講義や討議などを通して学んでいく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

定期試験と提出物、授業中の取り組みや発言などによって総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・課題レポートは、採点後に返却する。
・試験(レポート、小テスト)は、採点の上返却する。
・試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。

参考文献

①「学校が求めるスクールカウンセラー～アセスメントとコンサルテーションを中心に～」村瀬嘉代子監修、東京学校臨床心理研究会編(遠見書房)
②「新しい学校教育相談の在り方と進め方」栗原慎二　(ほんの森出版)
③「養護教諭のコミュニケーション」海保博之・田村節子(少年写真新聞社)

講義時使用テキスト

「生徒指導提要」文部科学省　(教育図書)

資格との関連

教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等)

学生へのメッセージ

教科書・参考文献などにしっかり目をとおし、教師に求められる教育相談についての基本的知識を習得し、方法としての教育相談を学ぶこと。また必要に応じて、関連項目などをインターネットで調べ授業に臨むこと。

実務との関連

かつて高等学校長としての勤務、経験をもとに教育相談に関する話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教育相談の意義と役割(教育相談とは何か、教師が行う教育相談)	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する
2	教育相談の理論と方法	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所の論点・ポイントなどをインターネットで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
3	カウンセリングの意義と目的 グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所の論点・ポイントなどをインターネットで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
4	カウンセリングの理論と方法	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
5	教育相談活動の実践事例①(不登校) グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
6	教育相談活動の実践事例②(いじめ) グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
7	生徒理解の方法①(子ども理解のための基礎知識、子どもとの関わり) 討議・発表	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
8	生徒理解の方法②(子どもの理解に先立つ教師の自己理解) 討議・発表	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
9	事例研究の意義と活用法	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
10	教育相談活動の実践事例③(発達障害) グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
11	教育相談活動の実践事例④(児童虐待) グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
12	教育相談活動の実践事例⑤(学業不振) グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
13	教育相談活動の実践事例⑥(家族カウンセリング) グループワーク	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
14	保護者との連携と支援のあり方	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所の論点・ポイントなどをインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・課題レポートの作成
15	他職種との連携のあり方(校内連携、校外連携)	・前回の講義内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の関連個所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料とノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・講義内容の全体を把握する

講義名	5000021000 教育実習Ａ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

教育者に求められる実践的な能力や倫理性の基礎訓練を、学校現場という現実の環境で実施する。このことにより、教育者としての愛情と使命感を深め、教師としての能力や適性について自覚する。
また、教育におけるICTの活用についても理解する。

授業概要(教育目的)

教育実習は、実際に教壇に立って教科指導をするとともに、教科以外の教育活動についても生徒を指導するという体験学習の場である。
この科目は、教育実習に臨む学生に教師の職務を理解させるとともに、実習の準備のための「教育実習事前指導」、実習校において行われる学習指導を中心とした実習研修「教育実習」、教育実習を終えての「教育実習事後指導」の3部構成になっている。
実習においての中心は学習指導である。その教科の知識(学習内容)・技術について十分に事前準備し、理解しておくことが何よりも肝要である。また、ICTの活用についても積極的に取り入れる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

事前指導、実習、事後指導への取組状況を総合して「教育実習」の成績を評価する。
「誓約書」の事項に違反した場合は、単位を認定しない。

課題に対するフィードバック

教育実習について、各自に報告させながら講評する。

参考文献

『高等学校学習指導要領及び解説』 文部科学省　実教出版

講義時使用テキスト

「教育実習の手引き」(本学作成)を使用する

資格との関連

教職課程の必修科目である。

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
教育実習は、実習前に行う事前指導(講義・演習)、実習校での教育実習(各実習校において2～3週間実施する)、実習後の事後指導の全てを受講して3単位の修得となる。
教師としての資質を高めるため、幅広い知識・技術の習得を心がけること。教育実習生にとっては、多少の失敗は許されるかもしれないが、指導を受ける児童・生徒にとっては実習校の教師から教わるのと何ら変わることのない大切な学習の場であり、人格形成の場である。従って学生は実習の重大さを認識し、事前にしっかりと学習の準備をし、責任を持って児童・生徒の指導に当たらなければならない。

実務との関連

担当教員は、教諭・教頭・校長として青森県内の高等学校等に勤務。実務経験をもとに学校教育の実務について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	1. 教育実習の意義	シラバスを読む	教職課程について振り返る
2	2. 教育実習の実施計画	教育実習について調べる	配付資料を 読み 直す 教育実習の 心構えを 考える
3	3. 学校組織の 概要(中・高等学校編)	学校組織について調べる	配付資料を 読み 直す 学校組織の 役割を 考える
4	4. 年間学習指導計画	年間学習指導計画について調べる	配付資料を 読み 直す 年間学習指導計画について 考える
5	5. その他特別活動等の指導計画	特別活動の必要性について調べる	配付資料を 読み 直す 特別活動について 考える
6	6. 教育実習の心構え	教育実習について調べる	配付資料を 読み 直す 教育実習について 自己目標を 考える
7	7. 教育実習 :① 実習校の学校概要	教育実習校について調べる	配付資料を読み直す
8	8. 教育実習 :② HR活動の実習	学級活動・HR活動について 調べる	配付資料を 読み 直す 集団を 集中させる 方法を 考える
9	9. 教育実習 :③ 教材研究と指導方法(ICTの 活用)	教材研究と指導方法について調べる	配付資料を 読み 直す 教材の 指導について 考える
10	10. 教育実習 :④ 授業観察研修	授業観察について調べる	配付資料を 読み 直す 授業の 観察方法を 考える
11	11. 教育実習 :⑤ 科目学習指導計画と研究授業①板書の 工夫	板書の 仕方について調べる	配付資料を 読み 直す 板書計画を 作成してみる
12	12. 教育実習 :⑥ 科目学習指導計画と研究授業②言葉づかい	言葉遣いについて調べる	配付資料を 読み 直す 日常の 言葉遣いを 振り返る
13	13. 教育実習 :⑦ 科目学習指導計画と研究授業③発問のしかた	発問の 仕方について調べる	配付資料を 読み 直す 発問のしかたについて 振り返る
14	14. 教育実習 :⑧ 特別活動等の実習	特別活動について調べる	配付資料を 読み 直す 特別活動等について 振り返る
15	15. 教育実習事後指導(実習研修報告を 含む(ICTの 活用)	【教育実習Ａ】の 配付資料を 読み 直す	【教育実習Ａ】について 振り返る

講義名	5000022000 教育実習Ｂ						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	4
対象学科	人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

中学校における教師としての基礎的力量を育成するとともに、教科指導力(指導内容と指導方法)をつける。

授業概要(教育目的)

教育の現場である中学校において、教師の多様な職務を体験することを通して、教育の重要性や困難性、生徒との接し方、未来の教師としての基礎的力量を育成する。
　実習においての中心は学習指導であり、教科の知識・技術について理解しておくことが何よりも肝要である。このことを念頭に、専門教科・科目(例　保健体育等)に関する学修に取り組み、高度な専門的知識・技能の修得はもちろん、幅広い教養と教師としての資質の向上を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

事前指導、実習、事後指導への取組状況を総合して「教育実習」の成績を評価する。
「誓約書」の事項に違反した場合は、単位を認定しない。

課題に対するフィードバック

参考文献

『中学校学習指導要領及び解説』 文部科学省、実教出版

講義時使用テキスト

特にテキストは使用しない。本学の「教育実習の手引き」を使用する。

資格との関連

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　教育実習前に行う事前指導(講義)、実習校での教育実習(各中学校において3週間実施)、教育実習後に行う事後指導(4年生後期に実施)の全てを修了して、単位修得となる。
　教育実習校の生徒にとっては、実習校の教師から教わるのと何ら変わることのない大切な学習の場であり、人間形成の場である。教育の重要性を認識して教育実習に臨み、生徒の指導に当たらなければならない。そのために、普段から人間性の涵養とともに、責任ある言動・行動に努めてほしい。

実務との関連

公立学校での永年の実務経験を活かして、実践的に指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	実習校での教育実習(1)　教育実習の意義	教育実習校の概要把握	教育実習の意義を振り返り
2	実習校での教育実習(2)　観察実習等【実習】	教育実習校の指示による	観察実習の振り返り
3	実習校での教育実習(3)　観察実習・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
4	実習校での教育実習(4)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
5	実習校での教育実習(5)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
6	実習校での教育実習(6)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
7	実習校での教育実習(7)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
8	実習校での教育実習(8)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
9	実習校での教育実習(9)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
10	実習校での教育実習(10)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
11	実習校での教育実習(11)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
12	実習校での教育実習(12)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
13	実習校での教育実習(13)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
14	実習校での教育実習(14)　研究授業【実習】	教育実習校の指示による	実習の振り返り
15	実習校での教育実習(14)　反省会(総括)	教育実習校の指示による	実習の振り返り

講義名	5000023000 養護実習						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	実習	対象年次	4
対象学科	人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

1 養護教諭の職務について概略を説明できる。
2 基本的な養護活動について説明できる。

授業概要(教育目的)

養護実習とは、養護の専門家として必要な知識と技術を実践の場に身を置いて学ぶことである。
養護実習は、これまで大学で学んだ学校保健の基礎・基本となる理論を、実際に現場で体験し、実践的能力を養うことを目的とする。
この科目は、実習の準備のための「養護実習事前指導」、実習校において行われる「養護実習」、そして養護実習を終えて実習研修を総括する「養護実習事後指導」の3部構成になっている。
養護実習事前指導は、養護実習の意義や養護教諭の職務の実践活動を理解し、養護実習が少しでも効果的に、またスムーズにいくことを目的に講義を進める。具体的には、健康診断の実施方法や保健室での児童生徒への養護活動など、特に養護教諭の職務についての確認と実践方法を学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

事前指導、実習、事後指導への取組状況を総合して評価する。
「誓約書」の事項に違反した場合は、単位を認定しない。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

参考文献

大谷尚子ほか編「改訂 養護実習ハンドブック」東山書房

講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて講義資料を配布する。

資格との関連

養護教諭一種免許状取得希望者は必修

学生へのメッセージ

【履修上の注意】
養護実習は、実習前に行う事前指導(講義)、各実習校での養護実習(小・中・高において3週間実施)、実習後の事後指導(講義)のすべてを修了して5単位の修得となる。

実務との関連

担当教員は、教諭・教頭・校長として青森県内の高等学校等に勤務。
実務経験をもとに学校教育の実務について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	養護実習の意義と目的(教員構成と教育観、具体的内容)	養護教諭の職務内容の復習 授業内容についてインターネットで調べる	配布資料とノートを読み直す
2	養護実習の心構えと諸留意事項	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
3	養護実習計画、記録の実際、保健だよりと掲示物、保健教育①	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
4	校内分掌等、健康診断の実施方法、保健教育②	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
5	保健教育③、保健室経営	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
6	保健室来室者への対応 ①心構え・態度・配慮・対応、②救急処置の知識・技能等について 学校保健計画、学校安全計画、危機管理	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
7	保健教育(演習)①	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
8	保健教育(演習)②	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
9	保健室来室者への対応② 救急処置の知識、技能、対応等について	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
10	健康相談活動の方法	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
11	保健だよりと掲示物	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
12	健康診断の実施方法	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
13	保健学習と保健指導	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
14	記録の実際	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す
15	社会教育施設・社会福祉施設の訪問	前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	配布資料とノートを読み直す

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000024000 教職実践演習						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員			

学習目標(到達目標)

1.教員の使命・役割と職務について説明できる。
2.子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。
3.保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。

授業概要(教育目的)

ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題は次の授業で代表的なものを紹介する。

参考文献

樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著「実践に活かす教育課程論・教育方法論」学事出版

講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、演習プリント、資料を配布する。

資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

期待される優れた教師になるための資質能力の到達点について、常に自己評価をしつつ授業に臨んで欲しい。

実務との関連

教諭・教頭・校長として青森県立高等学校に勤務。学校教育現場での実務経験をもとに、教育実践について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	望ましい教師像	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
2	学校、学級の年間学級経営案作成	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
3	学級経営案のグループ討議と全体発表	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
4	学級の活性化	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
5	学級崩壊、いじめ、不登校への対応	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
6	保護者への対応と連携	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
7	学級(ホームルーム)担任の生活指導のあり方	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
8	教科担任の生徒指導のあり方	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
9	教員としての判断力、決断力	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
10	学校現場での体験学習①(ねらい、目標の設定)	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
11	学校現場での体験学習②(現場での実習)	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
12	学校現場での体験学習③(ふりかえり、発表)	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
13	校務分掌と協働	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
14	学校の安全、危機管理	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
15	教師の資質能力と優れた教師像	授業内容についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000024001 教職実践演習（中高）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

1.教員の使命・役割と職務について説明できる。
2.子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。
3.保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。

授業概要(教育目的)

ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題は次の授業で代表的なものを紹介する。

参考文献

樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著「実践に活かす教育課程論・教育方法論」学事出版

講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、演習プリント、資料を配布する。

資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

期待される優れた教師になるための資質能力の到達点について、常に自己評価をしつつ授業に臨んで欲しい。

実務との関連

教諭・教頭・校長として青森県立高等学校に勤務。学校教育現場での実務経験をもとに、教育実践について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、新採用教員の課題(社会人基礎力)	社会人基礎力についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
2	教育実習の省察(自身の課題と課題解決を考える)	自身の課題についてインタネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
3	学級年間経営案の作成とグループ討論	学級年間経営案についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
4	学級の活性化とグループ討論	学級の活性化についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
5	学級崩壊、いじめ、不登校への対応(チーム学校への対応を含む)	いじめ、不登校についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
6	学校におけるICT活用(文書作成)	ノートパソコンを準備する	授業の内容を整理し、論点をまとめる
7	学校におけるICT活用(集計処理、オンライン演習)	オンライン演習についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
8	学校におけるICT活用(プレゼンテーション)	プレゼンテーションについてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
9	教職課程の省察(履修カルテのICT活用)	履修カルテについて調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
10	コミュニケーション力、児童生徒理解(グループ討論)	コミュニケーションについてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
11	模擬授業(ICTを用いた学習指導案作成)	教育実習で実施した内容を調べる	授業内容を振り返る
12	模擬授業(生成AIの活用)	生成AIについてインターネット等で調べる	授業内容を振り返る
13	特別支援教育の理解(実務家教員から学ぶ)	特別支援教育についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
14	学校の安全・危機管理、保護者との連携(実務家教員から学ぶ)	学校の安全・危機管理についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
15	教育実習報告会、まとめ	教育実習を振り返る	授業の内容を整理し、論点をまとめる

印刷日：2026年10月05日

講義名	5000024002 教職実践演習（養）						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	演習	対象年次	4
対象学科	人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

1.教員の使命・役割と職務について説明できる。
2.子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。
3.保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。
4.ICTを活用した保健指導ができる。

授業概要(教育目的)

ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身に付ける。また、ICTを活用した演習（教育実習報告等）を行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題の概要について、授業で講評する。

参考文献

「養護教諭のためのスキルアップガイド」　中村富美子　著　　明治図書

講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、演習プリント等を配布する。

資格との関連

教職課程の「養護教諭」に関する専門科目で、教員免許状取得の必修科目である。

学生へのメッセージ

期待される優れた教師になるための資質能力の到達点について、常に自己評価をしつつ授業に臨んで欲しい。

実務との関連

教諭・教頭・校長として青森県立高等学校に勤務。学校教育現場での実務経験をもとに、教育実践について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	ガイダンス、新採用教員の課題(社会人基礎力)	新採用教員、社会人基礎力についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
2	養護実習の省察(自身の課題と課題解決を考える)	保健室の状況についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
3	養護教諭として取り組むべき課題(ゲストティーチャーから学ぶ)	養護教諭についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
4	養護教諭として取り組むべき課題(グループ討論・チーム学校への対応を含む)	養護教諭についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
5	学校保健におけるICT活用(文書作成)	文書作成についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、ICTを活用する
6	学校保健におけるICT活用(集計処理、オンライン演習)	オンラインについてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、ICTを活用する
7	教育実習の省察(プレゼンテーション1)	プレゼンテーションについて調べる	授業の内容を整理し、ICTを活用する
8	教育実習の省察(プレゼンテーション2)	プレゼンテーションについて、Iスライドを作成する	授業の内容を整理し、ICTを活用する
9	教育課程の省察(履修カルテのICT活用)	履修カルテについて、資料を準備する	授業の内容を整理し、ICTを活用する
10	コミュニケーション力、児童生徒理解(グループ討論)	児童生徒の発達についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、ICTを活用する
11	医療的ケアが必要な児童生徒への支援(実務家教員から学ぶ)	授業内容について、学内LANを調べる	授業の内容を整理し、ICTを活用する
12	医療現場におけるチームとしての協働(実務家教員から学ぶ)	チームとしての協働についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、ICTを活用する
13	特別支援教育の理解(実務家教員から学ぶ)	特別支援教育についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
14	学校の安全・危機管理、保護者との連携(実務家教員から学ぶ)	危機管理についてインターネット等で調べる	授業の内容を整理し、論点をまとめる
15	教育実習報告会、まとめ	教職課程を振り返る	授業の内容を整理し、論点をまとめる

講義名	5000026000 教職概論						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	根城　隆幸		

学習目標(到達目標)

教職の意義及び役割について理解し、自分なりの教職の理想像を説明できる。

授業概要(教育目的)

「国家の存亡は教育にあり」とか「教育は教師しだい」という。今日ほどこの言葉を痛切に感じるときはない。その教育とは何か。その教育を担う教師の役割とは何か。教師のあるべき姿等について、教職の意義等を理解するとともに、公立高等学校での教師経験を生かして考察していく。大学での教職課程を履修するに際し、教職を目指す学生がこれからの教師の在り方について学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・教育を取り巻く社会状況や授業評価について講評する

参考文献

岩田康之・高野和子　編　『教職論』　学文社
池田修　『教師になるということ』 学陽書房
成田喜一郎・長瀬拓也　編『教師になるには』　一ツ橋書店

講義時使用テキスト

佐藤春雄　編『教職概論』第7次改訂版　学陽書房

資格との関連

【教職課程】の必修科目である。

学生へのメッセージ

【授業外活動状況】
・日頃から、教育に関して関心を持つこと。
・基本的生活習慣を見直して、人間性を磨くこと。

実務との関連

公立高等学校教諭として青森県立高等学校や県教育委員会等に勤務。実務経験をもとに教育職について指導する。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	教職の意義と役割	・学修の手引きを読む	・授業内容を振り返る
2	教職観と理想の教師像	・理想の教師像について考える ・インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
3	教師とは、教職とは	・課題に必要事項を記入 ・教師・教職について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
4	教職への視線	・課題に必要事項を記入 ・教職への視線について、インターンネットで調べる	・授業内容を振り返る
5	教職を取り巻く諸問題	・課題に必要事項を記入 ・教員養成について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
6	教員の任用と身分保障	・課題に必要事項を記入 ・教員の任用について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
7	教師の役割と服務	・課題に必要事項を記入 ・教師の役割について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
8	管理職と主任の役割	・課題に必要事項を記入 ・管理職の役割について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
9	教師の資質向上と研修	・課題に必要事項を記入 ・教師の資質について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
10	教員に求められるもの、教員としての適格性	・課題に必要事項を記入 ・教員に求められるものについて、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
11	教職への進路選択と教員採用選考 / 他の職業との比較	・課題に必要事項を記入 ・教員採用選考について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
12	教師の職場環境 / 実体験、類似体験	・課題に必要事項を記入 ・教師の職場環境について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
13	教育実習の意義と心得	・課題に必要事項を記入 ・教育実習について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
14	教職への学び(チーム学校への対応を含む)	・課題に必要事項を記入 ・チーム学校について、インターネットで調べる	・授業内容を振り返る
15	学び続ける教師(チーム学校への対応を含む)	・これまでの授業内容を振り返る	・【教職】について振り返る

講義名	5000029000 特別支援の理解						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	1
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	石岡　れい子		

学習目標(到達目標)

1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性について説明できる
2. 特別の支援を必要とする生徒に対する学習上、生活上の支援の方法について説明できる。
3. 障害はないが特別の教育的ニーズがある生徒について、学習及び生活の各場面での対応方法について説明できる。

授業概要(教育目的)

様々な障害等により学校生活を送ることが困難な生徒、また、障害はないが特別の教育ニーズがある生徒に対し、個人の特性と心身の発達を踏まえた援助ができるよう、関係する知識を身につける。また、支援の方法については、各自が身につけるべき事項に加え、関係機関や家庭と連携しつつ支援体制を構築することを学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

毎回の小テスト、課題提出、演習への参加態度、授業中の態度等により総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

参考文献

講義時使用テキスト

小野隆行(編著) 「特別支援教育重要用語の基礎知識」 学芸みらい社

資格との関連

教員免許を取得するための必修科目である。今までの「特殊教育」から新しい「特別支援教育」に変わり、考え方が大きく変革した。通常学級に在籍する児童・生徒の特別な教育的ニーズへの対応するための理念、知識・技術などについて、学習する。

学生へのメッセージ

特別支援の理解は、教員免許取得の際の必修科目です。現在は、小学校・中学校・高校の通常の学級にも障害のある子どもは多数在籍しており、特別支援教育の重要性はさらに高まっています。
そのため、これから教員を目指す学生の皆さんには、特別支援に関する基礎的な知識や理解、技能などは、身につけて現場に出て欲しいです。

実務との関連

小学校教員、特別支援学校教員を経て、現在は、小中高等学校のスクールカウンセラー、障害児福祉施設の心理指導員、市町村の三歳児半検診などに関わっている。また、ボランティアを募り、親の会と協働で、発達障害のある小学生に、ソーシャルスキルトレーニングを定期的に教えている。教育、心理、および福祉での実務経験をもとに特別支援についての話をする。

授業計画表

	内容	予習	復習
1	特別支援教育の歴史と理念	授業内容についてインターネットで調べる	インクルーシブ教育理念に関して、以前の考え方との違いについて、ディスカッションし、その違いを理解できるようにする。 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
2	障害の種類と心身の発達	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
3	障害の種類に応じた学習支援の方法	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	コメントシートに記入したものを振り返り、合理的配慮に関して、正しく理解できているかを確認する。 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
4	障害の種類に応じた生活支援の方法	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	コメントシートに記入したものを振り返り、ユニバーサルデザインに関して、正しく理解できているかを確認する。 授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
5	特別な教育的ニーズを持つ生徒への対応、自立活動	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	LD・ADHD等疑似体験プログラムを用いて、子どもたちの困難さを実際に体験し、具体的にどう関わり、指導していくかをみんなでディスカッションする。 授業の内容を整理し、論点を整理する
6	関係機関や家族との連携支援(ゲストティーチャー) 自閉症キャラバン隊(八戸市自閉症親の会主催)の話を聞き、実際に発達障害の人の困難さを体験し、 感想文を提出する。	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
7	指導計画・教育支援計画の意義と具体的な方法	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
8	合理的配慮とユニバーサルデザインについて	授業内容についてインターネットで調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する 前回の配布資料とノートを読み直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す

講義名	5000030000 進路指導論						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	山本　奨		

学習目標(到達目標)

1.進路指導とキャリア教育の関係性、およびその背景・歴史・意義について概略を理解している。
2.教育活動全体を通して行われるキャリア教育の現状と課題を理解し、指導計画の立案方法と指導の在り方を説明することができる。
3.キャリア教育の観点から、家庭・地域・関係機関との連携の在り方や、小学校から大学までの接続を踏まえた連携の視点を理解している。
4.教育相談の考え方と基礎的技術を踏まえ、キャリア・カウンセリングの基本的な考え方と必要な技術を理解している。

授業概要(教育目的)

進路指導とキャリア教育の背景、意義、目標について学ぶとともに、その現状と課題を整理することで、教員に求められる役割への理解を深める。その理解を基盤として、教育実践における全体指導および個別支援の具体的な方法に関する知識を身につけ、指導の改善に向けた視点を獲得する。あわせて、学校教育目標の実現に向けた進路指導・キャリア教育の位置づけを踏まえ、家庭や地域、進学先・就職先、関係機関との連携の在り方について検討する。授業では、実践的な力の育成を目的として、履修者自身の経験やキャリア発達に関する内容も扱う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

授業内で課すレポート(提出課題)、ディスカッションへの参加、最終試験を対象に、進路指導とキャリア教育の意義・目的、児童生徒のニーズ、教員の役割、および履修者自身の教員としての責務に関する理解と考察の深さを総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

講義時使用テキスト

使用しない

参考文献

小学校キャリア教育の手引き．(2022年)．文部科学省，https://www.mext.go.jp/content/20220825-mxt_jidou01-000024019_01.pdf
中学校・高等学校キャリア教育の手引き．(2023年)．文部科学省，https://www.mext.go.jp/content/20230606-mxt_jidou01-000030273_01.pdf
生徒指導提要(改訂版)．(2023年)．文部科学省，https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
生徒指導論・キャリア教育論（ミネルヴァ教職専門シリーズ　8）．(2023年)．編著者：稲垣応顕・山田智之他／著者：山本奨他，ミネルヴァ書房(ISBN:978-4623096145)．
子どもの居場所づくりに役立つ教育相談．(2026)．著者：村上凡子・松本圭朗・山本奨他，一藝社(ISBN:978-4863593039)．

資格との関連

教員免許を取得するための必修科目である。

学生へのメッセージ

進路指導・キャリア教育は、進学先や就職先の選択を支援するだけのものではありません。幼児期から高齢期まで、生涯を通して取り組まれるライフキャリアに関わる価値観・興味・役割などの形成、成長、変容を支える営みです。その意味で、大学生を含むあらゆる年代の人々は、キャリアに不安を抱え得る「支援を必要とする立場」にあるとも言えます。
この授業では、皆さん自身の経験やキャリア発達を題材として、自らを素直に見つめる姿勢を大切にしてほしいと考えています。小課題への取り組みや討論の機会を設けますので、積極的に参加してください。
　本授業は、集中講義(1～4時限の2日間)として実施する予定です。時期や教室については大学(教務課)からの告知に注意してください。授業が近づきましたら、WebClassに注意事項を掲載しますので、必ず確認してください。授業で使用する資料はWebClass上で配布しますので、各自ダウンロードしたうえで受講してください。
授業中には複数のレポート課題を課し、WebClass上でのテキスト入力を求めます。PC、タブレット、スマートフォンなど、テキスト入力が可能なデバイスを持参してください。出席登録もWebClass上で行います。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	進路指導とキャリア教育の基礎理解 内容:進路指導とキャリア教育の定義、背景、歴史的展開、両者の関係性 学生の課題: ・進路指導とキャリア教育の違いと共通点を自分の言葉で説明できるようにする。 ・自身のこれまでのキャリア形成を振り返り、どのような支援があればよかったかを考える。	参考文献の関連個所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
2	キャリア教育の意義・目標と学校教育における位置づけ 内容:キャリア教育の目的、学校教育目標との関連、学習指導要領における扱い 学生の課題: ・キャリア教育が学校教育全体の中で果たす役割を整理する。 ・学習指導要領の記述を踏まえ、キャリア教育の意義を説明できるようにする。	参考文献の関連個所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
3	キャリア教育の現状と課題 内容:学校現場の実践状況、制度的背景、現代的課題 学生の課題: ・現代の児童生徒が抱えるキャリア課題を具体例とともに説明する。 ・現状の課題に対して、教員としてどのような支援が必要かを考える。	参考文献の関連個所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
4	キャリア教育の指導計画と実践の在り方 内容:年間指導計画、系統性、教科横断的な取組、体験活動の位置づけ 学生の課題: ・指導計画を作成する際に必要な視点(発達段階・学校種間の接続など)を理解する。 ・具体的な活動例をもとに、キャリア教育の授業デザインを検討する。	参考文献の関連個所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
5	家庭・地域・関係機関との連携 内容:家庭との協働、地域資源の活用、進学先・就職先との連携、ネットワークづくり 学生の課題: ・家庭・地域・関係機関との連携がキャリア教育にどのような効果をもたらすかを説明する。 ・連携を進める場合に想定される課題と解決策を考える。	参考文献の関連個所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
6	教育相談の基礎とキャリア・カウンセリング 内容:教育相談の考え方、傾聴・受容・共感、キャリア・カウンセリングの基礎技法 学生の課題: ・教育相談における基本的態度(傾聴・受容・共感)の意味を理解する。 ・キャリア・カウンセリングの視点から、児童生徒の語りをどのように受け止めるかを考える。	参考文献の関連個所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
7	キャリア発達と自己理解:自分自身を教材とする学び 内容:自己理解ワーク、価値観・興味・役割の整理、キャリア不安の構造 学生の課題: ・自身のキャリア発達を振り返り、価値観・興味・役割の変化を整理する。 ・「大学生も支援を必要とする立場である」という視点から、自分のキャリア課題を言語化する。	参考文献の関連個所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す
8	まとめ:教員の役割とキャリア教育の実践的展望 内容:教員の責務、学校全体でのキャリア教育、個別支援の在り方、総合的まとめ 学生の課題: ・教員としてキャリア教育に関わる際の役割と責務を総合的に説明できるようにする。 ・自身が将来教員としてどのようにキャリア教育に取り組むか、具体的な展望をまとめる。	参考文献の関連個所を読む 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを読み直す

講義名	5000031000 総合的な学習の時間の指導法						
年度	2026	開講時期	通年	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	地域共創学科/人間健康科学科			担当教員	冨澤　美千子		

学習目標(到達目標)

①「総合的な学習の時間」の歩みや教育課程における位置づけを理解する。
②「総合的な学習の時間」の目標をふまえた指導計画の作成、指導体制と方法、評価に関する知識・技能など基礎的な能力、実践力を身に付ける。
③児童・生徒がこれからの社会を生きる上で必要な自律的・創造的・横断的な力を育成し支援する教師の資質の向上とその能力を養う。

授業概要(教育目的)

「総合的な学習の時間」の歩み、意義、必要性、教育課程の位置づけや性格を明らかにする。また各学校における目標や内容をふまえた指導計画の作成、指導方法、評価、学習指導案の作成についての知識・技能、実践上の留意点などを学ぶとともに「総合的な学習の時間」の学習活動の体験をとおし、「総合的な学習の時間」に必要な知識や能力を学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題ごとの提出物、授業中の取り組み・発言等によって総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

課題(小レポート、コメントカード)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題(小レポート)の評価をした上で返却する。
課題(小レポート)の模範例を示す。

参考文献

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」「中学校編」(最新版)　文部科学省
「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」(最新版)　文部科学省

講義時使用テキスト

「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」(最新版)　文部科学省
「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説　総合的な探究の時間編」　文部科学省
「子どもたちの創造力を育む総合的な学習の時間」冨澤美千子/著　大学教育出版

資格との関連

教員免許取得にあたり必修科目である。

学生へのメッセージ

総合的な学習(探究)の時間は、教科学習と指導法が異なります。教科書のない学習の時間が、学校教育においてなぜ必要であるのかを考えながら、授業参加しましょう。歴史的に授業が設置された目的を確認し、総合的な学習(探究)の時間の教育目標を理解したうえで、実際の指導が行えるよう授業づくりをします。生徒が自主的・自発的に取り組めるような時間を、教師としてどのように促すのかを考えましょう。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	本授業の概要説明 「総合的な学習(探究)の時間」の授業設置の背景(1)授業設置までの学習指導要領の歴史的変遷	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
2	「総合的な学習(探究)の時間」の授業設置の背景(2)授業設置後の変遷	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
3	「総合的な学習(探究)の時間」の授業設置の背景(3)現在の教育課程における意義と展望	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 課題のレポートを 作成する
4	「総合的な学習(探究)の時間」を知る(1)歴史的事例	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する
5	「総合的な学習(探究)の時間」を知る(2)現代的事例	テキストの該当箇所を読む	授業の内容を整理し、論点を整理する 課題のレポートを 作成する
6	「総合的な学習(探究)の時間」を創る(1)指導案・授業案の 作成(課題設定の 方法)	授業内容を 考えておく 授業内容についてインター ネットで 調べる	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを 読み 直す
7	「総合的な学習(探究)の時間」を創る(2)指導案・授業案の 作成(情報収集と整理・分析)	前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを 読み 直す
8	「総合的な学習(探究)の時間」を創る(3)指導案・授業案の 作成(まとめ・表現)	前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを 読み 直す
9	「総合的な学習(探究)の時間」を創る(4)指導案・授業案の 作成(評価方法)	前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを 読み 直す
10	「総合的な学習(探究)の時間」を創る(5)指導案・授業案の 作成(学習ツールや!CT活用)	前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを 読み 直す 課題のレポートを 作成する
11	「総合的な学習(探究)の時間」の実践(1)授業を 考える	授業内容についてインター ネットで 調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する
12	「総合的な学習(探究)の時間」の実践(2)授業を 考える	授業内容についてインター ネットで 調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する
13	「総合的な学習(探究)の時間」の実践(3)授業を 考える	授業内容についてインター ネットで 調べる 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	課題のレポートを 作成する
14	「総合的な学習(探究)の時間」の実践(4)授業を 発表する	前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	配布資料とノートを 読み 直す
15	「総合的な学習(探究)の時間」の実践(5)授業を 発表する 授業総括	前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する 前回の配布資料とノートを 読み 直す	授業の内容を整理し、論点を整理する 配布資料とノートを 読み 直す 課題のレポートを 作成する

講義名	5000032000 道徳教育の理論と実践						
年度	2026	開講時期	後期	講義区分	講義	対象年次	3
対象学科	人間健康科学科			担当教員	木村　浩哉		

学習目標(到達目標)

我が国の道徳教育の変遷について理解し、道徳的実践力を培うための指導について理解できる。また、諸外国の道徳教育について文献から調べ説明ができるとともに、人間のあり方、生き方について自分の考えをまとめることができる。

授業概要(教育目的)

よりよい生き方を求め実践する人間育成とその基盤となる道徳性を涵養することが、道徳教育の役割であることを踏まえ、授業では、学校教育における道徳教育の変遷について調べ認識を深めさせる。　　さらに、学習指導要領の改訂を押さえ、今日の学校教育における道徳教育の展開について、実践に基づく道徳教育の理解力及び指導力の向上を図る。

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

定期試験と提出物、授業中の取り組み・発言等によって総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

・提出したレポートについての模範解答・解説を次時に行う。

参考文献

①「道徳教育の本質と実践原理」 村田昇(玉川大学出版部)
②「道徳教育の理論と実践」 橋本太朗 (酒井書店)
③「新学習指導要領の展開」 柴原弘志編(明治図書)

講義時使用テキスト

「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」文部科学省(平成29年告示)

資格との関連

教育課程及び指導法に関する科目(中一種免・養護一種免　必修)

学生へのメッセージ

教科書・参考文献などにしっかり目をとおし、道徳的実践力を培うための指導について理解できる事前事後の取組みを行うこと。また必要に応じて、関連項目などをインターネットで調べ授業に臨むこと。

実務との関連

授業計画表

	内容	予習	復習
1	道徳教育の意義と目標(道徳教育とは何か、道徳教育と教師)	・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキストの該当箇所を読む ・配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する
2	道徳教育の内容と特質(現代社会と道徳教育)	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
3	道徳教育の歴史的経緯(戦後の道徳教育の歩み) 討議・発表	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
4	諸外国の道徳教育 討議・発表	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
5	道徳の指導計画(全体計画、年間指導計画、学級指導計画)グループワーク	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
6	道徳の時間の指導(学習指導案の内容、学習指導案の作成)グループワーク	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
7	教育活動全体を通じて行う指導①(各教科、総合的な学習の時間)	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
8	教育活動全体を通じて行う指導②(特別活動)	・前回の授業内容のを読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
9	家庭や地域社会との連携 障害を持った人をとりまく社会 (ゲストティーチャー)	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
10	生徒理解に基づく道徳教育の評価	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
11	道徳教育の実践①(指導計画) 討議・発表	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・学習指導案を作成する
12	道徳教育の実践②(学習指導案の作成) 討議・発表	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
13	道徳教育の実践③(教材研究)	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・授業内容をインターネットで調べる
14	道徳教育の実践④(模擬授業) グループワーク	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する
15	これからの学校における道徳教育	・前回の授業内容を読み直す ・テキストの該当箇所を読む ・参考文献の該当箇所を読む ・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる	・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す ・授業内容をまとめ、論点を整理する ・講義内容全体を把握する